

tsプログラマー配信者なぎちゃん

ヲタクフレンズ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

世は正に平成時代、突如空から流星の如く到来してきた謎の宇宙船【パールツヴァルシュ号】とその船員達により、世界は大変な事になる………と、言ったこともなく、船員はなんと未来のオタク達。

そんな、技術力の高いオタクがその技術力でやり過ぎないぐらいの魔改造された平成時代にて。

「世界初ts女性プログラマーの、なぎちゃんだよ………恥ずかしい」
◆9／24 ありがたい事にファンアートが多くなりましたので、場所を移しました。

目次

ファンアート＋登場人物紹介	1
いちにちめ!	6
ふつかめ!	21
さんわめ!	32
掲示板のおはなし	42
よんわめ!	49
ごわめ!	60
ろくわめ!	73
掲示板のおはなし。そのに	86
ななわめ!	94
はちわめ!前編	104
はちわめ!後編	115
きゆうわめ!	133
なぎちゃんよくばりセット	143
じゅうわめ!	152
じゅういちわ!	165
じゅうにわ!	180
掲示板のおはなし。そのさん	189
じゅうさんわ!	197
じゅうよんわ!	210
じゅうごわ!	228
みじかいおはなし。まとめ	240
じゅうろくわ!	251
じゅうななわ!	266

じゅうはちわ！

掲示板のおはなし。そのよん

じゅうきゅうわ！

にじゅうわ！

にじゅういち！

掲示板のおはなし。そのご

ファンアート十登場人物紹介

嬉しいことにあらすじが圧迫してきたので、こちらで紹介させてもらおうかと思えます。ファンアートありがとうございます！

おあさんから初のファンアートです、なぎちゃんはかわいなあ！ありがとうございます！

はむ☆さんより、ミクちゃんです！かつこかわいいクール！ありがとうございます！！

おあさんからミクちゃん描いてもらいました！ふとももがえちくて好き、照れの混じった表情も好き、全部好き。

おあさんからのミク×なぎのファンアート貰いました！
足ぶらぶらしてるなぎちゃんがくそかわいいしそれを見つめるミクちゃんもかわいい……いつもありがとう。嬉しいです！

日真日さん からうさ耳なぎちゃんのファンアート貰いました！
ターゲットネットワークなぎちゃんかわいい！キャピつてドヤ顔ニヤリ顔するなぎちゃんかわいい！光沢が良き！ナゲツト君?!そこ代わってくれ！

かわいいいうささなぎちゃんをありがとうございます！
おあさんよりメイドなぎちゃんです。ありがとうございます！
なんて美しくてかわいい……神々しい、なぎちゃん俺のママになってくれ、ママー！

自分の絵も載せときます。
あくまでもイメージ、参考程度に。後アナログです、拙いです。
なぎちゃん

ミクちゃん

三音ちゃん

司くん

ついでに、簡単な登場人物の紹介でも、話のネタバレにならない程度ですがそれでも名前やキャラの性格などでネタバレになるので、注意！

なぎちゃん（風沙）

ある日を境に突然おんなのこになった引きこもり、養ってくれている司の説得により自称プロゲーマー配信者なぎちゃんとして活動を始める。

銀色のシルバードロンドに金色の瞳をしていて身長155cm、本人曰くCよりのBぐらいのたわわらしい。

性格は知らない相手にはとことん大人しめで、近しい人には楽しげに話す。

tsの影響からか感情が表に出やすく、また繊細な感情になったようだ、日々女性的な思考に寄る自分自身に何も疑問を抱かない事を恐怖している縁がある。

一人称はわたし

司（なぎちゃんの親友）

なぎちゃんの親友、赤色の髪をして黒いサングラスに白衣をかけている。

風沙を男だと知っている人物の一人のようで、赤城財閥直属の会社に働いて、その収入源でなぎちゃんを養っているようだが、未だ謎に包まれている。

一人称は俺様。

ミクちゃん（初菜未来）

なぎちゃんの高校時代の後輩、風沙を男と知っている人物の一人。風沙を追って隣の部屋まで引越すヤンデレ属性持ち、ただし真面目で一途な感情の方が強く、ヤンデレ（強）属性では無い、今は。

ただ自我が強く、他者を低く見た性格をしていたが……

一人称は私。

風沙が女の子になってる事については、否定も肯定もしていなく、先輩が先輩ならそれで良いと思っっているようだ。

ちなみに別に女の子専門のアレではなく、なぎちゃん専門らしい。

管理人さん（赤城三音^{あかしろみつね}）

世界的に有名な赤城財閥の当主であり、なぎちゃんの住んでいるマンションを運営している。

この中で唯一、風沙が元々男だということを知らない。

司に配信を勧められて、なぎちゃんボイスとその楽しそうにゲームをプレイする姿で撃沈、立派ななぎ民の完成である。

公私で180度変わる性格のようで、私的な時はとにかくハイテンションで自堕落で一生寝ながらゲームしたいと思っっているようだ。

一人称は私^{わたくし}

本編で登場しているゆかいなネームド持ちのなぎ民。

ミクちゃん（ゲームが上手いクソレズ三銃士、他上記参照）

エリック（なぎちゃんに呼び捨てにされるなぎ民のおもちや）

ユー（なぎちゃんの動画を編集して投稿するなぎ民）

有能無能（別名ソレスタルビーイング、自称パパ）

田中（許されない男、詳しくは1回目掲示板回にて）

お兄ちゃん（自称なぎ兄、ゲームがうまい）

狩人さん（プロハンニキ、一番ゲームうまい、同じく配信者らしい）

ニンジャ（アイエ！説明不要！妹がいる）

千里眼くん（千里眼でおばんつを視る、真偽は不明）

店長の娘（レズ疑惑のクソレズ三銃士、現実で一番最初になぎちゃん^{と握手した}）

テレサ（幽霊？なぎちゃんを気に入る、なぎ民疑惑）

不浄くん（イアイアな神、なぎちゃんを気に入る。なぎ民疑惑）

電磁砲（別名、レールガンの人）

雪娘ちゃん（突如誕生したクソレズ三銃士、なぎちゃんお守りしたいのピンク）

TUKASA（名前であわかって？、なぎちゃんの一步下ぐらいのゲームセンス）

アンノウンくん（すごすごゲーマー、なおニート）

本編（と外伝）のなぎちゃんの配信したゲームの元ネタ集

○ の中が元ネタです。

いちわめ、OverCore FaR rewriter7 (ARMORED CORE for Answer)

にわめ、ハンテイングクラッシュヤー (Bloodborneとバイオシリーズから着想)

さんわめ、リトラス (トイストーリーとHuman Fall Flatから着想)

よんわめ、みらくるカート (皆様ご存知マリオカート)

ごわめ、DEAD・CASL (Dead Cells)

ろくわめ、ブレデターハンター (ご存知モンスターハンター)

はちわめ、ロストデイメモリー (色んなMMO、RPGから着想したオリジナル)

きゅうわめ、Death is Not an Escape. (Dead by Daylight)

じゅうわめ、ぼうだあRED3Edition (Borderlands)

じゅういち、タイムクラシック8 (タイムクライシス、アーケード版)

じゅうよん、エンドレスエタニティ (サイレントヒルにクトウルフ神話混ぜた)

じゅうごわ、デスオーバーワールド (知ってるバトロワ系全部混ぜた)

じゅうろくわ、魔王のくせになまいきじゃい! (勇者のくせになま

いきだ)

じゆうななわ、OverCore∥WORLD (ARMORED
COREの新作※大嘘)

じゆうはちわ、はちわめといっしょ

じゆうきゆうわ、ZNOX (ボドゲのZENO)

にじゆうわ、きゅん♡がん☆ういあくるっ! (ぎやる☆がん)

増えたら随時更新、ここ書いた方が良いよって何かありましたらよろしく願います。

いちにちめ！

突然だが、人は自分とは真反対の性別になった時、どういうリアクションを取るのだろうか？

自分……いや、わたしの場合は、こうだ。

「やった！やった！優勝した！今晚は少し高い霜降り肉で飲み明かしてやるぜー!!!」

喜んだ。

当たり前だよなあ！だってだって朝起きて声変だなあって鏡見たらあら不思議、其処には黄金色のおめめぱっちりの銀髪ロングヘアー160cmのCにいかないBぐらいのたわわのピッチピチな女の子やぞ！

誰だつて喜ぶに決まつてる、少なくともわたしはそうだった。

「でへへへへ、今までホームレスも真つ青なクソザコごみ虫人生だったけど……こんな事もあるもんなんだなあ〜！」

あまりの嬉しさに鏡の中の美少女がびよんぴよん跳ねた、あつこの美少女わたしだ！かわいいかわいいかわいい！

そうだ、写メとろ！今じゃ写メつて死語なのかな？まあいいや、細かい事はきにするなつてな！パシヤパシヤパシヤ。

でへへへ………

はあ、明日からどうしようかな、まあいつか……どうせ仕事なんてしてないし、親も姉も絶縁状態だし、もう一週間分の食事しか摂取できなないけど……生きてたつてな、ははは。

みるみるうちにレイプ目になるわたし、かわいいそう、この鏡の女の子かわいそう、わたしだけだ。

あれ、これつて自分つて可哀想だなつて思つてるイタイ奴？やだなああんな陰キヤを被つたパリピと同じにされたくないなあ。

ははは。

はは。

「はあ……女の子の服ってあったかな、えーと」

自室のタンスの一番下をぐそぐそと漁ってみればあら不思議、なんとありました。

これは警察案件、いやまあ昔ネットで知り合った女の子の置き土産なんだけどね、捨てきれなくて……いや、彼女だったとかそういうのじゃなくて、ていうか告白したら「気持ち悪いイんだよキモオタがア！」って中指立てられましたけども、はい。

「うわっサイズ一緒だし……完全に一致、まあわたしの方がどう考えてもかわいけど……でへへ」

冷静になってきた頭を何かで紛らわそうと、パソコンをカチカチ、起動している間にダンボールに入っているカップ麺にお湯を入れる、すると一瞬で出来上がる。

誇張なしで、一瞬である、規定量のお湯を入れた瞬間PON！つと出来上がる、昔は3分ぐらいかかったらしい。3分でも十分早いとわたしは思うけどなー、宇宙船が日本に落ちてきて以来、爆発的に科学文明が発達していった様で。

今は遺伝子組み換えで自分の記憶を引き継いで新しい肉体に転生染みた事をしようとしてるらしいけど、そこまでして自分の人生を引き伸ばしたいのかな。

思えば、今のわたしの現象はそれに近いけど……はう！もしかしてだけどこれが政府とかそういうのにバレたらわたし、モルモットにされちゃう?!

やだやだ、小生やだ！もーこうなったら一生家から出ねーからな！ぜーたい出ないもんね！

……まあ、出ないのは今更か、高校生からだっけな、家出て、なんとか恩人と言ってもいい親友にアパートの一室を貰って……家賃とかもろもろ払ってくれて……

罪悪感がわたしの胸を突き刺す、今の今までなんとか外に連れだそうとしたり、職を提供してくれたり、一緒に遊んでくれようとしたけど、全部頑なに断って……何様のつもりなのだろうか。

「舌敏感になったかな……いつもより美味しく感じますなあ」

はふはふ、ふー、ずるっ！おいし。

さてさーて！今日はなんのゲームをしようかな〜

「んにゃ、にゃなんだーこのゲームは、どれどれ……MMORPG？これまたニツチな、VRじゃなくてか？」

鼻屑にしている記事に、ゲーム大手企業SSSが100年前では大流行、されど今では古代のように珍しいMMORPGのβテストを三日間やるらしい、興味を持ったわたしは早速公式サイトにクリック。

ちなみに余談だが、私が使っているこのパソコンも、インターネットでは主流ではない、主流は頭にヘルメットを付けてネットの海を渡るギア型か、全身を専用のカプセルに入り、電子体になるタイプの奴だ。

わたしはそれが結構怖い、頭に被ったヘルメットに付いている電線が、いきなり焼き切れたら？何かの拍子でカプセルから出られなくなったら？考えるだけでもいやだ。そういう理由で性能は同等レベルでも安いパソコンを使っているのだ！

それに今みたいにVRじゃないゲームは、パソコンじゃないと操作し辛いしな、さてさてゲームデータをダウンロードしてる間にどうやって暇を潰そうk「ピロピロピロピロピロピロピロピロピロピロゴウウイ」

「……はあ」

電話だ、ため息を一つ。

わたしに電話をかける人なんて一人しかいない、きつと親友だろう、出たくない、というかいつも出ない、でもわたしが出るまでずっと掛けてくる、ずっとだ、夜が超え、朝になっても、そうして根負けして電話に応じるわたしにいつも第一声は「電話してごめん」で始まるんだろ？

半年以上は掛かって来なかった癖に、今更なんだよ……ははッ、っいに出てっつてくれっつて言い放つのかもな。

いっっそそうであってくれ、怒ってくれよ。出て行けっつて、どっかでのたれ死んでくれっつて、そう思っつてんだろ、思っつてくれよ、ちくしよ。

いいき、今日は出てやる、いつもより10億倍気分が良いからね、わ
たし。

「……ん」

『おわあ!?!いつもより1日早い!?!……アレ?声かわ、じゃねえ、変だぜ
?』

「ボイチエン……新しいやつ……」

『そりやまた、さいこ……じゃねえや、精密だなあ……ん?でも俺様の口
座から何も買ってないだろ?ってかそうだよ!二ヶ月前から一銭も
使つてないけど食事とかどうしてんだよ、なんなら今日ー』

「いかない」

『……そっか、まあまた今度行こうぜ!』

「………それだけ?」

『そうだった!いやあ親友たる君に相応しい職業を見つけちゃったぜ
!俺様は』

また、その話か。

何度目だよ、やめてくれよ……もう嫌なんだ、嫌だ、いや。
もう誰にも失望されたくない

「もう、いいよ」

『いやでもこれはマジだー!もういいよ!』

「何度そうやって!だ……騙すんだよツ……今まで何一つ!上手く、い
かなかつただろ!」

感情のままに発してしまった言葉に、その瞬間自分の顔が真っ青に
なった。

「ち、ちがう、なんで責めて……ごめんなさつ……そんな、そんなつも
りじゃない、悪いのはこっちだし、でも……」

『……なあ』

「ひう……」

今まで聞いたことないぐらいに、真剣な声にならない声が出
る。

怒らせた、怒らせてしまった、理不尽に喚いて、親友がいないと今
まで生きてこれなかったのに、そんな恩人を、怒らせた。

親友にも、見捨てられる……？

『その声で罵ってくれないでしようか!!!』

ん？

『てゝっへ”っへ”……いやあ親友のボーチェン最高だぜ、何々?!日頃頑張ってる俺様に対してのご褒美か何か!? そうだとしたら俺様、今夜は寝れねエぜ!』

『そういう癖なの……? いや、ていうか、怒ってるんじゃない?』

『なんで? 親友に? ……いやいや、ありえないでしょ、天地がひっくり返ろうともありえないね!』

『で、でも……』

『何度も言うけどさ、俺様の今は親友が作ってくれたんだ、だからその恩を返してるだけなんだよ、親友は甘えてりゃく〜いーの』

『……え、ホモ?』

『ちがわ〜い!!!俺様には飛鳥ちゃんっていう心に決めたアイドルをなあ!』

ああ、なんでこいつはこんなに良い奴なんだろうな、気づいてんのかよ、その優しさが一番俺を残酷に苦しめてるってのを。

体が美少女になったからなのかは分からねえけど、涙出ちまいそうだ。

『まーその、な、今回はマジだ、絶対親友に向いてる、いや天職だなー!』

『……そんなのないよ』

『それがありえるかも、ミルク色の二次元ってな! ……プログラマーだよ、プログラマー』

『……え、別にプログラマーじゃないよ、わたし』

『わたし?』

あ”

あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”あ!!”一人称が思わず! ヤベエ! 前の一人称もう忘れた! わたしの事なんて言ってたっけ!

『いや、そうか! 巷で噂の性転換ロールプレイングって奴だな?! さっ

すが親友、俺様が今度頭を撫でてやろう』

「や、やめろ……てか、やっぱホモじゃんか？」

『飛鳥と結婚してっから!!』

いや、結婚はしてねえだろ、ついでにウブだろ。

『まーつまりは配信者、ストリーマーだっけ？ゲームして金稼ぐって奴よ、親友そういうの得意だろ？前に賞取ってたし』

「いや……数年前の話じゃん、それに自分の声とか、顔とか、晒すのは良くないと思う」

『んまー顔は確かに危ないかもしれねえけど、手元とかは大丈夫だろ？』

……良いのだろうか、自分の手を見てみると、きめ細やかな肌に溶け込んだちっちゃなおてて。

「……いや、でも……え、いやあ……無理があるだろ……」

『お、もしかして乗り気か？へへっそうこなくちやな』

「……え、ちがうちがう……そうじゃなくて」

『てか、いつそそのキャラでやったほうが絶対人気出るって！ドストライクな声してるし！お前言動女でも通用するし！つうかかわいい！かわいいぜ親友！』

「かわ……でへへ……って、いや、べっ別に、あんたに言われたって嬉しくないんだからね！」

……は!?無自覚でツンデレが発病した!?っーかわたし今キユンつてしたけど、おい完全に心が女になってんじやねえか！ああでも一人称忘れたしぐぬぬぬ……

褒められるの、きらいじゃないし……ん、これでも良いかも……いや、親友に惚れた訳じゃない、ちがう、そういうのじゃないもん。

「って、おい、どうした？」

『……あ、ああ……今の可愛すぎだろ……』

「ん？」

『とにかくさー始めてみてもいいんじゃないか？絶対人気になれるからさ』

「……むりだよ、ひとの目怖い」

『大丈夫だって、対面してる訳じゃないんだぜ』

「でっでも、暴言とか……は慣れてるけど、じ、自信ない……」

『他でもない親友の俺様が、今回は絶対に大丈夫だって勧めてる』

「う………ま、また、また迷惑になるよ？きつと、し……知ってるからな、わたしの見えない所で、頭下げてるの、見たし……」

『ははっ、バレてらあ……でも今回はそういう心配とはご無用だぜ？』

「あえう………で、でも」

『見返したいんだろ？家族を』

それは、否定出来なかった。

それだけは、心の奥底にある願いだっただからだ、何も出来なかったなりに、出来るように努力して、努力して、努力してもなお、出来なかった人生を。

なら、何か一つでも、成し遂げたら。

『言ってたもんな、俺様に土下座して見返してやりたい、認められたいってさ、そんなお前だからアパート貸してんだぜ？……なあ、あの言葉は嘘なのか？』

「ちが、ちがう！嘘じゃない！嘘な訳が無い！何か一つでも出来るって証明したい、誰の手でもなく自分で！」

『なら、やろうぜ、なぎさ 凧沙』

「……も」

『だーもー!!俺様の心配はしなくて良いって言つたらー!俺様は超大手のエース中のエース!!労働時間と引き換えに毎月うんぜんまん以上の大金が入ってくるの!親友一人養うぐらい容易いんじゃないアホー!』

「ひえ………アホじゃないもん」

『もんとかかわいいムーブしやがって、本当はもうやる気満々だな?……とにかく、無駄な気遣いは要らねえんだよ、それでも何か思うことあるなら、俺様の頼み聞いてくれよ』

持つべきは友人、と誰かが言ったが。

本当に、その通りだと思う。

☆

配信者とは、主にインターネットで「配信者」と言えば投稿サイトに音声・動画をアップする人や、PeerCastなどのストリーミング配信ソフトで音声・動画を配信する人を指す。

プロゲーマー (professional gamer) とは、ゲーム (コンピューターゲーム) をすることにより報酬を受ける人のこと (ゲーマー)

まあ、今更ういきで調べなくてもわかっていた事だが、いちおうね。さて、意気込んだのは良いものの、さてまずどうするか……といった感じだ、配信自体は出来る環境にある、良くVCとか使ってたし、数年前になるけど。

プロゲーマーについては簡単にプロゲーマーになれるわけではない、のでこの場合は自称と付く。本職がプロゲーマーの人に怒られそうだが、プロゲーマーに知られる程知名度なんてものは無い。

配信者ってだけでも良いが、それだと何かとインパクトにかける、確かに大分昔に何故か人口の50%が突然死し、今となっては女性は全人口の30%を下回る程で、女性配信者というだけでももう話題になれそうなのだが……。

「こわい……」

期待されてる分余計にこわい、それに配信するんだから下手なプレイ出来ないし、まず何から手をつけ始めれば良いんだ？ 今入れたMMORPGからする？

……ありじゃね？

「いやいや、もうちよつとじつくり考えないと……最初は動画とか出してから配信始めてみようかな、うーんでもそんなに編集技術があるわけでもないし、てかそれって配信者っていうのかな、媒体は一番有名な配信ツールで良いとして……親友に聞いてみる？ いや、忙しいし

詳しくないだろうしやめとこ」

この体になって随分頭の中の言葉が漏れ出ている気がする、感情が出やすくなったのと同様なのだろうか。

んっ……てかなんかおまたがむずむずする。

え、女の子のトイレの仕方なんて知らないよ？

「どどどどうしよう」

?!?!?!?!?!?!?!?!?!?!

ふう……。

ん？ハハッ、何も聞かないでくれ、便器に座ってスマシヨで検索してたら何故があったのでその通りに済ませました。って誰に言ってるんだか、心の中の男だったわたしか？

「うだうだ悩んでも仕方ないよな……」

取り敢えず、配信用の新しいアカウントを作ってみる、何事も形から、今日やる事は確定、というかこのやる気が寝て起きてまだあるかと言われると、ヘタレなわたしにはそんな自信がないわけで、今日やるしかないのだ。

「名前は……本名を一つ削ってひらがなにして、なぎとか？なぎってだけじゃあなんかインパクト欠けるよな……ネオアームなぎとか？」

……無難になぎちゃんにしよう。ちゃん付の一つでもあれば見てくれる人も気兼ねなく呼んでくれるだろうし、妙によそよそしくさん付けとか、なんかやだし、でも呼び捨てされるのは……こわい。

で、でも、わたしかわいしい、そんなこわい事してくる人來ないよね？やめてよ、本当にこわいんだから、大丈夫大丈夫大丈夫……

「無難に最初は1時間、雑談配信でもしようかな……トークスキルは、まあ、出来なくはないし……人と話せないだけだもん、でもなんか味気ないっていうか、それだけで1時間持つか、途中からこうい

ゲームやるんですよーって感じで、FPSでもしようかな、でも初っ端FPSは大丈夫かな、あ！シューティングやれば良いんだ、この前買ったままやってないゲームあったし、それにしよう」

……プランは決まった。

あとは、わたしのやる気次第、だよね……

万が一があるしtsしたって事は隠しとこ。

☆

概要ランのコメントもOK、通信機器の状態も良好、配置ミスとかも無し、よし、準備はできた、後はタイマーが0になれば……

「ちやお！世界初、自称プロゲーマーのなぎちゃんだよー！……って、もう10人もいるの？わわっ……な、なぎちゃんだよー……」

始まる、なんで2桁もいるかわからないが、今日は何故か人気配信者のごぞつて配信してない、新人発掘でもしてるのかな。

『1コメ』『なんだこいつ』『ネカマか？』

「ふふん、ネカマかどうかはご想像に任せるくぞい？、それでねそれで、今日から配信者としてデビューしようかなって思って、配信しました！まだわからない事が沢山あるから、至らない点があったら、教えてくれると……嬉しいです」

「取り敢えずは雑談しようかなって、思ってます…あっあ、人が、増えて……嬉しい…」

『ハイテンションからどんどん下がってくやん』『照れてるのかわいい』『正気かよどうせまたおっさんだゾ』

「照れてない……いや、最初の決め台詞は、こう言ったほうが良いよってとある記事に書いてあったから、やってみたら恥ずかしかった……」

って、そうだ、舞い上がってる場合じゃない、ちゃんと今後やることを言わないと。

「あ……えつとね、これから何をするか、なんだけど、自称とはいえ

プログラマーを名乗ってるから、ゲームを主体でやっていこうと思うんだ！ジャンルを問わず色々ね？食わず嫌いなんてしないよ、ホラーも……やります」

『ほーん』『てかマウス持つてる手めっちゃ女子してね？』『マウス使ってるって事はPC？』『懐かしいわあ親父が持ってた』

「あ、そうだよ、実はこっちのほうが配信しやすいつて知ってた？ギア型はまだ配信機能が付いてないし、完全没入型は付いてるらしいけど……見た感じ主観的過ぎて酔っちゃうでしょ？その点PCはカメラで固定して終わりだからね、後キヤプチャーボードとか色々あるけど……私自身が3DVRとかやって同調しない限りは揺れたりしないし」

『うーんこれは賢い』『やけに知ってるんな、やつぱおっさんか？』『美少女がそんな事知ってる訳ないだろ！』『俺は美少女だつて信じてるから、てかRINEやってる？』

「RINEなんて陽の者が使うアプリ入れてません……っへへ、案外楽しいな……人と話すなんて久しぶりなんだけどな」

画面を通じて話してるからか、すごい気が楽だ、あれだけ嫌々つて拒否してたのに、これじゃあ馬鹿みたいだ、案外わたしでも本当に出来るかもしれない、親友様様。

『あつ（察し）』『へラか？』『いきなり重いのやめろ』『やつぱRINE聞くのやめるわ』

「？まいつか、それでね、いきなりだけど後10分ぐらいしたらゲームしようと思います、この前買ったばかりでまだ手を付けていない最新のシューティングゲームなんだけどね」

『シューティングとかおっさん確定乙』『良い趣味してんじゃん、普通に声可愛いし推せるわ』『パンツ何履いてんの』『そりゃ白でしょ』『対人？』

は？え、エスパー？っつか恥ずかし……恥ず、恥ずかしい。

「えっえ……し、しろじゃ、白じゃない、白じゃないです、ほんとに！……たつ対人もあるけど、今回はストーリーに少しだけ触れるつもりだよ」

『かわいい』『かわいい』『これは女の子確定乙』『これは白』『PC…
シューティング…新作待ち……閃いた!』

「手のひらクルクルしてるじゃんか! って白じゃないよ、もう……そ
うだ、できればネタバレとかしないしてほしいな、自分で知る方がゲー
ムって楽しめると思うし」

『OK』『まあ俺知らないし何も言えんから安心して』『初見』『わかる』
「あ、初見さんいらっしやい、出来れば最後まで見てくれると、嬉しい
です……って、20人も今見てくれてるの? みんな暇人なのかな、わ
たしも人のこと言えないけど……」

「あ! 放送時間30分だったね、それじゃあゲーム始めようかな」

『お』『ワクワクしてる俺がいる』『なんだか懐かしい、この初初しさ』
『このゲームもしかして』

「あつあ……OP神かよ……すげえ…」

『うおおおおお!』『男口調になってんぞおっさん』『美少女かと思
ったりおっさんかと思ったりしろ』

今回のゲームは『OverCoreFarewriter7』
実際に未来にあったと言われているオーバーテクノロジーをゲー
ムで再現した、企業と民間との戦いを描いたストーリーらしい。

その中で主人公は中立、企業と民間どちらの依頼も請け負ってい
て、最終的に企業の、或いは民間の受けた依頼の内容で中の幾つかの
ルートに分かれるようになるようだ。

『闘争を求めるゲームだー?!』『ガチ中のガチで草』『シューティングで
しかもロボゲーとか推すわおっさん』『うおおおおお』『ま
じ?このゲームくそムズいぞ』

「反響も良いみたいだし、選んで良かったな、さて難易度選択はもち
ろん一番高い難易度で

『!?!』『!?!』『ええ…』『嘘だろ?』『マジか』

「えっえ、わたし今何か間違った事しちやっただ!」

『んまあ…やってみればわかるよ』『おいおい死んだわこの配信者』『幾
ら何でもイキり過ぎでしょ』『結果が見えた』『人間がクリア出来る難

易度じゃないよ』

「ああ、難しいだけか……なら大丈夫」

チュートリアルが始まる、一通りの操作方法が始まりーの瞬間「騙して悪いが……仕事なんでなあー」のボイスが響き、4体のわたしの乗っている機体と同じような機体とエンカウントする。

右から左から上からと来るレーザーをわたしの長年鍛えたコントローラー捌きで避けつつ、離れながら実弾で反撃、弾速が遅く思った以上に表示されている敵のHPバーが削れないが、本命はこれじゃない、もつとも先に追いついた敵に手榴弾のコマンドを押して武器をランチャーに切り替えて放つ。

「ビューー！ハハツみたかよ！あの鉄屑爆発四散しやがったぜ！」

『!』『突然の豹変』『かわいいからカツコいいになる配信者』『口悪すぎだろ草』『つーか巧くね？裏でやって……いやだしたら初回のOP流れないか』

「って追加武装って弾補充出来ないのか……基本のサブマシンガンとブレードで倒せるか？」

『これVRじゃないよな？』『まるでVRでやってるかのようない口調』『よー口動かしながらゲームできるわ』『これが白パンの力か……』

「白じゃないって！コメ見えてっからな！……つぶね！今掠ったじゃねーか！この虫ケラが！くたばりやがれよ鉄屑人形!!」

『うわあ……(啞然)』『かわいい子かと思ったら蓋を開けたらMAD提供配信者だった』『これ近いうち人気出るで、古参面出来るな』『ありがとうございます！』『懐かしゲームやってると思ったら口悪すぎて草』

「後一人……って、一人追加？まあいい、お前は後で倒す」

『かつこいい……』『かつこかわいい系配信者はここですか』『てか一度もダメージ食らってないの凄くない？』『凄くない、OC乗りには必須スキル』にわか乙、こんなスイスイ避けられるまでに何十時間使うと思ってるんだ』

「よしっこれで後一人！ってあたた……油断しました……うーん一発で

こんなに食らうんですね、盾パーズ出来ねえかな…んっ出来た出来た」

『んっ、だけ切り取って』『えツツツツ』『感覚でパーズ出来るの凄え』『一回の被弾で1/3減って草』

「つちよこまかちよこまか逃げ撃ちしやがって！そんなに近付かれてエなら2段ブーストで近づいて切り刻んでやるよオラア!!」

『ヒエツ』『ありがとうございます！』『姉御、100人が見てますぜ……（震え声）』『期待の新人かもしれない』『推します』

「っしやあ！ふー……なんとか倒せたー！チュートリアル戦でこんなに楽しませてくれるなんて……うえ？100人？」

「100？えっえうえ、だつてさつき20……えあ、あ、ありがとう……」

『ギャップ萌えするわこんなん』『おいおい鼻から血出て死ぬわ俺』『来世はここですか？』『現世ですね』

「う~~~~~い、いい時間だし今日はここまで！やっぱ恥ずかしいよお…明日また……やるから、アーカイブは残します……見てくれてありがと、じゃあね！」

『お疲れー』『結局どつちなんだ？』『美少女に全票』『コントローラー持つてる時の手の感じでわかるだろ』『久々に配信者見たけどこれは推せそうだわ』『恥ずかしくて切り上げるのかわいい』『声張り上げても声かわいいまんまなのツボ』『マジのプロゲーマーかもな』『メモ：パンツは白』

「一部の人が残ってコメントしてるけど……ってパンツ白じゃないよ！しろ……だけど、てかそれしかねえし仕方ないだろお?!

アマゾンで服買わないとなあ……男物を着たら、前に戻っちゃいそうでいやだ。

てか……………

恥ずかしい！にやああああああ（ベットにダイブした）

ふつかめ！

朝になる、いつもと変わらない朝、空に飛ぶ車がたまに見えたりする、何時もの朝、だけどわたしは変わった。

のっそりと起き上がり、寝ぼけた頭で洗面台にとぼとぼ歩く、ペタペタと音がするわたしの足に、昨日の情景が夢では無い事に、嬉しく悲しくなってみたり。

洗面台に映るわたしを見て一言。

「わたしって本当かわいい……」

にゃあああああ！かわいいかわいい！かわいい！かわいいよわたし！鏡に向かってぴーすっ！いえい！ひやうくくくく最高か？

ああでもやつぱり、わたしがどれだけかわいく見えても、その姿形に劣情はそそらないなあ……一人称が思い出せなかったり、2日前の自分の姿形を明確に覚えていないのも合わさって、わたしを自分自身わたしとして見てるのかも。

それも、良いかもって思う心は、本当にわたしの心なのかな。

「んん……朝からネガティブはダメだよね……かわいくなれただけ儲け物だ」

さて！今日は何をやるのかな、昨日はあまりの恥ずかしさに逃げ出しちゃったけど、今度は逃げないからなくく、最後までやりきってやるぜ。

でもでもアレは仕方ないよ、聞き苦しい暴言とか色々100人以上に見られたんだよ？恥ずかしいし、それでわたしがどういう目で見られるのかこわい。

……怖がつて、ないよね。

「……見てくれた人、登録してくれたかな」

パソコンを起動する、わたしのパソコンは世界に流通するハイスペックではないけど、わたしでは理解できない高等技術が外付けされて詰め込まれた半自作PCなのだ。

半、つていうのは、パソコン自体は自分で組んだんだけど、外付けされた特別な機器は特別に発注して作って貰ったから。この特別な

機器が凄いのなので、普通はパソコンだけじゃあVRゲームはできないし、VRフィールドにも行けない。

今時VRを使わないとか流石に生きてけない、現実にも100年前からの名残かコンビニやスーパー、ゲームセンターや専門店があったりするけど、今の主流はVRフィールド、別名『仮想現実世界』の方が遥かに楽で効率的。

そこで注文すれば3分後には自立配達ロボ『ナゲット』くんが荷物を運んでくれるからね。

「ま、VRフィールドでも上手く行かなくて数年前から顔を見せてないけどさー……ははっ」

VRフィールド上でも顔と顔が合ってる事は確かだし、相手もこっちも声は現実と変わらないし………あーやだやだ！出前取る方がまだましだつてーの！

「出前の人優しいしな、おこらないし、にこにこしてるし、たのしそうだし……」

そういえば親友が出前の仕事を進めた事もあったっけ、あの時はどうしてたかな。

「つてうわあ?!ひゃっひゃ、150人!?なんでなんで……」

PCの画面を見てみるとそこにはチャンネル登録者数が150人になってるわたしのアカウントがあった、こんなのぜつたいおかしいよ。初回放送のアーカイブもそこに再生されてるし……

「んん、でも、配信者でおかねを稼ぐなら……良い事、だよね」

幸先良いスタートと喜べば良いの?でもなあ、恥ずかしい。

「ま、まあ?今日はやるって言っちゃったし、やるけど……?昨日の続きをやるうかな、それとも別のゲームしよっかな……長編のゲームは配信受けが悪いから無名のうちは続けられない方が得策だつてこの記事では書いてあるけど……んー、昨日入れたMMORPGでも始めてみる?FPSは……荒れそうだし、まだ良いかな?」

お絵かきは、どうだろう。ペンタブはあるけど、使った事はなかったな。

ああでも、こうやって悩むのは少しのしいや、思えばこういうこ

とで悩んだ事って何年ぶりだろ。
「ふふっ……」

思わず、笑みがこぼれ落ちた。

☆

配信の時間まで後数秒、昨日もだけど、この数秒が数分のようにながくて、ちよっぴりこわい。

事前にこの時間にやるよ、とか言っていないから、昨日みたいに人が来るのかも、わからない。

つおったーでも、始めようかな、数年前はそこそこやってたけど炎上してあやうく実家がバレそうだったから、軽くトラウマだけ……あの時の姉を思い出すだけで、こわい。

って、始まる前からこんな気持ちじゃだめ！しっかりしないと、視聴者さんたちが見るんだから。

そして、2回目の配信がスタートした。

『1コメ』『わこっく』

「はい、世界初、自称プログラマーのなぎちゃんだよー！……って、わたしが喋る前からコメが……あわわ……」

『出かわ』『おっやってんじやくん』『昨日はおたのしみでしたね』『もう、昨日の話はしないでねっ……無しです無ーし！』

「で、今日も自称プログラマーらしく、ゲームしようと思うんだ」

『ええやん』『昨日の続き？』『おくちわるわる配信始まる？』『初見、声かわいいですね』

……べつにくちわるくないし、コメント拾ってあげないっ。

「初見さんありがとーえへ〜かわいい？でしょ？かわいいでしょ、良かったら最後まで観てってね」

「今日は何をやるうかなくてまだ迷ってたり、昨日の続きもしたいけど……別のゲームをするのもありかなって」

『お兄さんは君のパンツの色が知りたいな』『おっさんのパンツは白だぞ』『違うぞ、なぎちゃんは美少女だぞ、それでもってパンツは白だぞ』

『お前ら間違ってるぞ、昨日は白かもしれないが今日は縞パンだぞ』
「って何でパンツの話なんだよ！知りたかったら昨日のアーカイブ見てこいよちくしょう！……あつあ、今は待って、今は見てて、後で……後でな」

まだ始まって3分を経過したばかりなのに、見てくれている視聴者数が60人弱もいる。うれしいな……！気持ち先走らないように頑張らないと。

「それでねそれでね、悩んだ末に決めたゲームは……こちらです！」「ん？」「おいおいこのゲーム……」「出たー！ハンティングクラッシュャー、通称H&Kだアー!!」「説明口調乙」「オイオイ俺これクリアする為に指十本増やしたわ」「おいエイリアンいたぞ」

配信画面に事前に準備していたゲームを移動させる。

悩みに悩んだ今回のゲームは二年前に買ったガンアクションゲームだ、迫り来る異界の悪魔達を『狩人』って呼ばれる主人公がバツタバツタとなぎ倒してスコアを稼ぐって言うシンプルなゲーム。

その名もハンティングクラッシュャー、通称ハンクラ、またはH&K、ハンシャーって呼ぶ人もいるのかな。

しかし操作は極めて難解、キーボードのA～Zのキーにそれぞれ攻撃キー、防御キー、特殊キーが分かれており、それぞれにCTが設定されて連発は出来ず、巧みに組み合わせれば操作しなければ逃げ遅れたモブ一般人よりも先に悪魔に食われる、シンプル詐欺なゲームなのだ！

それもそのはず、このゲームは昨日と同じ会社が製作したゲーム！だが今のわたしなら、当時のわたしでは成し得なかったオールSSSの称号を。

配信でキメてやるぜ。(キリッ)

「という事でやろうと思う……あーご、ごめん……どういう世界観か、とか、操作方法なのか説明しなかったね、ええつと……んーと……にやーと……」

『なぎちゃん、僭越ながら私が世界観や操作方法の説明を致しますので、安心して下さい』『有能』『有能』『有能』『有能』『有能』『にやーとつてな

んだ可愛すぎか?」

ふえ?え、優しい!うれしい!

「ありがとう!えーと……ソレスタルビーイングさん!」

『名前呼んでもらったわ、今日死んでもいい』『前言撤回、無能』『同じく、無能』『なーにがガンダムだ、お前はザクだ』

……見なかったことにしよ。

「さくでとそれじゃ始めますか……ッ!」

『おや?』『この流れ昨日も見たぞ』『またなぎちゃんがご乱心なさるぞ、録画しろ』『一体昨日何があったんだ……』『今回は難易度とか選べないんだな』

「ん、そうそう!このゲームは時間が経っていくにつれて出てくる悪魔達が強化されていくんだ」

『そして強化されていく悪魔達に何処まで生き残るかをタイムで競う耐久型のゲーム……と勘違いされがちなのですが、一定時間を経過するとボスが現れるのですよ、そのボスを倒すと実質クリアですね』

「そーなの!そのボスが強くってね……ムービーなので黙りますね」

『まるでボスまで行った事あるかのような語り』『本当にプロゲーマーなのでは?声優雇ってんのか?』『なぎちゃんはなぎちゃんだぞ』『ムービー綺麗やなく、VR主流になっても映像の美しさは変わらねーな』

「この荒廃してもなお悪魔に抗う人類って設定好き……わかって? わかれ」

『わかる』『それな』『補足しますと、主人公は人類の中でも英雄視されていますね、彼ならきつとやってくれると信じているそうです』『有能』『でも見た目ダークヒーローみたいだな』

「あつあ、ムービー中だけど一言言うね……集中するから、口数減っちゃうかも……」

『嘘だぞ絶対毒舌かますぞ』『まあゲームがゲームだしね……』『このタイ

ミングで聞くべきではないんだけど、顔出しはしないん?』『180人
が見てるぞ』

顔出しか……って180人が見てる!???

「ふ、ふふふっ、なならひひひやくはぢじゅうにんに魅せてやりませ
よ!私がどれだけ上手いかをね!」

『イキリ』『イキなき』『なきイキ』『なんかえろい』『声震えてんぞ』『お
手並み拝見と行こうか……』『なきちゃん爆発四散に一票』

「さあ始まりました!……10秒後に敵が来るからその前に資材集め
ないと……」

『AとZキーを巧みに使い分けるコマンドゲーなのですが、最初はA
とGキーしか反映されず、落ちている資材を回収すると火力UPや装
甲、追加コマンドなどが解禁されますね』

「ゆうのうつ……あんまり拾えてないけど開戦か……」

『はえく普通に面白そう』『パソコンってこういうゲーム出来るんか』
『VRじゃあ自分の体一筋やしなあ』『こんなにかっこよく動けんわ、
足攣る』

「ツ……おら!おら!おらおら!くたばれ!」

『草』『草』『草』『MAD素材』『!?』『キャラ崩壊』『寧ろこれが素なの
では?』『200人超えましたよ……(ボソツ)』

Aキーの拳銃で牽制して動きを止めてその間にEキーの誘導ガス
で誘導、誘導された場所にGキーの火炎瓶で吊られた悪魔共に炎上地
獄をお見舞いする。

「どう?どう?!魅セプの一つだよ!どう?」

『かわいい』『かわいい』『いや画面はグロいんですがそれ
は……』『R18Gじゃないからセーフ』『VR版悪霊の家を超えた俺
に死角は無い』

そうしてひたすら出て来る悪魔を倒し、資材を回収しつつ、たまに
逃げ遅れた一般人を助ける。

わたしのぜんいにかんしやするんだな!

『一般人を助けるとこの貴重な回復アイテムをくれるんですよ、それ狙いですね』『善意とかじや無いのか草』『利益を求めて人を助ける合理的な自称プログラマー』『俺もなぎちゃんに助けられてえなあ……』『俺は悪魔になってなぎちゃんを襲いたい』

B D F ダツシユ A バツクス テツプ H O E A ダツシユ B D F
.....

『いややっぱ止めとくわ』『おー爽快やん見てて気持ちええわ』『このゲーム壁も登れるのか』『中盤からジエツトパックで空飛べるようになるぞ』『明日買ってくるわこのゲーム』

あつあ……わたしのプレイを見て買ってくれるって、なんだよそれ凄いい嬉しいじゃんかよ……

「って痛え！てめっこの、離れろってんだよオ！」

『男らしすぎる』『発言一つ一つが草』『このドス利かせてるようで全然変わってない絶妙な声すこ』『(昇天)』『オイオイ死んだわあいつ』

やべっ意識切り替えないと、そろそろ中盤だ。

『お？』『敵のアクション急にエグくなって草』『ここから先無理ゾ』『サキュバスエツツツ』

「わかる……サキュバスエツツツ……でもこの悪魔、血を吸うどころか肉喰い出すカニバリズムですよ、いいんですか？」

『ヒエツ』『サキュバスコツツツワ』『ちなみに骨だけになってもHPがあるうちは主人公そのまま動くからな』『人間とはなんでや？』『主人公も怖えわ』『これが狩人だぞ』

「あああくそクソ！敵が多すぎる！ていうか味方要請しただろうが！まだ来ないの？やめっ……あぶねーだろーが！」

『キーボードの手の動き方プロ過ぎる』『でも指短いから微妙にキー打ってなくて草』『なぎちゃんのちいさなおて』『おてて民だ！処せ！』『要請してから40秒後に来るからね、仕方ないね』

そうなんだよ！指が短いから痒いところに手が届かんのだよ！んにゃー……これ結構ストレスじゃんか……まあ、わたしの前も指は短かったし、どうせなら指長くなってくればなあ。

「あつチームαだ！優勝した！優勝した！優勝した！」

『うおおおおお!!』『これで最終エリアまで安パイだな』『役満』『どゆこと?』『要請部隊には4つ種類があつて、その中でも一番の当たりですね、火力が段違い過ぎる』『はえーすっごい』

「銃弾の雨に晒される悪魔ア!」

『まるでなぎちゃんの方が悪魔みたいだあ……』『小悪魔なぎちゃん』

『一人いくらですか』

「いついくら?!う……うらないよ!……それにあくまじゃないやい!」

「うおおおおお?!?!?!なんだこれなんだ!?!地面が揺れて……あああ妖
怪土蜘蛛だア!」

『草』『うわあ、じゃなくてうおおで草』『幸運を悪運で埋めるプロゲーマー』『悪運どころじゃないけどなw』『無能、解説よろ』

『終盤になる前にランダムエンカウントの乱数が働くんですけど、その中の一つの乱入イベントですね、ボスとどっこいどっこの性能だったかな確か』『有能』『有能すぎる』

まずいまずいまずい、とてもじゃないが勝てないぞこれ?!チームαは対集団戦が得意の部隊、終盤に上がる前は比較的大型ボスが出にく
いから強いのであつて、土蜘蛛なんかと戦っても数十秒しか保たない
!

「やれるのか……?わたしに、この悪魔を……いや、やるしかない、わたしはお前に勝つぞ!」

『VRゲームしてる俺より感情移入してる』『まるで主人公みたいだあ……』『狩人なぎちゃん(なおこの後負ける模様)』『いや回復アイテムと解放キー的にワンチャンある』『あー無敵バリア解禁してんのか、いやでも一度しか使えなくね?』

「いちど使えるだけでも御の字! タイミングを見極めればいいだけなんだ……」

それにBキーのブレードの火力はMAX、土蜘蛛の懐に乗り込めば
……!

『うおおおおお!』『遠距離で戦わないのか?』『遠距離だと広範囲の回避不可攻撃するから最善の一手』『初見、なんだこの白熱した戦い』『がんばれー!』

「がんばるよ！勝ってみんなに褒めてもらおうんだ！」

『かわいい』『理由がかわいすぎる』『チャンネル登録99回押した』『好きです』『かわいい』『誰かどさくさに紛れて告白したぞ』

ダッシュからのステップ、CT3秒の間に土蜘蛛の強大な足が迫る、Vキーで圧縮砲弾を発射して相殺、Wキーのダブルステップで更に距離を詰める。

「ってそこで溶解液だ?! あー！HP9割飛んだ！まずいまずい回復回復」

『溶解液…溶ける…服……閃いた!』『ファンアート待ってます』『お前が描くんだよあくしろよ』『これは江戸』『回復アイテム全部無くなっただけどいけるか』

「だが、勝機は見えたぞ！溶解液のCTは最短でも1分、1分もありやあな……てめえなんざ敵じゃねえんだよ……」

『うおおおおお!!』『うおおおおお!!』『かつこよすぎないか?』『なんだこのプログラマー…』『自称だぞ』『これは狩人』『名誉狩人なぎちちゃんの誕生の瞬間』

BDFキーのダブルパレルショットコンボからの、喰らえっ閃光手榴弾！

「動き止めた！イケる！これがMAXブレードの力じゃーーい!!」

『いったか?』『いったか?』『うおおおおお!!』『うおおしか言っ
てねえ奴いないか?』

「あああつまだ倒れてない！もうおしまいだあ……許して許して……」

『惜しい』『土蜘蛛少ししかHP残ってねえじゃん』『まーどんまい!』『許してで不覚にもワイ、興奮を覚える』『警察だ!』『ソナー』

「こまでなの……?ま、頑張ったし、でもなあ……後少しで倒せたと
なると悔しいなあ……やべっ涙出てきそう、流石にそれは恥ずかしい。
い。」

「ってロケット……?、チームα!?!土蜘蛛以外の中型悪魔倒してきたの!?!」

『うおおおおおおお！』『大逆転』『ヒューマンドラマ』『悪運を幸運に変えるプロゲーマー』『一つのゲームでここまで盛り上がるとかこれもう映画だろ』

「やったあ！土蜘蛛倒した！トロフィー解禁した！やったー！！」
『かわいい』『本気で喜んでて草』『少し声震えてて草』『かわいい』『かわいい』『なぎちゃん、後ろ後ろ』

「うしろろ？あつ悪魔さんこんにちわ……………待って待って待ってもうHPない！助けてチームα！あゝゝ！別の悪魔倒しにいつてる！待って！今全部のキークールタイム中……………あ」

『草』『草』『草』『綺麗なオチがきましたね』『イキり失敗』『爆発オチとかサイテー！』

「……………えー、負けました、悔しいです、もう一度やりたい所ですがお時間もお時間なのでそろそろ終わりたいと思います」

『テンションだだ下がりで草』『でも上手かったよ』『充分ゲーマーしてたゾ』『なぎちゃんかっこかわいかったよ』『お疲れ様でした』

「えへへ……………そ、そうでもないよ……………それにしてもみんな優しいね、怖いとか思わないの？」

『なぎちゃんの声は怖いというより……………』『かわボ』『かわボ』『かわボ』
「そ、そう？やっぱり？そうですか？でへへ……………はゝ疲れましたね……………思い返すと恥ずかしくなるので、ここまで……………ご視聴ありがとうございました！明日もやるから見てね」

『おつゝ』『今日も楽しかったぞ美少女』『ついに美少女と認めたな』『お疲れでした』『今回の放送、切り取って動画に出している？』『でもこのプロゲーマー、パンツは白なんだよね……………』

「白パンの話はやめろー……………動画かあ、ん……………いいよ、ちゃんと使ってる？では今回はここまで！以上なぎちゃんでしたー」

配信終了……………つと。

「楽しかったな……………昨日より上手く言葉使えたし、楽しんでもらえたみたいだし……………」

ん？何かメール来てる、見てみよう。

『なぎちゃん様、当社のゲームをプレイして頂きありがとうございます』

ん？

え？

ソレスタルビーイングさんって……社員の人だったの!?

に、にやああああああ！（その日は興奮で夜も眠れなかったなぎちゃんだった。）

さんわめ！

少し寝不足なお昼、わたしになってから少しポジティブになったわたしは、冷蔵庫を開ける。

朝には自立配達ロボ、ナゲットくんが私が寝ている間に昨日頼んだ野菜とお肉と卵を冷蔵庫に入れてくれたみたい。

どれだけ技術の進歩を遂げても、自己学習能力を身につけたAIとかを命としてカウントしなかったら、わたしは、人類の殆どは現実^{ホト}に肉体を宿している。

だから、五感全てを体現出来るVR技術があつたとしても、現実で何も食べないと、しんでしまう。

わたしも同じ、でもせつかくなら美味しいモノが食べたいから、今日の昼はオムライスでも作ろうと思った。

カップ麺は本当の所、たまに食べたいから。

それはそれとして、ナゲットくんが勝手に部屋をハッキングして入る怖ろしさと図々しきは慣れない。

ナゲットくんが誕生してからずっとそうなのだが、やっぱり怖い。でもうれしい。

卵で作ったオムライスを頬張つているところに、電話が来たので渋々受け取ると。

『なぎちゃんかわいいよ！なぎちゃん！』

「や、やめ……そんなの知らない」

『またまたく、今までに無いぐらいノリノリだつたじゃんかよ！』

「それは…そういう、キャラ、作らないと……話せないから」

『ああなるほどな、……ん？なら別に今はなぎちゃんしなくて良いだろ？』

………？なぎちゃんしなくていい、とは？

あ、ああ！そうか、わたし前は男だっけ!?それとも元?!てか3日でおんなのこの心に慣れ過ぎじゃないわたし!?

「いや、あの、それは。えつと……その、う……えあ……」

『ハッ！俺様解つたぞ！さては』

「えっ…………ば、ばれ……」

『なぎちゃんの声、気に入ったんだろ!!』

…………まあそれは間違つてないけどさ。愛すべき親友よ、キミがバカでよかった。

「ば、ばれちやったか」

『フツハツハツハツハ！俺様、だからな！』

「ハハハ、ハハ、ハ…………そ、それで今日は何？」

『ん？ああいや、特に用事はないぜ？ただなんというか…………その、話したくなつたじゃ、ダメか？』

かわいいなこいつ、でもわたしも寂しかったし…………おあいこだね。

「ん…………そんな事、ない」

『そ、そっか……………』

「…………ねえやつぱホモでしょ」

『違わく〜い!!!ていうかなあ！それちゃんと理解して言ってるのか?!』

「うん、でもそういう扱いしろつて言ったのは親友じゃんか」

『ぐぬツ…………じゃあホモでいい』

飲んでいたお茶を思わず吹き出した。

『汚ね！ってか大丈夫か？』

「げほつ、いやいや…笑わない方がおかしいっつゝの」

『……………やつと、前の親友の……………』

「ん？……………何か、言った？」

『何でもない、そろそろ仕事だから切るぞ？』

「はい。お仕事、頑張つてね」

『……………録音しとけば良かった』

んん?!ちよつとそれどういう意味だ!？って電話切れたし…………親友は仕事かあ。

忙しいから、配信しても見てくれないんだろうなって思ったけど、そっか、アーカイブで見えてくれたりしてるのかな。へへっ…………恥ずかしいけど嬉しいや。

…………え、いや待って、それじゃあもしかしてわたしの手とか見られ

てるって事でしょ？それはつまり…どういう事だ？

バレ……………て、無いんだよな？そもそもそんな可能性に至る筈がないだろうし、整形技術も昔と比べて随分進歩してるけど、さすがに骨格や遺伝子レベルを一から変貌まででは出来ないし、というかそれはもう整形というより生まれ直しだよ。

「ま、まあいいか！うん、深く考えるのはやめよう！……………ぱくつ…もぐ……………オムライスウマー！」

ご馳走様でした。

さてと、今日は放送前につおったー十でアカウントを作ってみた。やっぱり告知とかするべきだろうし、何時何時にやるとかわからないと、ダメだよな。

でもこわいなあ、住所特定とか……………いや、このアパートはお隣さんが私財で買ったNSSマテリアルフィールドで外部からのサイバー攻撃や違法アクセス、垢乗っ取りとか地震防止とかを土地に展開してたっけ。

って、最後の地震防止ってなんだよ！それはなんか違うくない!?

「……………はわーもしかして、喋ってる声聞かれてたりするの؟!……………そんな事ないよね、うん、無い無い。完全防音だし、大丈夫ダイジョウブ……………」

外に出ないから顔を合わせた事すら無いが、もし騒音とかになってたら申し訳ない……………今度親友にそれとなく伝えておこう。

つと、これをチャンネルの概要ランに貼って、告知ツイートして……………ってフォローはやいな、この人初回のコメでいたな……………へへ。「フォローは……………んー、保留で」

今回やるゲームは何にしようかな、戦闘系は一回間を置きたいし……………お絵かき配信はありだなあ、あつでもでもせつかくだから視聴者さんたちとも何かしたいなあ。

「森する？それとも戦車道？うくん、ガチガチの対人系はこわいから、やるとしたら協力系以外ありえないんだけど、それでいてわたしもみんなも楽しいゲームかあ……………VRならいっぱいあるんだろうけど、

それはつまりわたしの周りに何十人も人が来るって事だから必然的にボツ」

MMORPGの出番だろうか、それとも昔ながらの協力系もありだなあ。

「ん〜……ここはそうだなあ……」

☆

つおつたー十で宣伝した事もあつてか、始まる前から100人弱の人が待機している、少しずつ見てくれる人が増えていることが嬉しい。

恥ずかしさはまだまだあるけれど、自分を知ってもらえる事がこんなに心踊るって思わなかったな……ふふ。

今日も、みんなに楽しんでもらえるように、頑張りたい。

「ちやおー……自称プログラマーなぎちゃん、始まるよ」

『わこつー』『ちやおー』『ちやおー好き』『始まった』『出かわ』

「つおつたー十始めて見たけど、みんなフォローしてくれたかな？まだしてない人はフォローしてくれると嬉しいですよ」

『したぞ』『真っ先にしたぞ』『してくるわ』『フォロー欄見たら昨日のゲーム作ったゲーム会社フォローしてて草』『抜け目のないなぎちゃん』

「べつ別にそんなんじゃないんだからね！」

……はっ、無自覚にツンデレ口調が?!

「んんツ、それでそれで、宣言した通り、今日はみんなと何か出来るゲームが無いかなって探してたんだけど〜」

『ええやん』『美少女と一緒にゲーム出来る場所はここですか』『VRゲームするんか?』『雑談とかしないの?』

「VRはまだしない、雑談は考えておくね?……今回のゲームはこれ!」

『うおおおおおおー!』『対戦系じゃないのか』『こういうゲームもやる

んか』『脱出ゲーか』『割とメジャーなゲームじゃん』『出たー！半オー
ブンワールド型脱出ゲームだー！人形になった主人公を動かして、同
じ人形同士で協力しつつ脱出するゲームだー！』『説明乙』

「説明しよう！今回やるゲームは脱出ゲーム『リトラス』

元々は人間だった主人公達は、悪い魔女にかわいくデフォルメされ
た人形になってしまう！

人形になった主人公達を操り、100年前のトーキョーをモチーフ
にした、恐ろしくもどこか不気味めいた、広大な箱庭を探索しつつ、こ
の作られた世界から抜け出せる場所を探すゲームなのだ！

マップはリアルタイムでランダムに構築されて行き、全く同じ脱出
ゲームになることはなく、いつまでも楽しめるゲームの一つとして、
ゲームをよくする人達の中では割とメジャー。

最大四人まで同じワールドで探索する事ができ、迫り来る猫や犬、
人間であろう足や、魔女の目を掻い潜り、無事脱出口を見つけ潜ると
クリアできるぞ！

「ホラーイベントにはあたりませんように……サーバーはなぎるー
むで作りました！つてもう一人目？あわえあ……よ、よろしく」

『かわいい』『ホラーイベント当たれ』『このゲームガチで失禁するぐら
い怖いイベントあるからな……』『美少女の失禁と聞いて』『今更ホ
ラーにビビるのか？』『グロとホラーは違うぞ』

つてこの人、最初の放送からいた人だ……見続けてくれてるんだ
……あ！この人も見たことある！

「エリックさんとユースさんと、ミクさん……ん？この人形のアバター
……おんなのこ！おんなのこだよこのアバター！ねえねえわたしの
放送におんなのこいたよ！うおおおおお!!」

『草』『草』『草』『食い付き方がおっさん過ぎる』『なぎちゃんもおんな
のこやぞ』『これはおっさん』『美少女だったりおっさんだったりしろ』
『名前呼んでもらえるの裏山』『よろしくお願いします』

「テンション上がって来た……みんな頑張って脱出しようね！」

『昨日の有能無能いる？』『始まりは一軒家の屋根裏からですね、段
ボールからプレイヤー達が出て来る今のムービーが終わったら本格

的にスタートです、先ずはこの家から脱出する事から始まります』『有能』『有能』『いたのか』

「今日もありがとう……家から出て町に出るから、意外と広いと思われがちなんだけど、実はそうでもなかったりするんだよね」

さてさて先ずは屋根裏から出て家に何かがあるか物色だ、人が中に入ってくるまでに何か良いものがあると良いんだけど……爆竹があると楽なんだけどねー

『ちなみに動いている所を人に見られると捕まります、子供に見られるのは大丈夫です、犬とか猫は逃げないと攻撃されて無残な姿になります』

「ひえっ早速人が……やばいやばい近い近い、凄く怪しまれてる！」

『人に怯えるプロゲーマー』『エリック さん が猫に引っかかれて綿毛を出しました』『エリー……エリック！』『これ死んだらどうなるん？』

「ふうひやひやした……リスポーン地点からやり直しだよ、この場合屋根裏からかな」

ってミックさんが家の窓の鍵を拾ってる！これで窓から外に出られる……でも油断したら蜘蛛の巣に引っかかったり、この家の飼っているインコのくちばしに刺されて乙るから、気をつけないと！

「ってエリックさん次は子供にサッカーボールの代わりにされて死んでる」

『草』『無能』『間引かないか？』『動いても動かなくても掴まれたら終わりだからな……』『割と死にゲーよな』『このVR版とか凄い怖かったぞ』

「え、VR版あるの!?絶対怖いってそれ……うわあつぶね!地雷踏みそうだった!」

てかなんで家に地雷引つかかっただよ!?ランダムイベントの配置間違ってるぞおい!

「窓から落ちてても人形だから死にはしないですよね……いつか電子体の技術がもっと進歩したら、人は痛みを感じなくなるのだろうか」

『深い事言ってる』『ユーさんが 木に刺さって綿を出しました』『なぎちゃんとかミクちゃん以外無能なのでは?』『哲学プログラマーなぎちゃん』『痛覚の遮断は生物的にどうこうとかでなんとら』

「よーし町に出たぞ! 四人だとこんなに早く家から出られるんだ! 一人でやった事しかないから知らなかった……」

『あつ(察し)』『ぼっちプログラマーなぎちゃん』『このご時世ぼっちなのは結構闇』『分裂すれば一人じゃないよ!(にっこり)』『なんかヤベーやついるぞ』

「ひっ……なんだ灰猫か、おどかすなよテメー」

このゲームの黒色は基本的に魔女の予兆だから、黒猫だったらホライベントが発生していた、あーやだやだ! このイベントさえ無かったらもつと面白いのに。

「うーん何処に出口があるんだろう……てか町綺麗だなく、100年前のトーキョーが舞台らしいんだけど、高層ビルが良い味だしてるよなあ」

『今あの都心、大要塞になってるしな』『エリック車に轢かれて草』『誰も助けに行かないの草』『100年前と変わってないのは群馬と埼玉と愛知だけだぞ』『北海道とか浮いたしな』『原住民だけど暮らしの不自由は無いぞ』

「ミクちゃん何それ……方位磁針だ! やった! やった! これで脱出できるよ! 他二人は置いて二人でハネムーンしよう!」

『方位磁石は出口付近までの場所を示す重要アイテムですね』『幸運を味方につけるプログラマー』『ペロツ……これは、百合じゃな?』『今のなぎちゃんはおっさんだぞ』『エリック さんが海に落ちました』『黒の方位磁針……あ(察し)』

方位磁針の指す針に向かって人形二人(?)は駆け抜ける、途中でユーさんが合流して、エリックさんは何故か海に落ちていた。

出口と思わしき扉を三人で協力して、扉を開けると。

そこは真っ暗な部屋だった、でも不思議と真ん中に何かあるのか、何が”いる”のかを理解した、ぽた…ぽた…と水滴が落ちるような音が部屋に響く。

「えっ……………」

”ソレ”は液体だった、液体の中の無数の赤い瞳がわたしを見つめると、下腹部に何十本もの短い足を生やして、ヘビのように鎌首を持ち上げた。のっぺりとした黒い塊のてっぺんに、木の杭のような歯を生やした強大な口、体のあちこちから覗き見る赤い瞳がわたしを見つめる。

「あっあ……………」

『こわ』『ちよつとトイレいつてくるわ』『ん？このイベント見てるのなぎちゃんだけじゃね？』『ナイスミクちゃん』『腹黒すぎて草』『マウスの手が止まって草』

まるでご馳走を見るかのように、巨大な口からは黒いよだれがぽたぽたと落ちては、そのよだれが意志を持ったかのようにわたしのほうに向かっていく、”ソレ”は本能的恐怖から動けないわたしを嘲笑うかのように、ゆっくりと、ゆっくりと、近づき、近づいて、その口が大きく開かれ、今まさにわたしを捕食するかのように近づいて…

「のやああああああああああ！なんでなんでなんで！ひあ……………あっあやめて！やだ！やだあ！なんで扉開かないの?!みんなは?!なんで……………たすけ……………あ、ああ……………」

『かわいそう』『かわい』『かわい』『興奮してきた』『これはえっち』『SANチェック失敗』『ふう…』『えつつつろ』『普通に怖えよ』『VRじゃなくてよかった……………』

逃げようとした体に無数の黒い液体が重りとなってその動きを阻害する、黒い液体がにゆるにゆると動くのが気持ち悪い、体がどんどん拘束されるのが気持ち悪い、赤い瞳に見つめられるのがきもちわるい、やだ、きもちわるい、こわいこわいこわい!!いやだ！やつ……………

「えあ……………」

今まさにわたしが黒い液体と同化すると思われたそのとき、扉の空いた音と共に黒い液体が光に怯える。

「……………あ、ああ、エリックさん！それに二人も！助けてくれにきたんですね?!ありがとうございます……………ほんとに……………」

『熱い展開』『エリック有能』『ま た 神 回』『もう少

し怯えてたの見たかったです……(ボソツ)『少し泣いてるかわいい』
『しれっとミクちゃんが先導切ってて草』『絶対仕組んでただろ』

「こわかった！こわかった！もうないよね？良いんだよね、もうすぐ
ゴールだよね?!出れるよな?!この世界から出れるよなア!!」

『笑うわこんなん』『ゲーム楽しんでんなあ…』『段々口調荒くなつてつ
て草』『半狂乱で草』『必死すぎる』

「このマンホールを開けて出ればクリア？クリアなの？ならなんで先
行かないの？先行ってよ、先行ってわたしの安全確かめてよ、行って
よ、行けって！エリック行け！」

『草』『草』『草』『疑心暗鬼じゃねーか』『名指しで草』『大声でも耳に
痛くない声すこ』『エリック さん がクリアしました』

「あつあ、疑ってごめんさい…はあ…はっ…クリアした…」
『oooooooooooo』『おめでとう』『お疲れ』『パンツ履
いたお』『服も着ろ』『一緒にプレイ出来て楽しかったです！』

まだ体が震えている……お水飲もうお水。

「ん……はあ、二度とやらねえからな!!」

『草』『完全に捨て台詞』『お水民歓喜』『怖がりプログラマーなぎちや
ん』『また明日もやって?』

「やだ！いやです、やらない、やらないからね…明日は別のことするか
ら』

『かわいい』『かわいい』『かわいい』『これは美少女』『400人超えて
たぞ、おめでとう』

「400人にわたしのビビり具合を見られたの?……はーもう……喋
る体力もうないよ……そろそろ切りたいと思います」

『いけない』『いけない』『おつかれさま』『楽しかったぞ』『登録
したわ』

「登録ありがとう！よければつおったーもフォローしてね！」

「……よし、じゃあ終わるよ、ここまで見てくれてありがとう、自称
プログラマーなぎちちゃんでした」

配信終了……コメントでえろかったとか喘ぎMADはよとか言わ

れてる……そういう目で見える気持ちも分からなくなるからノーコメントで黙認しよう。

あー怖かった、おんなのこにほいほい釣られクマーだったなわたし、今思えば妙に慣れてる動きだったし……ま、まあおんなのこだし許してやるか。

ん？電話が鳴ってる、親友から？

「……………はい」

『昔からホラーは苦手なのな、可愛かったからもう一回やろうぜ！』
「は、な！うるせー！嫌に決まってるだろーが！くたばれくそ！」
わたしは電話を切って携帯をベツトに投げ捨てふて寝した。

掲示板のおはなし

【part1】なぎちゃんをすこれ【かわいい】

168：名無し視聴者 22：11：31
いやー今回も楽しかったね。

169：名無し視聴者 22：22：53

今回で確定したけどなぎちゃんの配信環境驚く程良いぞ、真面目に元プロゲーマーとかそういう線あるで、VRに嫌気さしてPCゲイやってんじゃないか？

170：名無し視聴者 22：23：08

今のご時世、女性のプロゲーマーなんて居ないぞ、元プロなら世界的に有名になる筈だからその線は無いでしょ。じゃあなんで配信環境良いのかって言われたら何も言えないが

171：名無し視聴者 22：25：32

ワンチャン、マテリアルワールド展開してる説

172：名無し視聴者 22：26：38

どこのお嬢様だよ。アレ一番安いので一億超えんだぞ、時給格段に上がった今の日本でも数百人ぐらいいしか買えねえだろ

173：名無し視聴者 22：29：14

でもあれだけ叫べるって事は完全防音部屋だぜ、そこそこ良い所の出なんじゃねえの

174：名無し視聴者 22：31：32

お、なんだ詮索か？あんまり過ぎるようならお前の住民ID調べて電子ハックしても良いんだぞ

175：名無し視聴者 22：32：10

もうそれ三回目だから本当にやめてくれ、技術革命してからおじさん若者についていけないよ……

176：名無し視聴者 22：34：28

そんな事よりなぎちゃんかわいいおこえの話しようぜ、あの中学生が頑張って大人の声出そうとしてるアンバランスな声すこ

177：名無し視聴者 22：34：45

わかるマーン！一人暮らしっぽいから大学生以上ではあると思うんだけど、それであるのかともうたまらないどすなあ

178：名無し視聴者 22：35：34

大学生とかいうネットに残った昔の遺産

179：名無し視聴者 22：37：21

なんでや今も存在してるやろ！ただ数が少なくなっただけで

180：名無し視聴者 22：38：24

大学入るよりVRで仕事探した方が効率的で稼げるしなあ……なぎちゃんはなんの仕事やってんだろ、看護師だったらいいなあ

181：名無し視聴者 22：41：36

最後お前の性癖じゃねえか、介護士だったらいいなあ

182：名無し視聴者 22：42：53

おいおっさんもうすぐ寿命だぞ、ドミノの宅配人だったらいいなあ

183：名無し視聴者 22：43：34

お前から間違ってるぞ、なぎちゃんは俺の彼女だぞ

184：名無し視聴者 22：43：39

冗談でも言って良い事と悪い事があるよな？住民ID88420の家に宅配ピザ10個届けたからな、次はねえぞ？

185：名無し視聴者 22：44：42

丁度切らしてた

186：名無し視聴者 22：47：29

しつかしこれ匿名の意味あんのか？住民ID抜けば本名バレるのも時間の問題じゃん、こういう所技術が発展し過ぎた弊害だよな

187：名無し視聴者 22：48：32

まあ別に現実でもVRでも会うわけじゃ無いしええやろ、悪用される事も無いんやし

188：名無し視聴者 22：51：42

悪用したらサイバーポリスマンにネット環境切られるもんな、ネット無いと働く事すら出来ないご時世だから実質処刑みたいなもんですよ

189：名無し視聴者 22：52：06

な、なあ…告白したいことがあるんだが…ええか？

190：名無し視聴者 22：54：24

いぞ

191：名無し視聴者 22：54：26

いぞ

192：名無し視聴者 22：57：35

出来心でなぎちゃんの住んでる場所ハックしようとしたんだが…それがさ、どのツールも効かなくて、どこらへんの区にいるかすらも分からなかったんだ…普通のマテリアルフィールドなら抜けるぐらいには腕の自信あるから、多分最新のNSS型フィールド使ってるぞ…

193：名無し視聴者 22：58：18

ふーん、て事はマジのお嬢様説浮上かあ。それはそれとして住民ID05285の田中、お前今すぐVRフィールドの野外戦場エリアに来いよ、久々にキレちまったぜ…

194：名無し視聴者 22：59：32

これは許されない、久々にビームサーベル持ってくるわ

195：名無し視聴者 23：00：51

逃げられないようにお前の家の扉にロック仕掛けてやったわ、10分で支度しな

196：名無し視聴者 23：01：06

下の名前は晒さない優しさ、なぎちゃんのファンは怒らすと怖いんやなって…

197：名無し視聴者 23：02：24

おう田中、亡骸は拾ってやるよ、丁度錬金術の材料で必要だったし

198：田中 23：03：59

はい…田中です…すみません…行つてきます…

199：名無し視聴者 23：04：37

自分で名前変えるのは草

200：名無し視聴者 23：32：17

正直なぎちゃん、登録者一万人いくよなこれ

201：名無し視聴者 23：34：21

そのポテンシャルは秘めてる、パソコン配信でPCゲーだからまだ知名度低いけど、この子がVRでやってたら3日で1000は行ってる

202：名無し視聴者 23：47：30

正直パソコンとかオワコンだろって思ってたけど、変な偏見は良く無いな、パソコンにはVRに無い魅力がある。

203：名無し視聴者 23：48：52

俺的にはVRゲーもして欲しいけどな、別にVRフィールド使わなくても良いからさ、VRでホラゲーやって欲しい(ゲス顔)

204：名無し視聴者 23：49：32

なぎちゃんをそういう目で見てないけどVRホラゲーやって欲しいわ

205：名無し視聴者 23：50：50

パソコンであれだけ移入できる子がVRホラゲーやったら流石に可愛すぎて見られなくなりそう、てかホラゲーやらないでしょ

206：名無し視聴者 23：51：26

VRサバゲーとかで最後まで生き残るなぎちゃんとか普通に見てみたけどな、おうちわるわるで俺の事罵って撃ち殺して欲しい

207：名無し視聴者 23：55：21

わかりみが深すぎる。おうちわるわるで「おにいちゃんのことなんてきらい！」って罵って欲しい

208：名無し視聴者 23：58：06

今日のなぎちゃんにしてみらいたい性癖暴露大会はここですか

209：名無し視聴者 23：59：31

やっぱりここは王道を行く……幼馴染シチュ……ですかね

210：名無し視聴者 24：01：52

性癖暴露も良いけどなぎちゃんに迷惑だけはかけるなよおまえら、お姉ちゃんとの、約束だぞっ？

211：名無し視聴者 24：02：42

お姉様、なぎちゃんを私に下さい

212：名無し視聴者 24：03：23

誰がおまえにやるかヒキニート、働け

213：名無し視聴者 24：05：56

会社です、助けて下さい。上司と二人きりなんです。

214：名無し視聴者 24：06：11

あつ……なんか悪いな、なぎちゃんのアークイブ見て元気出せよ

215：名無し視聴者 24：10：53

ブラックバイトは怖いなあ……怖いなあ……つて

216：名無し視聴者 24：12：28

お、なぎちゃんが質問箱開設したぞ、まともな質問だけ配信で答えるつて、まともな質問だけ（二回目）

217：名無し視聴者 24：12：32

マ？告白してくるわ

218：名無し視聴者 24：13：06

具体的な目標聞いてきたわ、実際どこ目指してんだろ、ゲーム会社からのオフアールとか有名配信者とかとのコラボかな

219：名無し視聴者 24：15：22

有名になりたいのはあるだろうね、当の本人は人に見られるの慣れてない様子だけど、時折心底恥ずかしそうにしてるのかわいいんじゃないかな

220：名無し視聴者 24：16：41

単純に金稼ぎだろ、ていうか金投げさせろ、なんで投げ銭出来ねえんだ

221：名無し視聴者 24：17：32

なぎちゃんの配信サイトのTube@ライブは登録者1000人超えて登録から三週間立たないと投げ銭システムは働かないぞ。1000人超えたら枠延長出来るようになるし、1万人で広告権限とか月収とか付くから当面はそのラインだろうな

222：名無し視聴者 24：18：04

思ったより近いうちに金投げれそうで嬉しい……嬉しい……

2 2 3 : 名無し視聴者 2 4 : 2 0 : 1 3
自分の趣味に使うって手段は……ないんですか……

2 2 4 : 名無し視聴者 2 4 : 2 1 : 2 0
流石にうん何万は入れないよ、投げた金で新しいゲーム買ってくれ
たら嬉しいしあわよくば一緒に出来るでしょ

2 2 5 : 名無し視聴者 2 4 : 2 3 : 4 2

おまえ天才か? 1 0 万投げてホラゲー買ってもらうわ

2 2 6 : 名無し視聴者 2 4 : 2 4 : 1 0

上に同じく、1 0 万投げてVR版リトラス買ってもらうわ

2 2 7 : 名無し視聴者 2 4 : 2 4 : 5 8

更に上に同じく、1 0 万投げてVR版悪霊の家買ってもらうわ

2 2 8 : 名無し視聴者 2 4 : 2 5 : 2 4

更に更に同じく、1 0 万投げて感染都市II買ってもらうわ

2 2 9 : 名無し視聴者 2 4 : 2 9 : 0 1

感染都市IIは普通に楽しみそうだけどねなぎちゃん、汚物は消毒
だー！って火炎放射器使っそう

2 3 0 : 名無し視聴者 2 4 : 3 0 : 4 2

1 0 万円を何だと思ってるんだおまえら……

2 3 1 : 名無し視聴者 2 4 : 3 1 : 3 2

なぎちゃん民の懐はガバガバ。まあ近いうちに弾けるようにバズ
るよ、なんか一つでも大きなこと起きたらね

2 3 2 : 田中 2 4 : 3 4 : 0 9

ぼくはなぎちゃんには是非OverCoreFarrewrit
e—7の続きをしてほしいですな

2 3 4 : 名無し視聴者 2 4 : 3 4 : 2 3

田中!? 死んだはずでは……

2 3 5 : 名無し視聴者 2 4 : 3 5 : 0 3

田中お前許してないからな、なぎちゃんのアーカイブ編集手伝えよ

2 3 6 : 名無し視聴者 2 4 : 3 6 : 4 2

俺も許してないからな、取り敢えずコッペパン買ってこいよ

2 3 7 : 名無し視聴者 2 4 : 3 9 : 2 1

許されたと思うなよ、研究に使うから黒曜石掘ってこいよ

2 3 8 : 田中 2 4 : 4 0 : 1 3

はい : 田中です : 分裂します : 全部やります :

2 3 9 : 名無し視聴者 2 4 : 4 3 : 3 1

哀れ田中、だが同情はしない。ところでなぎちゃんがにやーんって

言うのかわいくね？

2 4 0 : 名無し視聴者 2 4 : 4 3 : 5 0

わかる

2 4 1 : 名無し視聴者 2 4 : 4 4 : 2 0

わかる

2 4 2 : 名無し視聴者 2 4 : 4 4 : 3 8

わかる

この後も緩やかになぎちゃんの掲示板は続いていった……………

よんわめ！

今日の朝食はパンケーキ、程よく作れて満足。

空気上の水分を水に即座に変換し、洗浄し、人が飲めるようにしたウォーターサーバーで新鮮なお水を作り、リビングに。

いちごのジャムに蜂蜜を塗りたくったパンケーキをお口に入れる、お口の中で広がるいちごの風味とはちみつの甘さがわたしの表情を蕩けさせる。

うくん、おいしい！軽く七年は作ってなかったけど、案外うまく出来るものだなあ、器用さが上がったような気がする……その分フライパンが重く感じるけれど。

やっぱりホログラムのフライパンを買ったほうが良いのかな、洗う必要も油の心配も火の心配も無くなるけど、でもなあ本当に焼けるのかな？

朝食が済んだらPCを付ける、PCの前で食事するのは良く良く思えばはしたないので止める事にした、食事中にタブレットを開くのも止めようと思う。

「愛知、空飛ぶ梨が発見される……味は美味しいのか？つーかなんの原理で空飛ぶの？魔力とか妖術とか本当にあるのかもしれない、ある意味バーチャルも魔法みたいなものだし」

でも冰雪系最強（笑）とか見た事ないし、ああいう能力モノは実在しないかも、まあ突然赤子が光る記事が出て来てもふーんそうなんだで終わりそうなものだけだ。

「……わあ」

チャンネル登録者が500人を超えた、つおったー十のフォロワーも300人超えた。

「へへ……」

某動画サイトでわたしの初の切り取り動画が上がってるのを見て、来てくれたのかな、作ってくれたユーさんには感謝しないと……つおったー十やつてたよね。

「ええっと、DMにして……動画作ってくれてありがとう、嬉しいです。」

……ううん、他に何か言うべきかな、業務的な返事しか考えられないわたしのコミュ症っぷりに嫌気が……うう……」

そういうえば、質問箱にお便りきたかな、一つでも送ってくれているとうれしいな。

50件!?お、おおすぎる……ぜったい質問とは違う文章も送って来てるでしょ、ま、まあ全部読むけれど。

「30件ぐらい告白で埋まってんじゃないか、うれしいけど付き合いません。んーなにになに?……目標は何処……かあ」

自称とはいえ、プロゲーマーって言っているんだから、何らかのゲームの大会とか出てみたいな、公式からこのゲームを実況してほしいとか言われてみたいし、新作ゲームのデバッターとかもやって見たい。

コラボとかは……対面じゃないなら、回せるかなあ……まだ、人とうのは、VR上でも無理だよ……

思いつけば、色々やりたいことが思いついて行く、けれどもやっぱ自分がやって、楽しい事がしたい。

苦しい事は、楽しくないことは、もうやりたくない。

わたしが楽しめて、みんなも楽しめる、そんな配信が出来たら、そう思う。

「ちよつとくさいかな……」

でも、求めてくれるなら、わたしは全力でソレに応じたい、だからってホラーは怖いからいや、ホラーはしません。

『ピンポーン……風沙さん、わたくしです、管理人ですわ』

ビクツと震える体を、どうにか落ち着かせようとお水を飲む。

インターホンのモニターに、わたしの扉の前に20代ぐらいの若い女性の方が立っている、ロングのティアードスカートが女性の美しさを更に磨き上げているかのように思える。

まあ多分実年齢はわたしより上なんだろうなと軽く失礼なことを思い軽く現実逃避。

わたし何かわるい事をした?親友が家賃や電気代などを払わなかった事は一度もないから、そういう話ではないと思いたいけど。

『いらつしやらないのですか？……風沙さん、大した話ではありませ
んの、インターホン越しでもよろしくてよ？』

そうは言うがわたしは親友と配信を除いたら人と話した事は7年
以上は前なんだ、大した話じゃないなら文章でいいじゃんかよ……
出たくない出たくない出たくない……でも、待たせる方
が申し訳ない。

深呼吸をして、わたしはインターホンの通話のボタンを押した。

「……………はい、風沙です」

『ひえわ！か、かわ、んん！風沙さん、近日ここ辺りで配管、ええと、
屋根？改装？ま、まあともかくですわね？工事が始まるそうなので、
一応の連絡をと思ひまして』

「あ、あの、あ……りがとうございます、でも、その……え……と、防音で
聞こえないと、思うんですけど……」

『う、そういえばそうでしたわね……暫く此方の管理を怠っていました
たから忘れてましたわ』

……思えば管理人さんと話した事は無かった、親友曰く自分よりも
忙しい立場だからとか何とかで、このマンションの管理は基本的にお
隣さんに任せてると聞いた覚えがある。

『でも、こうして伝える事はわたくしの義務でしてよっ、感謝するのだ
わ！』

「う、うん……？ありがとうございます……」

『じ、純粹ですわね……そ、そういえば、お土産をお持ちしていますの、
よろしければ受け取ってくれると嬉しいのですわ』

え。

それは、つまり。扉を開けて表に出ろと？

あうあ、あ、むむむむ無理！無理！それは流石に無理！ハードルが
高過ぎる！今でさえもパンク寸前なのに！無理だつて！

「や、あの、えっと、その……う、嬉しい、ですけど、人前に……出れ
るような格好……では、ないので」

『あら？そうです？では玄関の前に置いておきますわね？』

「あつあつ……ありがとうございます……その、嬉しいです……」

『か、かわ、かわいい、やば……んッ！それではそろそろ失礼しますわね、凧沙さん』

「あ、はい、その、いってらっしゃい……」

『……録音しておけば良かったですわね』

だからどういう意味？何で!?管理人さんも?!

あ、いつちやった……綺麗な人だったな……どこかぼんこつそうだったけど、わたしにお土産なんて貰う価値ないのに気を遣ってくれたし……

もしまた話す機会があつたら、もっとしつかり話せるようになりたいな……その為には対面でも話せるようにならないとだけど……うう、むりい……

暫く経ち、誰もいないことを確認してゆっくりと扉を開ける、扉の前にご丁寧に置かれたお土産の品を取る。

「ぎ、银杏とは、予想外の品すぎる……」

☆

配信準備完了、今回はあらかじめこういう事をやろうとしつかり決めている、わたしは1時間前後で配信を切ることを心掛けているので、前半の30分ぐらいは質問に答えるつもりだ。

正直、質問とトークだけで30分も場が持つかかわからないが、これを機に挑戦してみる事にした。

始まる前から200人以上待機してる事にまだ緊張が解けていない。

もし、この数字が4桁にも増えてくれたら、その時のわたしはどうなっているのだろうか。

「にゃーすーこんばんなぎりんっ……もうやらない、今日もよろしく」

『草』『初手素材』『かわいい』『かわいい』『かわいいを狙って自滅するプログラマー』『いやー今回も楽しみだね』『にゃーすー』『1コメ』『1コメ出来てないぞ』

「さて、今回はゲームをする前に、つおつたー十で集めた質問箱に来ている質問を返していきたいと思います」

『告白してきたわ』『送った質問読んでくれるかな』『まともな質問あったん?』『今質問しても返してくれる?』

「まともな質問だったら返すよ!……では早速の一つ目の質問です、どれだっけ:有った有った、えーなぎちゃんとの配信環境について知りたいです」

『あー確かに』『すごい通信環境いいもんね』『コメントのタイムラグ無いんじゃないか?』『音質も悪く無いよな、マイクホログラムタイプ?それともスタンドとか?』

「え、マイクはパソコンの内蔵マイクだよ? ……んー、実を言うと配信周りの機材は譲って貰ったりで、あんまり詳しく無いんだよね、だから良くも悪くも無いと自分では思ってたりする。通信環境については、隣に住んでる人が何か弄ってたよ」

『はえ〜人脈あるんやなあ』『内臓マイクでこんな声良いん?やば』『つまり良いマイクを買えば更にきやわゆい声を出してくれる……?』『隣の人何者なんだ……』

「え、あ…勘違いしないで、わたしに人脈なんてないからね……?ぼっちだし、ただ好意に付け上がっただけです……」

『あつ……』『うーん重病』『かわいそうかわいい』『養いたい』『友達から始めませんか?』『テンションの下落具合で草』『なぎ闇』

「さ、さて気を取り直して次の質問を返しますよ!……えーと、ファンアート描きたいです、宜しければ麗しき御尊顔を拝し奉りたいです」『丁寧な文章で草』『言い回しが独特過ぎる』『お、顔出しか?』『ついに顔見せてくれるんか?』『パンツ脱いで良いか?』『脱ぐな、被れ』『やだよ、恥ずかしいから見せねえよ、パンツも履けよ……でもファンアートは欲しい……ので、かわいいわたしを自己投影キャプチャーで二次元3Dモデルにしたので、それで許して」

『おお』『はえ〜』『かわいい』『かわいい』『なんか神秘的』『たまにチラチラ銀色の髪見えてるけど地毛なんか……?』『なぎちゃんの黄金色のおめめ』『服のセンスは〜普通だな!』『自己投影キャプチャー

「持つてるならVR機械あるんか？」

「わたしかわいいでしょーでへへ……んー、一応持つてるよ、VRフィールドとかには…行かないけどね」

「じゃあフアンアート待つてるからね、あ、でも無理に描かなくていいよ、体に気を付けろ」

『俄然やる気出たわ』『これは描くしかない』『なぎちゃんはかわいいなあ』

「次の質問行くよー、VRゲームもやって欲しいです、か」

「実を言うと配信しながらVRゲームは出来る環境なんだ、理屈はちよつと分からないけど、外部に取り付けてる機材でパソコンでもVRゲーム出来るからね」

『ああ、うちもそうだよ』『完全没入タイプのVRゲームでもパソコン上で出来るってことか?』『半電子体になるんだっけアレ』『割と手が届く値段だったなあ、全部自作らしいから全く同じ性能が無いんだっけ』

「つ、使った事なかったけど、今のでちよつと怖くなった……怖くなったのを抜きにしても、暫くはPCゲーをするつもりだよ、まだまだパソコンのゲームは面白いの、いっーぱいあるから、みんなに見てもらいたいんだ」

『かわいい』『いっーぱい、ここ好き』『かわいい』『イメージングレイドとかやって欲しい』『PCのFPSとかやって欲しいね』『逆に貧困だからPCしか持ってない俺にとってはありがたい』

へー、パソコンしかもってない人もいるんだ、貧富の差は無くなってきたとはいえ、現実でしか働く先が無いって人は一定数いるんだね。

まあ、わたしは働いてすらいないけどさ、ごめんね親友………本当に。

「んー次の質問です。成人ですか?とのことだけど、成人だよ、一人暮らし……だし、どれぐらいの年齢かのご想像にまかせうー」

『いったい幾つなんだ…』『おっさんなら50代だけど美少女なら20代だぞ』『うーん合法』『まかせうー、好き』『ロリなのか?』『平均よ

りは高いけど成人男性よりは低い身長でしょ』『3Dモデル見るに160・6だから四捨五入したら161だからとか言ってるよ』

「はあ?!ぶえべべつに言ってるねーし!妄想も大概にしるよこのやろー!低くねーかな!胸だつて…こう、あるし!」

あー乙女心傷付くわ…:…いや、乙女心が傷付く事になんの疑問も抱かないのは果たして良いのか?

「失礼な人達、次!…:…なぎちゃんの視聴者の呼び方とか決めなくて良いの?ですか、ん…:…これわたしが決めて良いの?」

『奴隷で良いじゃん』『奴隷は草』『養分とかでええんちゃう』『なぎ民とか?』『下僕にしてくれ』『お兄ちゃん達って…:…言ってる良いんだよ?』『先輩って、呼んでいいんだぜ?』『かれピッピとか』『それならこのいる300人弱となぎちゃんが付き合う事になるが』『想像したら草』

奴隷はちよつと…:いや、呼んでみたいけど、いやいや…:抑えよう、かれピッピは無し。

「んー、奴隷と迷ったけど、一番マシなのはなぎ民ともかなあ…:うん、なんかしつくり来る、なぎとも…:ふふつ、じゃあ今度からみんなのこ、なぎ民って呼びますね」

『笑うのかわいい』『かわいい』『なぎちゃんゲーム外だと案外静かなんだね』『奴隷で迷うで狂気感じた』『正直安心した』『なぎ民と化した視聴者』『まあ無難に決めといった方が楽よな』

「パパ呼びして欲しいですって言った有能無能さん、あなたは解説だけして」

『草』『草』『草』『有能無能、まさかのコメ拾われる』『晒してて草』『これは無能、いや有能か…?』『敗北者でしょ』

「さてとー…:まだまだ質問はあるけど残りの7割ぐらいがどうでも良い質問でした。付き合いたかつたらな!まずその下心を無くす事から始めろよな!」

『すみません』『すみません』『なぎ民、早速怒られる、さーせん』『さーせん』『告ったの多すぎでしょ草』『天文学的確率に賭けた、さーせん』『…ま、まあ?許しますけど、うん、寛大ですから』

『ちよろい』『ちよろい』『ちよろかわ』『かわちよろ』

「じゃあ次の質問を返したら、ゲームに移るよ、なぎちゃんはどういう目的や目標がありますか」

これは、あらかじめ最後に取っておいた。そろそろゲーム画面目当てに来る人も、わたしの配信を見てくれるようになるから。

その人達にも、わたしの気持ちを、思いを知って欲しかった。

「先ずは登録者1000人超えたいな！でね、ゲーム会社にわたしの事知ってもらってー、公式とコラボしたり、新作のゲームのデバツガーとかやってみたいし、同じゲーム配信者と…仲良く、出来たらなとは思ったりするしー」

「他にもやりたいこと、したいことは、いっぱいあるんだ、でも…でもね？本当は、わたしに出来るのか、その資格があるのか、わからないんだ…自信が、無い、色々…あったから、でも、でもね？やってみたいと…わからないから、だから、その…え、えっと…」

「付いてきて欲しい、笑って、楽しんで、付いてきて欲しい」

「だから…あー、言葉にならないや、ちゃんと返せなくてごめんね…以上質問コーナー終了！ちよつとお水休憩させてねー」

『しっかり返せてたよ』『推します』『ちゃんと付いていくで』『ワイらなぎ民なぎちゃんお守り隊、任せろ』『これはなぎ民になるわ』『好き』『俺が泣きそうだわ』『配信者の鏡』『一生推せる』『わいの孫がこんなにも成長して…』『お爺ちゃん面すんな』

あつあ…配信コメント見れないよこんなの、なんでみんなあつたかいのさ、もつと色々、だめな事言つてよ、優しくされるの…慣れてないんだよ。

切り替え、切り替えないと、よなみごだれを拭くのはその後だ。

「はい、はい！じゃあ切り替えて…ゲームするぞなぎ民達〜！」

『うおおおおおおお！』『やるぞおおおお！』『今回は何をやるんです？』『1時間経過まで後15分しかないけどな』『延長するか？』『残念

ですが登録者1000人なるまで時間延長出来ません。』『Tube

@ライブ、無能』

「15分?でも大丈夫、15分でも出来るゲームがあるんです。そう……みらくるカートならね!」

『うおおおおお!』『メジャーゲーム』『あーそっかあ、VRとPCゲームのサーバー繋がってんのか』『一応家電ゲーム機のサーバーも繋がってるぞ』『レースゲームも出来るのかなぎちゃん』『レースクイーンななぎちゃん』

説明は不要だろう、レースゲームと言ったらこれ、30人とマッチングして誰が一位か競うゲームだ、アイテムや機体の性能でコーナーに差をつける!

「よっしゃ〜!楽しむからな!なぎ民共、入ってこ〜い!」

『行くしかねえ』『たまにはPCでやってみるか』『俺VR』『俺も俺も』『行くぞおおお!!』『ニンジャ・カスタムのギアⅢ使って良い?』『チート機体過ぎる』『なら俺馬車使うけど』『アイテム10個持てるクソ機体やめろ』『ラ　　ッ　　キ　　ー　　パ　　ン

ダ』『凶暴化して他機体壊すのやめろ』『なぎ民やり込み勢多すぎ問題』

「じゃ〜わたし天使の羽使うから!」

『空飛ぶな』『おい公式戦不参加キャラ使うのやめろ』『レースしろ』『なぎちゃんでもそれは許されぬ』『バランスブレイカーすぎる』

「嘘だようそ、えへへっ……王道を行くゴールデンバイクにしよ、あ、わたしが自重したんだからみんなも自重してよ?」

ああ、楽しいな……

なんでこんなに楽しいんだろう、自分でもわからない、でも、ああ。親友にはわかってたのかな、わたしの唯一の友達には感謝しないと、しても足りないけど、それでも。

「まだ速くまだまだ速くもつと速くなるぞオラ!このわたしのスピードについてこれるか?」

『なぎちゃん速スギイ!』『これはイキリなぎちゃん』『クイックブーストの使い方エグすぎる』『エリック最下位で草』『口調変わって来たな』『テンション高いなぎちゃん好き』『風神少女なぎちゃん』

「ってわたしの隣に走るなぎ民は何者だあ!ってミクちゃん!?ゲーム

うまいなこの娘……おんなのこだからってなア！負けねえぞ！」

『熱い』『下の列のわちやわちや具合と上位の1位争いの差で草』『お
おー3位と4位どんどんなぎちゃんに追いついてってるやん』『プロ
ゲーマー配信でもなかなかみない激戦』『美少女配信にあるまじき少
年マンガ的展開』

くっ、カーブが曲がりきれない！このままでは抜かされてしまう！
……ってこのタイミングで落雷だとお？！

「あああああああ！よりによって狙いうちかよオ！つくそでもなあ
！わたしのアイテムには空飛ぶ箒があんだよオ！ざまーみやがれ！」
『例の如く口調が荒くなって草』『もはや恒例行事』『やっぱこれだね』
『おうちわるわる』『かわいい』『あ、ミクちゃん青こうらで爆発した』
『はっや、流れ星みたいに一位に登り詰めたぞ』

「うおおおおおお………やったー！優勝した！優勝した！優勝し
た！褒めて褒めて、一位だよ一位！」

『かわいい』『かわいい』『かわいい』『すごい』『熱い試合やなあ』『負
けたー！』『これはプロゲーマー』『サムズアップしてるちっちゃなお
ててのなぎちゃんかわいい』『かわいい』

本当に、楽しい、わたしの放送で喜んでくれているのが、嬉しい。
「あ、もう時間だ、もう少しやりたかったなあ……えーと、明日は少し
お休みです、ごめんね？でも明後日はやるから、みんな来てくれよ
なー！……はー……本当に楽しかったよみんな」

『今までで一番楽しそうだった』『明後日が恋しい』『こっちまで楽しく
なる』『またレースしたいですなあ』『登録してきたよ！』『かわいいし
かわいかった』『なぎ民になります』『今の内に古参面の準備しとくわ』
『いやー今日も楽しかったね』

「登録ありがとう……名残惜しいけど、ここまでにしますね。ここ
まで付き合ってくれて、ありがとうございました」

少し躊躇してから、配信を終了する。

高揚感と達成感、そしてすこしだけの虚無感。

でも、今回の配信で何かが変わった気がする、わたしの中の、忘れ
ていた感情が。

そうか、ああ……そうだった。

ほんとうの意味でたのしいっていうのは、心からの満足感は、ほんとうに久しぶりで。

親友にありがとうと一言メールで伝えてから、その日は久しぶりになされることもなく、気持ち良く熟睡した。

ごわめ！

『登録者数1000人突破、おめでどう、親友！』

朝のモーニングコールは、親友の祝いの電話からだった。

そう、二日前の配信、つまりわたしの思いをぶちまけたその日、そのシーンと動画とみらくるカートの動画が動画サイトにUPされ、その影響で登録者数が1000人を突破した。

正直心臓が止まるかと思いました。りかいでできない、あたまがショートする。その日、きのうはまともに食事を取れなかった。

ていうか今思えばすごく恥ずかしいよ！あんな……羞恥ってレベルじゃないよお！

「あうあう……やめてよ……」

『いややめない、祝うね！このまま一万まで突っ切っちゃえ！』

「わ、わたしの心臓が先に突っ切っちゃう……」

『それはマズい』

て、てか、よよよ四桁って、わたしに釣り合わすぎる……配信時間の延長が出来るようになってな^{とも}ぎ民ともっと話せたり遊べたり出来るようになったのは嬉しいけど……うう。

『言つたろ？親友には絶対向いてるって』

「で、でも……わたし、こわいよ、こんな……人が……期待とか、されても、困るよ……」

『だーいじよぶだって、他でも無い俺様が保証するんだ、それに人がどれだけ増えようが自分のスタンスを変えるつもりはないだろ？』

「そ、そうだけど……」

『……自信持て、ってのは、そう上手く行かねえのは分かってるさ……でもな、風沙は良い方に変わっていつてるよ、それは間違いない、俺様が保証するから』

それは、そうなんだろうな。

いまさら、変わるの……難しいし、怖いし、でもこのまま親友に甘えているだけじゃあダメなんだ、わたしは自分自身を変えないと、あのままのわたしじゃあ、ダメになる。

『それはそうと親友！キミは女装が趣味だったのな！』

へ？

いや、は？

あ、あああああああ!?親友も見てるよな見るよな!?自己投影でモデル反映したって言ったらそりや親友ならそういう結論になるよな!?やばいやばいどう言い訳すれば……!

『大丈夫大丈夫心配すんな!誰にも言わないぜ?俺様の親友が女装趣味の変態野郎だって事は、心の中に留めとくからな!』

「はああ!?ふぎ、ふつぎけ……ふぎけんよこのホモ野郎!はげ!」

『がーはっはっはっは!痛くも痒くも無いとは正にこの事よな!後禿げてねえわ!』

「なっ……あ……あ、く、くそ!くそ!」

『まあ似合ってたし可愛いし良いじゃん、今度飯食う時女装して来てよ』

にやうあ!?似合って、かわ、かわあ!?

「い、良い加減な事いうなよ……そ、そんな褒めてもしないんだからね……!」

『ツンデレなぎちゃんすこく……ああそうだ!管理人さんにも勧めてやったから、絶賛だったぜ?』

「ん?……え、は!?なななつなに、何してくれてんじやワレエ!どういうつもりなのですかい?!」

『うおお、ご乱心だなあ……あの人、疲れ気味でさ、ほら、親友の配信って楽しいだろ?アーカイブも残ってるし、お世話になってるし一人で見てくれる人が増えたら親友にも得だし、良いだろ?』

あ、あんな綺麗な人に見られるとか……うう……良い加減な事言えないじゃんかよお……でも、間接的にわたしも恩恵を得てる身だし、お土産を貰ったお礼とでも思う事にすれば、納得出来る……する。そうする。

「……管理人さんとはどういう仲なの」

『ん?仕事の上司の上司の上司、空いた日たまーに飲みにいたりしてるよ』

「ふーん」

『お？なんだなんだ、俺様と飲みに行きたいのか？いいぞー今からでも行くか？』

「……………行く、って言ったら…………？」

……………あれ、もしもーし。返答が無いんですけれどー？聞こえてますかー？

『いや、おう、あのな、からかって悪いが…………』

「仕事でしょ、わかってるよ…………いまは、何処にいるの？」

『南の方で、ちよつとな…………機密事項もあつて詳しくは言えねえ、悪い』

「ん、いいよ、気にしてない…………体調とか、だいじょうぶ？」

『大丈夫だつて！親友に心配される程じゃねーよ…………もう五年以上は、会ってないもんな』

「…………だね、まだ赤い髪の毛のまんまなのか？」

『まーな、赤は俺様のイメージカラー！赤といえば俺様、俺様といえば赤！だろ？』

そうだね。

親友の赤は強烈過ぎない赤色、暖かい色、夕焼に光る黄金のような、太陽のような、光の象徴。

「いつもありがとね…………こんな自分の親友でいてくれて、嬉しいよ」

『…………卑下すんなよ、風沙だから親友なんだ、今までが…………その、不運なだけだったんだよ、まだまだこれからだろ』

「そうだね、不運、だったな」

でも、親友と会えたことは不運じゃないよ、幸運なんて言葉じゃ言い表せない、奇跡って言葉でも到底足りない。

銀色の髪を弄る、これは紛れもないわたしの髪で、わたしじゃなかった髪だ、もう完全に違和感がない、生まれてきてからこの姿だったって言われても、納得出来る。

でも確かにわたしは、最初からこの姿じゃなかった、いつそ最初からこの姿なら良かったと思うけれど。

それだと、今の出会いは無かったのかな。

『んー、そろそろ時間だ……近いうちに！とは、行かねえけど、絶対にそつちに一回帰るから、その時は』

「うん、そうだね、久々にあのバーに行きたいな」

『懐かし！学生の時行って怒られた場所じゃんか！……へへ、楽しみだ、じゃあまたな、風沙』

「うん、またね。司^{つかさ}」

☆

さて、今日は少しだけ、手元以外も見れるように、ほんとにちよつとだけ、カメラの位置取りを変えて腕ぐらいまで見えるようにした。

ので、必然的に服装とかも見られる、ただその点については昨日、女性用の服を何着か頼んでナゲツトくんが持ってきてくれたので、抜かりはない。

女装趣味だと思われてるならもう開き直ってやるよこのやろう、ちくしょう。

でもチエツク柄のワンピースはすこし恥ずかしいな、狙い過ぎかな？でも肌はあんまり見せたくないし……ま、まあ。考えないようにしよう。

配信準備を整え、500人前後を超える待機の数字を極力見ないようにする、直視すると何も話せなくなっちゃうよ。

それと同時に、つまらないわたしは見せたくないから、いつも通り今回も全力でやりたいと思う。

さあ、今回も楽しもう。

「のじゃー！自称プログラマーのなぎちゃんです」

『始まったー！』『のじゃー！』『出かわ』『なぎちゃん俺だ！結婚してくれ！』『なぎちゃん俺だ！認知してくれ！』『少し手元の画面大きくした？』『動画で見ました、面白かったです』『1000人突破おめでとう』

「認知って？まあいいや、さてと、まずは登録者1000人超えました、ありがとう……人が増えても、やる事は変えないぞ！」

『なぎぢちゃんおめでとう!』『古参面できるか?』『無知シチュ』『純粹なんやなつて』『そのままのなぎぢちゃんできて』

「じ、じゃあ、なぎ民の諸君、早速やっで行こうじゃないか?!」

『イエス!なぎぢちゃん!』『緊張して変な言葉使いになってんの草』『声裏返ってんぞ』『メンタルよわよわなぎぢちゃん』『かわいい』

す、好き勝手言いやがって……否定出来ないけどさあ。

「今日は何をやるかと言うとね、2Dアクションゲームをやるうと思
う!」

「その名も、DEAD・CASLだー!」

『?』『ピンと来ねえ……』『知らないなあ』『2Dアクションはわからんなあ』『マイナー過ぎる、楽しいんだけどね』『はえー、悪魔の城の例のアレみたいな感じ?』『似て非なるかな』

説明しよう!2DアクションゲームDEAD・CASLは大手ゲーム会社SSSのある一人の社員が一から全て作った、完全自作ゲームなのである!

会社を使わず、個人で販売した事から知名度こそはないものの、愛好家達には広く知られている2Dアクションゲームなのだ!

城に住み着いた亡者達を、雇われ傭兵の剣士がばったばったとなぎ倒して行くシンプルなストーリーだ!

ゲームコントローラーのみ対応であり、操作こそ簡単だが、ステージ毎のギミック、敵の行動パターンなどが豊富にあり、ステージ毎のボスを倒して行くと攻撃の性能を強化出来るぞ!

全6ステージあって、全てのステージをクリアするとラスボスへの挑戦権が得られる。強化した性能、今まで積み重ねてきた技術で、亡者の主、アンデッドキングを倒せ!

「パソコンゲームをする人でも、詳しくは知らないんじゃないかな?体験版あるから、面白いつて思ったら是非買ってみてね!」

『宣伝部部长なぎぢちゃん』『業界の回し者説』『ほーん、面白そうなら検討するわ』『なぎぢちゃんのおかげで知識が増えていく』『SSS社の公式HPに載ってないの可哀想』『勿体無いよな』『ほーん、H&KってSSS社のゲームなんだ』『まじ?ほんとだ』

「SSS社といえば、さいきんMMORPGのβテストやってたけど、みんなはやった？少し触れてみたけど、王道だったね」

『合わなかったなあ』『公開テストはやるつもり』『VR機器しか無いからやってない』『流行りには乗らないんだ、孤高だからさ』『孤独の間違いだろ』『なぎ民はみんな友だぞ』『おまえは除け友』

「あ、そんなこといつちやダメだよ……？仲良くしようね」

「さーてやるぞやるぞく？2Dアクションは本当に久しぶりにやるから、新鮮だなあ……！」

『ロゴがもう懐かしさを感じる』『なんで2Dアクションって廃れたんだっけ？』『ゲーム性を理解出来て、しっかりした出来のモノを作れる人が居ないから』『そう考えると一人で作るって相当だな』

「そうだよね！こんな面白いモノを一人で作れるんだ……！って感動したの、確かね、えらい人の一人だったらしいんだ、今は会社で働いているのかすらわからないけど、ちよつと話してみたいな」

まあ実際に話すってなったら、とんでもない陰々力を見せて行くと思うけど、しらないひととはなすのこわいです……

「一応全クリしてあるから全ステージ途中から出来るけど、体験版で出来る1ステージを攻略しようかな」

『まじ？』『プレイ時間166時間で草』『やり込みプロゲーマーなぎちゃん』『すげえ』『PCゲーだから実時間だろ？やばいな』『166時間もあれば何が出来る？』『古代遺産の研究が終わる』『全クリを当たり前のようにするな』

「だ、だって面白いんだもん、仕方ないだろ。……ムービー始まるよー」

『かわいい』『だもん好き』『ムービーあるのか』『文字起こしのSEこれ製作者の声加工しただろ』『草』『ゴゴゴ・ゴゴゴゴゴ』『石像動かすな』

「主人公の剣士アルクくんはね、こうやって剣を振ったり投げたり障害物を投げたり敵を投げたり……あれ？よく思えば投げモーション多くない？」

『こうもり背負い投げして草』『王道ゲー……？』『素手で敵倒せるなら

剣いらなくね?』『剣士とは』『なぎちゃんの子ラキラシルバード』『地毛なんやなあ…って』『スタミナ切れるとこけるのか』

「まー余裕ですね、見えない罫ぐらいしかわたしの敵ではありません」
『イキなぎ』『なぎイキ』『なんかえろい』『テンプレ化しようとするな』
『この流れは踏むわ』『銀の檻落ちて行動不能途中にこうもりと蜘蛛と骸骨に襲われるんでしょ』『未来予知成功しそう』

「はーん、そんな簡単にわたしが引つかかると思ってたのか?」16
6時間プレイしてるわたしがそんなこと…あ待って毒ガス踏んだ、
もーう、先進めねえじゃんか」

『草』『草』『調子乗るからやぞ』『毒のシュ…シユワ…て音も製作者の
声じゃん草』『かわいい』『これHP減らして進むしか無いん?』

「剣投げると毒ガス消えるんだよね、これで通れる、隠しギミックの一
つらしいよ?」

『んん?』『なんでだ草』『風圧か?』『風圧だな』『いや理屈通らないが』
『王道とは?』

「お、王道だよ、ストーリーは多分!…あ、必殺技ゲージ溜まった、
なぎ民見とけよ、あの敵の群れに…必殺!」

画面の中のアルクくんは剣を投げ、投げた剣を掴んで一閃!画面が
真っ二つに割れて画面上の全てのエネミーが爆発四散!!

『って爆破するんかい!』『倒され方で草』『カットインの絵かつこい
いな』『爆発音これ拍手じゃね?』『低予算かよ』『これが一人の努力の
結晶ですか』『確かこれボスには効かないんだよね』

「そうそう!ボスには効かないの、それどころかモーシオン中にダ
メージくらって負けるまでが最初のテンプレなんだよなあ」

「ってあぶねえあぶねえ…隠し針穴ギミックってあったなあ、ジャン
プ遅れてたら死んでた」

『チツ』『チツ』『チユ』『チツ』『今キスしたやついるぞ』『どさくさに
紛れて何やってんだ』『これはのけ民、真のなぎ民は下心を見せないか
ら』『そのコメが下心』

なんで舌打ちするんだよー!そんなに私がやられる姿を見たいの
かあ?このこの、わざと負けてやらないよーだ!

何事も真剣なんですつ。

「この隠し扉に入るとね、壁一面に製作者の愚痴が書かれたボーナスステージに入れるんだよ、今回は入らないけどね！配信で晒すのはかわいそう」

『草』『草』『草』『溜まつてたのかな』『じゃあ一つだけ晒すわ、誰も手伝ってくれねえ、俺はSSS社の二次会で幹事やる役回りなのに誰もだ』『なぎ民に晒されてて草』『婚活パーティで18万盗まれた話が一番面白かったな』『かわいそう』『その後60万になって帰ってるんやで』『愚痴見たさに買ってこようかな』

ああ、わたしは自重して何も言わなかったのに……ごめんなさい製作者さん、でもわたしはわるくありません。止めないけど、わるくないです。

「そい！そいそい！そい！おつ！フィニッシュムーブ見れると気分良いやなあ〜！」

『そいそい！』『そいそい！』『何処から剣出してんだ？この剣士』『まるで赤い外套だア』『シャキーン（地声）』『変な所で笑いを誘うな』『1ステージはそれほど難しくなさそうだな』

「うん、実際初見でもボスまではいけると思うよ？誰でも入りやすいようにあえて優しくしてると思う、……トラップは初見殺しの一撃死多いけど」

「お、宝箱だ」

『宝箱にはオーブが7つ入っていて、それぞれ攻撃力UP、防御率UP、魔防率UP、素早さUP、移動力UP、ジャンプ力UP、それらの全てUP、です』

『有能』『有能』『有能もゲーム詳しいのな』『どれぐらい上がるん？』『説明かんしゃー！……劇的に、って程じゃないけど、体感で言えば一回攻撃回数減らしてくれたり、不意の一発を耐えられるかもって感じかなー』

お、ジャンプ力か……まあ外れでもないかな？でも今じゃ無いよなあ。

「こういう、なんていうのかな、昔ながらのゲームは、気楽にやれて良

いなく〜……ゆっくりやれる」

「つてあああああ！油断した！呪い踏んだ！HP半分になった！」

『草』『草』『解　　除　　不　　可』『イキリすぎた結果』『なぎちゃんなんでいつも慢心するん？』『むしろ今までが順調過ぎた』『ボス戦前にこれは痛いですね』『一度死んでリスポーンした方が良くないじゃ？』

「そんなんするかよ、別にHP半分でもね、当たらなければどうという事はない！」

『かつこいい』『かつこかわいい』『それは無理だよ！なぎちゃん！』『最初のボスならワンチャン？』『火力高いから弱い攻撃以外当たると即死やったよな』『セルフ縛りプレイ』『これは魅せプロゲーマー』

「やってやるぞー！」

ボスの部屋に辿り着く、壁付きのろうそくが一つ一つ、ぼうぼうと燃えて、全てのろうそくが点くと、部屋の奥から出るは、蜘蛛の王様、ジャイアントスパイダー。

粘つく糸の行動不能攻撃と、粘着床の移動速度大幅低下さえ気をつければ。

「わたしが負ける相手じゃねえ」

『かつこいい』『自然と口調変わるのすこすこ』『4ステージで止まってるし続きやろうかな』『面白そう、体験版DLするわ』『VR上で出来る？』『電子ボード持つてる？体験版で良いならデータ渡せる』『マジ？助かるわ』

「足場に気を付けないと……正直ジャンプ力上がって良かったー！粘着床余裕で回避できるわ」

『粘着……？ふむ』『えっち』『糸……絡められる……閃いた！』『閃くな』『でも見てみたいでしょ』『そりゃあね』

揃いも揃ってなぎ民はすーぐそう言う……そういう事いうなぎ民はこうだ。

「アルクくんの絡め取られてる姿みんな見たいのか？実は専用絵まであるんだぜ、いいのか？一度わざと負けるか？ほら！今右に進めば見れるよ……っ。」

『許して』『許して』『許して』『ごめんなさい』『いやーキツイっす』『なぎちゃん、ファンアートはつおったー十のDMで送れば良い?』『器用に負けようとするな』

「あ、良いよ良いよ!配信が終わったら見るね?ありがとう!……:そういう事だからさ、そろそろ決着するぞ化け蜘蛛」

障害物を盾に使い、剣を投げる、投げる、糸を吐き出したら別の障害物に移動して剣を投げる、また投げる、投げて投げて投げまくる!

「おらおらおら!卑怯?何それ!勝てば良いんだよオ!」

『草』『草』『見栄えガン無視で草』『負けず嫌い過ぎる』『きつとこれが一番楽です』『振るより威力高いし、そりゃあね?』『どんだんHP削れるな』

「よーしとどめの一撃くれてやらあ!……:やーった!勝ちました!優勝です!」

『かわいい』『かわいい』『うおおおおお?』『難しいのは此処からだからなあ』『勝利は勝利』『購入意欲刺激されたわ』『宣伝配信としてなら最高の出来だったぞ』『ちなみなぎちゃんだから楽々とクリア出来てるだけで、普通に3時間ぐらいかかるからな』

「んー……:思ってたより早く終わったな、じゃあちよつとだけチラ見せ!ステージ2も少しやるよ〜」

『お?』『ありがてえ』『この先初見』『最初から初見』『服可愛いですね』『確かに、かわいい』

「え、あ、ありがと……:」

さ、さて、ステージ1は城に入りたての入り口のような所から打って変わって、2ステージは泥沼エリアだ。

歩く地面や壁に泥が引っ付いていて、触れている間は移動速度が低下する、剣を振るスピードも投げるスピードも減るので注意が必要。

「それに泥の中に敵がいるっての結構あるから、びくつてなるんだよなあ」

『火力も1.8倍ぐらい上がるね』『びくびくなぎちゃん』『かわいい』『かわいい』『マドハントはななまをよんだ!』『仲間呼ぶ敵はステージ3から』『呼ぶのか……:』

「つと、その前に性能強化か、う〜くん、パンチの威力上げるか！アルクくん男らしいなあ〜おい！」

『拳法家アルク』『ボクシングアルク』『格闘家アルク』『剣士とは？』『これ剣士じゃねえだろ』『投げるより殴れ』『パンチで敵を倒すと必殺技ゲージ二倍ぐらい上がりますからね、合理的でしょう』『合理的なパンチとは？』『剣なんて飾りの剣士』

「上がりやすいと思っただらやっぱそうなんだ、よーし、わたしのこぶしをくらいやがれー！」

『ぐーぱんちかわいい』『なぎちゃんのおちっちゃなにぎりおて』『綺麗なお肌してんなあ』『ありがとうございませ〜』『おてて民がまた勝利を刻んでしまうのか……』『うーんかわいい』『あざとかわいい』

「つてにあああ!?!いきなりモンスター部屋じゃねえか……多過ぎて勝てないよ、逃げないと……つて泥多すぎだろお！」

「うおお、泥が、邪魔すぎ……やばいHPが、まだ死ぬには早すぎるだろ！待って、待ちやがれ！うおおおっ間に合った！喰らえ我が奥義！」

『草』『草』『もうHP1割やん』『HP半減消えてないのか』『呪い強いなあ』『落下ダメージでも一歩間違えたら終わりやん』

「ま、まあ行けるところまでい……ごめん無理だ、砂嵐だ」

『持続ダメージか』『部屋から出る前にHPなくなるな』『あっさり死んでいくやん』『死んで覚えるゲーム、やり込むとまあ楽しい』『ステージ2も面白そうやな』

「じゃあ最後にビーストモードにして終わります」

『オオカミ男だー!』『わおーん(地声)』『草』『草』『SEもうフリー素材だろこんなん』『おおかみ女なぎちゃん』『肉食系だけど押しに弱そう』『すっげえわかる』

は、お、押しに弱くなんてない、わたしから押すんだから……

「いや、わからなくて良いので……昇天する時のSEも声取ってるんだよね、味があって面白いよな〜」

『買うわ』『続きやることにした』『なぎちゃん延長しないの?』『俺も買うわ』『体験版自分でやってみる』『延長しないの?』

「今回は延長無し、基本的に1時間前後で終わらせたいからね、長時間過ぎるとアーカイブの画質が落ちちゃうんだ……なぎ民のみんなと楽しんで、名残惜しくなったら、するよ」

「あ、そうだ！この後つおったー十の方で、次の配信は何のジャンルが良いか聞くから、何が良いか送ってくれよな〜？」

『ホラー』『ホラー』『恐怖系』『脱出ホラー』『海外ホラー』『VRホラー』
「ホラーはやらねーって言っただろー……やらない、やらないからな！本当に……こわいんだって……ほんとに……」

「んんっ、そろそろ時間だね……それじゃあ、みんな今日もありがとう、時間は未定だけど明日やるから、良かったらまた見てね」

『おっー』『いやー今回も楽しかったね』『知らないジャンルのゲーム開拓出来て満足』『久々の2Dアクションで興奮したわ、ありがとう』『なぎちゃん最後にお兄ちゃん好きって言うて？』『お姉ちゃん好きでも良いんだよ』『パパってお願い出来ますか』

「もー……じゃあ……一回だけ……なんて、言うと思った？いわないよーだ！ふへへっ、ありがどうね、じゃあね〜〜！」

『かわいい』『かわいい』『かわいい』『ハートブレイク』『射抜かれたわ』『ハート鷲掴みかよ』『好きです』『今日もありがとう』『有能無能、まとも敗北』『なぜなのでしょう』『至極当然』

配信を切る、しばらく経つてもまだ残ってるなぎ民達のコメントを見てにやにやする……ふふっ、今日もありがとう、か。

人に感謝されるような人間じゃないよ、でもうれしい……な。

ん、メール？なんだろう、何か応募したりやり取りはしてない筈なんだけどな。

ってこれは、ソレスタルビーイングさん？

『配信お疲れ様ですなぎちゃん。有能無能です、当社の、と言うより僕の作ったゲームをプレイしてくれて、宣伝してくれて、本当にありがとうございます。』
『ありがとうございます。感謝の極みです。せっかくの自作のゲームが売れる事も、話題に上がる事も無く、良い加減DLサイトを断ち切ろうと思っていました。』
『なぎちゃんの配信で考えが変わりました。SSS社もそろそろ辞めようと思っていました。』
『もう少し続ける事にしま

す。

なぎさん、本当にありがとうございます。

なぎちゃんのパパよ

り』

ソレスタルビーイングさん……………

その言葉は、私が思った以上に、私の心に残った、たった今、わたしは配信で一人の人間のこれからの人生を左右したのだ。

それは良い事なのか悪い事なのか、わたしにはわからない、だけど感謝を貰うという事は……悪くないはずがない。

これからも配信を続けていこう、辛い時がもし来たとしても……すこしぐらいなら、耐えられるかも、しれない。

今のこのメールを思い出せば、不思議とそう思えた。

……………でも、有能無能はわたしのパパじゃないからっ！ぜーったい、言わない！

ろくわめ！

配信を終えた深夜、なんとなく眠れなかったわたしは、とりあえずパソコンを点けてみる。

「配信を始める前までは深夜から朝まで24時間ずっとゲームしてた事もあったな……惰性でやってて、今思えばゲームに失礼なことをしたかも」

ココアでも入れるか、お湯を電気で沸かしている間に、つおったー十を開いて、つてうえわあ……1000人突破した……DMもちよつと、多過ぎて整理出来ないなあ。

ま、まあ全部見るけど……つておい！DMにまで告白してくんなよお！もう……嬉しいけどさ。

ファンアートだ〜！きれ〜！……わたしかわいい、別段絵が描けるわけじゃないし、憧れるなあこういうの、かわいいわたしをありがとうございます。綺麗ですね……つと。

出来たココアをふーふーと息を吹く、わたしは猫舌ではなかったはずだが、舌が敏感になったのか熱い飲み物は少しぬるくしないと飲みにくくなったみたいで。

舌だけじゃなく、耳も少し良くなったように思える、完全防音された部屋の外の音が聞こえる訳ではないが、反応速度が上がったのかなんというか……

身体的スペックが全体的に上昇したのか？

「今ならバク転も出来そう……いや、流石に無理かな、でもなんでだろう、全能感つてものは無いけど、出来て当然の事が増えてきたようなら……」

小さい鏡を取り出して、わたしを見つめてみる、黄金色のおめめに銀色のシルバードロンド、最近は整え方がわかってきたから、心なしかふわふわしているように見える。

「久々にFPSでもやろっかな」

パソコンの前に移動して、なんのFPSをやるかなとジャンル分けしたファイルの中からどのゲームをやるか探す。

ん……丁度良いのがあった、少し廃れ気味だけど、やる人はいるぐ
らいのゲーム、大体これぐらいの頃になったゲームはそんなに民度が
低くないと、わたし的には思ってたなり。

……アカウントのパスワードなんだっけ？

あ、やば、これ思い出せない奴だ、わたしのプレイ時間が……ま、ま
あ切り替えて行け？アカウント作成から始めよう。うん。

配信でやるかもしれないし？今のうちになぎちゃんで作成するの
は先を見越したわたしの、ずのうぶれいなのだ！

「初期武器そこそこ強かったし、うん……これはハンデ、縛りプレイ。
そういう事にしよう」

アカウント作成が終了する。

さつそく5対5で戦い、AとB、攻め側は両方何方かに爆弾を置いて、
守り側は置かれるのを阻止するシンプルなモードを選択。

「どれぐらい腕落ちたかなー、暫く振りだから感覚掴まないと、配信の
事も考えると今のうちに勘取り戻さないとね」

ちなみにこのゲームはSSS社が作ったゲームじゃない、SSS社
はFPS系を取り扱ってなかったりする、ガンアクションゲームを作
る癖して、一人称視点のガンゲーは作ってないのだ、少なくともゲー
ムジャンル上は。

では今プレイしているFPS、一時期流行って、有名配信者の人達
が「VRで実銃持った方がリアリティは追求できるよな」の一言で廃
れたゲーム、Standard・Onlineはというところ。

SSS社の次に有名なゲーム企業、ととーる社のゲームだ。元は
ギャルゲーとか恋愛ゲームとか作ってた会社だけど、途中から方針を
変えたんだっけかな。

実際、パソコンのゲームは多いようで、作る会社が少ないので、偏つ
たりする事がある。中にはVR大手企業発のゲームで、パソコンと連
動しているみらくるカートなんかのようなゲームもあるが。

初回配信でやったゲーム、OverCoreFARewrite
ー7のようなロボゲーは、SSS社でもとーる社でもなかったりする
んだけどね。

「んー？個チャキてる、え、なんでわたしに……？この人、ミクちゃん？へー……このゲームもやってたんだ」

えーと何々？良かったら一緒にプレイしませんか、かあ。ていうか確かになぎちゃんって名前だけど、良く成りすまして疑われないな、本物ですか？ぐらいいは聞くかと思っただけど。

配信では同じゲームで二回も一緒にプレイした仲だし、配信外だから一緒にプレイしないなんてことはない。別にボイスチャットをするわけでもなし。

せっかく誘ってもらったんだし、わたしとしてもうれしい。

「良いですよ、と……フレンド認証しよ。ふふっ……初めてのフレンド貰われちゃった、まあミクちゃんなら良いかな」

ああ、そういえばこんな風に親友以外で一緒にゲームをしていた友達が一人いたなあ。

あれは誰だったかな、今も元気にしてるかな、存外近いところでゲームしてたりするのかな？

あの子は生粋の引きこもりゲーマーだったから、今のわたしとそう変わらない生活を送ってたりするかもしれないなあ……違うのは自分で収入を得ている所か。

配信を始めてから一週間と少しぐらい、投げ銭機能が解禁されるまで後二週間ぐらいの日がある。お金を貰えるような配信をしているつもりはないけど……稼げるようには、なりたくないな。

少し俗っぽくて、卑しい考えかな。また少し自分が嫌いになる。

「……違う、最終的な目標はなぎ民からお金をもらう事じゃないでしょ、広告とかを付けて、企業さんからゲーム関係のお仕事を貰えるようになる事だろ」

その為には頑張らないと、こうやって一緒にプレイしてくれる人の為にも。

深夜はまだ少しだけ続く、ミクちゃんと一緒にやるFPSは、何処か懐かしさがこみあがって。

ココアの味が少しだけ、いつもより違った気がした。

☆

さーて！今日も張り切っていかうか〜！

つとと、張り切りすぎるのもいけない、適度に、そしてわたしらしくやろう。

つおったー十での集計の結果、今回やるジャンルは協力型アクション、家庭用ゲームからパソコンへ、パソコンからVRへと土壌が動いた今。

その名を知らない者は居ない、アクション界の王道、ハンティングアクションの産みの親をプレイする事になった。

狩猟ゲーとも呼ばれる今回のゲームは、予め参加する人は全員が同じデータ、つまり初めからを選択してとお願いしてある。わたしも新鮮な気持ちで初めからするつもりだ。

配信準備は整った、後は配信開始をクリックするだけ。

「にやろはー！……なぎちゃんだよ、今日もたのしもうね」

『にやろはー！』『はおー！』『始めました今日のなぎちゃん』『かわいい』『かわいい』『生初めてだ』『うおおおおお！』

「生放送初めてのなぎ民もいるの？来てくれてありがとう、楽しんでくれるとうれしいな」

「さて、今回はつおったー十での集計の結果、みんな知ってる例のゲームをするよー！実際やったことないって人でも、名前ぐらいは聞いたことはあるんじゃないかな」

『この道は避けては通れない』『沼の始まり』『やっぱこれだね』『このゲーム以外した事ない』『実はやったことないです…（ボソツ）』『パソコン版はやったことないなー』

「勿体ぶってないで早速始めるか！狩りの始まりだ！うおおおおおお！」

『うおおおおお！』『うおおおおお！』『一体何が始まるんです？』『知らないのか、一方的な狩りごっこだ』『楽しみだね』『この日の為にパソコン買った』『行動が早い』

説明しよう！このゲームは古今東西、100年以上の歴史のある

ゲームの一つ！狩りゲーを世に知らしめた。その名も「ブレデターハンター」

幾千種類もある膨大なプレデターの数々！強大なクマ、凶悪なミュータント！破壊の化身、ドラゴン！それらを倒すは我らがプレイヤー！

今回はストーリーをするつもりはないのでその説明は不要だろう、最大四人プレイまで可能のこのゲーム、まだ始まって間もないのに視聴者数800人前後がデフォになって来た今となっては、溢れる人も居るだろう。

だけど、なぎ民同士でゲームを通して交流が出来る、わたしも、わたしと一緒に狩りをする三人以外も、たのしんでくれるはずだ。

「先着順だからね、わたしと一緒にやれなくても、他のなぎ民と、なぎ民同士で狩りに行く事もできるから、仲良くやろうね！」

『なぎちゃんまじ天使』『なぎちゃんの隣は貫きます』『俺の俊足についてこれるかな』『オタク特有のクリック速度に勝てるだけでも？』『仲間外れは…寂しいもんな』『実は初めてなんだ、教えてくれ』『いいよ』『いいよ』『なぎ民、優しい』

「にやーし、サーバーたてるよ、なぎ民あつまれあつまれ」

『あつまうー』『あるまるー』『あつまるおー』『なんだこいつら』『なぎちゃんの真似すんな』『所で今日もおぱんつは白？』『ドロワでしょ』『業が深い』

「わたしは薙刀か長弓に迷ったけど、薙刀にしようと思うよん、スタイリッシュなわたしを魅せていくにやー」

『かわいい』『かわいい』『かわいい』『おくちわるわる回確定』『スタイリッシュなぎちゃん』『長弓は地味強だからなあ、配信映えはね』『なぎちゃんだから”薙”刀ってか』『は？』『は？』『有罪』

……すこし上手いって思っちゃた、声に出さなくてよかった。

「よーし、さっそく人が集まりました…エリックさんとおにいちゃんさん……あーあー！謀られた！最後の一人は……ミクちゃん、いつも来てくれるね、ありがとう」

『エリーーーックー』『お兄ちゃん、有能』『ありがとう』『あ、無能だ』

『ありがとう』『有能一人しかないじゃん』『なぎ民多くね?』『パソコン勢思ったより多いなあ』『よろしくお願いします』『俺の所になぎパパって名前の来たんだけど』『有能無能、無能!』

エリックさんはハンマーでおにいちやんさんはボウガン、ミクちゃんはくく、二槍ランスかあ、上級者なのかな?FPSも上手かったしゲーム上手なんだろうなあ。

「三人ともよろしくね、さっそくだけどクエストいくよー!最初の討伐クエストはあしら丸、今の装備でも充分倒せると思うし、がんばっていこう」

『あしら丸かあ』『全長3.5m!白い毛玉に覆われた一角うさぎのような外見をしているが、恐るべきはその繁殖性!仲間を呼ばれたら余裕で死ねる!』『説明乙』『有能』『初期装備でギギネブたそ倒してくるわ』『無謀、乙!』『逝つてらー』

「とりあえず二回狩りに行ったら、今のパーティーを解散させて別のなぎ民ともやろうと思ってるから、安心してね……?」

『この子が天使か』『やったー!』『うれしい』『今日はハーフパンツなんだね……ペロ』『ちらももふとペロ』『これがご褒美ですか』『最高だな』『上がって来た、ナニが』『ペロペロ』『段々と姿晒してきて好きだよ』『RECしたお』『有能』

「なっ!あ、この……!つ、次からは着ない!さいてい!さいてい!もう……」

『ご褒美』『かわいい』『ありがとう』『ありがとうございます』『のしりなぎちやん』『好き好き!』『ありがとうごさいます』『REC完了』『新素材』『致せる』

「三人とも準備できた?行くよー」

ステージは森林、森林地帯はエリア8つと狭いけれど、すこし複雑な構造になっていて、エリア1からエリア6に行けたりする。

大きなミスや故意的な邪魔をされたりしたら、ボスのいるところまで一人で行く事になったりすることもありたり。

まあそんなことしないよね……しないよね?するなよまじで。

「協力プレイだと敵の性能が三倍になるんだよね、だから協力しな

いと普通に勝てないから、がんばってよくマジで、特にエリックさん、おまえだぞ」

『草』『草』『本当は有能って信じてるから』『背負ってんぞエリック』『名指し草』『がんばれ』

「ミクちゃんずつとわたしに付いてきて和むんじやく、エリアに蔓延る雑魚エイリアンはおねえさんにまかせなさいー!」

『デートか?』『ゆりゆりデートか?』『今のなぎちゃんはおっさんだぞ』『おっさんなのか美少女プログラマーなのかはつきりしろ』『寧ろおっさん二人の可能性が微レ存』『この世の地獄』

ミクちゃんはおんなのこだぞ! 少なくともわたしは絶対にそう信じているから!

「おにいちゃんがあしら丸見つけてる……わたしのおにいちゃんなら一人で余裕だよな? わたしの助けはいらないよね? エリックさんと二人なら問題ないよね、わたしはミクちゃんと森林デートするから、よろしー?」

『草』『助けて』『即落ちエリック』『2コマで死ぬ男』『なぎ民が濃すぎる』『報復されて草』『すみません…すみません』『わりと奮闘して草』

いい気味だぜ、まあ仲間呼ばれて討伐増えるのも面倒だし、しかたないなあ手伝いに行つてあげよう。

森林をかき分けてエリアを移動する、森の中にボウガンの音が木霊する、その音を頼りに向かつていくと、そこには一人のハンターが全長3.5mの毛玉と戦っていた。

赤い瞳は捕食者特有の鋭い眼つきを持っていて、その分厚い毛玉に押し潰され容易に埋もれ死ぬ事が想像出来るだろう、しようじきこのゲームのVRとか、パソコン版よりむしろかしいんじゃないかな?

補助機能とかで大分やりやすくなるんだろうけど、実際どうなんだろう。

いつかはわたしも、VRでなぎ民と一緒にやる日が来たりするのかな。

「つてもうすでに仲間呼んでんじゃんか? おーいつ……まあ一匹増え

「ようが脅威じゃないですし？」

『イキリ』『これはイキなぎ』『かわいい』『ボウガンの立ち回りええなあ』『おにいちゃん、まさかの有能！』『お兄様、なぎちゃんを僕に下さい』『ダメです』『ぼくのだぞ！』『認めません。わいの娘やぞ』『私の娘ですよ』『こん無能、放置しないで回復してくれ』『仕方ないですぬ』

薙刀は一撃の力が重いパワー型だ、それでいて機動力もあって初心者から熟練者まで気軽に楽しめる、欠点と言えば攻撃モーション中に回避ができない事だろうか、緊急時に他の動きが出来ないのは、わりかしきびしい。

「っおらー！たおれろっ！……っって危な、おにいちゃんのボウガンで吹っ飛んでなかったら攻撃食らってたー」

回転しながら薙刀を振り回す、乱舞からのバックステップであしら丸の俊敏なひっかかり攻撃を華麗に避ける、わたしがヘイトを稼いでいるうちに、ミクちゃんが後ろから突撃とつげきひたすら突撃！二銃ランス特有の攻撃しかかんがえてないモーションすき。

「うおお……爽快だなあ、ところでエリックさんは？……あ、もう一匹と戦ってる、がんばれがんばれ」

『録音成功した』『エリック、ありがとう』『エリックが無能で助かった』『やっぱゲーム上手いよなあ』『ミクちゃんの二銃ランスの動きエグいが』『なぎちゃんをつつよ薙刀』『よう連携出来てんな』『一人だけHP赤なの草』

「っこれで……よし、やったやった！あと一匹だよ……仲間呼ばれる前に倒せそうだね」

おにいちゃんのボウガンの放つ大砲があしら丸を大きく仰け反らせ、その間にエリックさんが宙を飛び頭のとっぺんを大きなフルスイングで強烈な一撃を浴びせる。

地面に叩き落とされた所をわたしとミクちゃんで連携を組みながらひたすらに攻撃していき、そして。

「っやっくたー！倒したぞー！お疲れ……いやあ、三人とも上手いなあ、一人でやってたより大分早く終わったよ、あ、素材剥ぎ取らないとね」

『うおおおおおおお！』『おめ』『おめ』『流石に早いな』『ゲームうまうま』『VR版とどっちが良い？』『流石にVR版かな』『どっちも楽しいぞ』『臨場感の差がね…』

討伐終了のカウントタイムが0になり、リザルト画面が流れ、集会所に戻る、さーて次は何のクエストをやろうかな〜、少しきびしいけど大猪とかありだなあ。

「つて、ミクちゃん？何々？わたしたちならリオドラゴンいける？ま、まぢ……………」

『お』『あつ…………』『これはプロゲーマーの見せ所』『やつぱ強敵倒してこそでしょ』『ナイス提案ミクちゃん有能』『リオドラゴン！空の戦士と言われる下級ドラゴンだが、空からブレスを吐いたり縦横無尽な攻撃をしてきたりと、別名初心者殺しとして有名である！』『説明乙』『この流れさつきも見たぞ』

ま、まじでいつてるのか…？いやいや、初期装備だし、うう…………でも確かに三人とも上手いしカバーし合えばなんとか…？いやエリックさんには荷が重すぎるかもしれないけど。

「ぬ、にや…………じゃーやってやろう！強大な敵を倒してこそその狩人ですから？わたしたちで偉業を成し遂げるよ！三人とも良いな？やるぞ！」

『かつこいい』『登録者2000人おめでどう…(ぼそつ)』『これはプロゲーマー』『視聴1500人いったぞ』『初見』『おめでどう、なぎちゃん』『どんだん有名になってきておじさん嬉しい』『おじいちゃん面するな』

つてうえあ？1500人突破？せせせせんごひやく？や、やばい…………緊張してきた…顔があつい…………うう。

「あ、ありがとう…………い、今から見てくれてるってなき民も、楽しんで…………い、いくでございますですよ…………?!」

リオドラゴンの生息地はさつきと変わらず森林フィールドだ、ただ2エリア程増えているので、その分さつきより索敵の時間が増えるかな。

「つて早速エリック奈落に落ちてんじゃねえか〜！本当にわたした

ちで倒せるのか……あ、やられてる」

出オチみたいなのやられ方が多すぎないか？……この人やっぱりゲーム下手なのでは？

「おにいちゃんが助けに行ってる……ん、どうしたのミクちゃん、その下にいたりする？」

『索敵うまい』『有能』『有能』『ミクちゃんプロゲーマー説』『熟知してねえとこんな早く探せねえぞ』『とことこついてくなぎちゃんかわいい』『奈落…蹴落とし…パッチ…う、頭が』『やめろ』『ほら、金が必要だったから…』

「うおー、寝てるじゃん、二人呼んで先制攻撃出来るよ、ナイスミクちゃ………ん？なんだそのエモート、てかちよつと近いよ？近すぎるとよ？な、なにさ……そ、そんなに近づかないでよ……あう」

ドン、そんな小さな衝撃音とともに、わたしの体が宙に浮く。

つて、え？

「うにゆにゃあああ！なな、な!?蹴落としやがったこいつ！おい！ばかなにやっつてんだ！頑張れじゃねえんだよ！あああ起きちゃったじゃんかあ?!」

『草』『草』『やっぱ腹黒だろ』『コントか何かですか?』『落ちる女、なぎちゃん』『協力プレイで良くやられる奴』『めっちゃ動揺してて草』『リトラスで見た』『相性良いなあこの二人』『生で見れて大変満足です』

「ほえ〜無理無理、勝てないから勝てないからあ！さつき言ったよね敵の性能三倍になるって！上で見てないで助けてよ！つてうおおい何座ってんだ高みの見物ってか?!ひえっブレス掠ったあ！」

「ほんとやばい負けたくないけど負けるって………おい！エリック?!どこだエリック！死んでないで早くきてくれ！わたしをたすけて！なうああ……エリックはやくー！」

『笑いが止まらない』『これが新手の腹筋を割る方法ですか』『エリック……』『名前でも呼んでもらいてえなあエリックうらやま』『ご乱心なぎちゃん』『すげえ避けてる』『神回しか作れないなぎちゃん』

やばいつてえ……薙刀使いは残機ないんだよお……つああ、黄色まで

HPが…負ける負ける、本当に負けてしまう。

「や……やだ、負けたくない、勝ちたい……お、おにいちちゃん！わたしのおにいちちゃんなんですよ?! たすけて！おにいちちゃんたすけて！早くきて！来い！来いよオ！エリックは見捨てて良いからわたしを助けろオ！」

『草』『かわいい』『おくちわるわるなぎちゃん』『おめぐるぐるなぎちゃん』『なぎちゃんのおにいちちゃんなら隣で寝てるよ』『ミクちゃん、渾身の高笑いエモート』『あ、HP赤になった』『くしよぎこなぎちゃん』『誰も助けに行かないのかわいそうかわいい』『かわいいそうかわいい』

「あ……回復弾、おにいちちゃん？来てくれたんだね？おにいちちゃん！あ……危なかったよお……行けっ、やっちやえおにいちちゃん、倒しちゃえ！わたしのおにいちちゃんなら出来るよ！二人で倒そう！」

『エリック、戦闘不能！』『あいつ残機3もあったのに……』『公認おにいちちゃん』『ご馳走様です』『さも助けに来たかのように降りてくるミクちゃんさん』『なぎ民のキャラが強過ぎる』『なんだ、今日も神回か』『やべ、ミス出来ねえ、普通にドラゴン強え、でも三人なら……つてあー！おにいちちゃん食べられた……おにいちちゃん？捕食され……つかえねえなあ！おにいちちゃんなんかじゃない！偽兄だよお！』

『草』『草』『おにいちちゃんかわいそう』『流石に同情した』『すまない妹よ……』『あ、偽兄だ』『奮闘した方だけだな』『まあ流石に無謀過ぎたか』『二人で勝てるか？』

くっそ……わたしとミクちゃん二人で勝てるのか？全然体力減つてないよな……いや！わたしたちなら、二人ならきつと！

「つてああ……ミクちゃん飛ばされた……星になった……終わった。むりだよお……一人じゃむりい……誰かたすけて」

『わぎと死んだな』『わぎと死んだね』『なぎ民は芸人の集まりなのか？』『なぎ民芸能』『ありそうで草』『ひとりじゃむりなぎちゃんかわいい』『かわいい』『あ、食べられた』『捕食END』『滋賀県みたいだあ……』『なんでや！この前一斉駆除したやろ！』

「もお……ふふ、でもたのしいいっか……仲良くやれたならそれで

……って認められないよ！リベンジだ！ごめん、もっかいやらせて！
ぜってー勝つ……本気出せよミクちゃん！偽おにいちゃん！」

『エリック……』『忘れ去られたエリック』『認知されないエリック』『可
哀想、でも妥当』『最初から三人でした』『エリック、とは』『楽しそう
で安心した、なぎちゃん頑張れ』

あれ、このコメント……

いま、見てくれる？は、恥ずかしいな……ああでも、嬉しいな。
って、見られてんのか……？わたしのふとももを……？ご、誤魔化せる
か?!いや、んん……?!いけ、いけるか、無理か、なんとか……やばい
どうしよう、うううう……考えるのやーめた！

「っしやー！やるぞなぎ民〜!!」

『うおおおおおおお！』『エリック本気出してて草』『それでも弱くて
草』『この流れ……延長しますね』『だとしたら何気に初？』『ギギネブた
ぞ倒してきたわ』『は？初期武器で？』『狩人さんじゃん』『狩人さん、
エリックと交換しません？』『草』

人が増えるだけ、わたしのプレッシャーは増える、だけれど、だか
らここかもしれないけど……わたしを知ってくれる人が増えるのは。

なんだか言葉に出来ないけど、うれしいんだ。

「うおらー！おらおらー！修羅と化したわたしと三人のなぎ民になあ！勝
てると思ってるのかあトカゲ野郎！落ちろ……落ちろお！」

『まるで虐殺』『最初からこうしろ』『それだどくしよぎこなぎちゃん
みれないだろ』『くそちゆよなぎちゃん』『あ、エリック落ちた』『PC
版も良さそうやな』『いまから始めても人いる？』『手伝っても良いよ』
「つやくつ、たー！勝った！勝った！優勝した！優勝したよ！優勝
した！リベンジ成功だよお……三人ともありがとう、なんだかんだ
1時間になりそうだから、1時間延長するよ、まだまだたのしもうね
！」

ああでもなんだか、やっぱりこの懐かしい感じ。わたしは何処かで
知っている、体験している。

………今は配信中だから、この疑問は心の内に留めるとして。

「さーて、次はどんな人が来るかな……？あ、せつかくだし長弓に武器

変えよう、ちよつとまってね……よし、準備完了なり、じやあ募
集するよー?」

この配^祭信を精一杯楽しもう。

838 : 名無しのなぎ民 19 : 55 : 53
ほちよに好き、何回も達した

839 : 名無しのなぎ民 19 : 57 : 21

俺のなぎちゃんをそういう目で見ると…ふう

840 : 名無しのなぎ民 19 : 57 : 43

結局美少女だったな

841 名無しのなぎ民 19 : 58 : 02

まだ顔出ししてないし早計だぞ

842 : 名無しのなぎ民 19 : 58 : 38

顔出しも時間の問題だと思うわ、楽しみ

843 : 名無しのなぎ民 19 : 59 : 02

顔出し配信が先か企業から案件来るのが先か

844 : 名無しのなぎ民 19 : 59 : 47

待っててなぎちゃん、パパが頑張って案件貰えるようにするから

ね。

845 : 名無しのなぎ民 20 : 00 : 20

有能無能か？

846 : 名無しのなぎ民 20 : 01 : 42

わいの娘やぞ

847 : 名無しのなぎ民 20 : 02 : 08

お父様、なぎちゃんを僕に下さい

848 : 名無しのなぎ民 20 : 03 : 52

お兄ちゃんが許しません

849 : 名無しのなぎ民 20 : 05 : 01

所で田中は愛知県の調査書書いたか？終わったら次神奈川な

850 : 名無しのなぎ民 20 : 06 : 21

なぎ民の闇、でも妥当

851 : 名無しのなぎ民 20 : 06 : 57

神奈川って言ったたら、赤城財閥が最近なんか快挙果たしてたな

852 : 名無しのなぎ民 20 : 07 : 42

スレ違やぞ、んまあアレは驚いたが、普通に生きてる俺にはピンと

こない話だったなあ

853 : 田中 20 : 08 : 12

田中です：終わりました：神奈川行きます：その前になぎちゃん
のアーカイブ見ます：

854 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 23

哀れ田中は置いといて、なぎちゃんの服装の話しようぜ、僕はやつ
ぱハーフパンツかな、ペロペロ

855 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 25

ふとももペロペロ

856 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 27

ペロペロふともも

857 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 29

ふとペロももペロ

858 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 31

ほんとすこすこ

859 : 名無しのなぎ民 20 : 09 : 53

【速報】なぎ民、気持ち悪い

860 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 03

こいつら全員のけ民、なぎちゃんといえちつちやなおててだろ

861 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 06

マウスを持つちつちやなおてて

862 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 09

サムズアップするちつちやなおてて

863 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 13

あの手を繋ぎたい

864 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 17

くすぐりたい

865 : 名無しのなぎ民 20 : 11 : 47

なぎ民は変態集団の溜まり場だった…？

866 : 名無しのなぎ民 20 : 13 : 14

のけ民と一緒にすんな、なぎちゃんといえばテンション低い時のぼ

そばそ声だろ

867：名無しのなぎ民 20：14：06

多分あつちが素だよね

868：名無しのなぎ民 20：15：23

まあ多分ひきこもりゲーマーだろうからなあ……配信外でゲームやってるの割とあるし

869：名無しのなぎ民 20：15：49

誰に養ってもらっているのか気になる所、いいところのお嬢様って割といい所突いてるんじゃないか？

870：名無しのなぎ民 20：16：04

んー、これは憶測に過ぎないが、親族からのバックアップでは無い。なぎちゃんが私財を動かしてる訳じゃないのは話の内容でわかる、だから友人とかじゃ無いかと、顔はわからんが、ほど良いスタイルで肌綺麗で白くて、えちえちふとももで話も上手いしくちよかわいいなら年収そこそこの友人なら養えると思うぞ

871：名無しのなぎ民 20：16：43

これは千里眼なぎ民、でもその辺にしとけよ

872：名無しのなぎ民 20：17：10

つまりなぎちゃんのパパになるには年収多く無いとダメと？

873：名無しのなぎ民 20：17：32

私の年収は1200万ある、問題ないな

873：名無しのなぎ民 20：17：39

は？調子のんな、俺の年収は700万だぞ

874：名無しのなぎ民 20：18：21

負けてんじゃねえか草

875：名無しのなぎ民 20：19：42

年収80万です助けて下さい

876：名無しのなぎ民 20：20：21

食うだけで精一杯かよ、仕方ねえなあデータ輸送会社紹介するからそこで働け

877：名無しのなぎ民 20：21：03

まじですか？命の恩人かよ…

878：名無しのなぎ民 20：22：21

なぎちゃんを通じて、一人の人間が命を救われた瞬間である

879：名無しのなぎ民 20：23：01

ハローワークと化したなぎ民スレ

880：名無しのなぎ民 20：23：52

ってあんたこの輸送会社、市立うーちやる教団じゃねえか！何者だ!?

881：なぎちゃんのお兄ちゃん 20：24：02

何、なぎちゃんのお兄ちゃんさ……………

882：名無しのなぎ民 20：24：42

草

883：名無しのなぎ民 20：24：45

草

884：名無しのなぎ民 20：24：58

なぎ民、有能多い説

885：名無しのなぎ民 20：25：28

エリックぐらいいしか無能おらへんやん……

886：名無しのなぎ民 20：26：07

田中も無能だぞ、ついでに俺も。

887：名無しのなぎ民 20：28：53

>>885

次のスレ立て君やで、ほなよろしく

888：名無しのなぎ民 20：29：21

はいりよーかい。なぎちゃんの声でASMRか台詞リクエスト配信してほしいなあ

889：名無しのなぎ民 20：31：04

3000人突破記念に台詞配信やるって聞いたよ、今募集してる最中だしリプして来なよ

890：名無しのなぎ民 20：32：31

へんたい！へんたい！おにいちやんなんて最低！へんたい！つて

送った、呼んで欲しいなあ……

891：なぎちゃんの兄 20：33：32

なぎ民、有能。多分その日いないからRECよろ

892：名無しのなぎ民 20：33：42

アーカイブは残るのに何に使うんですかねえ……

893：名無しのなぎ民 20：34：44

あっそうだ、なぎちゃんのMAD動画出来てたよ、癖になるから聞きに行け

894：名無しのなぎ民 20：36：03

報告あり、早速見に行ってくるわ

895：名無しのなぎ民 20：37：13

MAD聞いてて思ったけどまだお歌配信ないな

896：名無しのなぎ民 20：38：07

台詞リク終わったら30分延長して歌うって、おまえらつおったー
+ちちゃんに見ろ

897：名無しのなぎ民 20：40：21

つおったー+入れてねえ……アカ作るか

898：名無しのなぎ民 20：41：01

てかちよつと待って？>>868 さあ、その言い方だとなぎちゃん
と一緒に配信外でゲームしたってことか？

899：名無しのなぎ民 20：41：07

は？

900：名無しのなぎ民 20：41：10

は？

901：名無しのなぎ民 20：41：14

屋上

902：名無しのなぎ民 20：41：17

これは許されない

903：名無しのなぎ民 20：41：35

すまんなお前ら！なぎちゃんとミクちゃんと一緒にゲームやりながら食う飯は美味かったわ！がはは！

904：名無しのなぎ民 20：41：55

住民ID控えたからなお前……覚悟しろよ……米印の牛乳直通で送ってやるからなお前……

905：名無しのなぎ民 20：43：02

わいもダメ元で誘ってみたらOK貰って一緒にアクションゲータし、ままええわ

906：名無しのなぎ民 20：43：17

905。有罪！

907：田中 20：43：37

実は僕も一緒にゲームして貰えました、楽しかったです。

908：名無しのなぎ民 20：43：49

田中お前まじで許さねえ

909：名無しのなぎ民 20：44：08

黒曜石の剣取り出して来た、VRフィールドなんて生ぬるい、滋賀県で会おう

910：名無しのなぎ民 20：44：24

レールガンは好きか？ATシールドの準備は？化学兵器にがたがた震える準備はOK？

911：名無しのなぎ民 20：44：39

まーた滋賀県が戦場になるのか……じゃあ、忍びの末裔の俺も行くからさ！覚悟しろよく？

912：名無しのなぎ民 20：45：02

血の気が多すぎる……これがなぎ民？

913：名無しのなぎ民 20：45：37

ゲームしてる時のなぎちゃんもおくちわるるだし、類民でしょ

914：田中 20：47：31

田中です……まだ死にたくないなので本気で抵抗します……行ってきます……

915：名無しのなぎ民 20：47：57

草。滋賀県の中継カメラ久々に動かすか

916：名無しのなぎ民 20：48：02

田中、死す！

917：名無しのなぎ民 20：50：11

なぎ民は今日も平和です。

その日、久しぶりにつおつたー十で滋賀県がトレンド一位に乗った。

そう、なぎちゃんのつおつたー十の登録者が3000人を突破した日と同じなのであった。

ななわめ！

プレデターハンターの配信から早くも一週間と3日ぐらい経って、その間わたしはなぎ民とみんなと配信で交流した。

一昨日はチャンネル登録者も3000人を超えて、昨日はつおつたー十のフォロワーも3000人を超えて、油断すると気絶しちゃうんじゃないかってぐらいだ。

でも、なんだろうな、少なくとも始めた時よりはメンタルが鍛えられた気がする、一步一步つってわけじゃないけど、わたしは配信を通して人として成長を実感できているようになってきている。

……まあ、相変わらず外には出れないし、VRフィールドにも顔を出す事はないけれど。

親友にはまだ、わたしの体の事は言えていない、流石にそろそろ誤魔化しの利かない所まできているのはわかってる。如何にかしないといけない事についてもだ。

……実を言えば、多分。司は、受け入れてくれる。

だけど、だからって、言えるか言えないかの話にはならない、だって怖い、万が一何か、拒絶されたら？距離を置かれたら？それが最後の会話になったら？

わたしは自分自身を信頼出来ていないんだ。だから、言えない。そんな恐怖にやられて、何も言い出せない。

「……ほんと、最低」

配信している時は、たのしい。なんでかは具体的には言えないけど……全てが忘れられるようで、気楽に、わたしを引き出せる。

でも、一人の時は、こんなにも心細いんだ。

「……この記事、親友の……？」

【赤城財閥、盗まれたパアルツヴァルシユ号の設計図を発見する】

今年某月、南アジアにて世界的問題、日本の技術革命の始まりであったパアルツヴァルシユ号、設計図の一部を発見したそうだ。

各世界に散らばった部品とオーパーツの数々、それらの大半は日本に返上されたものの、今回の例の様に某国で制作、核に匹敵する何か

を作り出そうという憶測が広まっている。

焦土兵器の所持以来、日本は他国と三步上の次元へと向かったと言われた、その溝を埋めるのはまだ、時間がかかるのかもしれない。

別の話になるが、昨日の滋賀県で唐突に始まった市民同士での戦闘行為はこれらとなんら一切関わりはない。

幸いにも死者は出ず、戦闘解放区域とはいえ、滋賀県を掃除する私達の身になって欲しいと心から思う。

市立ぶあーちやる教団、清掃部より。

赤城財閥、100年前に地球に降り立ったパールツヴァルシユ号の船員の一人、赤城名人の御子孫達…らしい。その革命的な技術力、VRワールドの生みの親として有名だ。

親友はこの財閥の運営している企業で働いている…：本来はわたしも、居たのかな。どうなんだろう。

仕事の上司…：か。

もしかして、管理人さんつてこの財閥家の人なのかな、だとしたらこのマンションを所有する財力はあるだろうし…：まあ、なんでこのマンションなのかは、わからないけど。

てか最後のこの文章なんだろう…：なんか、他人事のように思えないんだけど、何故なんだ、今すぐ謝りたくなってきた。

「…：危ない橋、渡ってるのかなあ」

親友の事だから大丈夫だろうけど、心配になるな、会いに行きたいけど…：会えない、こんなんじゃないやあだめなのに、後一步が踏み出せない。

「…：メールきてる」

ソレスタルビーイングさんからだ、ていうか何でメールなんだろう？ 確かにつおったー十ではこの人らしい人は見てないけど、なんだか不思議。

それに私のメールアドレスは…：ああいや、そっか。SSS社とは過去に少しだけ関わりがあったんだった。

『なぎちゃん、君のパパだよ。』

さて、本日は少し真面目な話をさせて頂きたいと思えます、DEAD・CASLの放送以降何か私になぎちゃんの力になれるかと思案し、権力を存分に使った所、新作ゲームのデモプレイのプレイヤーにと、OKを貰えたので実演をお願いしたいと思うのですが。如何でしようか？

なぎちゃんは見た所対人に難ありのくそわメンタルですから、本社に来て貰わなくても構いません、こちらで新作ゲームのデータを送りますので、明日の配信にやって頂けると嬉しい限りです。

なぎちゃん、どうか、パパ頑張ったけど、やってくれるかな』

……いやいや。まず整理をさせてほしい。

確かにDEAD・CASLを一人で作ったお偉いさんなのは、わかってたし、そこそこの立場の人なんだなく、もしかしたら何か案件貰えたりするのかな？って思ってたけどさ。

新作の!?デモプレイ!?配信で……!?

VRゲームみたいだけど……いやいや、そこじゃない！突っ込み所はそこじゃないよ！

ってパパじゃないよ！いい加減諦めてよ、毎回毎回懲りないなあ全く。

「……受けない理由はないけど、ないけどお……実際にこうなってみるとしゅごいこわい……え、わたしでいいの？デモプレイって事はSS社の人たちが観にくるよね……うわあ、下手なこと言えないじゃんかあ……ああやば、今緊張してきた。な、なんて返せば……」

ええつと……ええつと……?」

と、取り敢えず……ありがとうございます。先ずあなたはわたしのパパじゃないです。本当に嬉しいのですが、わたしなんかで宜しいのでしょうか？つと……これでいいかな。

わ、直ぐに返事返ってきた。

『反抗期かな？パパは悲しい。』

もちろんです。他でもないなぎちゃんだからこそ、やって欲しいんです。如何ですか？』

……そう言われると、嬉しいじゃないか、拒否なんて出来るはずは

ないじゃんか。

「わかりました。やらせて頂きます、……反抗期でもないよっ！」

もう……でも一度ぐらいは言っても……良いよ。

しようがないなあ、没にしようと思っただけど、こんな嬉しい事されたら無視出来ないじゃないかよ。

『ありがとうございます。では本社の方でも大々的に発表しますね、視聴者1万人は軽く超えるようセッティングします。』

ひよえ？

ままつまつて！ちよつと待つて！

有能無能偽パパとメールで話した結果、配信の終わりにわたしが宣言して、配信が終了したらSSS社から発表する事になりました。

☆

配信準備が完了する。

今日の配信はマキシスカートを着てみる事にした、大人らしい清楚感がある服に仕上がってると思う。ハーフパンツはもう着ないんだから。

つおったー十で宣言した通り、今回は登録者3000人突破記念と言う事で、台詞リクエスト生放送だ、思えばこういう事はしたことなかったなので、緊張というよりも恥ずかしい気持ちの方が強い。

ってか…要求する台詞ほとんどが恥ずかしいものばっかだよ、なんだよ僕とデートしている時の台詞って、そんなの没です！ぼつぼつ！

……まあでもこうして台詞をくれるのはありがたい、待機しているなぎ民の数はもう2000人を超えてる……ああもう、見ないようにしよう！じゃないと出来ないよ。

いや、まあ、明日になるとこの数倍の人達が見にくると考えると、うう………。

き、切り替えよう…時間だ。たのしんでもらおう。

「ぴーすー！自称プログラマーなぎちゃんだよ、始まるよ〜」

『うおおおおお』『1コメ』『なぎちゃん〜!』『3000人突破おめでどう!』『なぎ民も多くなってきましたね』『台詞楽しみだ』『いやー今回も楽しみだね』『あれなんか声震えてない?』『緊張でしょ』『毎回してて草』

「3000人突破ありがとう!本当に、本当に…うれしい。みんなのおかげで…わたしは今が楽しいよ、ありがとう…」

『かわいい』『好き』『好き』『こちらこそありがとう』『生まれてきてありがとう』『こっちの台詞だ』『ロングスカートの清楚感すこ』『備考、中は白』『清楚系プロゲーマーなぎちゃん』『なぎママ…?』『業が深い』

ふっ…外れ、今日は白じゃないんだな。甘いぞなぎ民。

「さて、今日はゲームやらないよ、ゲーム配信を楽しみにしてた人はごめんね、でも見てくれると嬉しいです」

「じゃあ何をやるかと言うと、つおったー十で言った通り、台詞リクエスト配信をしようと思います!」

『待ってた』『待ってた』『覇道の九十六…』『やめないか!』『台詞見てくださいかな』『プロゲーマー(台詞配信)』『まあ自称やし…』『変なもん送ってないだろうな』『パパお仕事頑張ってたって送りました』『有能無能、有能!』『それ没にされてるやつやん』『やつば無能!』

……やつば読むのやめようかな。

いやいや、流石にそれはやっちゃいけないよね、やり遂げないと…それに、こういうのやってみたかったし、声優さんみたいでなんかかっこいい。

「じゃ〜さっそく読むよ〜!…じゃあ先ずはなぎ民古参人さんから射線に入るなって…わたし言わなかったっけ?…はい。様付けしたくなる台詞ですね」

『草』『草』『なぎちゃんボイスでやるとなんか、こっ』『こわくないかわい』『かわいい』『ぼきは怖かったです』『読んでくれてありがとう…』『実際火力は高いんだよなあ』『Gシリーズもいつかやってくれるかな』

「やる予定だよ!…シリーズ全てを持つてる訳じゃないから、全部

は出来ないけど、わたしの華麗な神殺しをいつかみせてやるからな？」

「続きましては、なぎちゃんの兄さんから……ってお兄ちゃんじゃないからあ……『お兄ちゃん？朝ごはん出来たよ？起きて起きて、お兄ちゃん』……ああ……恥ずかしいってこれ……」

は、はっずかしすぎる……！なんだこの羞恥プレイ!?これぐらいならまあ良いかって選んだわたしは何を考えていたんだ!?

『ご馳走様です』『ああ』『これは起きるわ』『絶起する』『お兄ちゃん起きるお!』『なぎ民のお兄ちゃん面率』『はずかしなぎちゃん』『体震えて草』『これはご褒美』『最高か?』『RECした』

「よし、パッパと行こう、パパッと、素早く終わらせよう、……こんなに恥ずかしくなるもんだって思わないよ……」

「……えー、無名の傭兵さんから『この先は通さねえぜ、わたしがいるからなア!』……くうくう!言ってみたい!カッコいい!寧ろ言われたい!ありがとうね」

『カッコいい』『いつか絶対似たような言う』『アーカイブ探したらありそう』『平常運転』『これはカッコいい』『カッコいい』『一番まともな台詞では?』

「ほんとだよ!みんなまともに、それでいて普通の台詞送ってっつおったー十に書いたよねえ?!なんでわたしの言うこときけないのさあ……」

『反省しろ』『反省しろ』『いじられなぎちゃん』『卑猥な文おくれた奴、手あげろ』『ノ』『よーし、君はのけ民だ!かえっていいよ』『そんなー』『か、かえらなくていいよ!……それに、実際はそんなに卑猥なの送られてないからね、みんなわかっててわたしは嬉しいよ、ありがとう』『続いては……あ、ユーさん!いつも動画編集ありがとう、でもでも……よわよわなぎちゃんってタイトル何さ!こわがりなぎちゃんとか、見てるからな?』

『草』『草』『草』『おこおこなぎちゃん』『なぎちゃん動画上げてるのユーさんなんか』『半分ぐらいそうやで』『有能』『毎秒動画編集して投稿しろ』『早く次のMAD作って?』

「台詞言うよー…『ちゃお！世界初、自称プロゲーマーのなぎちゃんだよー！』……なんだか懐かしい、初回放送の時の始めの挨拶だよね、最初から見てくれていたの？嬉しいです、ありがとう」

『泣きそう』『まだ2週間ぐらいしか経ってないんだなあ』『投げ銭明日出来るぞ、準備は出来たか？』『金の貯蔵は充分だ』『まだまだ伸びるぞ、頑張れなぎちゃん』『遠くない未来に1万の数字が見える見える…』

その後もどんどん読み続ける、中には少しあぶないものもあったが、諦めの境地でやり遂げた。

台詞一つ一つに反応していたら、意外にも時間は早く進むようだ。

「じゃー、はあ…そろそろ……ふう、次の、質問！……ミクちゃん？見てるかな？今回もありがとうね」

『お』『公認百合ってまじ？』『なぎミクいいぞ？』『ミクなぎでしょ』『息切れしてて草』『なぎちゃんの息切れボイス』『えち』『妹ボイスにやられたか』『お姉さんボイスなんてなぎちゃんには難し過ぎたんだ……』『なぎコピペ自分で言ってた時がピークの終わりだぞ』

台詞の内容に目を通し、想う。

でもそれは、決して良い感情だけでは無く。つい配信していることを忘れそうになった。

「……ん、良し、言うよ……『先輩、わたしの事、覚えていますか？好きです』……うん。後輩シチュは今まで来なかったな、なんだか儂くて、寂しいね」

『好きです録音した』『くれ』『くれ』『俺も録音した』『先輩の所すこすこ』『なぎちゃんが後輩……？』『変な声出た』『出た鼻血で貧血起こした』『ああく儂げでかわええんじやく』『今までで一番感情がこもってた』『これは100点』

「じゃあ、次行こつか……つてもうそろそろ時間だね、じゃあ最後……仕方ないから言っておけるよ」

「有能無能さんから、『パパ、お仕事頑張ってるね？』…無理しない程度に頑張ってるね、倒れちゃダメだよ、実は心配してるんだからね、頑張ってるね。パパ」

『うおおおおお！』『まさかの』『こんな昇天モノやん』『ご褒美が過ぎる』『有能無能、優勝！』『なぎちゃん……ありがとう……ありがとう』『苦労が報われたな』『ピザ10枚送ってやるよ』『今日は焼肉なので』『草』

あ〜顔真つ赤だよまったくよお……今回だけなんだから、次は言わないんだからね。

「さて、そろそろお別れの時間……ですが、ちよつと大きな告知させてください」

『お？』『お？』『なんだ』『ついに顔出しか？』『麗しき御尊顔を拝し奉れるか？』『ついに全身見せてくれるのか？』『逸りすぎだぞなぎ民』『おさえろ……おさえろ……』

……VRに接続するってことは、全身のトレースを済ませないといけない、全身を擬似電子体に組み込むとするなら……まあ、そういう事に繋がる。

正直、良いかなくて。まだ他人と話すことはむずかしい、だけれど、なぎ民と話すのは好きだから

親友には色々、言わないといけないことがあるけど、多分司は何も言わない、わたしから言うのを待つはずだ。その好意に甘える自分が情けないけど、でも……これだけはそんな簡単に、割り切れないよ。

「実はSSS社のおえらい人からの依頼が来ました！……明日の配信で新作ゲーム、『ロストデイメモリー』のデモプレイをしようと思いますよ！わたしの初のVRゲーム配信がまさか企業さんからの依頼なんて夢にも思わなかったよ……詳しくはSSS社のHPに書いてあるので、読んでね！肝心のゲームのあらすじなどもそちらに載ってます……これでいいのかな」

『うおおおおお!!』『今日は祭りじゃ』『まじ？SSS社と？なぎちゃん？』『こりや明日視聴者5桁行くな』『行くね』『丁度興味持ってた』『開発もうそこまで進んでたんか』『なぎちゃん初のVRかく！』『電子体になるプログラマー』『眠れないわ今日は』『良かったねなぎちゃん』『おめでどうなぎちゃん』

「うん……うん！本当に嬉しい！この場をお借りして、ソレスタル

ビーイングさん！本当にありがとう……たまになら、パパって呼んだげる、たまにだよ」

『うおおおおお！』『娘の反抗期が……ついに……！』『公認有能無能パパ』『これはパパ』『有能パパ』『パパありがとう』『有能無能、そんなに偉かったんか……』『もしかして部長……？』『うむ、いかにも』『仕事自分に丸投げしないでくださいよ！』『コメントでコントするな』『娘さんを僕に下さい』『有能無能、完全勝利！』『パパにクレーム送った』『ぐう畜なき民いるぞ』

「じゃあ今日は……もう少しだけ続くよー！」

「みんな、わたしの歌を聞けーっ！」

『うおおおおお！』『うた！』『まじで祭りやな』『のりのりなきちゃん』『テンション上げてけ』『上げてけ』『歌！』『なきちゃんのおうた……！』『うおおしか言ってない奴いるぞ』『動画編集こりや頑張らないとなあ』『上手いのか？』『上手そう』『やばいやばい感動やばい』

実はこの日に向けて練習して来た、身体的スペックが上がるってことは、声も綺麗になつてるので、人前で歌える声ではあると思う。自分で聞く声と相手に聞かせる声は違うが、多分、恥はかかないと思いたい。

緊張は、もうない。

わたしはたのしむ為に、たのしませる為にここで歌う。

「行くぞ……！最初の曲は……」

歌を、始める。

わたしはロックが好きだ、女性シンガーのかつこいい曲のロックが好きだ、なんというか、みんなで楽しめているって、そう思う。

『かつこよすぎない？』『これがなきちゃんの本気か』『ってかこれ内臓マイクだよな……』『声ハウらないのしゅごい』『やばい惚れる』『まるで伝説の水樹さんみたいだ……』『伝説って？』『ああー』『歌うまプロゲーマーなきちゃん』『プロゲーマー（歌ガチ勢）』『この娘わりと何でも出来ない……？』『確かに』

「まだまだ行くぞ……！さあ楽しもうぜー！」

だからわたしは、なき民と楽しむこの配信の時が、好きになったん

だ。

「ふう〜……………歌った〜！」

『oooooooooooo』『oooooooooooo』『うまかったよー！』『お疲れ様』『目の汚れ取ってくる』『明日も楽しみだ…』『生きる糧』『ありがとう』『楽しかった』

「なき民たち、最後までありがとう！明日の配信も見に来てね……………？またね、じゃあね！」

『絶対行く』『行きます』『ありがとう』『今日もお疲れ』『明日楽しみだあ』『楽しみだなあ…』『つおつたー十で宣伝しないと』『お疲れ様でした』『いやー今日も楽しかったね』『二次会会場行こうぜ』

配信を止めて、賑やかな祭りの終わりを告げる。

確かな実感と満足感、私は今を生きている、明日は初の企業からの依頼、絶対に成功させよう。

でもその前に……………やらないと、いけない事があるんだ。

暫く経ってから、水を飲んだ後わたしは携帯の電話を掛ける。

『うおおっ、このっ……………ちよ、ちよつと待ってな!』『』

「あ、仕事中?ごめんね、今じゃなくてもいいよ」

『いやそうじゃない……………うおわ!』『』

「ええ……………?どうしたのさ」

『試験管に入れてた微小生命体が跳ねて逃げ出してさあ……………つと、もう解決したよ。それで?』『』

「うん、えーとね……………」

隣の人について、教えて欲しいんだ。

はちわめ！前編

曇り空の朝、今日は少しだけ…勇気を出す日だ。

前から思っていたのだが、わたしは隣の人が誰なのか知らない、だけど親友が言うには…：わたしが良く知る人物らしい。

前までのわたしは、理由もなく、ただ隣に人がいるってだけで勝手に嫌って絶対に会わないようにしていた、たまに來客を告げるピンポンの音が響いても、ヘッドホンの音でかき消して無視していた。

贈り物とか渡された事も、今思えばあったと思う、それらをどうしたかは覚えてないけど、きつとわたしのことだ、見る事もなく捨てたんだろうな。

悪い事をしたと思ってる。その事を謝りたい。

わたしが良く知る人物で、相手もわたしの事を知っているなら。

わたしはそろそろ、自分の体に、そして過去について折り合いをつけるべきだ。

家族に会うのは、無理…まだ、もしかしたら一生会えない、会いたくないと思っただまかもれない。わたしと家族に大きな誤解と隔離があるのは、わかっている。

でもいつかは…：絶対に会わないと行けないんだ。

「つよし、服装OKメイクは…まあ出来ない、変なおいもしないし、髪はしっかり整えたと思うし…：人前に出て恥ずかしくないはず」
数週間前のわたしでは考えられない考えだ、人と会う？馬鹿らしい、会ってどうなる、何が変わる？自分が？ありえねえだろう…：そう思ってた。

でも、今はもうそんな甘えられないよ、人は変化していく生き物だから、わたしは良い方に変化しないとならないんだ。

震える手をひた隠しに、わたしは。

七年ぶりに外に出た。

『ピンポーン』

ああ、どうしようどうしようどうしよう!!?

血迷ったのかなわたし、やばいやばい緊張ってどころじゃない、勇

気がもたない。

こ、ころされる、体が震えて寒気が……冬でもなんでもないので、つともない震えが……ああうあああ……。

『……………誰ですか?』

にやああ!!人だ!ひとの声だ!地球生命体の声だ!本物だ!おんなのこだ?!女性?!わたしの知り合いに女性?!いやいや……んんん?

「あ……の、隣の、凧沙です……」

『なぎ……え、先輩……?』

先輩……??

待って、わたしが良く知る人物……?親友も知っていて、わたしも知っている、人物?

『先輩?せんぱい?本当に……?そこから動かないでくださいね』

「ひゃい……」

な、なんだかすごいこわい、やっぱりわたしじゃないって思われてたりするのかな、あああう……どう言えば良いんだよお、わたし、おんなのこになってきたよ、きやるるんつとでも言えばいいのかあ?

ふざけてんのかお前つてなぐられて終わりだよお……ふえ、どうしよう。そうだ、男装すれば良かったのでは?なんで今になって思いつくんだよお……

扉が乱雑に開く、その音にビクツと逃げたくなる気持ちを抑えて、ただやっぱり顔は俯いちゃって、せっかく開けてくれたのに顔を見れない。

ああ、どうしよう、本当に気まずい。

「……先輩なら、私の事、覚えてくれますよね」

「そ、れは」

「俯いてないで顔を見れば良いじゃないですか……」

「う、あ……そう、だね」

ゆっくり、彼女を見た。

最初に目につくのは、ルリマツリのように華やかで、綺麗な水色の髪。ミディアムより少し短めの髪は、何処かはねつけがあつて、あまり手入れはしてない様に見える。

わざわざ来客用に粗相のない様にと着替えたであろう、新品のように綺麗な、黒のパーカーワンピースを着こなすスタイルは、わたしよりも女性らしく。

その、鋭い目線の先に見える、何かをすぐる様なアクアブルーの瞳を見つめて。

そして、思い出した。瞬時に今まで忘れてしまった事を後悔して、何故という思い戸惑いと、どうしてもという思い後悔と、色々な感情がごちゃごちゃになって、一周回って冷静になったわたしは、彼女の名前を告げた。

「久しぶり、初菜^{はつな}」

「……とりあえず、中、入りませんか」

「そうだな……うん、お邪魔しても……？」

「邪魔なんかじゃ……どうぞ」

ああ、敬語なのは変わらないな、それもわたしと、実のお母さんが居る時だけだったけど、なんでだったっけ……尊敬できる人の前しか、敬語は使わないのかなんとかだったかな。

尊敬されるような人じゃ、ないのに。

部屋にお邪魔する、わたしと同じマンションに住んでるから、基本的な構造は変わらないけれど、どこか可愛らしい女性らしさを感じる部屋だ。

猫を模様としたソファに、彼女は座った。

「隣、こないんですか」

ああ、そうだったな。キミは何故だか、良くわたしの隣に座ってきた。

「……そうだね」

隣に座る、ふかふかのソファは、決して安物なんかじゃないのが手に取るようにわかって、それだけで彼女が、初菜がしっかりと自分の人生を送れたと、心なしか、安心してしまった。

わたしも、初菜も、言いたいことはいっぱいある、だけど、言葉が出てこない。何を言えば良いか、何を言ったら良いか、七年の年月で、わたしは話すことが出来なくなっている。

違う、このままじゃあ、ダメだ。わたしは、変えに来たんだろ？なら話さないと、自分の言葉で話さないといけないだろ。

「初菜は……髪、切ったんだね」

「……」

「似合ってるよ、今も」

「……ねえ、初菜は」

「先輩」

目が合う、わたしを信じて疑わない目だ、わたしはこんな体におんなのこの体になったというのに、わたしの、まるで魂を見ている様な。

「何で黙って行っちゃうんですか……？私は役に立たない、使えない人でしたか……？私では力になれませんでしたか……？いきなり消えて、司先輩から連絡を貰って……此処まで越しました……何があったんですか？、私は、私はあなたに……」

瞳に溜まるよごれなみだを見て、わたしはどう返せば良いのかわからなかった、初菜を役に立たない人間なんて思った事は無いし、使えないなんて思った事は一度も無い。

「ちが……違う、初菜に迷惑を掛けたくなかったんだ」

「何で、そんな……頼ってください、話してよ、私は先輩の為に頑張つて来たんですよ、私に出来る事を、他でも無い先輩が、教えてくれたから、頑張つて来たんですよ？今度は私が先輩の力になるんだって頑張ってきたのに……他人行儀にされたって、優しくされたって……嬉しくないよ！」

「っ……わ、るい」

他人なんて、思っても無い。でも、あれ以上誰にも迷惑を掛けたくなかったんだ、誰にも迷惑を掛けないで、居たかったんだ。

もう何もかも嫌になつて、消えたかった、終わらせかけたんだ。それを初菜が知ってしまったら、キミは是が非でも助けるのをわかっていたから。きつとキミに甘えてしまうのを予知していたから。

「……司先輩からは、何も聞いてないんです、他でも無い先輩の声で、言葉で教えて欲しかったから、だから、ずっと待ってたんです」

「……それは」

「言えませんか…?」

「……悪い」

「私はっ」

私は無言で初菜を抱き締めた、言葉で伝えるにはあまりに、難しい。わたしに針の様に鋭い痛みが何本にも心臓に突き刺さるのを無視して、あの時の情景が蘇るのを無視して、ただ、彼女を優しく包み込むしか、わたしには思いつかなかった。

「っあ……先輩」

「ごめん、初菜。今じゃ、こうする事しか、思いつかない……こんなことしか、わたしは……」

「ッ……酷いですよ、そんなの、昔っから自分の事だけは隠して、不公平じゃないですか、私の事、いっぱい知ってくる癖に、私は先輩の事、何にも知らないなんて……そんなの嫌です、やだよ……」

「初菜……」

言って、しまおうか。

わたしの全てを、この子に、全て。

隠して、後悔するぐらいなら、それなら……!!

「初菜、わたしは……ッ」

「……えへ、先輩凄いい良い匂い……鼻血でぞ、ふふふ……」

「ん?」

今までのシリアスは?

「はっ、っほん……ほんとうは、言わなくても……良いんです。私は……先輩が、生きて、楽しんで、人生を歩んでるなら、それで……」

……わかった、初菜。聞かなかった事にするよ。

「今は……楽しいよ、じ、じ、じつはね!わたしね?配信やってるんだ!」

「知ってますよ、なぎちゃん」

「はええ?」

今までのシリアスは?!

「……え、気付いてないんですか？気付いて私に会いに来てくれたかと……私の下の名前覚えてます？ちよつと、先輩？」

「初菜未来みらいだろ、何を今更……」

「未来って、ミクって読めるんですよ……ていうか昨日の放送でそれらしい台詞送りましたよね……？」

「あ、いや、その……うん」

さつきまでの空気は何やら、じとーつとわたしを見てくるミクちゃん、もとい初菜に、冷や汗を垂らしながら、似たようなやり取りが昔にもあつたな、と思った。

☆

初菜未来はつなみらい、高校生の時の後輩だ、司とわたしでやっていた、技術研究同好会の記念すべき三人目のメンバーだった。

一番最初の出会いは、助けを呼ぶ声が聞こえて走って向かったら、助けを求める目をしてたからだだったか……今でも、思い出すとムカついてくる。

容姿よりも先に、疲れた瞳に目がいつて、少しだけでも彼女の痛みを安らげることが出来るならと、色々世話をした覚えがある。

わたしはただ話をしてただけなのに、それ以来からべつたり甘えて来るようになって高校時代は困りつつも、嬉しかったな……

取り敢えずココアでも飲みますか？と言ってくれたので、素直に甘える事にした、話したい事はまだあるし、それは初菜も同じだと思う。

「……てか、疑わないんだね、わたしの事」

「姿形が変わろうが私には分かります、先輩は先輩です、私が愛する、私の先輩なんです」

……あれ、こんな子だったっけ、なんか目が淀んでるし……ちよつと怖いんだけど、包丁とかで刺されたりしない？大丈夫？わたしここでENDる？

「そんな事しませんよ」

「心を読んだな?!なんで?!」

「ふふふっ……なぎちゃんはかわいいなあ」

「やつ、やめろ！」

知ってる人にそう言われると恥ずかしいし、ちょっと怖いよ！

「まあ……理由は聞きませんよ、男らしい先輩も好きだったんですけど……えへ、今の可愛らしい先輩を見ると、何ででしょうかか、めっちゃくちゃにいいじめ……んん、いじりたくなるんです、はあ………かわいい」
「か、帰っていいかな、初菜」

「何ですか？どうして？折角会えたのに？来てくれたのに？もう帰るんですか……？」

「アツその、はい……何でもないです」

おかしい、こんな子ではなかった。高校の時は、よくわたしの一歩後ろで歩いていたり、クラスに馴染めないからと屋上で二人で昼飯食って……ああいや、たまに司が来てたか、技術研究部では真面目に研究してた子が、ヤンでいらっしやる……。

「ええ、理由は……もう、良いです。無理には聞きません、先輩の姿を見ただけでも、私は嬉しい……」

……いや、わたしの命の為にもやっぱわたしの全てを教えるべきなのでは？今からでも遅くはないはず、これ絶対後日「わたしと一緒になりましょう？」って刺してくるやつだからあ！

「だから刺しませんって……それじゃあつまらない」

「いやつまらないって何?!てか、心を見るなあ！」

「ココア、出来ましたよ……お口に合うと良いのですが」

んに……そんな笑顔されると何も言えないじゃないか。

「ありがと……」

「どういたしまして」

高校の時は、わたしからココアを淹れていた事もあったな。

うん……温かくて、美味しい。

「司先輩には……その、言ったのですか？」

「……この体についてなら、言っていない」

「……そうですか。わたしだけの秘密ですか、それはそれは……ふふ……でも、こう言うのは早く言った方が良いんじゃないですか？」

「いや、その……怖いよ、拒絶されたら、どうすれば良いの？」

「今度はわたしが先輩を家に迎えて、養って、甘えさせて、鎖で繋げて依存させて全ての外敵から守りますが……拒絶なんて、しないと意思ますよあの人」

……尚更こわくなった、わたしの知っている愛らしい後輩じゃないよお……月日は人をこんなにも変えるのか？

「と言うより、多分喜びますよ、アレ」

「いやあ……流石に無いだろ、ないない。そんなに変態じゃないよ司は、ただの研究バカだって」

「……はあ、そーですか、まるで恋する乙女ですね、妬ましい、今からでも奪ってやろうか……」

ひゃあ?!こここいする、おとめえ……?なわけ、な訳ないだろ!何を言っているんだ!?!ってか、奪うって何をだよ!怖いよまじで。

「ていうか多分もう……いえ、何でも」

「ん?……まあ良いや、せっかくだし、さ!もつと話そうよ、七年間何してたの?わたしは……その、うにゆ……」

「ふふつ……じゃあ私の話をしますか、そうですね……何から話しましょうか……」

そう言い話をしてくれる初菜の……少し、哀しそうな目に、わたしはどうする事も出来なくて、胸が酷く痛んで、言わないといけない事がいっぱいあるのに、言葉に出なくて。

わたしは、初菜の話を聞きながら、だんだんと大きくなる虚無感をひた隠しにした。

「……そんな悲しそうな顔されると、話しづらいですよ」「うにゆ……」

不意に後ろから、抱きつかれた。ビクツとして逃げ出そうとする体を、力強くないのに、逃さないとも言おうようにぴったりと拘束される。

水色の髪が首にかかってくすぐったい……

「今日は、SSS社の新作ゲームのデモプレイ配信なんですよね……?そんな調子では、最大限のなぎちゃんは出せないですよ」

「う、うるさい、なぎちゃん言うな……大丈夫だよ、配信中は」
「ふふつ、髪整えられてないですよ……私が整えてあげます」
「え、あ、ああ」

ホログラムから実物に、多分自作の、最先端のセット道具を取り出した初菜は、丁寧にわたしの髪を整える。前にも、整えられた事があった。

心地いい感覚に、身を委ねそうになる。

「……司の手伝いをしてると思っただけだな」

「私が手伝いたいのは先輩の人生以外に他ありません……私がNSSマテリアルフィールドを買ったのは先輩が少しでも快適に暮らすためって、知ってます?」

「いや……うんも面白いや、ありがとう?でもあれ億円しなかったか?」

「世界有数の赤城財閥から、技術交渉を。クロック型ATシールドは高く売れましたよ……先輩の研究成果の産物の一つですね」

「いや作ったのは司だろ、わたしはみてただけだし……高校時代の研究、受け継いでくれたんだな」

「先輩が受け継げと言ったので、先輩のいない一年は退屈でしたよ……まあ、少しは得るものもありましたが」

過去の話に花を広げる……までは行かないが。色々と思いつく事がある。あの情景は、きっと過去の最大の、太陽のように暖かかった思い出なんだろう。

背後の彼女は何を思い、どう生きて、何を見ているのか。その景色を眺める事が出来なかったわたしに、罪悪感と後悔が積もる。

「せつかく離さないって……言ってくれたのにな、悪い初菜」

「つ……謝らないで下さい、もう……良いですよ、今こうして話せているなら、気にしない……とは言えませんが、妥協してあげます」

「……曖昧にはしない、必ず言う」

「約束ですよ……?」

……所で、段々と初菜の手がおむねにいつているのは、どうなんですかこれは、狙われているのかわたしは。

「……所で、女の子同士っていうのも、良いと思いませんか?」

わたしはいまなにをいわれたのだ？

「いやあの……初菜さん？何をおっしゃて？」

「もしかして先輩……そつちの気の方けでしたか……？違いますよね、私の憧れる先輩が、まさかそんな」

「お。おう、ホモではない。でもこれとそれとは話が別だとーひゃあ！」

みつみみ！みみ！耳舐められたあ?! なつなににして、何してんだこいつ！

「ふふっ……可愛らしいこえ」

いつの間にか手に手錠をかけられ拘束されていた、その細やかな指が私の服をゆつくりと下から上へと、繊細に動く、妙に生温かい吐息が首筋に当たってくすぐったい……

つばか、変な声でちゃう……！まずいまずいこれはまずい！イロイロまずい！取り戻せなくなる！色々！

「ここから先はR指定ですよ先輩？」

「なつなあ！嫌だ！やめつ、やめろ……やめて……だめだつて、そんなの……いけないから……」

「まあ時には諦めも肝心って言いません？大丈夫です、気持ちよくしますから」

「そつそういう意味じゃ……このつ、はなつ……ひあ……」

頂かれる！ただかかれてしまう！あつ……ちよつとまってほんとうにだめだつて、こんなのいやだ、いやっ……

☆

「……まじで許さないぞ、もう来ないからっ！」

「ふへへ、寸前で辞めたから許してくださいよ」

このつ、ちくしょう……相手が相手だから強く言えないじゃないかよ……

「もーかえるっ！……いい時間だし、じゃあね初菜！」

「あ、待って下さい先輩」

「なんだよお!?これ以上何かあんのかよお!」

手に、何かを握らされた。水色の護符のようだ……お守り?

「配信、頑張ってくださいね……見てますから、先輩」

「……うん、頑張るよ」

玄関の扉を開ける、送り迎えをしてくれる、少し悲しそうなアクアブルー瞳に、ちくりと胸が刺される、まだたくさん言いたい事がある、だけでも一気に言えるようなことじゃない。それは初菜もきつと、同じなんだろう。

だからふざけて誤魔化して、心の準備をしたいんだ。それがわかってるから本気で抵抗しなかった……いやまあ、一線を越えたら何かが戻ってこれない予感がしたので、流石にそれは防いだが。

……ああでも。

「会えてよかった、また会おう……?」

「はい!はい……もちろんです、いつでも来て下さい」

「これからもゲーム、一緒にしてね、ミクちゃん」

「はうあ!……録音してて良かった……」

……もうツツコミできる体力はないので放っておくとして!

扉を開く、わたしの姿が見えなくなるまで、最後まで手を振ってくれる初菜を見つめる。

太陽がわたしの銀色の髪を照らす。

曇りはもう、見えなかった。

はちわめ！後編

昨夜、SSS社の公式から宣伝してもらった私は、もうこの日の内にチャンネル登録者が5000人を超えて、つおつたーもそろそろ5000人が超えそうだ。

いつもなら泡を吹いて倒れ、自称プロゲーマーなぎちゃん、ここで潰える！……ところだけど、初菜に会った今のわたしに数などプレッシャーに足らず！……いや、体は震えているけど。

ともかく、企業公認の公式デモプレイとの事で、わたしは大勢の、本当に大勢の人に見てもらおうだろう。

配信準備が完了する。VRシステムの準備もOKだ、わたしはいつでも現実の体を、パソコン上に電子体として存在させる事が出来るようになってる。

疑似人格プログラム、というものがある、機械に感情を与えるプログラムのことだ。散々流行った昔の家庭用ゲームに、人間とアンドロイドを描くゲームがあつたが、それが原因か知らないが、この疑似人格プログラムは違法の行為として罰せられるそうだ。

わたしは人間だが、わたしの使うパソコン外部に付いている特別な機器は、これを基にした技術で、わたしをVRに投影するらしい。

エーテル体やらアストラルだとか、オカルトめいた霊的現象を、発展した超科学によって説明。

肉体を再構築し、0と1の世界に入るとかなんとか。

正直、よくわからない。司や初菜ならしつかり理解出来るんだろうけど、わたしは知恵熱で蒸発しちやいそうになる。

一番こわいのは現実のわたしの体はどうなるんだ？って疑問なんだけど……ま、まあこれ以上考えると怖いからやめよう。

深呼吸を一つ。目に映るは8000前後の待機列。

余計なことは考えなくて良い、今まで通りに。たのしむだけだから。

何より初菜が応援してくれた、なら……応えるだけだから？

「ちやろー！世界初、自称プログラマーのなぎちゃんだよー」

『ちやろー！』『VRなぎちゃんと聞いて』『始まりました』『なぎ民が多い』『今までにない人の多さ』『初めまして』『声震えてて草』『うおーパソコンかあ』『パソコンじゃん』『こりや凄い』『今日の服はパーカーですか。好き』『初見』『楽しみじゃ〜』

「声震えてないよ！……初めましての方が多いと思うから、改めて自己紹介します……まあ、自称プログラマーの配信者として、言えないんだけどさ」

『なんか新鮮』『投げ銭が実装されてない……？』『OFFになってる』『自称？』『まあプログラマー名乗るんならゲーム上手いやろ』『過去アーカイブ見てきました、しゅき』『うおおもうー万人超えた』『お兄ちゃん嬉しい』『過去最大やな』『緊張大丈夫か？』

……やばい吐きそう。耐えろ耐えろ

「投げ銭はごめんね！次の配信からなんだ。わたしだけの配信なら、投げ銭機能は付けるつもりだけど……今回は、そういうわけじゃないからさ？」

「まーわたしの事は良いんです！……みんなが見たいのはデモプレイだからね！……まず今回の新作ゲーム、ロストデイメモリーのあらすじでも言いますか」

説明しよう！ロストデイメモリーとは、SSS社の開発した異世界ちつくなオープンワールドゲームである！

中世ファンタジー風味の世界。文明は停滞を告げ、緩やかな平和が世界に広まる。その世界にプレイヤーは迷い込むのであった。

プレイヤーは現実世界から迷い込んだ『迷い人』だ、あなたはこの迷い込んだ世界で、何をしてもいい。広大な空を飛ばたくように走るのもいい、森林に入り、動物たちと心を通わすのもいい、人間社会に溶け込み、賃金を稼ぐのもいいだろう。

或いは、遠く離れた魔王城に行き、魔王の私兵として志願するのもいい。古びた館にて、吸血鬼の始祖に出会い、共に旅をするのもいい。勇者の末裔に、行商人に、或いは、この世界の謎を解くと言うのは、どうだろうか？

それら全てを壊してもいい、狂った迷い人として、この箱庭をめちゃくちゃにするのも、良い。

あなたがやりたいことを、他でもないあなたが見つけるのだ。

……と、というのが公式のあらすじ。でもわたしとしてはこんな印象だった。

サイバーには飽きた？超科学はもう沢山？黒曜石の剣でレールガンを切り裂くのは疲れた？わかりました！そんなあなたにうつつつけ！

魔法を拳で叩き！剣を蹴りで破壊し！困難を己の身体で乗り越え！時には動物に癒され！たまには住民と話して！おんなのこと仲良くして！あわよくばちよめちよめしよう！

そんなかんじのワールドオープンゲーム！オンラインはまだ未定！

「ロストデイメモリーとは、そんな感じのゲームなのだ！」

『草』『草』『ええ…』『もしかして、あたまわるわるなぎちゃん』『うっそだろ草』『百合百合なぎちゃん』『レズレズなぎちゃん』『でも本当に女の子に迫られたら手を引きそう』『わかる』『プレイヤーの自由に出るゲーム性が売りだから間違っではない』『過去にこんな感じのゲームありましたね』『サブクエストだけ進めてメインやってないやつな』

「ん、そうそう！DESシリーズみたいな感じ！オンラインゲームじゃないから、みんなで出来ないけど、今後対応していくみたい……でねでね！すごい綺麗な世界なんだよ！あ、いや、べつに日本が綺麗じゃないとかじゃなくてね？とつても青い世界が広がってるんだ、なんていうのかな、綺麗なんだよ！うゝ……言葉じゃ説明しづらいなあ……」

『かわいい』『かわいい』『はやく見せてくれ』『俺にも見せてくれ』『AIに任せっきりで最近外出てねえや…』『日本はほら、輝く光が夜を照らしてるから』『照らし過ぎて目に悪いんや』『3日に一回はレーザー光線の光見えるからな』『住所特定』『北海道はいいぞ？』『人はまだ、空を飛べない』『飛行機乗る金ぐらい稼げよ……』

「よし、じゃあ早速VRにアクセスしよっか！……なぎ民のみんな、それにそうじゃないみんなも、すくすくだけ待ってね」

一度、配信のカメラをシャットアウトする。こうしないと何かエラーが起きた時、怖いからね。

別画面に映っているわたし自身を見つめる、前もって自己投影した自分自身だ、銀色に輝いたシルバーブロンドに、黄金の瞳が相まって神秘性を惹き立てる。

服装は赤のベレー帽とロングパーカーだ、手首に初菜のくれた御守りも付けてる。迷い人設定なら現代風の服でも違和感は……ないとは言えないけどさ。仕方ないじゃん、コスプレ衣装とか無いしき。

ふとももは見せない、黒のストッキングを履いたからね！これで見えないだろ〜へへへ。

わたしがVR機器にアクセスして、画面の向こう側に入ると、配信から見える画面は一人称視点で見えるわたしの画面：ではなく、AI機能で絶妙にいい感じのアングルで撮ってくれる『配信用ナゲットくん』の画面になる。

これはSSS社から支給してもらった大切なものなので、有り難く使わせて貰います。

……いや、配信用ナゲットくんってなんだよ、ナゲットくん酷使しすぎだよ、かわいそうだし別のタイプのAI作った方がいいよ。

わたしの周りを酔わないぐらいにぐるぐる回って撮るから、必然的にわたしの顔は、今いる15000人以上の人たちに広まるって事になる。

……本当は、怖い。このご時世、顔だけでも判別されたら住所特定名前公開の一発KOを食らってもおかしくない、わたしのマンションに他人が来てもおかしくないんだ。

でも、多分それはありえない、わたしは変わった。心がとか、精神じゃなくて、肉体そのものが変異しているのを実感してる。

人は生まれたらまず、全人類管理データベース『ALICE』に個人情報全てが登録される。このAIに登録されている限り、Aliceにアクセスすれば住民IDやら個人名やら、簡単に抜かれる。

これは国民が自衛の手段の一つとして作られたもので、それがあから犯罪行為は著しく少ない、無いわけじゃないのは、人間の性なのもかもしれないけど。

ともかく、言いたいのはそういう事じゃなくて。

おんなのこに変異して、前の体で無くなつたわたしは。データベースに登録されていない。

だからわたしの存在が認証されることはないし、現実世界の物や通信データから特定しようとしても、NSSマテリアルフィールドに守られているから心配ない。

心配ないけど…それはそれとして、すっごい恥ずかしい。だだだっ
ていち、いちまんごしえんにんだよお!?こわいこわいこわい…わた
しはかわいいって自負してるけど、これでぼろくそに言われたらもう
立ち直れないよお!

うう…でもいつまでもこうしちやいられないんだ、変わらないとだ
めなんだ。変えていけばきつと…認められるんだ。

「VRシステムにアクセス、任意プログラムの設定よし…ふう、やる
よ。」

――擬似電子体総合プログラムを開始します。

――肉体と精神の統一を開始します。

――電子体へのアクセスを始めます。

――適合を完了しました。世界への適合を開始します。

――ロストデイメモリへの接続を開始します。

――全行程良好、擬似工程クリア。

――全行程完了。配信を始めます。

――お帰りなさい。そして楽しんで下さいませ、風沙様。

始めに見えたのは、雲一つない青天の空。

次に、無骨な四角い小型ロボット、でもそれがどことなく可愛らしい印象を覚える、ナゲットくんが見えた。

『うおおおおおー』『やば…』『がち恋』『かわいい』『かわいい』『か

わいい』『美少女すぎる』『ファ!?なんやこれ…ガチ恋してしまう』『もう好きすぎる』『青空よりなぎちゃん綺麗すぎる…』『すこだ…』『なぎちゃんの寝顔ペロペロ』『おめめが可愛すぎる』『うおー！好きだー！』『俺の妹が可愛すぎる件について』『私の娘が可愛すぎる件について』『わし、この娘の古参なんですわあ』

賑やかに、沢山にあふれた配信コメントが見えて。

「……ああそうか」

わたしは今、VRに接続して、配信をして…この大地で、立って。立って……?ないや、え、寝顔?寝てたの?15000人以上の人に寝顔を見られた?……う、うう。

「うひゃあああ!恥ずかしい!てか、こういう始まり方なの!?街とか行かないんですか?!」

『草』『草』『へえく配信画面でもHPとかの概念見れないんか』『リアル基準のゲームなのね』『本人からはどう見えてんだろ』『久しぶりに草木を見たなあ、綺麗だ』『草木がみたい?群馬において』『なぎちゃんの方が綺麗だぞ』『ご乱心プログラマーなぎちゃん』

「よーしとりあえずさ、街から始めようよ!雑いよ!いじめかよ……本当にこの始まり方するの?そこらへん、どう?」

『いやあ……すみません』『初期位置バグってたね』『テストでは一回も無かったんです』『SSS社無能説』『これは無能』『有能無能さん?何か言って』『私の管理下で無いですし……誠に申し訳有りません』『パパ、失格!』『なんでやるなあ』『困惑するなぎちゃんかわいいし許そ』『いや本当かわいいわ……なんなん』

「もく…ちゃんとなおしてよー?……んー、じゃあ、ゆつくりこの世界を見よつか、ほら!向こうに何か見えるでしょ?あそこまで歩こつ」『向こう…?』『何も見えないが』『見えないぞ』『いや見えないですけど……』『おめめわるる?』『なぎちゃん、風とか空気とか感じない?』『これはグラフィックって言って良いのか……?』『質感リアルつちやなく、モデル場所知りたいわ』『ムーカンチャイらしいよ』『ああ!成る程な!』

え?見えない?おつかしいなあ、確かに遠いと思うけど……見える

と思うけどなあ。

「ぬぬぬ…風？言われてみれば、自然過ぎて気付かなかった、空気も…ふう、うん、いい空気…それじゃあ向こう側に歩くけど、村が街があったらみんな謝ってよく？それじゃあゆつくり行こっか」

『何もなかったらおぼんつ見せて』『ナゲットくんにキスして』『ナゲットくんに投げキスして』『寧ろ踏んで』『おにいちゃんって認めて』『ん？今初見の人のコメあったぞ』『顔見てガチ恋余裕でした』『ストッキングすこだ』『言いたい放題なぎ民』

いや本当だよ…おにいちゃんって認めないし、投げキスなんてしないからな。

「それにしても凄い質感…わたしがVR慣れてないだけなのかもしれないけど、そっか…こんなにも変わってたか。懐かしいな」

『愁いを帯びた顔も良いどすなあ』『ナゲットくん8割ぐらいなぎちゃん見つめてないか』『需要わかってんじゃん』『最終的にそこ』『可愛過ぎてデモプレイ見てること忘れてた』『これオンラインいつになりそう？』『2回目のデモプレイ次第ですね』『2回目やんの？』『ふうーん…察した』

「本来はランダムの街の宿屋から始まるんだよね、…わたしは草原スタートですが。宿屋の人から色々話を聞けるみたいだよ？わたしは草原だから聞けません」

『草』『草』『草原生まれのプロゲーマーがいるらしい』『根に持つて草』『2回目言うのはあかん草』『ごめんね、パパ後で問い詰めに行くからね』『ちよつと！元はと言えばあんたが任せるって言ったからでしょ！』『草』『コメントで争うSSS社員』

…この人やっぱりわたしのパパじゃないな、かつこよかったのは昨日だけかもしれない。

って、おお？全身が柔らかい体毛で覆われている小型獣…これは。

「野うさぎ、か？…ええとね、動物と魔物は別物みたいで、動物は懐いてくるみたいだよ？」

「よし、折角だしこの子も連れてこう、旅は道連れ世は情けなのだ」

！」

『かわいい』『スキップして近づくのかわいい』『動作がいちいち可愛いんだ』『デモプレイ見るはずがなぎちゃんを見ていた…?』『伝説の動物、カバはこの世界にもいるのか?』『伝説って?』『ああ!…:基本的に過去の文献、今生息している動物は居ます。』『現実で猫アレルギーだけど猫好きだから飼いたい…:』『いや、普通にVRの動物育成ゲーやれば良いのでは』

「よーしよし、怖く無いぞ、おいで?…:わーこっちきた、かわいい!…:撫でてみよ」

動物は好きだ、気ままに生きる姿が、わたしを元気にさせるからだ。…:実家で飼ってたわんこは、まだ元気かな。

うさぎを撫でる、ふっふっふっ、わたしの撫でレベルは神を超越しているぜ?」

「わわ!本物触ったことないけど…:すごいもふもふしてるよ!撫でがいがあるなあ〜こいつ」

撫つたそうにする表情を見てにつこり、もつくと欲しい?よーしよし…:このままタイムしてやるぜ。

『これは…:』『ええわあ』『桃源郷』『すき』『ナゲットくん迫真のカメラ演出』『このナゲットくん優秀過ぎる』『明日死んでも良い…:』『自然と笑顔になつてるなぎちゃんかわいい』『ここにこなぎちゃんかわいい』『うさぎ、代わってくれないか』『わいもよしよしされたい』

「んーよしよし、良い感じに小さいし、頭に乗せれそう…:うにゅ、心地いい重さだ!よっしやうさ吉!付いて来い!」

『草』『嫌そうな顔してる…:』『うさ吉は無いよ、なぎちゃん』『ネーミングセンス』『ださださネーミング』『シンプルでいいと思う』『得点稼ぎするな』『動物の表情すごいね』

「…:ほらーやつぱり見えてきた!建物見えるでしょ?ほらほら!わたしの言った通りじゃんか〜!みんな、ごめんなさいは?」

『まじかよ』『まじじゃん』『ごめんなさい』『許して』『なぎちゃんに見惚れて見えない』『わかる』『わかる』『それはそうとおぱんつは?』『千里眼発動!…:縞パンだな』『おまえ、有能』『あ、本来はその街で始ま

りますね』

……ノーコメントです。

「疑似人格プログラムは使っていないから、どれだけ精密な演算組んでるのかわたしが直々に確かめに行つてやろーう、門番さんに話しかけるよーい」

『まじ?』『出来るのか?』『話せるのか?』『今までゲームチャットすら禁止してたのに?』『なぎちゃんに試練が襲いかかる』『AI相手にはイケそうだけど』『いうて人間みたいなんもんやん、現実と違つてさ』『初対話ですね』

……まあ相手がAIならそんな怖気付きませんよ、さすがにね?

いや、ちよつと盛つたよ、少し怖いよ、相手がAIでも、この世界で生きている事には変わりないんだから。

でも、初菜と話して、思った事があるんだ。だから。

「こんにちは、門番さん。素敵な青空ですね」

「おや、これは美しい御嬢さんだ、珍しい服装をしているが、それは何方で?似合つていてとても素敵だよ」

……や、やば。思つたよりイケメン過ぎる対応なんだけど、ちよつと顔熱くなりましたワヨ??

『顔少し赤いやん』『照れ照れなぎちゃん』『あれは照れるわ』『ホモいるぞ』『イケメン!イケメンだ!うぐぐゴゴゴゴ』『ゴーレムするな』『スムーズな会話だなあ』『これで人格プログラム組んで無いんか』『門の奥に見える街が素敵』

「ま、迷い人つて言えばわかるかな、この服装の理由もそうなんだけど」

「おやー……なるほど、ようこそフランダーの街へ。歓迎しますよ、御嬢さん。」

う、うおお……まるで騎士みたいだあ、ていうか騎士なんだろうか?……うーん、おんなのこが乙女ゲーをする理由も理解出来なくは無いかもしれないなあ。

……気になってきた、今度の配信やろうかな。う、うん……やめとこ。一人のとき、こつそり、こつそりやつてみよう。

「うん。それでね？出来ればこの世界についての簡単な知識とか、うーんと、後はフランドールの街……で良いかな、についての事とか、教えてくれないかな？」

「それは、僕に？ふむ……分かった、たまには世間話に花を添えるのも、悪くは無いいね、御嬢さん少し待っててくれるかい？」

「おっけー。……よ、よし、ひととはなせたぞ！わ、わたし成長してる……でもらなかったし、あんまり緊張しなかった！ど、どうだなぎ民達！みたか！見直したか?!」

『かわいい』『かわいい』『見直した』『ガッツポーズなぎちやん』『これはUC流れますわ』『成長したなあ……嬉しいぜ』『うーん可愛過ぎる……』『お持ち帰りイ！』

「あ、ナゲットくん、今配信して何分ぐらいかな……もう1時間超えてる？そっか、取り敢えずキリのいい所までやって良いって許可貰ってるから、そうだなあ。みんな戦闘とか見たいよね？最後はそれで終わろう」

『いかないで』『いかないで』『もつと見せて』『アーカイブ残る？』『この時間に終わりがあるのか……？』『そんなのって……無いよ……』『あたまがまつしろになりそうだ』『狂いそう』

「ま、まだ行かないよ！気持ちが早まり過ぎっ！あ、アーカイブは残して良いって……！……それにしても良い空気だなあ……大昔の地球も、こんな空気だったのかな？」

「おや、誰かと話してたかい？」

「あ、いいえ！その……これから来るかもしれない迷い人達に、この世界を見せてたんだ」

なるほど、と頷く門番さんはいつの間にか鎧を外して、代わりに門番として連れてきたであろう人が、わたしの頭上を見て……？何かついてるかな。

「野うさぎがなせ頭の上に……？」

「野うさぎじゃなくてうさ吉です。……懐かれちゃったから？連れてきた」

「ま、まあ何も聞きませんよ。……じゃあエリック、案内よろしくな」

ぶふっ……！

『エリック?!』『エリック?!』『草』『腹がよじれる』『なぎちゃんが吹き出してうさ吉が地面に落ちたぞ』『こんなにかっこいいわけないだろ!』『実はこのイケメン無能では?』『エリック草』『え、どゆこと?』『後でアーカイブ貼るから見ろ』『その名前被つちやあもう笑うでしようよ』『居ない所で笑われるエリック』『悲しいです……悲しい』『ゲームの腕磨こうな?』

そんなの卑怯だって……ああごめんねうさ吉、そんなうらめしい目でみないで、ほーら撫でてあげよう。よしよし。

「げほっ、んんッ……ご、ごめんね?その、知り合いの名前と同じでさ?」「ははは、気にしないよ。……それより、実際に見て回った方が良いでしょう。付いてきて、この街を案内するよ」

大人しく彼の後ろに着く、……ごめん、名前で表記すると笑つちやうから、ふ……ふふっ。

世間話……って言っても、こつちが質問するだけなんだけど、なぎ民のコメントとかでの質問とかもしつつ、煉瓦造りのアートセンスを感じさせる建物は中世ヨーロッパのようで。

なるほど、緩やかな平和とはあらずじ通りのようで。この街は構造的に襲われる想定をしていないんだろうな。

「魔物とか、襲われるかもって考えなかつたりする?」

「良い着眼点だね……この街は遠い南の巫女様が結界札で護ってくれてるんだ、絶対的に強い結界で、みんな安心してるのさ」

『つまり安置か』『セーフルームやな』『メタやめろ』『まあリスポーンしてくる街が魔物に襲われてたらちよつと……』『巫女さんとな』『巫女……なぎちゃん……よっしや描いたる!』『絵師、有能!』『巫女巫女なぎちゃん?』『みたいですなあ』

「それに疑問に思った事はないの?もしかしたら、その効力がきれちやうかもよ?」

「その時は君主から授かった騎士の称号により、僕がこの街を死力を尽くして守るだけさ」

わあ……!本物の騎士みたいでかっこいい!言ってみてえ……こ

の先は通さねえぜ、わたしがいるからなア！って言うてみたいく！
『うーんかつこいい』『こんな人間になぎ民もなるんやで』『なぎちゃんの為なら喜んで死ぬる』『俺も』『私も』『わいも』『オレ達なぎ民なぎちゃんお守り隊』『ブラックの色は俺が貰う』『うわ！戦隊モノの裏切る奴だ！』

「……いやいや、わたしのためにそんなに必死にならないで良いから、て、照れるじゃないかよお……むう」

一通りの説明をしてもらい、これはデモプレイ的にも大満足な結果だと満足する。

そろそろ、配信も終わらせないといけない、キリがいい所までやっていいって言われたけど、だらだらとやるのは違うから。

「ありがとうございます……所で、この辺りで魔物が生息している所って、あるかな？」

「ふむ、それは……あるにはありますが、レディ一人で行かせたくはないな」

「ならエスコートしてよ、……だめ？」

「まさか、喜んで」

『なぎちゃん思った以上に話せるやん！』『引きこもりゲーマーじゃなかったのか!』『テンション上がるとああなる』『現実がダメでVRはOKなのか』『アゲアゲなぎちゃん』『なぎちゃんと話したい……』『VRって実体のスペックに依存するやろ？なぎちゃん魔物倒せるんか……?』『4キロぐらい離れてる街まで休みなしに動いて息切れ一つない。後はわかるな?』『まじかよ』

「あの森林の中にゴブリンの住処が……正直、僕としては殺めるのはしたくない」

「ん？なんで？魔物でしょ？」

「ふむ……迷い人達とはそこに認識の差があるのですね、確かに彼らは魔から生み出された、謂わば生物にとっての癌だ、ですが……統治する魔王が現れて以来、知性を持った。彼らも一つの命として、この世界に認められたという事だと、僕は思う」

『面白い設定やん』『普通に良ゲーでは?』『将来的にオンライン対応し

てなぎちゃんとは遊べるならやるぞ』『オンラインの場合どうなるん?』『それは今後のお楽しみという事で』『はい。』『おまえ素直か、かわいいじゃん』『なぎ民に萌えるなぎ民、うーん?』

「素敵な考え……そうだね、キミ達も生きてるんだ。よーしなら殺しはなしだ!ちよつとしたじやれ合いだ!」

彼と話しているうちに、森林に入り、住処らしきものが見えてきた……って、うおお。すげえ!

「普通に集落じゃんか!それにこの人達がゴブリン?!なんだか……」
『ドワーフやん』『ドワーフやな』『ドワーフやねえ』『想像してたのと違うねえ』『ほんと平和な世界って感じ』『洞窟の家かあ』『想像より発展してんね』『この平和を壊すことも出来る……ってなんか罪悪感が』『正直平和が一番だぜ?だからなぎちゃんの配信見てるんだし』『それはわかる』

「おや、人間のお二人。ナニカ用でしょうか?」

「け、けいごー!ごごご丁寧にどうも……わわっ、えつとね、この方に住処を教えてもらってね?」

「決闘がしたいそうだね。君達、そういうの好きだろ?」

「ほオ!それはそれは嬉しいですね。最近は退屈してタものですか
ラ」

『なんて理性的』『俺より理性的』『理性を磨こうな?』『ゴブリンとは?』『彼等ですが?』『うーんななぎちゃんゆらゆら動いて本当にかわいい』『ゆらゆらなぎちゃん』『かわいい』『かわいい』『決闘かあ』

「ではこちらに、専用の闘技場へ案内しまシよう」

「はくい。……ふふ、なぎ民のみんなに見せてやろーう!このわたしの、華麗な戦闘を!ナゲツトくん!ちゃんと映せよ?」

『フラグ』『フラグ』『武器とかどうすんのかな』『不要だ!』『肉体言語で語り合おうぜ』『徒手空拳とな?!』『ニンジャでしょ』『ナゲツトくん親指立てたぞ』『このナゲツトくん絶対感情あるって』『なぎちゃんのかわいいの余り意思が……?』

「武器は、好みませんか?」

「んく無しで!なんだかやり過ぎてしまいそうだからね」

「ほっホー！なんと勇敢な…それでいて自信に満ちている…：余程良い事があったようデは？」

「…え？う、嘘、そんなことまで解るの？ほんとうに擬似人格プログラムは使っていないんだよね？」

「少しだけ顔が青くなつたのを、このゴブリンは見逃さなかつたよう
で。」

「過ぎた言葉でしたかな…：では、僭越ながら私がお相手致しましよ
ウ」

「…よし。切り替えた、言っておくけど手加減できないよ」

『うおおおおお！』『開戦じゃくく！』『肉弾戦なんて久しぶりに見るわ』『最近レーザー銃とプラズマカノンしか撃ってねえしなあ』『どの兵士ですか？』『あ、黒曜石の剣また作らんと』『お前一昨日のか？なあ俺のカツラしらねえ？』『知らねえよ草』『覇気が見える…見える…』

お互いが構えを取り、それが始まりの合図を告げる。

…：ああ、久しぶりだ、久しぶりに体を動かせる。

「っふー」

「ヌツ…：ウー！」

剛の構え、一撃の重い打撃は、容赦無く防御を崩す。だけど決まりが悪い、防がれたか。

「研ぎ澄ました瞳は、時間が止まったかのように次の一手を予測出来る。右の拳。大丈夫、受け流せる。」

「パワーも上、早さもこつちが上、ただこの違和感と。第六感からくる直感は…：技量の高さか。」

「存外、巧いじゃないか…：久しぶりだぜ。型決まりしなかつたのは」「ぐっ…：フふ、それだけですヨ、あなたの力と速さには及ばない」

『うおおおおお！』『興奮する』『つつよ』『正規の格闘術じゃないな』『はえーなー』『これ俺らでも出来る？』『うーん…：？』『おぼんつ見えなのお！』『かなしい』『難しいかな』『やりがいあるやん…：ええづくじゃないか…：』『あ、プロハンニキだ』

「次で終わらせるよ」

「では、耐え抜いてご覧にいれようか」

事格闘戦に、搦め手はいらない。単純な力こそ全てだと、わたしは教わった。

腕を振る、ラリアットだ。

流石に読めたか。避けられる、解ってた。なら動く前に蹴る。

溝に入る前に飛んだ。良いのか？その間合いは対応出来るぞ。

「なんと……………ガッ！」

関節を伸ばし蹴る、流石にリアルでやると痛めるが、ここはVR。昔編み出した、わたしなりの……………いわゆる奥義。

『ひえ〜』『くそつよなぎちゃん』『お？この動き…』『うーん、強い！』『よわよわなぎちゃんは？』『そんなのいないぞ』『これはプロゲーマー』『すごすご身体スペック』『普通に稽古つけて貰いたいんだが、組んず解れつ』『おまえ、屋上』

確かな高揚感と、疑問。わたしはこんなに力はなかったし速くない、七年間の運動不足で体力も無かったはずだ。

「ム……………私では力不足だつタようで」

「え……………あ、ああいや、そんなんじゃないよ！とつても有意義でした、ありがとう！」

「いやあ、美しいだけで無くお強いとは、これが迷い人……………僕も稽古に励まねばならないな」

『なぎちゃんと一緒にするな』『なぎちゃんを基準にされたぞ』『おいおい勘違いされたわ』『なぎちゃんより、強い男に行く』『草』『銃に頼る時代は終わりだ』『今夜河川敷で待ってる』『なぎ民、修行してくるつてよ』

……………面白いから否定しないでおこ〜と。

「ふう……………今日はありがとう二人とも！楽しかった！……………迷い人にも色んな人がいるんだ、だから、よかつたら他の人にも……………優しくして欲しい」

「勿論だトも、君はもう友人タ」

「御嬢さん、名前を聞いても？」

「私はなぎちゃん！自称プロゲーマーのなぎちゃんだー！」

企業案件の、久しぶりのVR。それはわたしの大きく成長させる一歩で、ただただこの嬉しさを、楽しさを、みんなに伝えられたらそれは、素敵な事だよな。

「街まで送るよ」

「ううん、ここで良い……もうそろそろ戻らないと」

「ふむ……そうか。では、創造主に伝えてくれるかな、感謝を。僕を、エリックIIスターダストを生み出した事に、感謝を」

「う、うん……」

『ダメだ……笑うな……ッ』『耐えろ……ッ！耐えろ……ッ！』『まだまだ……ッ！まだまだ……ッ！』『なぎ民のコメでもうダメ』『感謝を（イケボ）』『腹痛い腹痛い助けて』『本当に悲しいの、わかります？』『一緒にゲーム練習しような？』『一周回って有能だわ』

よ、よし、行つた？行つたな？もう堪えなくて良いな？良いね？いいよね？……かっこいいのに笑っちゃうよあんなの……！

「よーし、おまえもどうぞさ吉……う、そんな寂しそうな目すんなよ、また会えるから。な？」

「つてわわ！胸に飛び込むな胸に！も……」

『サービスショット』『ありがとうございます！』『ナゲットくん！もつと下！下！』『下だつて！下！』『あーうさぎになりてえ』『なぎちゃんに飼われてえ』『好きです』『鼻血が抑えられない』『うさ吉、ナイス！』『はく、楽しかったねく、長くなつたけど、最後まで見てくれたかな？見てくれたら、嬉しいです』

「じゃあ……そろそろ現実に戻ろうかな。ナゲットくん！ありがとうね、褒めてやろう」

『荒ぶるカメラ』『このナゲットくん絶対意思芽生えてるって！』『喋り出してもおかしくない』『ワレ。なぎちゃん。スキナリ』『いやそうはならんやろ』『実際なんか加工した？』『何もしてないです。怖い』『草』『草』

「じゃあ、一旦配信止めるよ……ちよつと待っててねなぎ民達」

……ああでも、やっぱり寂しさはあるな。

もし、もう一回この世界に来た時は、なぎ民達と遊びたい。初菜と

……ミクちゃんと一緒に冒険したい。

司も呼ぼう！引きずってでも連れて来てやる！……管理人さんも、出来たら良いな。

「ありがとう……」

誰に向けてでもなく、零れ落ちた言葉と共に。

——こちらこそ、凧沙様。

私の体は現実へと帰還した。

☆

「録画終了です」

最大視聴者数はなんと、3万人を超えていたみたいで、一周回って冷静になってきた。……チャンネル登録者数とつおったー十のフォロワーが止まらない、これが……大企業のパワーということか。

ソレスタルビーイングさんには本当に感謝しないと、なんだか本当に……ううん、違う違う！あんな有能無能、パパって認めないんだからっ！

……あ、噂をすればなんとやら、メールが来てる。

『なぎちゃん、パパは嬉しい。』

大成功ですね。本当に嬉しい限りです。そしてありがとうございます。楽しそうに、心から楽しむなぎちゃんを見て、こちらにも楽しさ伝わって来ます。今回の配信で本社も火が付きまして、久々に当たりのゲームが作れそうです。

今回のなぎちゃんの配信で、救われた人は沢山いると思います。自信を持って下さい、貴女は人の人生を明るく出来る。夜に輝く月のような人です……少し臭い事を言いました、今回はデモプレイお疲れ様でした。再度、ありがとうございます。

なぎちゃんのパパより』

……だからパパじゃないでば、もう……卑怯だよそういうの。

……電話だ、もしかして、司？

『風沙、おめでとう』

「ツ……………う、うん！うん！」

『これだけの事が出来たんだ……………もう何も、恐れなくて良い』

「うん……………うん」

『きつと風沙の家族も、見直してくれる。風沙、おめでとう』

涙は、出したくない。親友の前だもん、見栄ぐらい張りたいたいんだ。

「ありがとう……………司、司のおかげだよ、司が居てくれなかったら、言ってくれなかったら、何にも出来なかった。ありがとうはこっちの台詞だつてーの……………ばか」

『ハハッ！まーな、俺様を敬え敬え……………そう遠くない日に休みが取れそうだ、そっちに顔出す。その時に、色々話そうぜ』

「それは……………つ、そう、だね。うん……………いっぱい話そう？」

『おう、それじゃーな。……………ああ、言い忘れてた、管理人さんもおめでとうつてよ、近いうち祝いに来るつて、そんじや』

……………つてええ!?く、来るの?!家に!?ま、まあ、うん……………管理人さんとも、もつと話したいし、仲良くなりたいたいから。い、良いけどさ？

『ピンポン……………先輩？大成功のお祝いにケーキ作りましたよ、良ければどうですか？』

「……………ふふつ、今日はフルコースだなあ」

涙を拭く。正直、全然拭けている気がしないんだけど。

ああ……………本当に。

「今開けるよ……………！」

生きていて良かったつて、そう思った。

きゆうわめ!

朝になる、見慣れた天井を惚けた頭で数秒見つめて、ふと歯磨きしないとのっそり起き上がる。

とてとてと洗面所まで歩けば、寝間着姿のわたしが映る。

銀色のシルバーブロンドに、黄金色のおめめ。寝ぼけた顔が可愛らしい。

適当に着たTシャツが少し開けてたので整えて……と。うん、今日もわたしはかわいい、かわいい……ぷにぷにと頬を手で押してみる、女性特有のもっちりした肌がわたしの手に伝わる。

何も違和感がない、生まれて今までこの姿だったと確信出来る体だと思う、が、わたしは元々この体ではなかったとも思っている。

この奇妙な感覚は、一生つきまとうのだろうか？

「まあどつちでもいいか」

何方にせよわたしはわたしなんだ、ならそれでいいと思う。何が原因で、何の要因でこの体になったのかは不明だが、それを知って、わたしの在り方が変わるのかそうでないのかは、また別のはなしで。

頭がスッキリしてきたらお腹が空いてきた……昨日作りすぎたシチューは家庭用保熱庫に保存済みなので、直ぐに食べられる。

画期的だよこれ、なんで冷蔵庫と同じ鮮度で保存出来るのかは置いて……いや、わからないわけじゃないけどね？

温かいものが何の間もなく、直ぐに食べられる幸せに、わたしは感謝しないといけない。

「はふはふ……もぐつ。ちよつと甘すぎるかな……うーんでも、甘い方が好きだしなあ、コーヒーは別として」

2日ぶりの配信日になる、パソコンを操作してわたしのチャンネルを開くとそこには登録者30000人以上の文字が。

いやまじかよ、あのデモプレイにいた視聴者さん達みんな登録してくれたのかよ……嬉しいけどさ、うれしいけどさ!? 3万人も登録してくれるなんて思わないじゃんかよ……感謝しないといけないなあ本当に。

ま、まあ？わたしも成長したからこの人数に怖気づくことはたぶんおそろくきつとないけど？人気自称プログラマー配信者なぎちゃん見せてくけど？

そ、それに全員が全員来るわけじゃないし？配信が始まる前に3万人が来てくれるわけじゃないのはわかっているし、あくまでもSSS社が大々的に宣伝してくれたデモプレイ配信から流れで登録してくれた人達もいるから、わたし自身の配信でどれだけ人気が出て、どれだけの人が楽しんでくれるかは、まだまだこれからなんだ。

「う〜……今緊張してどうするんだ、全く」

突然かも知れないが今回から、顔出ししようと思う。

……デモプレイで顔を出したし、今更顔を出しても……いやまあ恥ずかしげどさ、恥ずかしいですけど。最終的に三万人以上に見られてるし、うん。

それと日頃、配信を見てくれているなぎ民への感謝もある、やっぱり顔を見れたほうが配信映えもするだろうし、出来ないことも出来る……かも知れない。

特定の心配がないのも、顔出しを決意した一つだろう、親友二人には足を向けて寝られないな。もちろん管理人さんにもだけけど。

司には、言わなくてもいいだろう。会う約束はしたんだ、その時になつて……話そう。それで良いはず、だよね。

なのでいい加減な髪には出来ない、しっかり整えないと……別に自分のできるし。

気分転換に何かゲームしよつかな……いや、人気配信者の配信見るのもありかな。

わたしは配信者を見る時、コメントはしない派だ、べつに有名になつてきたからとか配信者になつてからとかではなく、その前からコメントはした事が無い。なんというか、わたしは他の人の中庭に入るのが好きなんじゃないやなくて、その中庭で楽しんでいる配信者を見るのが好きなんだ。

……初菜とか、配信者にならないかな。ミクちゃんとしてやって欲しい、わたしの初コメを上げてても良いかも知れない。なんて。

「お願いしたら案外してくれるかも知れない……うーん」

あ、プロハンター先生が動画出してる、この人本当ゲーム上手いなあ……へー、この攻略こんな事するんだ、思いつかなかった……わたしでも練習すれば出来そうだな。

RTA配信っていうのもありだなあ、もちろん自分でチャート組んで試走を繰り返してからだけど、うーんでもRTA出来て配信向けのゲームってダウンロードしてたかなあ？また新しいゲーム探して買うかなあ？

ああでもやっぱり、コラボ配信っていうのはしてみたいな、う、うまく喋れるかはわからないけど……とっても楽しいと思う。

☆

準備完了、いつでも始められる。待機列には5000前後の文字が。

何にせよたのしむ事を忘れずに、今日もなぎ民のみんなと騒いで遊ぼう。

「はろはろー！自称プログラマーのなぎちゃんだよ！……今日から、顔出ししてみることにしたけど……どうかな」

『はろはろー』『待ってた』『かわいい』『投げ銭』『ガチ恋』『神回』『も〜好き好き！』『あーかわいい』『初見』『このガチ恋製造機め！』『リアルとヴァーチャル、どちらもなぎちゃん』『瓜二つつーか変わらねえなあ』『まあ自己投影アバターやし』『リアルの方がかわいい』『僕はVR派』『へー、戦争かよ』

「先ず最初に、二万人登録者突破ありがとう！本当に嬉しいです……SSS社のデモプレイ配信からの新参なぎ民も、初見さんの人もたくさんいると思う。これからも、そして何が有ってもわたしは、みんなとたのしんで配信するからね」

『投げ銭解禁されてるやん！』『5万』『5万』『5万』『5万』『5万』『開幕20万で草。5万』『金投げすぎだろ5万』『じゃあ俺も5万』

うわあ?!なんだなんだいきなりなんだ!?!やばいやばい……数字の

羅列がやばい……投げ銭金額非表示にしよう。

よ、よし。これでおーけー……終わった後に口座見るの怖くなってきた。

「う、嬉しくないわけじゃないけどさ……無理しないでね。よろし楽しむぞー」

『たのしもう』『今日も祭りだ』『俺の生きる意味』『感謝を』『それやめろ』『ところでなぎちゃんブラ付けてるん?』『おまえ……』『半年ROMれ』『開幕のけ民、もう帰っていいよ!』

「なななに言ってるのさあ!?!……へ、へんじやないよね?だ、大丈夫かな……ゲームするときにはワイプ画面にするつもり」

『へんじやないよ』『何も変ではない』『かわいいんだぜ』『今回は何をするんです?』『うへへ……半袖シャツええなあ』『オレンジ色ええなあ』『かわいいぜ……』『わいの妹の配信やってるやん!』『ぼくのだぞツ!』

いや誰の妹でもないけど……へ、へんじやないか、大丈夫か、良かった良かった。

『ところでパソコン?VR?』『VRホラーやろ』『VRフィールドで遊ぼう』『VRじゃないん?』『直結丸出し君、裏庭』『なぎちゃんは基本PCゲーだぞ、二日前が案件だっただけで』『どっちでも良いけどVRホラーはしてほしい』『わかる』『わかる』

「VRは基本しないかなあ……んー、何かの記念配信か案件かコラボとかだったら、やるかな……?VRフィールドも同じ感じ、わたしはあくまでもパソコンのゲームがしたい……もつとなぎ民に広めたいから」

VRホラーとか絶対しないからな

「今回はねえ……よいしょ!このゲームやるよ……ととーる社から『Death is Not an Escape』だよ!」

『うおおおおお!』『ホラゲーじゃん』『ホラゲーだな』『出来るのか……?』『で、出た!異世界に囚われた四人のプレイヤーが協力して7つの願いを叶えるボールを探し、元の世界に帰るために襲い来る異世界の狂人から逃げるゲームだ!』『キラ側は二人だっけ?』『一人で

す』

説明しよう！Death is Not an Escape. とは非対称対戦ホラーゲームである！異世界の狂人であるプレイヤー1人と、異世界に囚われてしまった4人のプレイヤーに分かれて対戦するゲームだ！

四人のプレイヤーは異世界の中の隠された宝箱に入っており、願いを叶えるボールを7つ探し、狂人側は7つ集まるのを阻止する為に4人のプレイヤーをぶつこう！

狂人側の豊富なジョブに対し、探索者側は総じて無力！小石を投げるのが関の山！コーナーで差を付けながらなんとか逃げつつ、早急に宝箱を開けよう。開ける判定に失敗すると何故か警報がなるぞ！注意しよう！

異世界と言っても便宜上のものではなく、ファンタジー要素はそんなに無いぞ！普通に現代をモデルにしたステージがあるぞ！

「……まあホラーだけども、対戦ゲームだしそんなに怖くないよ、それにわたし狂人側でやるから」

『え？』『なんで？』『どうして？』『逃げるな』『逃げるな』『なぎちゃん、一緒に逃げよ？』『そんな……そんなのって無いよ！』『ニーズに答えてくれ』『需要を察してくれ』

「ニーズに答えるってなんだよ！だってだつてみんなどーせわたしの怖がってるの見て、よわよわなぎちゃんとか動画名つけるんだろ！読めてんだよお！気にしてんだよ!？」

『草』『草』『涙目草』『ソナナコトナイヨー』『なぎちゃんの華麗な探索者操作してみたいな』『一緒にプレイしたいです』『まあまあ、じゃあ公平にランダムで行こう』

「うー……まあ、なぎ民と協力して逃げるのも楽しそうだけど……はあ、まあ普通のホラーより怖くないし、わたし結構やりこんでるし……」

「わかったよもく、需要に答えてやるか……負けたら罰ゲームとか無しだからね！わかった〜?」

『やったぜ』『やったぜ』『さすがなぎちゃん』『信じてた』『よつなぎちゃ

ん!』『あれートSS後半だ、負けたわ』『やり込みゲーマーコワイ……』『なぎちゃんの後ろは任せろ!ぺろぺろ』『任せろ!』『俺も俺も!』

「良いの?わたしの周りになぎ民居たら囿に使うけど、命捧げられる?わたしのためにかっこいい所見せられる?」

『任せろ』『任せろ』『心臓を捧げよ!』『なぎちゃんの為なら狂人なんて怖くない!』『なぎちゃんが囿に使われるに一票』『そんな事するわけないじよまいか』『まさかーそんなーしませんわー』『少しは隠せ』

な、なんだか複雑だ……本気なのか冗談なのかわからない所が特に……囿に使われたら名前覚えてやるからな

「よーし、じゃあそろそろなぎ民も準備できたね?ゲームの性質上直ぐに終わらないから、先着で入れなかつたらごめんね?一試合毎にメンバーは変えるつもりだから、次は入れると思う!」

流星に今みてくれているなぎ民の全員がわたしとゲームと一緒にやれないのは確実だから、その人達にも楽しんでもらえるようにしないと……よしっ。

『やる気まんまんななぎちゃんかわいい』『リアルでも良く動くなあ』『軸ブレなぎちゃん』『うーん、5点!』『この日の為に通信スペック上げました。国家認定SAD型です』『サーチアンドデストロイ型だとオ!?……それこのゲームと相性悪いよ』『え……』『かわいそうになつてきた』

「お、おう……元気出してね田中さん?……わっ、埋まるの早いね、さーて記念すべき最初のメンバーは……偽兄さんと、ユーさん!いつも動画ありがとうね」

残りの二人は、初参加かな?ニンジャさんと狩人さん……ってこの人もしかして!?

「かか、狩人さん……プロハン先生!ひゃ、ファンです!その、えうあ……ああ、格ゲー配信の時対戦してくれてありがとうございます!あ、あの。お暇な日にプライベートでゲームしましょうね!」

『草』『オタムーブ』『オタオタなぎちゃん』『慌てようがガチ』『本物やん』『実質コラボ』『格ゲー配信って?』『アーカイブの45分ぐらい見

ろ』『プライベートでゲームって?』『罰ゲームの内容』『ありがとう!』『こいつかわいく見えてきた』『よろしくね、なぎちゃん』

はわわ……緊張してきた、下手な所見せられないぞ。格ゲー配信の時はお見苦しいの見せちゃったけど、今回はそうはいかない。

「狂人かな、探索者かな……はい。探索者です……あ!狩人さんもだ!勝ち確なんだよな、それで偽物のおにいちゃんが狂人かあ、やっぱ偽物だったね」

『しっかし動画映えるなあ……』『顔出した方が華やかよね』『表情もわかって最高か?』『おにいちゃん、やはり偽物』『最初から知ってた』『やっぱりな、俺がなぎちゃんの兄やもん』『妹よ、血肉を引き裂いて一緒にしろ』『こええよ』『やめろやめろ!』『荒れるぞ偽兄』『草』
こ、こわ……てか偽兄も私と同じぐらいのレートだし、油断できないな、気合い入れて行くぞ!」

ステージはキャットスルタワー、市街地かあ……遭遇しにくいけど、それは味方もなんだよな、まあ無難に宝箱探そつかな

「う〜緊張する、徐々に探索者とかしたなあ……やっぱちよつとこわいなあ、話してる時にいきなりばって現れたらどうしよう」

『なぎちゃんの怯え顔ペろペろ』『ペろペろ』『スクショしたお』『配信だつてわかってても緊張する』『これキラー側からバレない?』『正直一々別の画面見てる暇ないと思われ』『なるほどね、まあ勝ち狙うならそりやそうか』『どこも似たような風景で見ても見当はずれとかだつたりするしねー』

「このゲームはチャットとか使えないし、味方のHP以外、マップも無ければ味方の姿が見えるわけじゃないから、最初は難しかったな……いまからやる人は上手い人のプレイを参考にしようね、狩人さんとか!」

『はい』『なぎちゃんの動きみまーす』『なぎちゃん見てまーす』『なぎちゃんしか見えない』『俺らなぎ民なぎちゃんだけを見つめ隊』『私も』『僕も』『ブラックも』『裏で話し合ってるのか?おまえら』

「ふふつ……なにそれ。照れるからやめてつてば……あ!狩人さんが1つ目のボール見つけた、早いなあ」

『かわいい』『かわいい』『あああほんまかわいい!!』『狩人さん早すぎ内科?』『内科だなあ』『やめろ』『その傍ら、ユーさんは足を引きずつてましたとき』『アレ吊られるね』『吊られるね』

「わわっほんとだ……まだ序盤だし助けにいこっかな……あ、地下行きだ。やめよ、じゃあね」

『草』『草』『薄情すぎる』『直ぐに切り替えたよこの娘』『判断が早すぎる』『無能は犠牲になったんだ……』『まあ地下はなあ』

「おーし宝箱みつけ……さーて開けるよ開けるよ……」

「つてアレ狂人だ!心音無効パークつて課金ガチャだろそれ!?わわっ、きてるきてる!つやっぱこわいつて!だ、誰かないの!?小石投げて動き止めてよ!」

『まつてた』『ナイスウ!』『これは真のおにいちゃん』『狂人名サックマン!狂人唯一の投擲持ち!遠距離攻撃を対応した恐ろしい狂人だー!足の遅さがネックだが、その分心音無効や足音無効などの潜伏能力が極めて高い!』『はい説明乙。実際強い』『チエイズ勝負に持ち込めるか?』

「いっ……!なんだあのエイム!?肩に手斧刺さった!ばかばか足遅くなるんだつて!やだやだ待って!足止めろ!別んどこいけこのっ……」

「ひゃ!今、今髪掠めたぞおい!?当たったらあの世行きだよ!おい妹をいじめて楽しいのかよばかあ!!」

『草』『草』『相変わらずの憑依具合』『心地良い罵声』『おくちわるわるなつてきた』『思った通りの表情してた』『イメーヅ通りの表情で草』『あははく待って待て妹よ』『あははく(狂気)』『やべえよやべえよ』『怖くなつてきた』『どうやってチャットしてんだ?』

「あ!ドウモ、ニンジャさん!その手に持つは……小石!なげちやえ!へっ、そう簡単にくたば……はあ!?傷害無効パークとかお前チートだろおい!そのキャラ使い込みすぎだろ!」

「ちよつと!?一目散に逃げないでよ!ちよ、障害物置くなお前!見捨てんなよおい!なあってば!や、やばい……逃げ道がない!うわっ近いってちかいからあ!」

『腹よじれる』『この感じ親の顔より見たい』『いつもこう?』『そうだよ』『気に入りました』『なぎ民に追われ、なぎ民に見捨てられるプロゲーマー』『偽兄上手くね?』『元プロゲーマーですし』『まじかよ』『草』『草』『だからどうコメしてるんだって』『あつその先確か……』

「あつやば行き止まり……わ、わかった、認めよう。おにいちゃんって認める、だから回れ右しよう?妹のお願い聞こう?」

「じりじり近づくなこええって!ひやわ!手斧投げる必要あった!?!や、やめて……まだ生きたい!一緒に生きよう!ね?ね?……にやあー……!」

『やっぱ面白えわ』『好きです』『画面越しに祈って草』『ワイプ画面が面白すぎる』『エンターテイナよなあ』『あ、これ地下行きだ』『脊髄反射の命乞い』『殺意という名の愛』『二人目ですか』『一人目だぞ』『あれ?ユースさん助かってる』『狩人さんが助けてたよ』

「離れろ!離せ!……んーむりかあ、まあわたしが困になってボール6つ集まったなら上々でしょ、うん。チームで勝てばよかろうなのだ!」

「……え、なんですつと居るの?ねえ、他の人追わないの?……ねえちよつと、ねえ」

『これは……』『お見送りだー!』『絶対一人殺すタイプかあ』『なぎちやんはかわいいなあ』『だから怖いから』『いやあ草』『高すぎる殺意』『逃す気がなさすぎる』

「……じゃあお話ししようおにいちゃん、お仕事上手くいってる?体調は?わたしの配信、ちゃんとできてるかな、楽しんでる?」

『草』『この状況で!』『TRPGとかやらせてえなあ』『絶対名演技出来るぞ』『まるで役者』『妹の愛情が俺の心を溶かしていく……』『おや?』『これは』『あに は しようきに もどった!』『草』『草』『草』『よし、じゃあまずこの縄を外そう!そしてわたしを逃がそう!ね?ね?』

『ゲームシステムの壁は超えられんわ』『草』『草』『あ、これなぎちやん以外全員助かりましたね』『神回しか作れないプロゲーマー』『助け

られなくてすまない』『パーク構成が強すぎた、何時間掛けたん？』『いうて88時間。それに他のパーク弱いから手斧外すと結構痛いんだよね』『へー』

「くっそ〜!!!はい解散！部屋作り直すからね！つぎだよつぎ！」

『やけくそプログラマーなぎちゃん』『楽しかった、ありがとう』『偽兄に全てもってかれたな』『キャラが強すぎるんだって』『ニンジャより薄かったユーさんのキャラ』『やめてやれ』『狩人さん視点でも見たいなあ』『録画してある』『ありがてえ！』『延長する？』

「つたくもう……へへ、延長するよ。もつとみんなと遊びたいもん。」

今日はまだ終わらない。この後もなぎ民と『Death is Not an Escape.』を楽しんだ。

なぎちゃんよくばりセット

『編集完了したわ、取り敢えずここ最近の一週間の抜粋しといた、ほな
動画投稿ポチー!』

『有能』『有能』『有能』『始まるぞます』『行くでがんすよ!』

【月曜。パズルなんてよゆ〜ですから配信】

「ま〜わたしは天才ですから? パズルなんて余裕だよ!」

『草』『イキったなー』『これはフラグ』『あほあほの予感』『まあこのゲームは簡単な方やし』『コメントOFFにしようか?』『なぎちゃんパズルは無理だよ』

「ば、バカにしゃがって、ふーん。そんな事言うなぎ民の手なんて借りないんだからね!」

『あつ……』『言ったな』『二言はないな』『後戻りはできないぞ』『良いのか? 本当に?』『へ〜ほ〜ふ〜ん』『成る程ね、未来が読めた』

「な、なんだよ……パズルゲームでも簡単な方だし、大丈夫だよーだ」

「よ、よし、まずは一つ目クリア、ほら見たか?これがわたしの実力ですわ?」

『まあ』『出来て当然』『イキるにはまだ早い』『その調子で次行こう』『まさかパズルもプログラマーなのか?』『またうまうまプログラマーの称号を?!』『天才美少女なぎちゃんが!』『嘘やろわいの彼女が!』『ほな屋上』

「うえ、なんだこれ……待つて待つて……」

「ええ? こうじゃないの? ちよつと〜、まだ5問目なんだけど」

「んん? は? はえ? わかんないわかんない……」

『草』『草』『くそぞこ』『知ってた』『未来予知するまでもない』『あたまよわよわなぎちゃん』『うーんこれはあほあほ』『あわあわしててかわい』『うっそだろなぎちゃん草』『ええ……?』『あほかわい』『あつあつ……な、なぎ民のみんな? 教えても良いんだよ?』

『嫌です』『嫌です』『ざまあ』『はっはっはっは』『飯ウマー!』『己の発言を悔め』『助け借りない言うたのなぎちゃんやで』『悔しかろ? 悔

「しかる?』『自分の発言に首を絞められるプロゲーマーがいるらしい』『う、うう。うううう!!じゃくもういい!気合いでやったるわ!その代わり最後まで付き合えよ!ちくしょく!」

『ぐう畜なぎ民の誕生』『初のアーカイブ残らなかった奴な』『この回許可は?』『取ってる、なぎちゃん優しい好き』『あの後ムキになって終わるまで12時間配信したんやで?』『半日やんけ草』『やや涙声で助け求めるなぎちゃん見れて僕は嬉しかったです』

【水曜。格ゲーしますよ対戦配信】

「よし、初の対人戦。緊張するけど…負けるつもりも無いよ!」

『ごつちもやで』『昇竜拳!』『烈風拳!』『竜巻旋風脚!』『霸王鉄槌!』『開戦のコングだー!!』『うおおおおお!』『ぐつ!右手が疼く!』『なぎちゃん負けたら罰ゲームしよ』

「うええ!?うーんでもなあ…じゃあなぎ民が負けたら、わたしの言う事聞いてもらいまーす!その代わりなぎ民が勝ったら言う事聞いてあげるよ」

『うおおおおお!』『ちよつと待って本気出す』『おにいちちゃんって認めさせたるわ』『ガチで倒すわ』『マジにさせちやったねくもう止まらねくぞく?』『覇気出てきた、ごめんなぎちゃん。全力で行くわ』『ふふつ…みんなも気合が出てきた所で!最初の相手はこの方だく〜!じゃん!わたしの旦那さんってうわああああ!!』

『ビューー!』『草』『草』『策略に嵌ったな』『これは諸葛亮孔明ですわ』『策とはこう使うのだよ』『天才だよあんた!』『なぎちゃんの動きが止まって草』『おーい?なぎちゃん?』

「……………てめえボコボコにすつから」

『ビエツ』『ガチトーン』『マジの声』『ネットヤンキーかよ…………』『やばいやばい』『謝るなら今かもしれないぞ』『これはこれで……………良い』『ダメだこいつ、遅過ぎたんだ』

「はい、わたしの勝ちです。名前を変態うじ虫に改名して下さい、命令です。わかりましたね」

『草枯れた』『こわい』『新手的ホラーですか?』『ひえっ……』『感情を失ったプロゲーマー』『あまりの恐ろしさに低評価0』『なぎちゃんに名前つけてもらったお!』『お前のメンタルなんなん?』

「次の人です、よろしくお願ひします」

『ガチ回』『強過ぎたわ』『プレイ中無言だったのがまたね』『結局本気出したなぎちゃんに勝ったのわ?』『狩人さんだけだよ。ミクちゃんは判定負けした』『プロハンの人か』『まあプロハンやしな……』『罰ゲームなんだっけ?』『またゲームしようねだったっけな』『良心的すぎる』

【木曜。ぶよと名のつく例のゲーム配信】

「うーん、正直わたしこのゲームあんまりしてないから勝ち星少ないだろうな〜」

『俺もそうやで』『気楽にやるかあ』『今日も罰ゲ……なんでもなくて』『得意でも不得意でも無いゲームつてあるよな』『なぎちゃん出来るジャンルが多すぎるんよ』『パターン&トライ、覚えてやり続けるだけやで』

「うんまあ、その。一人プレイが殆どなんだ……わかって?」

『あっ』『あっ』『今はなぎ民がいるだろ』『俺たち、友達やで!』『恋人やで!』『それ俺や』『わいや』『僕ですが』『あーはいはいOKOK、部屋立てたわ、入ってこいよ、一位が恋人つて事にしたるわ』『望むところなんだよなあ!』『インドで一位の僕に勝てるわけないだろ!』『今日の戦争はここかあ!』

「ど、どうどう。落ち着けなぎ民達、まず第一にわたしは恋人になった覚えはないから……もー、なぎ民同士で話すのもいいけど、わたしの相手をしてよね」

『かわいい』『かわいい』『かまってちゃんと化してる』『昨日がアレだったから今日は甘い』『なぎ民も下手な事言えんぞ』『はーい。』

「じゃあやるよ〜!さーて今日の最初の対戦相手は〜?どおーん、田中さん!……初回放送から見てくれてるよね?ありがとう」

『あつ』『マジか』『ついに邂逅してしまった……』『配信前に全ての仕事終わらせてんだよあいつ』『無駄にやりおる』『よろしくお願いいたします』『どんな腕前なんやろ』『賭けしようぜ、俺田中』『なぎちゃんに一票』

「さてまずは……つて、レート高いじゃんか、油断できないな」
「うおお！あぶねえ！普通に上手いなあ……！でもそう簡単にやられね〜ぞ〜！」

『票訂正良い？』『ダメです』『うお？』『接戦では』『まじか？まじなのか？』『まさかなぎちゃん負けるのか？』『負けてしまうのか？』

「あ、待つて待つてそれだめ！今邪魔しないで！もう残機ないから！待つてつてばあ！あ、あ〜〜」

『よわよわなぎちゃん』『普通に負けたな』『賭け負けたく〜！』『データ送ったから解析して？』『お前これ……まあええわ』『普通に田中が強かった』『成る程、こういうゲームは中の中レベルなんやな』『まあ誰しも得意不得意があるんや』『ありがとうございました』『田中公園走ろうぜ』

「ん〜〜でも楽しい！ほらほら次の人！どんどんやろうよ！」

『終始和やかだったね』『珍しくゆるーい感じだった』『田中上手かったな』『まあ田中の得意なジャンルあれぐらいだけだな』『草』『草』『草』『氣楽にやり始めたのはこの辺りか？』『数字に驚くのが無くなってきたのはこの辺り』『まあ数日後に案件きたんですけどね』

【金曜。名探偵に、なぎちゃんはなる！配信】

「あたまあほあほとか、頭脳プレイ（物理）とか、あー良いですよ良いです！ならこういうゲームやって見返してやるからな〜！」

『草』『草』『これはじつちゃんの名にかけてるわ』『もしかしてつおつたー+エゴサしてる？』『蝶ネクタイ使いそう』『で、結局何するの？』『エゴサしてたらあほあほとか、よわよわとかえちえちとか……少し自重してください』

「ンン〜……というわけで猟奇ミステリー推理ゲーム、やってくぞ〜」

〜!」

『うおおおお!』『珍しいジャンル』『珍しく中小企業の所か』『普通のVRゲームにないジャンル』『作り辛いんやろな』『演算が上手くないとかなんとか』『VRフィールドに似たのあるけど、うーん』『こういうのは見る方が楽しかったりする』

「んー、わたしはやる方が楽しいけど。結果とか知っていると、他の人を見るの楽しかったりするのわかるなあ、……あ!ネタバレしないでね?わたしとの約束です」

「おお……ち、ちよつと怖いじゃんかよ」

『館い演出するやん』『思えばミステリー系ってやったこと無いかも、試しにやろうかな』『ミステリーってホラーだよな』『一概にそうとは言えんだろ』『霊的なミステリーでは無いでしょ』『うーん……?なぎちゃんこのゲーム前情報有りで買った?』

「んー?ううん、前情報無しだよ、だから初見なんだ、まあホラーにジャンル分けされてないなら大丈夫でしょ」

『あつ』『あつ』『三秒後のこの子が見える』『未来視しなくてもわかる』『ついでにきょうのおぱんつの色は?』『わからん』『たまには自分で知ろ』『んな無茶な』『千里眼ぐらい使え』『無理です』

「つて、え?ナイフが……こつちに向かつてくるよ?なにになに?」

「ひゃああ!おい!脅かし……ひえ……す、すみません……ごめんなさい……はわ、閉じ込めないで……出して、出せ、おい出せ!」

『草』『草』『草』『一級フラグ建築士の称号を贈呈しよう』『うーんこの子ほんま好きや』『やっぱこれだね』『ミステリーだしそらそうよ』『見事にジャンル詐欺食らったねえなぎちゃん』『猟奇ミステリーでなんで気付かなかったんだ』

「そ、そんな……こんなはずでは、わたしは嵌められたのか?な、なんで、うううう……」

『奇跡的にも画面と外がシンクロしてる』『シンクロ率120%』『ぼんこつ探偵なぎちゃん』『いやあ今日の配信も高評価押すしか無いな』『自分の責任だから当たる事も出来ないの草』『まあストーリー面白いから、進めよう?』

「うう、わかったよお……進めるよみんな……」

『これすき』『おれもすき』『怯えるなぎちゃんすこだったわ』『あの後普通にストーリーの内容良くて評価変えたのもおもしろかった』『なぎちゃんの認めたホラゲー認定?』『猟奇ミステリーだぞ』『初見でもあらずじは見た方がええ』

【日曜。おんなのこを攻略します!配信】

「この恋愛ゲーやってみたかったんだ、この正統派ヒロインって感じのこの子ぜってー攻略する」

『なぎちゃんは百合なのか?』『レズレズなぎちゃんなのか?』『ツンデレの子の方が好きです(ボソツ)』『ぼくはなぎちゃんを攻略したい』『押し倒したら流れでいけそう』『恋愛ゲーとかひっさびさに見たわ』『VRフィールドで事足りるんだよなあ』

「そっか、VRフィールドで家庭作れるし、あれも実質恋愛ゲームみたいなもんだよね、みんな家族は……大切にしようね。何があっても後悔のないように、大切に、ね……なぎちゃんとの約束」

「おお、ヒロインに名前つけれるよ!どうする?どうする?」

『ミクちゃん』『ミクちゃん』『ミクちゃん』『そりやミクちゃんよ』『それ以外にあり得ない』『これがなぎミクかあ』『ミクなぎだぞ』『嬉しいです、そうしましょう?』『本人もそう言うてる』

「お、おう。まあ良いけどさ……なんか恥ずかしいな、お水飲んで深呼吸しよ」

「おお、かわええ。後輩キャラええなあ。正統派やん……かわええ、ええなあ!」

『なぎちゃん口調が』『完全におっさん』『おっさんプロゲーマーなぎちゃん』『おっさん回か』『おっさん配信に変えろ』『パンツ覗こうとするな草』『なーにやっとなじや草』『まるで男子小学生みたいだあ』

「うへへへく……ってあれ!?なんで?好感度下がったんだけど?」

「ああつ、また?!どうしてどうして、わたしは間違えているのか?」

『草』『草』『それはそうですよ』『うーんぼろぼろ』『女心がわからない

プロゲーマーがいるらしい』『天然ジゴロなのかそうで無いのか』『これマ?』『いやこれ多分……』『ファツション百合だったな』

「あれえく?おかしいぞ?うーん」

「私を嫌うあなたなんていらぬ。そんなことを言うなら……って、え、なんか怖い事言ってきた」

『おや?』『好感度が下がったのではなく……』『ヤンデレ化だー!』『草』『草』『いやあうん草』『別にこんなことしませんけどね』『風評被害受けてて草』『ヤンデレミクちゃん』『ヤンデレに愛されるプロゲーマーがいるらしい』

「は?!いや、は?!この恋愛ゲームいきなりバトルゲームみたいになってきたぞ!なんで屋上で鈍もった女の子と金属バットでやりあってんだ?!うおお、待て待て展開よ待て!ツツコミが追いつかないんだってば!」

『うーん、神回!』『やっぱミクなぎだったな』『これどう転んでもバツトエンドじゃん……』『効率的じゃないですよね、もどかしい』『役に足りるミクちゃん』『ノリノリじゃん草』『本当に役なんか?』『こなんん実質なぎちゃんとミクちゃんのゲーム配信やん』

「なんでや……」

『いやあ面白い』『別の攻略しても正統派ヒロインがヤンデレ化して攻略キャラ殺すのは耐えられんわ』『その度コメでミクちゃんが一言言うのがツボ』『あれは卑怯や』『なぎちゃんとミクちゃんって友人?』『多分、配信外二人でゲームする事多いし』『まあリアルもどうかと言われたらわからん』

【月曜。たまには普通に話しましょう配信】

「はくい。なぎちゃんです、今日はちよつと体調が優れないので、雑談配信です」

『おつす!』『始まりました』『大丈夫?』『無理してる?』『休んで良いよ』『しなないで』『疲れてるなら休んで良いんだよ』『むしろ休め』『なぎ民は優しいね……大丈夫だよ、無理もしてない。休むよりなぎ

民のみんなと話すほうが元気出るんだ、雑談しよう?」

『尊い』『尊い』『天使だ……』『これが恋か』『ガチ恋します』『ファンです。好きです』『うーん美しい』『なんて出来た娘なんだ』『俺の妹が天使すぎる』『好きです』『好きです』

「いやその、はわわ……よ、よし!お話ししよつか?!そーだなく……あ、みんなは最近どういうゲームしてるのかな?」

『MMOかな』『FPS』『プレハンかな』『DEAD・CASL』『狩ゲー』『TPSでしょ』『なぎちゃんの影響でアクションやり始めた』『ぶよの付くゲーム、殿堂プレイヤーなってきたよ』『人生と言う労働』『俺も、頑張ろうな』

「ろ、労働……がんばってね。んく……MMOか……ふむふむ、なるほどなるほど、いろんなゲームやるんだねく」

「MMOいいね、土地整えてみんなで王国でも作りたいなあ……ああいや、ならマインプレイでもいっか」

『いいね』『いいね』『がんばってね録音した』『なぎ民に王国作らせようぜ』『変なの作りそうやけどな』『なぎちゃんは何か企画とか考えていたりする?』

「企画かあ、うーん。実はあんまり考えてないんだよねく、いつかそう言うのも出来たら楽しいなーとは思っただけどさ?……そうだね、企画か……」

「あ、そうそう。みんなつおったー十のDMで写真とかくれるんだけどさ?」

『あつ』『おい……』『これはもしや』『おいおいなぎ民さんよ』『僕ではありません』『わしも違うぞえ』『こいつ怪しいぞ』『異端審問』『疑わしきは罰せよ』『最後の晩餐』『明日生きれると思うなよ』

「ん?どうしたの?変なの……でさ、その写真のハムスターとか、猫とかがね?すっごい可愛いのに!そうだ、画像用意してるんだった、ほらほら見て見て?」

『草』『ほっ』『そういう所やぞ……違った』『かわいい』『確かにかわいい』『アングルがプロやん、かわいい』『なぎちゃんが一番可愛いわ』『それな』『猫……耳……なぎちゃん……閃いた!』『よっしや描いたるわ!』『神

絵師、有能！』

「あ、ファンアートいつもありがとうね！それとねそれとね〜？」

『一番可愛い回だったと思う』『それな』『それな』『ここで動物好きの属性追加よ』『そりゃ僕もガチ恋ですよ』『わかる』『わかる』『DMのモラルが試されたな』『流石に住民IDを犠牲にまでタブーなのは見せないか』『見せたかったけどハムスターにしたわ』『お前……まあ無期懲役でええわ』『そんなー』

『これにて終了！次の動画はストックが出来たら！』『おつー』『おつー』『ラーメンでも食うか』『あ、銀座の所に良い場所知ってるで』『東京だろ？要塞の通行パスポートないわ』『あ、マジ？そりゃ残念』

じゅうわめ！

今日はいつもより、少しだけ早く起きる。

寝ぼけた頭を起こす為、顔に冷えた水をかける。ふかふかのタオルで洗うのがきもちいい。

「服、変えないとな……」

タートルネットにレギンス付きのハーフパンツに着替える。うん、人に見られても特に恥ずかしくは無いかな。

……男物の服もすっかりなくなったな、いつから処分したっけ？うーんと、おんなのこになってから3日目ぐらいだったっけ？まあいっか。

新しく作った口座を見てみると、昨日の投げ銭の合計額、100万前後のお金が……いやいや、どう言う事なんだよ。

4割がTube@ライブに貰われて、色々と差し引かれた金額がわたしに入る、それで100万、金銭感覚が可笑しくなりそう。

一回の配信でこんなお金貰われるとは思わなかった……ほんとに金銭感覚大丈夫かよ、なんだか怖いし、投げ銭の限度額決めよう。

つおったー+で貰ったわたしのファンアートを見て……そういうえば配信で紹介したことは無かった、つおったー+の方ではRTとか、引用とかは目に付いたものは全部してきたけど。

中にはつおったー+を登録してないなぎ民もいると思う、その人達にも見てもらいたい、今日の配信の最初の方はファンアート紹介にしようか。

「ん……髪変じゃないよね、部屋は定期的に片付けてるしOK!……はあ、緊張してきた」

てか最近緊張してばかりだ、1日に10回ぐらいはしてるかも知れない……まあ、この緊張は嫌じゃない。

今日は司から連絡があつて、管理人さんが来てくれるみたいだ、近いうちって言ったからいつ来ても良いようにはしてたけど、思っていたより早いよ。

なんでもわたしのために休みを取ってくれて……なんというか、む

ずかゆい、わたしの為にそんな事までしてくれなくても良いのに。

そっか、管理人さん、未だにわたしの配信見てくれているのか、管理人さんらしいコメントなんて見た事ないし、一緒にゲームをしたかと言われると……ちよつとわからないな。

人を自分の家に招き入れるなんて何年振りだろう、一生来ないと思つてたけど……案外、そうでもなかったようだ。

わたしは成長出来てるかな、誰にも頼ることもなく、一人で生きられるようになっていつてるのかな。

『ピンポン。凧沙さん？私ですわ！』

「ん、もう時間だったか」

よし……わたしは両方の手で軽く頬を叩いて、自らの手で扉を開けた。

自信満々に、だけれどなんだか緊張した様子の、わたしよりも背丈の高い、気品を感じるウエーブのかかった金髪ツインテールが印象に残る。

目線を合わせるように、赤色の瞳を見つめる。

「始めまして。管理人さん……凧沙、です」

「ひやじまましたわ！……ごほん、こうして会うのは初めてですわね、凧沙さん」

……なるほど、緊張を和らげようと、そういうことで良いんだよね？無視して欲しいんだね？うん。

「その……中、どうぞ？」

「お邪魔しますわ？……その、凧沙さん？」

「なんですか？」

「なぎちゃんとお呼びしてもよろしくて？」

ひやわ……な、慣れないな。実際に言われると恥ずかしい……断るのも気がひけるし、ううん……恥ずかしいけど。

「い、良いですよ……？」

管理人さんを部屋に通す、……なんだか固まってるけど大丈夫かな、平気かな？わたし何かまずい事をしただろうか、あつやばい表情に出そう、くそよわメンタルすぎるよわたし。

「っは！……ついフリーズしてしまいましたわ……ではお邪魔しますわね？」

「ど、どうぞ」

「久し振りの我が家と仕事以外の家内……！ああ、気が楽になりますわ……つとなぎちゃんさん、綺麗好きですの？とても良く片付いていますわね」

な、なぎちゃんさん……敬称は崩さないのね？そ、そういうタイプな人なのか？それとも突っ込み待ちなのか？

ってかやば、よ、よく知らない人と話すのこんなに難しかったっけ？！初菜とはそこそこ話せてたのに！どうしてなんだ……うう、人との接し方とはなんだ？

「アツ……はい、ありがとうございます……あう。その、お茶出します……」

「ありがとうございますわ！……ソファアに座っても？」

「あ、はい！……どうぞ」

お茶を用意している間に、深呼吸を繰り返して、管理人さんを遠目で観察する。

何よりもその金髪に目がいくが……服の質が売ってて良い物じゃない……オーダーメイドか？生まれの違いだけでは済まない服だ。

大きな手持ちのバッグについても同じだ、ただあれはオーダーメイドではないだろう、造りが綺麗すぎる。

目が良くなるとここまで見えるものなのか？かのスーパーマサラ人達もこんな視力だったのかな？マサラ人ってやっぱ違うわ。

「ここがなぎちゃんさんが普段配信しているお部屋……ああ！至福ですわ……ここに住みたいぐらいですの、仕事めんどくさいですし、やってられませんわ！楽したい！ゲームしたい！寝たい！怠惰に生きるのが人間ですよ！」

……聞いてはいけない独り言を聞いている気分になる、とととりあえずお茶を出そう、うん。

来客用に買った高いお茶だし粗相は無いはずだ……そうであってほしい。

「あ、管理人さん……お茶です」

「名店十保堂のお茶ですの？お高いでしょうに、ありがとうございますわ」

「え、いやその、わかるん……ですか？」

「私も愛用しておりますのよ、あら……？なぎちゃんさんの分がありませんわよ？はっ！これはもしや、間接きつす！というものですの？キヤー！」

「ふえ、あ、あの、い、入れてきますー！」

なんなんだこの人は、お、押される……不思議な圧に押されてしま……これが司の上司の更に上の人か、いやいや濃すぎるよ！どう生きたらこうなるんですか!？」

自分のお茶を入れて、管理人さんの対面のソファーに座る……ここにこな笑顔が眩しい、やめてほしい。なんでそんな輝いた目でわたしを見つめるんだよお……

「お部屋を見回した所、なぎちゃんの配信設備は常に最先端！優れものばかりですわ！流石ですわね……どうやって集めたかお聞きしても？」

「えあその、わたしは何も……司が、揃えてくれたので……」

「まあ！確かに司さんなら納得ですわ！でわでわなぎちゃんさんは……つと、質問しすぎるのもよくありませんわね」

「い、いや、大丈夫だよ……はい、答えられるのは……少ないかも知れない、ですが」

「しかしフェアではありませんわ！……私に質問してもよろしいのですわよ？」

質問、質問かあ……ああでもそうだ。まだ聞いていないことがあったな……

「……なまえ。管理人さんの、名前が知りたい……です」

「はっ!?私としたことが……自分の名前を言い忘れていましたわ！舞い上がりすぎでしたわ……」

舞い上がって宇宙まで飛んでいきそうならいテンション高いよほんと。緊張がプラスの方に働きすぎだよ。

「私の名前は三音^{みつね}！赤城三音^{せきじょうみつね}ですわ！……仲良く、末長く？今後とも

微笑ましいってなんだよ、おいそれどういう意味だこのっ……うう。

「それに、遠慮されるのは……苦手ですの、なぎちゃんさんとは、対等で話したいですわ?……よろしければ、ですけど」

その目を見て、懐かしい瞳を見て気付いた。

彼女には気の置ける友人が居ない。心を通わす存在に出会ってない。

私に赤城財閥の間柄など全く知らないが、立場上友人を作る事も無かったんだろうか……家族との縁も、何処と無く気薄に思える。

「……そっか、なら、対等で、友達として話そうよ……三音」

司はお節介だ、わたしなら放っておけないとか思ってたのかな、その通りかも知れないけど……変に気を回すんだから。

でもまあ、ペアつと明るい笑みを見せるこの子を見ると……なんだかな、仕方がないなあ、わたしが最初の友人になってあげよう。

「は、はい……不束者ですがよろしくお願いしますわ?」

使い方間違ってるよ、ソレ。

「そ、それですわね?なぎちゃんさん……そ、その、なぎちゃんさんを、ぎゅーってしてもよろしくて?」

何をおっしゃっているんだこのお嬢様は?

「……やっぱり嫌でしょうか、そうですね……」

「え、あ、……うう」

静かに立って、恐る恐る三音の膝に座る……お、重く無いかな、大丈夫だよね。

……これが計算でやってたらわたしはもう人を信じられないかもしれない、うう……でもなあ、初菜と違って危険な感じはしないし、なんだろう……この人、そういうあれじゃ無いような。

かわいいもの好きなのか?……わたしは可愛いが、なんだか複雑。

「こ、これでいい?」

「よろしくてよ!ああ、幸せですわ……」

「そ、そうか」

「なぎちゃんさん、普段は何を食べていらっしやいますの?」

「え、普段？うーん、普通だよ、昨日は炒飯食べて、今日の朝はフレンチトースト」

「ふむ……何でもありませんわ！」

「……？質問の意味がよくわからない、つもしかして、やっぱり重かったのか?!重いのかわたしは、重い女なのかわたしは!？」

「おお重かった？ご、ごめんなさい……」

「ち、違いますわよ!?!それどころか軽過ぎるぐらいですわ……羨ましいですわ」

そ、そつか……よかつた、わたしは重い女じゃないんだ。いや軽い女でもないけどね！ほんとうに！

「そうですわー！聞いてくださいますしー」

☆

その後、わたしは慣れないながらも……思えば、この体になって初めての友人と会話を楽しんだ、司の様子だったり、わたしの話だったり……三音の愚痴だったり。

相変わらずの黒いサングラスを付けて、色んな国を転々としているらしい、近いうちに日本に用があつて、その滞在期間に会いに来られるようだ。

……待ち遠しかったり、その逆だったり、へんな感情だ……繊細な感情も、女の子になったからなのかな。

わたしの話といえば……まあなぎちゃんの話になるんだけど、どうやら2回目の配信から見えてくれていたらしくて、そんな早くに司は教えていたのかと行動の早さに驚いた。

愚痴に関しては、わたしからは何とも言えないけど……面白いことをしてると思った。

神秘の象徴、精霊を人間の手で実在させる実験をしているようだ。

精霊、と言ってもこの場合はRPGゲームに出てくる意志を持った魔法を使うような、わたしがイメージするような精霊では無いらしく。

元素を含んだ大きなエネルギー体の塊を言うそうだ。

それで何をするのかは流石に口を滑らせなかった、いやまあ聞いちゃいけないことだから、わたしも配信とか外では言わない。

……別に外出ないし、言う相手もないしね。

そんなこんな会話をしていると、どうやら時間も過ぎるようで、お別れの時間が訪れた。

また会う約束をして、今日出来た友人の為にも。

今日の配信も張り切っていこうと決意した。

「よつすよつす……自称プログラマーのなぎちゃんだよ、今日も元気に楽しみたいと思いますよ」

『よつすよつす』『生きる糧』『ポニーテール?!』『かわいい』『かわいい』『ちよつと跳ねてるの可愛い』『なんだか嬉しそうだね』『良きかな』

「ん、へへっ……久しぶりにね？友達が出来たんだ……ああいや！なぎ民のみんなも勿論ともだちだよ？」

『男か？』『嘘だろ？』『やめてくれ』『気配……匂い……これは、女ですね』『草』『草』『杞憂だった』『匂いってなんだ』『ヤンデレミクちゃん』『コワイ』

ひえっ……か、鍵しめたよね、大丈夫だよ、包丁持って私の家の扉の前にいたりとかしないよね?!

「……はっ！怖くて……幽体離脱しました。ま、まあ！ゲームしようよ！今回もなぎ民と遊べるゲーム探したよ？褒めて褒めて」

『えらい』『えらい』『かわいい』『ヤンデレから逃げるな』『かわいいなあ』『投げ銭の限度額決められてるやん！』『まあ、そりゃあね？』

へへっ……褒められるのは怖いけど、なんだかな……やっぱ嬉しい、もつと頑張りたいなっちゃん。

「つとと、そうだ！最初の数分はね、私が頂いたファンアートを紹介しようかなって、この場を借りて改めてお礼したいんだ」

『おお？』『いーね！』『ほえ、見たことなかったな』『つおったー！してない人宛かな？』『なぎちゃんはやさしいなあ』

「や、優しいとかじゃないじゃんか、みんなに見て貰いたいんだよ」

「と言うことで、じゃーん！最初の一枚はパソコン前のおくちわるわるなぎちゃんです！ふ、複雑だ……ありがとう！」

『かわいい』『かわいい』『微妙そうな表情だけど口元にやけてるのかわいい』『ありがとうなぎちゃん！』『はえ〜すっごい』

「次はね、これ……猫耳なぎちゃんです」

『うおおお!!』『有能』『有能』『綺麗な水彩画やな』『水彩画の猫耳なぎちゃん……ごくり』『よーまー手描きできるわ』

その他につよつよなぎちゃんとか、ホラーにビビるなぎちゃんとか……へへ、一番気に入ったのは、なぎ民のみんなと遊んでいる絵かな。

一通り紹介した所で、ちよつと……言いたい事が思いついた。

「少し話、戻しちゃうけど……こう言う幻滅しちゃうかもだけどね？投げ銭はさ、嬉しいし、その……下世話だけど、やっぱりお金は欲しいんだ、でも貰い過ぎて、それが当たり前になったら、みんなに甘えちゃう」

「それはさ、やだよ。わたしはね？こうやって配信に来てくれるみんなに、なぎ民に、少しでも……そうだな、支えになったり、楽しい気分になってくれたらなって。思うんだ」

「……て、照れるな、今の無し！なしなし！ほらゲームやろーよ！」

『かわいい』『絶対天使なぎちゃん』『救われる』『この娘やばないか？』『悶死するわ』『生きてることに感謝』『もう最高か？』『変な声出た』『頭がなぎなぎして来た』

なぎなぎってなんだよ……うう。褒められるの慣れないよ。

「き、今日のゲームはこれ！ぼうだあRED3Edition！」

『おお、協力FPSか！』『ん？なんぞ？』『で、出たー！……ごめんわからん』『なんやねん』『中小企業の電磁基盤工場様開発のゲームですね、面白いですよ』『はえ〜、あのほうき会社ゲーム作ったことあるんか』『ほうき会社じゃねーだろ！たまたま空飛ぶほうきが売れてるだけで！』

説明しよう！ぼうだあRED3Editionとは、20年前の当時、電磁基盤工場株式会社の社員の数人が「おい！続き出ねえじゃねえか！ふぎけんな！」と言って、それに社長が「もう儂等で作るか」と、

勝手に作ったゲームである！

当然怒られたが、パソコンゲームにも関わらず売れ行きが爆発的に伸びたので、お咎めは無しのように。

そのゲーム性はFPSにRPGの要素を取り入れたロールプレイングシューターのゲームである！

ゲーム開始時に自分が操作する4人のうちキャラの一人を選び、基本的にストーリーやサイドミッションを進めて行くぞ！

中には特別なイベントだったり、それらになんの関係のないラスボス並に強いボスと遭遇したりと、イベント要素は多め！

1人で遊ぶのもよし！4人集めるのもよし！最高にイカすゲームだ！

「みんなも、やろう！……と、言うことで3人枠募集しますよ……弾かれた人はごめんね？」

そうだな、弾かれた……か、全員参加出来るゲームか、それとも企画を考えるのも、そろそろしないとね。

「お、早速来てくれた……ありがとうね？メンバーは、みみミクちゃん……その、お手柔らかに」

『草』『草』『距離が近い草』『ヤンデレにビビるプログラマーがいるらしい』『役なのかマジなのか』『そりゃあ……』『そうよ』

他のなき民2名は……おおう、頑張らないとな。

「さて！無能2人も揃った所で早速スタート！……ユーさんにエリツク、来てくれてありがとね」

『初期メンバー』『このゲームでこのメンバーですか』『草』『無能呼ばわりである』『ボソツと最後に名前言うの尊い』『好き好き』『嬉しそう』『っしゃーじゃあ最初になにやろっか？ストーリー進める？それとも何処に行く？』

あ、ミクちゃんがどんどん前に進んでく、ついてこ……えーとこの先何があったっけ、ちよつと覚えてないな。

「洞窟？……おおう！財宝やんけー！こんな所に宝物庫ってあった？まあいいや、つよつよ武器来い！」

『あっ』『あっ』『ここは確か』『一体何が始まるんです？』『おや……部

屋の様子が……』『お?』

ガシャン!と大きな音が響く、音のした方に目を向けると、どうやらわたしは鉄格子で閉じ込められたらしい……え。

「は?!何やってんだおまえ!おいどう言う事……うひゃあ!蜘蛛エネミーじゃんか!無理無理!Lv8じゃんか!勝てないっておまえ!」
『私以外の女と会って何の連絡も無いうらみです!』『草』『草』『うっそだろ草』『ヤンデレ怖い』『怖い』『草』『開始30分前から飛ばし過ぎでは?』『恐ろしい人……』

「ととりあえず武器は拾ってる!ワンチャンある、全然倒せるけど1人じゃ無理だつてばあ!わ、わかった、わたしに非は無いが謝る、ごめん。許して!ここから出せ!」

『草』『草』『いやです』『うーんこの必死な表情』『かわいい』『非は無いわな』『まるで浮気のパレた夫みたいだあ』『確かに』『わかる』『ミクなきが濃厚すぎる』

迫り来る蜘蛛を撃破しながら、徐々に体力が減って行くのを確認する。うー負けちゃうよ、まあ序盤だし良いけど……ペナルティー少ないし、にゅーん……。

「お?このプラズマカノンは……え、エリック!助けに来てくれたの?……いや、やめとけ、エリックじゃあ荷が重い!」

『草』『草』『荷が重い草』『助けに来る速さは有能』『なお』『今回は有能かも知れんだろ!』『いけるのか?いけるのか?』『覚醒エリックか?』『BBBBBBBB』『戻すな』

「お、おお、強くは無いかど弱くも無いぞ!成長したな!……よっし、2人で乗り越えよう!大丈夫、二人ならいける!どこまでも!」
「……ま、まじか、あいつ、ミクおまえ、エネミー引き連れてこっち走ってくんじゃねえ!PK行為でBANするぞおまえ!このっ」

『ヒエ』『草』『今日のヤンデレ映画は此方ですか?』『やる事の質が悪すぎる』『ちよつと微妙に倒せそうなレベルなのに優しさを感じなくもない』『その数!30体、無能を引き連れ、勝てるのか!』『ユーさんは?』『動画用にカメラ回してる』『これにこ@動画で一位取れるわ』
わたしはエリックを見る、使っているキャラの武器的に殲滅力はあ

るはずだ……エリックは静かに頷いた、まるで友達を助けるのは当然とでも言うように、あの悪魔たるヤンデレを滅ぼさんとも言うように。

「信じるぞ、行くぞっ！」

私たちの戦いはここからだッ！

その時、ドオオオオオン!!!と大きな音がした……

あ、ランダムイベント、宇宙の使者さんの登場だ。敵が多くてレベルが5以上の格差があったら来てくれて、地形を破壊する一撃で敵を倒してくれるやベーキャラだ。

『あっ』『あ』『ここでランダムイベントですか』『宇宙の使者さんこんにちは』『お助けNPCに全部持ってたな』『今までの茶番は?』『熱い友情に水を差す宇宙の使者さん』

「……えー、うん。気が済んだね?」

ミクちゃんはこくりと頷いた、ムカついたのでブレードで刺した……って、話し方変わってる変わってる、元に戻さないと。

『いたい!』『草』『当然』『そりやそうよ』『自業自得』『一回だけなの優しい』『あんまり怒ってない顔、かわいい』『かわいい』『ところで今日のおぱんつは?』『千里眼発動!……白だな』『ナイスウ!』『やりおる』

ノーコメントです。この人のコメントの発言権無くそっかな、どうしよっかな、のけ民に任命しちゃおっかな。

「よーし、何だかもうわたしは疲れたけどまだまだやるよー。無難にストーリー進めよっか」

エリックの成長を感じつつ、時折ミクちゃんが変なことを仕出かさなにか監視しながら、わたしたち3人……?

違うや、影薄くて素で忘れてた、ユーさん含む4人でぼうだあRED3 Editionのストーリーを進めていった。

☆

「ふいー、何時もより疲れたな」

配信を切って、一言呟く。まったくミクちゃん、というか初菜には困ったものだ、ああいう事する子じやなかったと思うんだけどなあ。

……まあそれも七年間会えなかった寂しさからくるモノなら、可愛げがあつて微笑ましいんだけど……いややっぱ怖いです。

「それにしても今日は、っへへ、そっか、友達……か」

うへへへ……友達、友達かあ。この体になってから初めての友達だ……本当に、久しぶりに友達が出来たなあ……。

「ん、メールきてる……まあいいや、明日確認しよ」

今日はもう寝ようかな、何だかんだみんなと配信していたら日付が変わりそうな時間になってきたし。

服を寝巻きに着替えて、ベッドに転がる。真っ暗だと寝れない体質なので、オレンジ色の照明に設定して……つと。

良い夢が見れたら良いな……おやすみなさい。

じゅういちわ!

「凧沙、凧沙……おい、起きろく?」

体を揺さぶられる、嫌だ、後30分ぐらい寝ていたい……

「起きろつてばー……もー、うりゃ!」

「ゴハア!」

腹に強烈な痛み衝撃が伝わり、一瞬で脳が覚醒した。

いいいったい何者だ?!命を狙われているのか、どこのどいつだ!?

「おはよう。凧沙」

……ああ、なんだ。姉ちゃんか。

「おはよう姉ちゃん、所でもっと良い起こし方があると思うんですよ」

「へえく?例えば?どんなのどんなの?」

「ゆーくりやさしく、耳元で起きてって言ってくれたら起きるよ」

「??じゃあ次からそーします!」

姉ちゃんは純粹だなあ、つてか今日は日曜だったはず、学校も無ければゲーム大会の予定もない、なんで起こされたんだ。自由に寝ても良いじゃないか。

「忘れてる?シヨツピングに行く予定したじゃんか」

「そんな事した覚えないけど」

「ええっ、酷い!お姉ちゃんは泣いちやいます」

「それは卑怯だろ、わかったよ行きますよ……VRフィールド?」

そう尋ねた言葉に、姉ちゃんは首を横に振る。

「たまには、外に出てみない?最近治安良いよ?」

「いや……あー、分かったよ」

「へへ。それじゃ着替えてね!お姉ちゃんも準備してきますのだ!」

そう言つて元気に部屋を開けて階段を降りる姉ちゃんを見つめて。

「……ああ」

そうか、これはー夢だ。

☆

「…………ん。とりあえずご飯作ろう」

曇り空が窓に映る朝、オムレツでも作ろうと卵とフライパンを取り出す。食材の数が少なくなってきたので、そろそろナゲツトくんに補充して貰わないと。

何も考えずに料理を続ける、曲でも流そうかとホログラム上のシステムウインドウを操作して、緩やかな音楽が奏でる。

「…………良い形」

白米をよそって、頂きます。

むぐむぐ…………なかなか美味しい。けどどうせならオムライスにすれば良かったな、まあ特に大きく味が変わるわけでもないし別に良いか。

「昨日、メール届いてたっけ」

わたしのメールアドレスは基本的に司か初菜かSSS社以外にこない、大々的に広めてないのもあるんだけど、つおったー+のDMで済む話が多いからだ。

それだけじゃなく、メール送るよりVRフィールドで会って口頭で説明する方がやりやすいって人も多いと思う。けどそれは一長一短だ、文章でしか知り得ない事だってあるんじゃないかな。

『初めまして、なぎちゃん。』

SSS社の平社員です、上司であるなぎちゃんのパパだと抜かしているアホが忙しいため、私から連絡させて頂きます。

まずは、先日のデモプレイ、ありがとうございます。見ていてとても楽しめましたし、デモプレイ自体も大成功と、感謝の極みです。

そこですが、2回目のデモプレイ配信もなぎちゃんに任せたいと思います、メールを送らせていただきました。

具体的な日時ややって欲しい事は後程、返答が返ってきたらご説明します。なぎちゃん、どうでしょうか？良い返事を期待しています。

俺たちなぎ民なぎちゃん見守り隊ブルーより』

…………いや最後で色々残念だよ、あなたがブルーなのか。てかその見守り隊は何人いるのさ、ブラックは何やってる人なの？

んー、断る理由もない、あのゲーム楽しかったし…………でもな、もう

1人2人ぐらい連れて行きたい、出来ないかな、どうなんだろう。

『ピンポーン。先輩の為の唯一の後輩です』

「いや間違ってもないけどさ……」

いきなりだ、何だろう？……いやちよつと待て、か、仮にだよ？仮にさ、扉を開けたら、私の視界が真つ暗になりましたとかそういう事じゃないよね？大丈夫かな、やばい。怖くなってきた。

『開けてください』

「ひゃ、ひゃい！」

すす素直に開けよう！うん、それが良いですね！

「や、初菜、どうしたの？」

「先輩成分が足りなくて……入ってもよろしいでしょうか」

「何それ、まあいいけどさ、あ、紅茶出すよ、頼んでもないのにナゲツトくんが持つてきて扱いに困ってるんだよね」

初菜を家に招き入れる、思えば初菜を部屋に入れたことはなかった
ので、これが初めてだ。

なんの用事だろう？初菜は用事があるとき以外にわたしにこう
やって話に來ないと思うんだけど……うーん？思い当たらないな。

「ふむ……随分機械に好かれていますね、いじりましたか？」

「え、そんな事してないよ、わたしを犯罪者扱いするな」

そう言うのと初菜は俯き考えている様子で、そんなに考える事なのか
な？……うーん、まあでも深く考えたらおかしな話かもしれないが、
別段気にしなくても良いと思うけど。

「はい、紅茶どうぞ」

「ありがとうございます……先輩の淹れた紅茶、ふふ……なぎ成分が
高まってきました、ですが私以外の女を部屋に入れたのは感心しませ
ん、攫われたらどうするんですか、全く」

いや一番わたしを攫いそうなやばいやつが目の前にいるんだけど
？自分はまともみたいに思ってるじゃねーよ、もう無理だよ見る目変
わってるよ完全に。

「つても、三音……管理人さんとだよ、初菜もあつた事あるんじゃない
の？」

「彼女が忙しい時に管理を任されていますね、所で今、赤城さんを名前で呼び捨てで親しげに愛おしげに恋人のように呼んでいましたけど、ういう事ですか？結婚しました？」

「飛躍し過ぎだろ?!愛おしげにも言っていないし恋人でもないわ!この県じゃ同性婚は認められてねえから!つかしねえし!……別に名前呼びぐらい良いじゃん」

「じゃあなんで私は名前で呼んでくれないんですかー!そんなのずるい!ずるいずるい!私も名前で呼んで欲しいー!」

「いや……初菜は、うん」

「何ですかそれ、私のどこがいけないんですかー!」

……照れるからやだ。

「そ、それで、何の用なのさ、初菜の事だし何か話したいことでもあるんじゃないの?」

「……まあいいです、なぎちゃんはコラボ配信とかしないんですか?」

「なぎちゃん言うな、……今のところする予定は無いけど、なんで?」

「では初めて貰っていいですか?」

「え、まあ、良いけど」

「言質、頂きました。先輩の初夜は私が貰います」

「はあ?!何言って……ああくそいつボイスレコーダー持つてる!渡さねえよ!」

「と冗談はさておき、より近くで先輩をサポートしたいので3日ぐらい前にアカウント作りました、自称プログラマー配信者ミクちゃんです」

「なあもうツツコミする体力ないよわたし……てか絶対冗談じゃ無いし……わたしのパクられたし……」

「冗談が過ぎましたね、すみません」

……まあでも嬉しいな、私から進めるまでもなく、初菜自身からこうやって始めてくれようしてるって事は、少なくとも配信に楽しみがあるって思ってくれたからだと思おうし。

こういうのも何だがわたしは知名度が高い、と思う。4万人までもう直ぐなわたしとコラボすれば、初菜もみんなに知って貰えるし、わ

たしも最初のコラボ相手が知人……違うな、親友なら、気が楽だ。

「……いやけど、何するのさ」

「なぎちゃんの振り返り動画鑑賞会とかどうです?」

「わたしが嫌です。次」

「ではまあ、二人専用のゲームしましょうよ」

「んー、それだと見てくれる人が……ああいや、コラボってそう言うものか?参加型と言うよりは、遊んでるのを見るって感じか」

「そうですそうです、それが言いたかったんです」

……いや待て。もしかしてわたしと二人だけでゲームしたいからって事じゃ無いよな?それなら別に配信しなくても良いし、そういう事じゃないよな?」

「はは、ではそれでいきましようね」

「何だその取って付けたような誤魔化し方は……オフ?オン?」

「ゲームしている先輩を横から見てたら多分我慢出来ないの、ボイスチャット繋げてやりましょう」

我慢出来ないって?!?どういう意味だよ……何を言っているんだこの女、一体清楚は何処に置いたんだ?髪切った勢いで無くしたのか?そうなのか、おい。

「ふへへへ……司先輩には悪いですが先輩は私が美味しく頂けそうです……へ、ふへ、はあく……」

「いや頂かれねえから!」

☆

と、言う経緯から急遽配信をする事にした、本当は今日はやらない予定だったんだけど、まあいつか。

初菜もとい、ミクちゃんのチャンネルを見てみると私が何もしてなくても既に2000人以上の人が登録しているらしく、3日で2000人はわたしより伸びが良いのではないか?

生放送は初回だけで、後は動画がメインみたいだ、ゲーム動画より実験動画みたいなのが多い、危険な事はしてないようで安心する。

……わたしは動画編集はセンスがないみたいで、やってないから素直に尊敬する。

てか初葉は凄いな……最初から顔出ししてて、確かに初葉は人見知りって訳じゃなく、社交的でわたしよりコミュ力は高い。

成長、とは違うのかも知れない。わたしが関わらなかつた分、尖っていた所が抑え気味になったのかな、良い事なのかもしれないけど……どうなのかな。

「てすとてすと、あーあー、きこえてる？大丈夫？」

「大丈夫です、もう始めますか？」

「まだ！ち、ちよつと待って！落ち着かせて」

「緊張してるんですか？なぎちゃんはかわいいなあ」

なぎちゃん言うなあ……うー、初のコラボで緊張しない方がおかしいでしょよ……なんでそんな落ち着いてられるんだ。

「気負う必要なんてないですよ、私が、先輩がやりたい事をするだけですから」

「で、でも見られてるんだよ？な、何かあつたら恥ずかしいし……怖いじゃんか」

「私より配信してる自称プログラマーが怖がり過ぎる件についてってスレでも立てます？」

「お、おまーふぎけんな！」

「ふふっ……まあ大丈夫ですよ。それよりほら、そろそろ時間ですよ。ほんとだ……ふう、よし……やるよ。」

「にやはろー！自称プログラマーのなぎちゃんだよー」

「同じく、自称プログラマーのミクちゃんです、初コラボ相手頂きました」

『うおおおおお!!』『にやはろー！』『神回確定』『ミクちゃん配信者だったん?』『3日前に始めてるぞ』『配信者と言うよりは動画投稿者?』『はえー、やば』『桃源郷』『まじかよ』『うおおおおお!』『ミクちゃんが敬語……?』『うらやま』

「わあ、見てくださいなぎちゃん、なぎ民がわらわら私の配信画面にきますよ、気持ち悪いですね」

「なんて事を言うんだこの子は!? 炎上するからやめろ！」

『草』『草』ありがとうございます!』『ありがとうございます!』『我々の業界では御褒美です』『初手罵倒、心地良き……』『配信開いたら罵られるとか最高か?』『変態しかいねえ、ありがとうございます!』

な、なんなんだ……それでいいのかなぎ民は、プライドとか尊厳とか無いんですか?

「配信中のなぎちゃんもかわいいなあ」

「ちよ、えあ……む、無表情で言うな！」

『かわいい』『かわいい』『クールななりして百合なんだよなあ』『無表情レズ』『なぎちゃんの前ではそうでもなくない?』『確かに』『尊い』『需要が足りてる』『足りすぎて爆発するわ』

「所でなぎちゃん、今日の朝食は何ですか?」

「え、今聞く? オムレツだけど」

『家庭的ななぎちゃんかわいい』『料理できるのかわいい』『かわいい』『嫁にしたい』『娘に欲しい』『パパは嬉しい』『あ、無能だ』『一家に一人欲しい』『あーんしたい』『さりたい』

「顔赤いですよなぎちゃん」

「うるさいやい!……ミクちゃんは?」

「そりやなぎちゃんと同じの……えへ」

「怖えよ! なに?! 何食ったんだ! 言え！」

『怖い』『こわい』『尊い』『尊いか?』『会話してるだけで面白い』『ミクちゃん相手だときよどんないのな』『友達じゃねーの?』『恋人でしょ』『冗談でも言わない方が良い』『やめておけ』

「カツプ麺です、ぬうどるの」

「またそれ? ちゃんと料理しなよ、不摂生だぞ」

「めんどくさいんですもん……じゃあなぎちゃんが作って下さいよ」

「……いやまあ、良いけど」

『尊い』『好き』『今時の若い子の会話ええなあ』『ええなあ』『やっぱ友達か』『なぎちゃんに友達いたんやなあ』『三人ぐらいしかいなそう』『わかる』『わかる』

三人でも友達がいるだけ良いだろ! それに友達は量じゃなくて質

なんだぞ……

「さて、フリートークもこれぐらいにして」

「早速ゲームやってくぞ〜？今回は二人でタイムクラシック8をやるぞ〜！」

『うおおおおお！』『二人専用ゲームやん』『百合営業』『百合（ガチ）』『ガチなのはミクちゃんだぞ』『なぎちゃんもだぞ』『出たー！先月にVRゲームに続編が発売した、タイムクラシックシリーズの8作目だー！』『続編出てたん？』『有能』

説明しよう！タイムクラシック8とは、タイムクラシックシリーズでお馴染みの協力型タイムアタックFPSゲームである！

元々ガンシューティングとして名を馳せた過去のゲームを、とどーる社が『せや、FPSにして新しくシリーズとして作ったろ』と勢いで制作！無事完成して見事流行に乗った。

今作では思い切って二人用のゲームとして出し、売り上げが伸びなかったのでVRゲームの方で新作を出したとの噂もあるそうだ！

されど侮る事なかれ、ゲームシステム、難易度、助け合いを重視したアクションは、過去作の中でも一二を争う程だ！

迫り来る武装兵をばったばったと撃ち倒し、転がる丸太をコマンド入力で避け！二人で協力し合いながら制限時間までにボスへと辿り着き、全10ステージを網羅しよう！

「だからみんなも、やろうー！」

「ステマ乙ですねなぎちゃん」

「楽しいものはみんなもやるべきー……でしょ？」

『かわいい』『天使や』『ミクちゃん一万人おめでどう』『爆速やん』『はつや』『なぎちゃんも4万人超えたぞ』『二人ともおめでどう』『おめでどう』『今日も祭りだ！』『うおおおおおー！』

よ、よんまんにな……視聴者も10000人以上も見てくれてる……なんて言えはいんだ、もう……本当に、嬉しい。

「四万人おめでどうございます、なぎちゃん」

「そ、そっちこそ……ほ、ほらー！ゲームやるよー！」

「照れるなぎちゃんはかわいいなあ」

「てて照れてねえし、そんなんじゃないからあ！」

『照れ照れなぎちゃん』『なぎかわ』『かわなぎ』『ミクちゃんもおめでとう』『微笑ましい顔してるミクちゃんは母親か何か?』『友達だぞ』『ヤンデレだぞ』『ヤンデレ…なぎちゃん…追いかけて…閃いた!』『描かないぞ』『なぜ?!』

「じゃあ前衛わたし、後衛ミクちゃんで」

「はい。設定はハイスピードのクライシスモードですか?」

「OK、たまには真面目にやろーよ」

「良いですよ。ではスタート」

『操作が早い』『難易度こそ難では?』『必要最低限の会話で草』『つよつよか?』『つよつよなぎちゃんか?』『プロゲーマー見せるのか?』『ミクちゃんのパソコンゴツくねえか?』『どっちの画面見れば良いんだ』『二つの画面も追えないの?そんなんじゃないよ甘いよ』

「なぎちゃんの画面見れば良いと思いますよ、前衛ですし」

「んー、わたしはミクちゃんの配信の方が良いと思うけどなあ……画面酔いしないと思うよ」

『互いが互いをこの……わかる?』『わかる』『わかる』『ノーマルなのにムズムズしてきました』『俺も』『それな』『ゆりレズミクちゃん』『こわかわいい』『こわ良い』『好き』

「迫り来る兵士を打ち倒しながら進む、狙撃兵や後ろは全部ミクちゃんがやってくれるので何も問題は無い、全速前進だ。」

「前から思うんですけど、なぎ民って割と言いたい放題ですよね」

「そう?…しっかり線引き出来てると思うけどなあ、……あ、そこ危ないよ」

「ありがとうございます……それはなぎちゃんが優しいからですよ、もっとう奴隷のようにビシバシ躡けても良いと思うんですよわたし。どうせ喜びますから」

「いやいや……なぎ民を何だと思ってるんだ、そーゆーの言わないの! 右斜めスナイパー」

『強い』『強い』『雑談しながら進めるとかマ?』『プロゲーマーなぎちゃん』『文句無しのプロゲーマー』『雑談内容酷くて草』『DSと癒しを享

受している』『生きてて楽しくなってきた』

「……わたしがなぎ民のこと、奴隷扱いたらみんなどう思う？」

『うれしい』『うれしい』『なぎちゃんの奴隷になりたい』『なりたいたい』『ミクちゃんの奴隷はこわい』『こわい』『奴隷のようになぎちゃんに働かせてくれ』『投げ銭しようと思ったけどコラボだった、出来ねえ』『かなしい』

そんなこんなで進めていくと10分も経たないうちにボスの部屋へとたどり着いた。

黒服に黒ハットの大男、手には二丁ガトリングを抱えて、圧倒的なゴリ押しマシーンとして新参プレイヤーを灰のように飛ばした、通称黒マフィア先生だ。

「あ、もうボス？やっぱハイスピードだと速いね」

「まあ私となぎちゃんですし、そりやあ真面目にやったらこんなもんですよ」

「ふふっ……二人で最強？」

「はうあー」

『かわいい』『かわいい』『攻めには弱いヤンデレ』『イチヤラブを見せられてる』『裏で出来てるでしょ』『パパは認めないぞく？』『お兄ちゃんも認めないぞく？』『夜道に気を付けろ』『あなたの後ろに這い寄るヤンデレ』

「うおおガトリングのスピードはっえく……障害物隠れるね」

「あ、そこは」

「うおおあ!!なんだこれ壊れんの?!あれえ!?!」

「アプデ入って仕様かわりましたよ」

『草』『草』『やっぱこれだね』『動揺なぎちゃん』『ミクちゃんちよつとニヤってしてて草』『草』『これは策士』

「危ない危ない、こんな所で負けるとか洒落にならないから」

「なぎちゃん、全ステージやりますか？」

「もちろん!……今ので4分か、1時間切りしようよ、多分できるから」

「世界記録更新しますか」

『!?』『へ?!』『うっそだろ』『とんでもない事言ってない?』『まじ?』『ついに?』『世界記録幾つ?』『1時間23分52秒じゃなかったかな』『充分速い』『自称の域を超えるのか?』『ワールドレコード更新されるのか?』『つよつよプログラマー』

1時間23分か……よし、わたしとミクちゃんなら出来るでしょ、高校生の時は多分無理だったと思うけど、今のミクちゃんの腕わたしと同じくらいか、上だし。

「まあ最近はなぎちゃんをいじめ……んん、ゆるく遊んでましたし、偶には本気でやるのも良いですね」

いじめって聞こえてんぞ、おい。

「いやうん、昨日みたいなおことはもうしないでよ……?つか、構って欲しいならいつでもゲーム出来るじゃんか、言っつてよ」

「それとこれとは話が別なんですー!乙女心の分からないプログラマーだなあ」

「プログラマー関係無くない!?なんだそれ……次のステージ行くよー」

『草』『なぎちゃん緊張無くなってきたね』『二人の会話だけでこっちも楽しい』『雑談しながら世界記録狙うプログラマーがいるらしい』『やっぱ元プログラマーよな』『だろうね』『そうだね』『詮索はNG』『なぎちゃん可愛いしいいか』『乙女心のわからないプログラマータグ付けとこ』

問題なく2、3ステージとどんどん進んで行く、自分で言うのもなんだが、わたしはゲームが上手い……姉がしてたから、わたしも始めた事がきっかけだったかな。

それと技術研究部では、色んなモノからの着想を得るっていうスタンスから必然的にゲームもそれなりにやっている……そういう口実で遊んでいたわけじゃないんだからね!

ミクちゃんは多分経験じゃなくて、質だろう。この子は単純に一回の経験で得るモノが多すぎるんだ、良くも悪くもね。

「4ステージ目ですけど、なぎちゃんは今後やりたい事とか決めてますか?」

「んーそれ、前にも言ったかもしれなげどさ？企業さんから案件もらったり、今みたいにコラボしたりさ、……ミクちゃん、今はね？なぎ民と、もつと一緒に楽しみたい、楽しいよ、わたし」

「……そうですか」

『うーんこの』『なぎちゃん好き』『かわいい』『天使』『本当に楽しそう』『ミクちゃん嬉しそう』『かわいい』『表でも付き合ってるわ』『ワンチャン狙ってたなぎ民かわいそう』『多分そんな奴いないぞ』『お兄ちゃんが許しません』

「そーいうミクちゃんはどんなのさ、目標とか目的ある？」

「なぎちゃんが一番近い所で応援したい一心ですよ」

「ああうん……他には？」

「んー、教えません」

なんだそれ、まあいいや。

『ちな初回放送でやりたい事言ってたで』『まじ？』『アーカイブ無いんですが』『がははは、すまん』『羨ましいんだが？』『なぎちゃんに必要とされたいとかそういうのだと思うんですよ』『確かに』『わかる』『やっぱゆりレズじゃないか！』

「いやですねえ、誰でも良いわけじゃないんですよ？なぎちゃんだから好きなんです」

「いやその、わたしには勿体無いので……5ステージのボスなんだっけ」

「ティガレックスですね、私の腕の見せ所です」

「はい、じゃあ困るから後よろしく」

『ゲームは真面目』『ゲーム画面だけ見たら最速プレイやからなあ』『正直ついていけないから雑談してくれるの嬉しい』『わかる』『このゲーム知らんから雑談嬉しい』『なぎちゃん遠回しにお断りして草』『なぎちゃんはノーマルなのか？』『ノーマルでしょ』

ああでも、そう言われると男性を好きになれるかは別の話になるのかな、わたしは最初から女の子じゃない……はずだ、最近はもう自分が何の姿で、どういう人間だったのかすら、曖昧に感じる。

それに対して何の喪失感も、恐怖心も無い。その感情が怖い、もし

最初からわたしの思い込みだったとしたら……司との、初菜との思い出は、記憶は、あの夢は何の……誰の記憶なんだ？

「なぎちゃんっ……どうしました？」

「あ、ああいや、なんでもない。それより、この調子で行けば世界記録更新できるよー！」

「そうですね、初コラボで世界記録を取るプロゲーマー二人組としてユニットでも組みますか」

「え、組まないよ」

『なぎっ？ミク』『二人でなぎ？ミク』『草』『草』『ミクなぎだぞ』『うーんこのゆりれずおにやのこ』『思ったこと言っていない？』『特定云々の話以外』『じゃあ言わね』『そうしとけ』『ところで千里眼兄貴は？』『なぎちゃんにNG食らってるよ』『草』『草』『てことは今までおぱんつの色当ててたんやろなあ』『可笑しい奴を無くした』

「なぎちゃん昨日白パンって本当ですか!？」

「うおうるせっ……違います。勘違いです、やめてください」

「白……なぎちゃんの純白おぱんっ……うえへへえへ」

「ば、おい！ゲームに集中しろ！もう7ステージ目だぞバカ！おたんこなす！白じゃにやいからあー！」

『草』『草』『放送出来ない顔になるヤンデレがいるらしい』『速報。なぎちゃんは白』『ちなみに今日は青の縞。パンだよ』『!』『死んだんじや……!』『意思を継ぐもの』『継承されし千里眼』『我は不滅なり』『ただのサブ垢だろ』『ばれました?』

おまこのっ……んもう、サブ垢BANしてもまた新しいの作ってきそうだから、仕方ないなあ。

雑談しつつも、ゲーム自体は順調に進んでいき……そして。

「つやったーやったー優勝したーなぎ民のみんな、世界記録更新したよーやったー〜〜！」

「58分45秒03ですね、頑張れば55分切るんじゃないですか？……難しいか」

『うおおおおお！』『偉業達成』『これはプロゲーマー』『プロゲーマーでも難しいわ』『ぶろぶろなぎちゃん』『つよつよなぎちゃん』『ミク

ちやんのカバーが上手すぎた』『記録塗り替えられたかあ』『プロハンニキの?』『二人分やるの難しかったよ』『ん?』『え?』『あんた可笑しいよ何者だよ』『その動画はこちら』

はえくすごいなあ、一人二役つてつまり、2つの画面操作したってことでしょ?人間業じゃないと思うんだけど、尊敬するなあ。

「ふう……切りよくここで終わりますか?なぎちゃん」

「んー、じゃあ最後に一言……なにかある?」

「今日はありがとうございました、なぎ民の皆さん、なぎちゃんの初夜は私が貰いますので、そういう事で」

「ひゃあ?!いやだから、それは違うって言ってるじゃんか!……ったく、もう。通話切るよ?」

「え、ちよつとま」

『草』『草』『ふぎけすぎたか』『無慈悲なぎちゃん』『今日も楽しかったね』『最初のコラボがミクちゃんです安心した』『なぎちゃんは成長したなあ』『まだ一ヶ月しか経ってないんですけどね』『いうて一ヶ月』『短いようで長いぞ』『逆の事も言えるけどな』『楽しい時間をありがとう』『最終的に18000人見てたね』

「と、言うわけでコラボ配信でした!……ミクちゃんが最初で本当に安心したよ、これからも出来ると思いたい。次の配信は二日後になるかも!……それじゃそろそろ終わろうかな」

「18000人のなぎ民達、来てくれてありがとう、見てくれて嬉しいです。次の配信も来てね……?良い夢みてください!じゃあね!」

『おつかれさま』『おつおつ』『でミクちゃんの色は?』『知りたければわかってるよな』『ヒエツ』『楽しかったです』『コラボしたい為にアカウント作った説』『濃厚』『天才か?』『夜勤頑張るかあ』『最高のコラボやったな』『トレンド入ってたよ』『お疲れなぎちゃん』

お疲れと流れる配信コメントを見るこの時間が、いつも名残惜しい。なら延長しないのかって言われるかもだけど、最初のコラボは一時間でやろうって自分なりに決めてるから、ここは譲れない。

配信を終了する。

しばらくすると、電話がかかってきたので受け取る、ミクちゃん

……初菜からだ。

『お疲れ様でした、なぎちゃん』

「なぎちゃん言うな……お疲れ、ありがとう初菜、また、出来るかな」
『ぜひ勿論！……とりたいですが、暫く私用で部屋を空けます、ごめんなさい先輩』

「謝る事じゃないよ、わかった……ねえ、わたしは初菜の知るわたしだよね？」

『何を今更、先輩は先輩です。わたしの好きな、尊敬する、敬愛する、人生の何よりも大切な先輩ですよ』

……今はその言葉が嬉しいよ。

「じゃあ切るね、おやすみ」

自分のことに、今更になつて思う感情を隠しながら、もやついた気持ちを解消するために、久々にカップ麺の蓋を開けた。

じゆうにわ!

『俺様の親友と後輩が自称プロゲーマーな件について』

「は、ははは……司もやる?配信者」

『俺様がゆりレズワールドに入ってみろ、言わなくてもわかるよな?』

「う、うーん……確かに」

お昼時、お昼ご飯の海鮮丼を食べた後、タイミング良く司から電話がかかってきたので、話しているところだ。

『しっかし凧沙が引きこもってから、初菜ちゃんも全然外に出なくなつたから良い傾向かもな、親友の成長も芳しいし、俺様感心!いやあ嬉しいぜ』

「何目線だよ……ねえ、いつぐらいに来るの?」

『んお?寂しがりやだなあ親友は、3日以内には着きそうだけ、いやあ飛行機に久々に乗ったけど快適快適』

「そつか……わたしの手料理、食べさせてあげようか」

『まじで?!メイド服着ておかえりなさいませご主人様って言ってくれる!』

「へや!?やややだよ、バカ!アホ!スケベ!三音にメイド服なんて持たせやがって!このすかぼんたん!」

『す、すかぼんたん……だつて見たいしく、なぎちゃんのメイド服手料理配信見たいな?』

「お、お願いされたつてしないんだから!……それに寂しくなんてない」

『嘘つけ、まあつーことて後数日で着くから、安心しろよ』

「ん……待ってるから、それじゃ切るよ」

『ああ待った!なあ凧沙、最近変わったことつてないか?何でも良いんだ』

これは、わたしの体についてを言っているのかな、それとも別の事だろうか?

「……なにもないよ、うん。何も変わってない」

ごめんね、会ったら……話すから。

『そつかく……わかった、じゃあまた近い内にな、配信頑張れよ？無理しない程度にな』

「ん、がんばるよ……また」

司との電話を切り、ふっとため息……嘘なんて付きたくないのに、どうしてついてしまうんだろう？

わからない、わたしは司の事をどう思っているんだろうか、司はわたしの事をどう思っているんだろう？

会えば、それも分かるはず……ただ。

ただ、数日後司と合う時、どういう顔をすればいいか、今のわたしには何一つ思いつかなかった。

☆

お悩み相談配信というのをやってみようと思う、今現在わたしがいろいろと悩んでいることについては置いておいて、ゲームする気分でも無いからだ。

音ゲーでもしようかなとも思ったけど、PCでする音ゲーはあんまり需要ないんじゃないかな、体全身を使った音ゲーの方が良いと思う。

そういう機材は持ち合わせて無い、高校生の時の部室には有ったので多分初葉が持っているけど、今は居ないし……後日借りよう。

……やっぱ、配信開始前のこの時間は慣れない。

コラボ配信や、企業さんからのデモプレイとかで自信は大分ついてきたとはいえ、それ以上にわたしを見てくれている人の期待や、多さにただただ驚くだけだ。

気負う必要なんてないと初葉は言った、その通りだと思う。

……考えたって何か変わる訳じゃない……なぎ民と話すのは、配信する事が楽しいのは事実なんだ。

ならそれで良い、それで良いはずなんだ。

「ずつきゅん！自称プログラマーのなぎちゃんだ〜よ！」

『ずつきゅん！』『どつきゅん！』『ばつきゅん！』『伝わらないネタや

めろ』『今日もかわいいなあ』『顔赤らめてるのかわいい』『かわいい』『かわいい』『好きです』『初手告白、僕も好きです』

「……はい、今日はお悩み相談回です……まあ雑談だね、長くて2時間ぐらいやろうかなって思っています」

『うおおおおお!』『なぎちゃん見てると悩みもなくなる』『なぎちゃんが可愛すぎてそれが悩みです』『わかる』『それな』『パパもそう思います』『兄も思います』『ちよつと!偽パパさん!仕事終わってないよ!』『狂いそう』『草』『草』『草』

「はいはい、じゃあ仕事頑張つてね、アーカイブは残すから後で見てくださいね」

「……よし、勇気を出そう、初業ともコラボできた、三音とも友達になった、なら……身内以外の人も、話せるはずだ。」

「お悩み相談回だから、実際に通話でお悩みを聞こうと思うよ……単純に話したい人でも、まあいいよ」

『うおおおおお!』『うおおおおお!』『まじ?』『やばい』『やばい』『緊張してきた』『え、話せるんですか?』『君は仕事』『最高か?』『なぎちゃんに下手な事言ったらわかるよな』

「この通話アプリ使うから、もし入れてなかったら概要欄にDL場所あるから、是非ダウンロードしてね」

説明しよう!通話アプリ『シンプルボイス』は単純明快!リアルタイムで会話するだけ!

以上!ちなみにこのアプリを作った小企業の社長さん(105歳)は「80年前は若く、10分で作りました」と記事に載せているぞ!イキリおじいさんだね!そろそろくたばるんじゃないかな!

でもくたばらないで!後20年ぐらいは健康的に生きようね!

「……先に言うけど音声だけだよ」

『そりやあまあ』『うん』『話せるだけで幸せ』『今こそ国家認定SAD型の出番ですよ!』『世界認定MKNNTに勝てるだけでも?』『ミクネットだとオ?!』『なぎ民のつよつよ通信スペック』『あぶれそうだけどかけるだけかけよ』

「検索ワードはなぎ民、先着順です。制限時間は無いけど……まあ

わたしが切りたくなったら切ります。わたしがルールなのだっ！」

『かわいい』『かわいい』『好き』『緊張してきた』『まじで話せるん……？』『初手デブボだったら？』『ピザポテト童貞と名付けよう』『草』『良いセンス』

そ、それはちよつと酷すぎるんじゃないかな……声だけで判断するのは良くないと思うよ、わたし。

「よーしじゃあ掛けてみるよ〜？」

緊張する……普段はコメントが流れて、それをわたしが見るって形だから、声と声とで会話するのは初めてだし、記念すべき最初のなぎ民は……誰だろうな。

「ん、繋がったかな、聞こえる？」

『えあ！あ、うおおおおお！』

『うおおお！』『うおおお！』『うおおお！』『若い』『これは19歳の声』『で誰だよ』『男か、わかってるな』『何イ!?世界認定がすり抜けた?!』『国家認定も効きません!』『下手な事言うなよ』

「お名前、聞いてもいい？」

『ユーです！ああ本当になぎちゃんだ……僕なんかが最初で、感無量です』

「ユーさん？わわっ、若い声だね」

『動画編集の人か』『動画編集ニキ?!』『デブ活汚じゃないのか』『ピザポテト童貞じゃないのか……』『落胆するな』『今の時代のデブは居ないぞ』『は？お前屋上』『怒らせちゃったね〜？』

「動画編集いつもありがとう、お礼にずばばーんとお悩みを聞いてあげましょうー！」

『かわいい……な、悩みですか』

「うん！なんでも言っ……？」

『なぎちゃんが可愛すぎて……色々と辛いです……一生なぎちゃんだけ見つめて生きていたい……』

にににやにいつてんだ?!

『草』『草』『本心から草』『ナニが辛いんやろか』『そりや現実よ』『顔真っ赤でかわいい』『照れ照れなぎちゃん』『その男、覚えてろよ』

『ピエツ』『やべえのきた』『逃げるユー!』

「えー、うん、はい。夜道に気を付けて下さい!次!」

通話をかける……次の人は誰だろうか?

『なぎちゃん、こんにちわ。私、田中と申す者です』

「あ、田中さん、やつほー?初めました」

『田中!?』『お前:お前エ:』『処刑』『火あぶりの刑』『ぐああ!世界認定が負けるだどオ?!』『敗北者と犯罪者』『なぎちゃんと話だけで犯罪者になる男』

い、言われたい放題だな……何でこんなに当たり強いんだろう?なにかしたのかな、うーん?

「初配信から見てるよね?いつもありがとう、何でも悩み聞くよ?」

『いえ、こうして話すだけで悩みも消えます、ですが強いていうなら一つ、悩みがあります』

「そ、そっか。言ってみて?」

『私、なぎちゃんのグッズやキーホルダーなどが欲しいです、いえ、本心を言うならタベストリーやおはようからおやすみのボイス、抱き枕カバーが欲しいです、人生の悩みです、どうにかして欲しいです』

『草』『草』『煩惱まみれ』『丁寧な言葉使いからこの煩惱』『ぶっちゃけ過ぎだろ』『なぎ民を代表してよう言うた』『それはそれ、まだ許されない』『許されない』『抱き枕カバーほしいなあ……』

「ふえ、え、や……う、うう……!」

『かわいい』『かわいい』『かわいい』『なぎちゃんの真っ赤なほっぺ』『手で顔隠すのかわいい』『ほんま好きちゃねん』『実際どうなんだろう』『そういう企業がバックに付けばワンチャン』『個人では?』『出来なくはないと思うけど』

「個人ではしないよ!企業さんから話きたら考えてあげる!もう次!次です!田中さんはもう通話しないでね!」

『我々の業界ではご褒美です!』

もー……何してもご褒美になるのかよなぎ民は、変態多すぎるよ……いつからこんなに多くなってしまったんだ。

「気を取り直して、次の人に掛けてみるよ」と

『テストス……あ、なぎちゃん？いやさん付けした方が良いか……なぎさん？』

え、ちよつと待ってこの声もしかしてもしかすると。

「かか狩人先生!？」

『まじ?』『まじじゃん』『声の渋みでわかる』『このダンボールで隠れてそんな声よ』『イケボ』『濡れそう』『こんな実質コラボじゃん』『神回確定』『いつも神がかってんな』『うおおおお!』

『先生なんて照れるなあ、呼び捨てで構わんよ』

「しょそんな!あつあのファンです!いつも見えます!あつあ……ひゃ〜!」

『落ち着け』『落ち着け』『乙女か?』『おとめななぎちゃん』『まあプロハンニキなら許すわ』『なぎちゃんごめんそこ変わって』『わかる変わって』『人気過ぎる』『そりやまあ、50万人登録者いるし……』

『繋いで何だけど、なぎさんに話す悩みは無くてね?ただ話したかっただけだったり』

「そつそんな、光栄です、後なぎちゃんです、いつそ呼び捨てしてください……」

『おお?それでさ、なぎちゃんは何か悩みとかあるんじゃないかな?今日はいつもより眉と声が違うからね』

へ、すつ凄いい、何でわかつたんだ?この人やつぱり凄いなあ。

この人なら、言っても良いかな……なんだか、安心出来る。

「……久しぶりの親友に会う時、こういう顔すれば良いか、わかんなくて」

『なるほどね……そつかそつか』

『乙女だわ』『かわいい』『へにやへにやなぎちゃん』『プロハンニキがまるでパパみたいだあ』『まるでというか』『有能無能よりパパ』『狩人パパ』『何だっ!?許さないうすよ!』『うるせえ仕事しろ』『机に貼り付けるぞ!』

『君が君らしく、それだけで良いんだよ』

「そ、そうかな……でも、親友の目から見たわたしは、わたしじゃないかも知れないんだよ?」

『いや、君は君だ。他の誰でもない……恐怖を感じるのには良い事だ、それだけ君は相手の事を思いやっているからね、だけれど、それに潰される必要は無い』

ていうか、べ、別に思いやってなんか無いし。

『これはパパ』『狩人パパ』『プロハンパパ』『なぎちゃんの親友って?』『そりや金髪美少女よ』『男の匂いがする』『ミクちゃんみたいな事言うな』『パパ株が徐々に奪われつつある』

『それとも君の親友は君を拒絶する薄情な人間か?』

『そんな事ない!……優しくて、頼りになる人なんだ』

『なら何も問題は無い、なぎちゃんなら大丈夫』

「……そっか」

『おっと、そろそろ勤務の時間だ、また話そうね、なぎちゃん』

「うん!狩人先生、ありがとうございます!」

『私の娘が……』『有能無能、敗北!』『敗北を知れ』『さよなら無能、ただいま狩人パパ』『これはパパ』『公認パパ』『イケオジ過ぎた』『そりやなぎちゃんも乙女るわ』『俺もそーなの』『ようホモ』

「……よし、じゃあ次の人〜!」

一人一人と話していく、くだらない悩みだったり、真剣な悩みだったり、ただ話したいだけだったり、色んな人と話していく。

『お兄ちゃん、来週ゲープロの大会なんだけど、妹に応援して欲しいなあ』

「まずあなたはお兄ちゃんじゃないです。優勝したら認めてあげなくもないよ」

『うおおおおお!聞いたかなぎ民!俺はやるぞ!やってやるぞ!!』

『うおおおおお!』『うおおおおお!』『頑張れ』『優勝しないで』『俺が兄だ』『プロハンニキ居ない大会で良かったな』『勝ったな、風呂入ってくる』『負けたな、飯食ってくる』『賛否両論』

「わあ!女の子だ、なにになに?なぎちゃんなんでも聞いちやうぜ……?」

『ひゃ、あ、あの!……なぎちゃんは、VRフィールドとかで、ああえませんか?!』

「よしわかった！いいよ、二人きりの専用部屋つくろう！」

『草』『草』『ゆりゆりなぎちゃん』『レズレズなぎちゃん』『セクハラだぞおっさん』『おっさんやめろ』『ミクちゃんに気を付けろ』『ヤンデレが黙ってないぞ』『なぎちゃん……後ろに』『窓にー窓にー！』

「やややめろ！本当に怖いからやめろ！……んー、そうだな……考え
ておくれ。ありがとう」

「次の人はくだれだだれだ？」

『くつくつくつ……アイサツ！こんにちは、なぎちゃん、にんにん！』
「アイエ！どーも、ニンジャさん……どーせVRフィールドで教え受
けたんでしょ？」

『アイエ！』『草』『バレてる』『初手看破』『これは千里眼の使い手』『ニ
ンジャ……くノ一……なぎちゃん……閃いた！』『うーん、最高！』『よっしゃ
描いたろ！』『わしも描いたろ！』『えちえちくノ一なぎちゃん』

『なぜバレた?!……と、お戯れはさて置き、なぎちゃん、今日は感謝の
お礼を言いたかったんです』

「へ、お礼つてなにさ……お礼されるような事なんてしてないよ？」
『謙遜ですよそれは、なぎちゃんが楽しくゲームをしているのを見て、
久々に8歳の妹が笑ってくれたんです、どうしてもお礼が言いたくて
……ありがとうなぎちゃん』

「……それは、あう……良かったね」

『ヒューマンドラマか？』『妹居たんか』『はえー感動』『なぎちゃんの
存在が笑顔を取り戻した』『なぎちゃんは人を救うなあ』『いつもより
照れてんなあ』

『で、その妹が！自分に対して当たり強いんすよ！一緒に寝ることも
風呂も入ってくれる事もなくなっただよなぎちゃん！どうすれば
いいかなあ?!』

「ふふつ……別に嫌われてる訳じゃないだろうし、良いんじゃない？」
『ニンジャ許さねえ』『裏山死刑』『有罪』『ニンジャさん、滋賀県で会
おう』『黒曜石の斧取り出した』『許されない』『このロリコン共め！』
『思春期やなあ』『微笑ましい』

わたしは人を笑顔に出来たのか、へへ……そっか、笑顔に出来る

んだよね。

「妹さんに伝えて？見てくれてありがとうって」

『そ、それは勿論！……なぎちゃんは天使だなあ』

「天使じゃないから……もー、切るよー？」

『かわいい』『かわいい』『かわいいなあ!!』『絶対天使なぎちゃん』『なぎちゃんは天使だなあ』『ガチ恋愛産天使なぎちゃん』『なぎちゃんが愛される理由が分かりました』『生きててありがとう』『産まれてきてありがとう』

恥ずかしいよもう……胸がいつぱいだ、優しさにわたしは支えられてる。

「こ、これ以上は火傷しそうだから……そろそろ配信を切るよ」

『いかないで』『いかないで』『話してくれてありがとう』『顔真つ赤』『耳まで真つ赤』『体温やばそう』『火照った体を冷やしたい』『お前、裏庭』『屋上』『照れのあまり配信を切るプロゲーマーがいるらしい』

「はい、じゃあ……また次の配信で会おうね」

配信を終了する、終了しても流れるコメントの画面を見つつ、配信が終わった丁度に登録者が五万人を超えた。

……わたしは自分の事を特別とかそう思っていない、けども、感謝してくれる人が居て、悩みを聞いてくれる人が居て……それは、配信を通してわたしが得たものだ。

その機会をくれた司に対して、わたしは返せないぐらいの感謝をしないとな。

「……よし」

わたしはわたしらしく、正直に話そう……司を、信じよう。

……その前におしゃれしないと、ナゲツトくんにかわいい服頼まないとなあ。

掲示板のおはなし。そのさん

【なぎ民雑談スレ part 87】なぎちゃんをすこれ【ミクなぎをすこれ】

1 : 古参面なぎ民 17 : 52 : 49

前スレはこちら。

次スレは >> 885 のなぎ民宜しく。

なぎちゃんのチャンネルはこちら。

なぎちゃんのつおったーははこちら。

荒らしは宅配ピザXLサイズ10枚、度が過ぎるようなら住民ハックと玄関爆竹の刑。

2 : 名無しのなぎ民 17 : 52 : 58

古参面とかいつ出来たんだ？

3 : 名無しのなぎ民 17 : 53 : 24

ほら、part 57 回ぐらいの時にいつからが古参か荒れて、じゃあ二回目の放送から見たなぎ民が古参ってことにしようって言ったやん

4 : 名無しのなぎ民 17 : 54 : 52

あーね

5 : 古参面なぎ民 17 : 55 : 03

古参だからって威張ったらXLピザ5枚だけどな

6 : 古参面なぎ民 17 : 55 : 42

なぎちゃん！なぎちゃん！なぎちゃん！なぎちゃんうううううわああああああああああああああああああああん!!!

ああああああ：ああ：あつあつー！ああああああ!!!なぎなぎなぎちやんうううあわああああ!!!

ああクンカクンカ！クンカクンカ！スーハースーハー！スーハースーハー！いい匂いだなあ：くんくん

んはあつ！かわいいかわいいなぎたんのシルバーブロンドの髪をクンカクンカしたいお！クンカクンカ！あああ!!

間違えた！モフモフしたいお！モフモフ！モフモフ！髪髪モフモ

フ！カリカリモフモフ：きゅんきゅんきゅい！！

チャンネル登録者40000人こえて良かったねなぎたん！にやあぐああああああああ！！配信なんて現実じゃない！！！！あ：つおったー十も動画配信もよく考えたら：

なぎちゃん は 現実 じやない？にやあああああああああ！！

そんなああああああ！！いやああああああああああ！！はあああああああ！！つおったー十うううううあああああ！！

この！ちきしょー！やめてやる！！現実なんかやめ：て：え！？見：てる？配信中のなぎちゃんが僕を見てる？

配信中のなぎちゃんが僕を見てるぞ！なぎちゃんが僕を見てるぞ！Tube@ライブで配信中のなぎちゃんが僕を見てるぞ！！

ゲーム中のなぎちゃんが僕に話しかけてるぞ！！よかった：世の中まだまだ捨てたモンじゃないんだねっ！

いやっほおおおおお！！僕にはなぎちゃんがいる！！やったよなぎ民！！延長でなぎちゃんともつと触れ合えるよ！！

あ、アーカイブのなぎちゃんやあああああああああああ！！いやああああああああああ！！！！！！

あつあんあつああんあなぎ様ああ！！うううううう！！僕の想いよなぎちゃんへ届け！！画面の向こうのなぎちゃんへ届け！

7：古参面なぎ民 17：55：52
そうそうこういう奴、模範になってくれたのかな？ありがとう、X

Lピザ10枚の刑な

8：名無しのなぎ民 17：56：04
またおかしな古参がデブになられた……

☆

362：名無しのなぎ民 19：42：45

人多くなつたとはいえ、ここはそう変わらんな

363 : 名無しのなぎ民 19 : 43 : 01

んーまあ実況雑談戦場の三つに別れたし、雑談のここはこんなもんですよ

364 : 古参面なぎ民 19 : 43 : 53

戦場と実況の違いとは。

365 : 名無しのなぎ民 19 : 44 : 02

実際無いでしょ、まあ過激派かそうでないかじゃない？

366 : 名無しのなぎ民 19 : 44 : 32

実際過激派っている？配信コメ見るとなぎ民線引きしつかりして
ると思うけど

367 : 古参面のなぎ民 19 : 44 : 57

そりや適時黒曜石の剣持ったなぎ民とか田中とかダウンヘル加藤
とかが間引きしてるからな、必然的に質が良くなる

368 : 名無しのなぎ民 18 : 45 : 04

待って？ダウンヘル加藤って？

369 : 名無しのなぎ民 18 : 45 : 21

ほら……最初の方のコピペのあの……

370 : 古参面のなぎ民 18 : 45 : 37

有能なのか無能なのかわかんねえな、間引きって具体的に何よ？合
法的な殺人とか言うなよ？

371 : 古参面のなぎ民 18 : 45 : 58

住民ID抜いて「お前のケツに爆竹突っ込んでロケット花火で宇宙
の藻屑ほしにしても良いんだぞ」って感じで脅してる

372 : 名無しのなぎ民 18 : 46 : 01

草

373 : 名無しのなぎ民 18 : 46 : 04

草

374 : 名無しのなぎ民 18 : 46 : 06

草

375 : 名無しのなぎ民 18 : 46 : 10

これもう過激派やろ草

376：名無しのなぎ民 18：46：24
過激派よりも過激なんですすがそれは……

376：古参面のなぎ民 18：46：34

だいじよぶだいじよぶ！この刑食らった奴今まで三人ぐらいしか居ないから！死人はゼロだから！

377：古参面のなぎ民 18：46：39

いるんかい！

378：名無しのなぎ民 18：46：53

怪我人は3人なんですわわかります、どんな奴だったんだ……

379：古参面のなぎ民 18：47：05

知らん方が良いで、なぎちゃんの空間には相応しくない。

380：古参面のなぎ民 18：47：20

あの陽だまりのような笑顔が曇ったら自分を抑えられなくなるからまあ妥当やな

381：名無しのなぎ民 18：47：31

ほんまあの笑顔ええよなあ……こつちも笑顔になる

382：名無しのなぎ民 18：47：49

なぎちゃんの笑顔で惚れました

383：名無しのなぎ民 18：47：51

わかる

384：古参面のなぎ民 18：47：52

わかる

385：名無しのなぎ民 18：47：53

わかる

386：名無しのなぎ民 18：47：56

わかる

387：名無しのなぎ民 18：48：06

わかりみが深過ぎる、ミクちゃんと絡んでる時の気の知れた友人同士
士の笑顔が好きです

388：名無しのなぎ民 18：48：32

ミクなぎは良いぞ。なぎ民のコメントに文句言いつつも嬉しそう

にする顔が好きです

389：名無しのなぎ民 18：48：52

それな、フアンアート紹介してた時の顔も好き、照れながら誇らしげな表情よ、なにあれ？俺を殺しに来てないか？

390：名無しのなぎ民 18：49：21

実際憤死しかけて鼻血が止まりませんでした。

391：古参面のなぎ民 18：49：42

手元に鎮静カプセルが無かったら危なかった

392：名無しのなぎ民 18：49：49

ドクペが無かったら危なかった

393：名無しのなぎ民 18：49：58

まあ顔出ししてから心がやばいのはわかる。特定とか大丈夫かな

394：古参面のなぎ民 18：50：04

それな、田中、どうなん？

395：田中 18：50：09

はい：田中です：まるで私がさも当然のように特定しようとしたみたいない方やめてくれませんか？

396：名無しのなぎ民 18：50：17

事実だろ

397：名無しのなぎ民 18：50：21

事実だろ

398：田中 18：51：00

えー、結論から言えば絶対に特定されませんね、通信や回線経路から辿るならNSS型フィールド使ってるので不可能、なぎちゃんの部屋の情報、例えば壁などから特定しようとしても材質が異質で絞れない、なぎちゃん本人から探りを入れても不思議な程に情報が無い。周りの関係性から特定しようとしてもその周りも居ない。以上の事から特定の心配は無いですね。まあ一応本名さえ判れば別ですが。

399：名無しのなぎ民 18：51：08

お前やっぱ野放しにしてちゃダメな奴だわ

400：古参面のなぎ民 18：51：14

やっぱまだ許されねえわ、お前は大人しく俺の作業代わりにしててくれ

401：古参面のなぎ民 18：51：20

怖えよお前まじで、もし分かったとしても絶対にするなよ？まじで

402：古参面のなぎ民 18：51：32

『ALICE』からデータ抜くつもりか？田中お前、管理職の人間か？

403：田中 18：51：46

職務を推察するのはNG、反省してます。特定は悪い文明、なぎちゃんにもしもがあつたら死ぬ覚悟で生きてます。

404：名無しのなぎ民 18：51：52

その覚悟で滋賀県の清掃してくれ

405：古参面のなぎ民 18：52：02

覚悟は分かったから今度はこの前解析したデータの座標に行つてくれ

406：名無しのなぎ民 18：52：21

変な気起きないように教祖たそに懺悔してこい

407：名無しのなぎ民 18：52：36

ああ、そういえば今教祖たそ日本に観光しに来てましたな

408：古参面のなぎ民 18：52：47

来てるねえ、何かの間違いでなぎちゃんと教祖たそで百合百合データしねえかなあ

409：古参面のなぎ民 18：52：58

ミクちゃんとの会話だけで動悸がやばいつてのにそんなんされたら肉体滅びる

410：名無しのなぎ民 18：53：16

教祖たそとなぎちゃん話し合いそうだから余計に話して欲しくなるなあ

411：名無しのなぎ民 18：53：32

ミクちゃんが「敬語とかキャラ被ってますよー」とか言いそう

412：名無しのなぎ民 18：53：37

草、わかる

4 1 3 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 3 : 4 1
草、それな

4 1 4 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 3 : 5 8

僕的にはコラボなら狩人さんとして欲しい気持ちある

4 1 5 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 4 : 0 9

わかるわあ、乙女なぎちゃん見たい

4 1 6 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 4 : 1 3

そうなるとなぎちゃんに嫉妬してまう

4 1 7 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 4 : 2 8

あの人そもそも忙しいから、配信でゲームするとなると難しいんじゃない？動画メインだし

4 1 8 : なぎちゃんの兄 1 8 : 5 4 : 3 4

俺とコラボしてくれないかなあ

4 1 9 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 4 : 4 7

いやあんた配信者でもなんでも無いやろ草

4 2 0 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 4 : 5 6

草、大会控えてるんだから練習しなさいな

4 2 1 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 5 : 0 6

元プロゲーマーという接点を活かそうとするな

4 2 2 : なぎちゃんの兄 1 8 : 5 5 : 2 1

！
つまり配信者デビューしたらワンチャン?!うおおおお！作るわ

4 2 3 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 5 : 3 5

草、なぎちゃんとかクちゃんに被らなかつたら見てやるよ

4 2 4 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 5 : 5 8

登録だけはしてやるよ

4 2 5 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 6 : 0 5

うーんこの、内容良かったら見てやるよ

4 2 6 : 名無しのなぎ民 1 8 : 5 6 : 1 3

速報。なぎ民優しい

4 2 7 : 古参面のなぎ民 1 8 : 5 6 : 3 6

ああそうだ、大会の会場つて日本海の海底庭園だろ？あの辺り例の奴ら多いから念の為武装しとけよ

428：名無しのなぎ民 18：56：46

例の奴らつて言うところ、赤城財閥が討伐金出してるあの連中か

429：古参面のなぎ民 18：57：02

7年経つても滅びねえのか、しぶといな

430：名無しのなぎ民 18：57：16

まじ生きる害つて感じ、宇宙船のパーツ集めてなにがしたいんやろ
な

431：古参面のなぎ民 18：57：21

知らね、まあもし見かけたり会ったりしても変に接触するなよ

432：なぎちゃんの兄 18：57：52

忠告どもども、まあここはなぎちゃんのスレやしこんな話ししてないでなぎちゃんの華奢な腰のラインについて話そうぜ

433：名無しのなぎ民 18：58：02

死亡フラグな上に変態か？まあ踊つて欲しいよな、いや変な意味ではなく

434：名無しのなぎ民 18：58：08

誤魔化せてないぞ、音ゲーしてくれないかなあVRとかで

435：古参面のなぎ民 18：58：14

歌って踊つて欲しい感じする、なぎちゃんアイドルいけるわ

436：田中 18：58：32

分かります。

437：古参面のなぎ民 18：59：00

おいまだ終わつてねえだろ田中！

その後も田中はこき使われ、平穩に流れて行くと思いきやなぎちゃんのお悩み相談回で爆速にスレが加速するのであった……

じゅーさんわ!

朝、少し早めに起きたわたしは、体を伸ばして起き上がる。のそのそと熊さんの寝間着を脱いで、朝のシャワーを浴びる。

「ん〜っ、朝シャワーさいこうか?」

すっかりシャンプーもしないとね、つてか頼んでないのにこういうのも服を頼んだついでに持ってきてくれるとか、ナゲツト君さまさまだ。

持ってきたお礼に頭と思いしき所を撫でてやったら、心なしか喜んでるようにも見えるし、なんだか可愛く見えてきた。

機械に好かれてる、かあ。

「何でなんだろう……でも、機械が心を持ったとしても、別に不思議な事じゃないよな、このご時世だし、実は擬似人格プログラムを使いましたって言われても驚かないぞ」

十分体を綺麗にして、ふかふかのタオルで丁寧に拭く。長いシルバードロンドを拭く動作もなかなか様になってきたと思う。

鏡の中のわたしを見つめる……充分かわいいけど、うーん? やっぱ化粧とかした方がいいのかな……ど、どうだろ、もつと可愛く綺麗なわたしを見せる方が良いんじゃないか?

い、いやいや! 何をそこまで本気で悩む必要があるんだ、これじやまるで司を意識してるみたいじゃないか!

そそそんなんじゃないんだから!……落ち着こう、深呼吸しよう。

「大丈夫大丈夫……着替よう」

わたしの美的感覚はそこそこだと思いたい、だから変な服装にはならないと思うんだ。……ま、まあ? でも仮に変な服になったらまずいから? 調べに調べたけど?

「……攻め過ぎかな、合うかな」

可愛らしくフリルがあしらわれた白いブラウスとコルセット付きのえんじ色のハイウエイスカートを着る。

確かパールツヴァルシユ号の船員の一人のファッションデザイナーが考案したもので、別名「童貞を殺す服」とかなんとか。

……司つて童貞なのか？わからん、よく海外に行くし人との付き合
いも上手いから……ま、まあ、彼女は居ないでしょ、勿論彼氏も、わ
たしに一言も無しに作る筈ない。

そんなことされたら許さないし、絶対認めない。

「……なんだろうこのもやもや……うー。気にしないようにしよつ」

この区、というより神奈川県は赤城財閥が統治する県らしく、かな
り平和的な県だ、間違っても滋賀県のように戦場じゃないし、果物が
浮いたりしないし、ブラック労働に頭をやられ全裸でえろ本を買いに
行く事例が発生したりはしない。

いや、最後の例は、ちよつと危ないかもしれない、どこにもその危
険性はある。

V R フィールドにも労働のしすぎて幻想^{現実逃避}行きした人間もいたと言
うぐらいなんだ。

一番平和なのは浮島として、実質鎖国化している北海道だろうけ
ど、いつまで浮いているか分からないし住みたくはないな……まあ、
常日頃武装して歩けてぐらい平和じゃない都道府県は無いと思う
けど、危険性は常にある。

と言ってもマンション周りは大丈夫。なんと死人の例が98%ぐ
らいしかない街なのだ、そんな所に良くわたしは住めるなど感心と、
司に対しての感謝でいっぱいになりそうだ。

「よっし……つとそうだ、初菜のお守り付けないと」

ぱつちり、鏡を見ても、心なしかいつもより可愛いなぎちゃんの完
成だ。

外は嫌だし怖い、良い思い出が少ないからだ。

ただ、少ないだけで確かにあった、その一つが親友と、司と出会っ
た事。

また深呼吸をする、今度は深めに肺に空気を入れる。

「よし」

一言つぶやき、わたしはドアを開けた。

☆

空を行き交う車やモノレール、ほうきに跨りバイクのように動く人影、人工的に作られたホログラムの虹が少しだけまぶしい。

空から地上に目を向ければ、二足歩行の無骨なデザインのAI、リクダムくんと、たまにナゲツト君が忙しそうに動き回っている、交差点を見ればカーチェイスをしているかのような速度の車やトラックや馬。

高すぎず低すぎずのマンションに、所々並んでいるお店や一軒家、公園では子供達がドローンに乗りながら空中ちやんばらを繰り広げてる。落ちても整備された公園周りの土は衝撃を100%吸収し、子供に怪我をさせない。

これがこの街の日常の光景であり、数ある日本の風景だ。

わたしが当たり前と思っているこの国は、他国から見たら異常ともいうべき国で、広い視点から見ると確かにこの国は進みすぎている文化を独自で創り出した国だろう。

その全ての発端は、今から約100年前ぐらいに飛来してきたパールツヴァルシユ号の船員達の影響で、頭の良い学者さん達は口を揃えてこう言う。

パールツヴァルシユ号が飛来しなかったら、世界が変わる事は無かったと。

それが良いことか悪いことか、わたしには分からない。未知を未知のままにするのは愚か者と言うが、パールツヴァルシユ号が飛来してきた理由^{未知}を知るのは、少なくともわたしではないと思う。

「……司は知りたい事は知れたのかな」

いつかに、パールツヴァルシユ号が来た意味を調べて、本来訪れる世界の未来はどんなだったかを知りたいとかなんとか言ってくれたな。その為に赤城財閥直属の会社に入って、研究とか実験とか色々やったんだろうし。

それにしても早く来すぎたかな？ま、待つのは嫌いじゃないけどさ……人もあまりいないから、まさかナンパなんてされることも無いし。

てかナンパする余裕のある人が公園にいるかな？VRフィールドで婚活した方がまだ成功率高いと思う。

……当たり前だが、ナンパされた事なんて無いからわからないけど。

「ん〜……ん？」

待ち合わせにしてた公園のベンチに座って、ぼーっとしていると、目の前のナゲツト君がやって来た、なんだろう？

「どーしたのさ、なにになに？髪整えさせて？えー、良いけどさ」

青色の目だと思ふ所が嬉しそうにピカピカと光る、後ろに回って、わたしの髪を繊細に扱う。

……美容専門のナゲツト君かな、この子達は幾つ職を扱ってるんだろうなあ、それにやっぱりナゲツト君に任せ過ぎだよなあ。

「ねえ、本当はサボりだろ。ダメなんだよー仕事はしつかりやらないと……え、違う？休憩時間だから？うっそだー」

しゃきーんの顔文字に汗マークついてるよ、ふっふっふ、わたしに嘘は効かないぞ〜？

「終わった？ふっつ、撫でてやろう、よしよし……この髪型ワンカールパーマでしょ？どうやってやったの？……企業秘密？そっか」

わたしにヘアアレンジだけして、後は頑張れよと言うかのように空を飛んで、多分持ち場の仕事に戻っていくナゲツト君……なんだったんだろ。

と、タイミング良く司らしき人影が見えてきた、思わずベンチから飛び出すように立って、その方角を覗く。

赤い、けども強すぎない丁度いい赤色の髪の毛に、目を完璧に隠している黒いサングラス、何故か白衣を着ているのは何年経っても変わらないらしい、側から見るとダサイからやめろっつーのに。

「俺様、参上……本当ここまで長かった……はてさてどれなに？風沙は何処だ？」

「司……っちこっちー！」

「おーそっちか、って……風沙、だよな？」

「そう、だよ」

「ははっ、だよな、そうか……可愛いじゃん、凧沙」

「え、へへ……そう?」

黒いサングラスで表情がわからないが、開いた口を手で閉じるような仕草をしてるから本心だろう、その場でスカートを摘んでくるっと回ってみる。

「その……久しぶり、司」

「……本当に、久しぶりだな、凧沙」

「うん!七年ぐらいになるのかな……?少し身長伸びた?あと体鍛えた?」

「お、わかつちやうか?まあ多分俺様が伸びたんじゃなく凧沙が縮んだんだろうけどな、がはは!……そうか、凧沙、やっぱりそうなんだな」

「……誤魔化せない、か」

それは、そうだよな。最初から気付いていたはずなんだ、咄嗟にボイチェンって言った時から薄々と勘付いていたと思う、何かと勘の良い親友は、その勘の良さでわたしを救ってくれたから。

「とりあえず凧沙、あの店行かねーか?」

「そうだね……前、任せて良い?場所忘れちゃった」

「忘れやすいなあ凧沙は!ならばしつかり後ろについて来たまえ!」

そう言つて前を先導してくれる司に合わせて後ろを歩く、わたしの歩幅に合わせてくれる優しさに、口角が自然と上ってしまう……気付かれてないといいな。

「司の話が聞きたい、ここ数年はどうだった?」

「あーと、そうだなあ、まあなんだ、長い旅してた気分?色々大変だったんだぜー?例えばそう、龍!龍に出会ったよ俺様」

「龍?」

「そうそう!流石に合成生物で作った偽物だろうけど、いやあイギリスは怖かったねえ……まあ害は無かったんだけどさ」

「それは、よかった。……怪我とかしてないよね?」

「ははーん、ばっちしよ!」

「そう言えば、微生物って、何の話なの?」

「多分赤城さんが言ってたと思うけど、精霊作ってたんよ、その失敗作。跳ねたり飛んだりするエネルギーの塊ってどこかね」

「ふうん、何だか面白そうだね」

「まあ必要なモノ集めるのに半年はかかるけどな！はくく……お、そろそろ着くぞ？」

赤色の髪を見つめながら、他愛のない話をしつつ、その店に辿り着いた。

喫茶店『San||Moon』珍しい純喫茶店で美味しいココの効いたコーヒーが特徴の、落ち着いたお店だ。

「お邪魔しまーすよっと」

と、一言言いながら扉を開ける、背後から付いて中に入ると、数年前となんら変わらない、落ち着いた雰囲気のお店がわたしを出迎える。

「……変わらない、けど」

そっか、それはそうだね。七年が経つんだ、そうなるのは可笑しくない。

「え、お客さん？わわわ！い、いらつしやいませ！何処でも空いてるんで好きに使ってくださいーい！」

ポニーテールが特徴的の元気の良さそうな可愛い店員さんだ。

ここのお店は渋いおじ様が、優しい笑みを浮かべながら経営していた、もしやアルバイトの可能性もあるが、おじ様に限ってそれはないだろう、最後までコーヒーを愛したいと言っていたぐらいだ。

「なら、奥座ろっか」

「そーだな、そうすっか……あ、店員さん、ブラックコーヒーとカフェオレよろしく！」

「注文だ！注文だ！任せてくださいーい！」

つかほんと元気良いな、もしかしてご臨終なさったとかじゃないの？シリアス的展開じゃないのか？あれ、思っていたのと違うような。いや、良き事なんだけど、だけどね？

「ああ風沙知らなかったっけ、ここのおじ様ギックリ腰にやられて入院したってさ」

「おおー……それは、無念だろうなあ」

「悔しがってたねえ、娘に任せたら赤字になるとかなんとか」

「……いや、何も言うまい」

「我ながら良い出来だあ……おっ待たせしましたーお客様！」

いやそんなに待ってないけどね、早過ぎるぐらいだよ？早いのは良いけど大丈夫かな、つてもう奥まで行っちゃったし……可愛らしく猫ちゃんのデコレーションが描かれたカフェオレを受け取り、味を確かめてみる。

「あちち、ふーっ……ん、美味しい、味は何も問題ないね」

「だろ？ここに来ない奴は人生損してる」

「違うない」

そこから軽い雑談に話を広げる、本当の軽い雑談で、この雑談が終われば、いよいよわたしも覚悟を決めないといけなない。

……言うんだ、自分の言葉で。

「……司、聞いてほしい」

「おう」

「わたしね、女の子に、女の子……に、なっちゃった」

「見りや分かる」

「そんなわたしでも司は、わたしだって、ひいらぎなぎさ 柊 風沙として見てくれる？」

「当たり前だ、俺様は親友の味方だからな」

ああ、よかった。

拒絶されなくてよかった、嫌われなくて良かった、わたしは風沙じゃないって否定されなくて良かった、柊風沙でいる事を許してもらって良かった。

本当に……ああ、本当によかった……。

「わたしは風沙だよね？」

「当たり前だ、俺様の知る親友だ」

「そっか……そうだよな、わたしは風沙だよね」

「……その体になった覚えは？」

「無いよ、でもわたしがわたしなら、それでも構わない。……ねえ、

もし男に戻れるとしても、わたしは受け入れないよ」

「ま、親友がそう言うならそれで良いけどさ」

そう言うところには手元のコーヒーを飲む、わたしに言っていない、思うことがいっぱいあるんだろう。確実に気を使ってくれている、ごめんね司、でも……今のわたしは、今のこの姿で育んだんだ。愛着が湧いてしまってる。

それに、かわいいわたしは好きだ。

「しっかし親友がマジで超絶可愛い美少女プログラマー配信者になってるとは……まあ俺様が勧めたんだが」

「へへ、そ、そう言うなよ……照れるじゃんか……」

「どれ、撫でてやろうー」

「え、ちよつとまつ……」

頭に司の手が置かれる、温かくて大きくて、安心する手だ。

撫でられる感触が心地いい、このまま全部委ねたくなってしまう

……

「ふにや……」

「おお、撫で心地のある……なぎ民にバレたら爆竹突っ込まれそうだ」

「あ、む……もつと撫でても良かったのに」

「がっはっは……ふくむ？」

何かを考えるように腕を組む司、わたしも真似してみよ……何考えてるのかな、わたしの体について本気で考えているのだとしたら嬉しい。

「……ま、いいか」

「ん〜？」

「何でも無いぜ！所でメイドなぎちゃんのお料理配信は？」

「へんたい、いやです。……土下座で頼めば考えてあげなくも無いよ。」

「恥を捨てろと?!良いだろう！俺様の為にメイドなぎちゃんのお料理配信をお願いします!!!」

うわ本当にやったよ……まあ考えるだけでやるとは言っていないし、ふふふつ……ん？

視線がしたのでその方に目を向けると、驚愕した目で店員さんが見ていた。

えー、土下座の司に、椅子に座りながら見下ろすわたしの図。

「まままままつてー違うよ?!誤解だよ!」

「似てるなと思ったけどなぎちゃんって本当ですか!?ファンです!今夜空いてますか?!って違う、握手して下さい!」

「んんん?」

「おー、やっぱり近くに居るもんだなあ、なあなぎちゃん?」

なぎちゃん言うな!

それから、店員ちゃんと握手した、記念すべき初めてのなぎ民との出会いだ、合法的に女の子の肌に触って満足して。なぎちゃんは彼氏がいるんだねとか言われたので流石に否定した

……なんか視線がやらしかったけど、まさか、ははは、ねえ?

その後は久しぶりに司といろんな話をした、全部が全部、なんでもないような話だったけど……それでも、それがただ楽しかった。

「ね、家……とまる?」

「がっはっはー親友よ、初菜ちゃんに殺されてしまっ、俺様まだ死にたくない、マジで」

「……うん、ごめん」

マンションまで送ってもらった事になって、どうせなら家に泊まりにすれば良いのと思ったけど、初菜は許さなさそうだなあ、あの子根は真面目だからおんなのこが気軽に男性を部屋に入れてはいけません!とか言いそう。

「まだ日本にはいるの?」

「暫くはなーいつでも会えるぜ……ただまあ風沙はこの辺りにいとかよ?間違っても他県に行かないでくれな?」

「な、なんでさ……まあ、配信もあるし遠出はするつもり無いけど、過保護なんじゃないか?」

「過保護過ぎるぐらいが丁度良いんだよ親友は」

「なんだとー!」

ふふふつ……わたしの親友は心配性だな、あの日から立場が逆転してる気がするよ。

「今日の配信も頑張れよ、俺様見るからな？」

「ふふん、任せろ！」

今日の配信、やること決まっちゃったな。

☆

「いえーい！今日は自称お料理お姉さんのなぎちゃんだよー！」

『いえーい！』『?!』『!?』『お姉さんか？』『メイド服!』『メイドなぎちゃん?!』『ふーん、清楚じゃん』『戦闘用冥土服じゃない方だ!』『やばいやばい』『萌死んでまう……』『まじか』『食べ過ぎは太るぞ』『くそかわいい』『やべえかわいい』『生きてて良かった』

「えへへ……わたしは太りませーん、なぎ民は料理つくる？ちゃんと食べてる？」

『食べてるぞ』『作るぞ』『作れん』『チューブレーションのぶどう味』『電子融合した餡蜜美味いぞ』『週に一回かな』『ええ……』『設備ええやん』『調味料の数おかしい』『フライパン二個やん』『一部のなぎ民どう生きてんの?』『X.L.P.ピザしか食ってない』

へー、チューブレーションなんてあるんだ、美味しいのかな？週に一回って本当にやばいと思う。ちゃんと食べなさい。

「週に一回とか本当にやばいよ、死なないで?……よーし、それでは早速作っていきますよ」

今日の作る料理はオムライスを作るぞ、簡単でみんなも作れてしかも美味しい！外れがない誰にも好かれる一品だ。

「ふっふっふ、わたしのお料理スキルを見せてやりますよー！」

『イキりか?』『ドヤ顔なぎちゃん』『ドヤなぎ』『かわいいさドバドバ』『めっちゃ溢れ出てる』『平日の夕方に10000人以上の前でメイド服姿でお料理配信するプロゲーマーがいるらしい』『可愛過ぎる……』『あー最高、スパチャしよ』『俺の飯代投げるわ』『俺も』『私も』『某も』『だ、だめ！投げ銭するお金で自分のご飯作ってよ?』

まずは片手で卵を三つ割る、もう片方の手で予めフライパンを温めて油を引く、適当に卵を掻き混ぜて塩と砂糖を適量に入れて牛乳とマヨネーズも入れて〜。

「ふんふ〜ん……どうどう?」

『手際良い』『なんて的確』『鼻歌交じり最高か?』『かわいいよなぎちゃん』『ガチ恋』『マジで料理出来るのか』『何でも出来るなあなぎちゃん』『毎日味噌汁作って欲しい』『家事も出来てゲーム上手くて可愛いとかなんだこのプログラマー?!』

「へへ……凄いだろ、つとそうだ、玉ねぎとグリーンピースと鶏肉をラードで炒めて、ご飯もラードで炒めて〜」

『もう美味しい』『本格的では?』『食テロ過ぎる』『我慢出来ねえ!』『ラーメン作る!』『毎日オムライス作って欲しい』『ポリウム多くね?』『全部たべれるか?』『豪食なぎちゃん』『よくばりなぎちゃん』『大食いプログラマー配信者』

「なー失礼だな、これぐらい普通だろ、つてかき、もっと食べるべきなんだよ、作るの楽しいし食べると幸せな気分になるでしょ?食欲には逆らえないんだよ、一日三食じゃ足りないんだ、間に食べることも必要なんだぞ」

『草』『草』『よく食べる子はかわいいなあ』『栄養が育まれてる』『言うほどか?』『ふとももえちじゃん』『わかる』『早口なぎちゃん』『くどくどなぎちゃん』

「よーしいい感じ、これをぱぱーと形整えて〜ケチャップ炒めてチキンライスにして〜、おつけおつけ……よっし、卵焼ごう!」

『同じ生き物ではない、かわいすぎる』『わかるかわいすぎる』『可愛い擬人化』『今日のなぎちゃん一段とかわいいが過ぎる』『わかる』『わかる』『猫耳つきたい』『僕はうさ耳』『じゃあ犬耳』『わしはドラゴンのツノ』『狐耳かなーやっぱ』『お、戦争か?乱闘か?』

「喧嘩してないでわたしのフライパン捌きを見ろ〜?そりや……!」

気分はまるで海賊船の金髪のコック!酔いしれる……わたしの華麗な料理に……!

『おお』『料理人レベル』『卵の扱いが異様に上手いプログラマーがいる

らしい』『今日まじで機嫌高いかわいい』『見えない猫耳がぴよんぴよんしてしつぽがゆらゆらしてるぜ……』『犬だぞ』『うさぎだぞ』『ドラゴンだぞ』『狐だぞ』『狸だぞ』『天使だぞ』『わかる』『異議なし』

「コツはねー、ちよつと強火にして、箸でかき混ぜるより、フライパンを早く回す方が良く作れる、んで早めに形作って、裏返しにひっくり返して整えたご飯の上に置いたら……どうだ！」

包丁で真ん中をゆーっくり切ると、中からふわふわの半熟卵がとろろりと左右に流れていく。

会心の出来だ、料理師の資格取れるかもしれない……ちよつとイキりすぎかな？

『おお〜凄い』『これがなぎちゃんの夕飯ですか、うまうま』『何食うとんねん！』『ハラヘツタクウ』『メシヲクウ』『オレモクウ』『なぎ民、ついに理性が危うい』『最初から危ういわ』『五臓六腑がなぎなぎしてきた』『未だに理性があるのは俺だけか』『ん？』

「でもこれだけじゃ終わらないぞ〜？周りにデミグラスソースをいっぱい使って、後はケチャップで……つと」

『これ本格的の美味しいやつだ！』『高級ファミレスの美味しいやつだ！』『おかえりなさいとか最高か？』『これはメイドですわ』『好きです』『俺を認知してくれ』『私と宮城県に行つて籍入れませんか？』『ミクちゃんではないレスがおる……』『なぎなぎ……なぎなぎ……』

えへへ、見てくれるなら気付くよね？今まで本当にありがとう、これからもよろしくね。

「それじゃ一口……もきゅ、んー美味！」

「ちなみにケチャップは炒めてオイスターソースをちよつと入れると劇的に変わるよ！このデミグラスソースは貰い物だから違うけど、意外と作るの簡単だったり！」

『へ〜』『ほえ〜』『食ベ跡えちい』『わかるえちい』『咀嚼音が可愛らし過ぎる』『かわいいがすぎるよなぎちゃん』『色んな意味でクラクラしてきました』『これまずいは明日懺悔しにいこ』

うにゅ……次からは配信の前では食べないようにしよ、うん、懺悔した勢いで心も清らかになつて下さい。

「どうだったかな？みんな、お料理する気になった？」

『なった』『なったよ』『改めてお嫁に欲しいです』『パパ許さないぞ』『もうパパじゃないよあんだ』『料理師の夢目指してみよう』『頑張れ』『パーフェクトメイドが過ぎる、好き』『美味そうな料理見たら週一生活とかもう出来ないっす』『キムチーズ入れるともっと美味しいよ』

キムチーズ！その手があつたかく。なるほど、まだまだ勉強になるなあ

「さて、今日の配信は早いけどこの辺で終わるよ、あつてもでも、明日もやるからみんな見てね？」

『いけない』『ママー！』『ママ？』『母親感じるな』『至福の時間が……』『何気に50分下回ったのって初めて？』『そうだね』『いやあ今日も幸せだね』『料理配信ええなあ』『忘れてたわ、料理の概念』『なぎちゃんおつかれ』『今日もかわいかった』『一段と輝いてた』『つやつやなぎちゃん』『そうではないやろ』

お料理配信用に準備したカメラ専用のリモコンを使ってカメラをOFFにして、パソコンに戻って配信を終了させる。

「ふー……初めてやってみただけど、今日は全然緊張しなかったな」

胸のもやもやが晴れたからかな？これからは、これからももっと楽しい日々が続くと嬉しいな。

「ふふっ……さてと、頂きます」

じゅうよんわ!

司が日本に滞在してから早くも5日目ぐらいになる、休養で日本に帰ってきた訳じゃないから忙しそうに転々とどこかに行ってるけど、暇を見つけてはわたしに電話したり会ってくれたりするので、嬉しい。

初菜はまだ帰ってきてない、連絡には出してくれるし、司が来るとわたくしがわかった瞬間に電話をかけて来るので何かあった訳ではないと思うけど……ちよつと心配、それを上回るぐらいに怖い。

まさかと思うけど、盗聴器とかつけられてないよね、GPSとかつけてないよね?大丈夫だよな、大丈夫ダイジョウブ……

三音との仲も良好だ、近いうちにまた来ていいか聞かれたので、勿論承諾した、今度は三音と一緒にゲームでもしたいと伝えると、練習してきますわー!との事。

「……一ヶ月前とは大違いだ」

そして、まだ一ヶ月しか経っていないんだ、わたしのメンタルの成長に我ながら自慢したい……って言っても、まだ人見知りが完全に無くなった訳じゃないと思うけど。

広告も付けられるようになりそうだし、ここ数日で企業さんから色んな話を貰って、これが定期的な収入になるのなら、わたしは一人でも生きて暮らせる事になるのかな。

完全に自立出来たと思った時、わたしはどうするんだろう?……まだ先のことかわかる訳ないか。

「日本海の海底庭園にてテロリストの襲撃が発生、赤城財閥の迅速な行動で死者0人、怪我人0人か……物騒だな、でもさすが三音だなあ、公の場ではどう言う人なんだろう?」

つと、こつちの記事はなにになに?

【我等が教祖たぞ、日本に来日!】

説明は不要でしょうが、ぐあーちやる教団の女神、教祖たぞで有名なフィリス・リーベルフィル様じゅうよんさいが日本に遊びに来てくれました、これは本当に大変嬉しい事です。

まさか、づあーちやる教団とはなんぞやと言う人が居るはず無いでしょうが、そもそもづあーちやる教団とは「きのこ派かたけのこ派か」、で大規模ないざこざの末に、大きく二つに分離。

大手データ輸送会社と、全人類管理データベース『ALICE』を崇拜する教団に別られました。

でも教祖たそを思う気持ちは何一つ変わらないよ！是非日本を楽しんでね教祖たそ！づあーちやる教団本社に来たら好きだけ飴ちゃんをあげるよ！

あ、ちなみに教祖つていうのは教祖たそが「響きがなんかかっこいいです！」と自分で命名して付けたあだ名でして、宗教・宗派をひらいた人ではないです。

「はえ〜…確かに教祖つて響きかっこいい、い？うーん？」

まあ、詳しく見てみるとロシアの方から来てくれたみたいだから、日本を楽しんでくれると嬉しいな。

…なんでロシア？検索してみよつと。

「たけのこは一度負けた、だがロシアの大統領はたけのこ派だった、ならもうここで教団活動するしかない、ついでに日本の外交もしよう、そうしよう」

はい、うん…理由が可笑しいよ、なんでこうもギャグにギャグを重ねた後にブランデーとチョコレートで味付けしたみたいになつてんだよ、てかついでに外交するなついでに！

まあ、平和なのが一番だけどさ。

「…思い出したくない事には蓋をしよう」

今日は忘れててやってなかった五万人記念を今日しようと思う、ついでというか、都合が良い事に、前にSSS社から届いた案件の曜日が決定したので、それを宣伝するのに使わせてもらおう。

せっかくの記念だから、VRゲームをしようと思う…それで何のゲームをするかとおったー十で募集をかけたところ、アンケートの自由枠がホラゲーで埋まった。

8回ぐらいやり直したけど結果は変わらず、ホラゲーを享受しろか

の如く押し付けて来たので……今からでも急な用事が出来てほしい限りだ。

いやなんだよ、ホラゲー、VRのホラーって直接襲いかかるようなゲームじゃなくて、音とか奇怪なオブジェとか、おぼけとかで脅かすから本当に怖い、何も居ないはずなのに腕が掴まれる感覚とか。

「うう、今考えてどうすんだよお……」

いやだなあ、確かに最近はやわやわなぎちゃんは見せてないかもだけど、って、別に見せる義理なんて無いけど！

「VRか……」

実は配信用ナゲツト君はSSS社から今後も使うからと譲り受けている、わたし最良が過ぎるんじゃないかと思うが、ナゲツト君は経済的コスパが良いからなあ、作ろうと思えば簡単に作れるんだろう。

でもこれは光栄な事だ、VRに存在出来る配信用ナゲツト君は企業さんの所を除くと今現時点でわたしが把握している中で数十人、身近で言えば狩人先生とかの一部の配信者しか所持していない。

その中の一人にわたしがいるのは、結構自慢できたりする。

「別に威張ったりはしないけどさ」

何気無しに、パソコンの横に置かれた特別な機器、確か名前は……

そう、『Presentza di elettro ni||Moon Program』

特別に発注して作ってもらった物だが、このモデルにMoonタイプなんてないので、確実に他の人が使うモノとは違うと断言出来る。

じゃあ何が違うかって言われると、姉しか知らないのだけけど。

「あーVRホラーこわいなあ……誰かわたしの代わりにやってくれないかなあ」

なんて呟いてみたり。

☆

わたしの映っている画面を見る、赤のベレー帽とロングパーカー、手首に初菜のくれた御守りを付けたわたし自身だ。

今後、VRに飛ぶ時は基本的にこの格好で行こうと思う、私似合ってるし?……や、自己投影って結構疲れるんだこれが、全身全てが電子に反映されるまでずっと同じポーズ取らないといけないし。

5分ぐらいなら全然良いけど、生身と何ら変わらないまでの自分を再現するとなると早くても15分ぐらいはかかる、仕方ないんだけどね。

「配信は向こうにつけば自動的に始まるよう設定したから……おっけ、準備完了です」

それじゃあ行くか、なぎ民^{みんな}が待ってる。

――擬似電子体総合プログラムを開始します。

――肉体と精神の統一を開始します。

――電子体へのアクセスを始めます。

――適合を完了しました。世界への適合を開始します。

――エンドレスエタニティへの接続を開始します。

――全行程良好、擬似工程クリア。

――全行程完了。配信を始めます。

――いつか風沙様と話せる日が……いえ、頑張ってくださいませ。風沙様

やけに不気味なぐらいに静かで、嫌な空気が流れ今にも何かが湧いて出そうだ。

目開ければ、道路の壁に寄りかかって居たわたしをナゲツト君が見つめていた。

「……おお、なぎ民達ー、配信出来てる?わたし見えてる?」

『出かわ』『かわいい』『5万人記念VRホラーだー』『うおおおー』『やったー』『よわよわななぎちゃん?』『ぎこぎこなぎちゃん?』『ホラーと聞いて』『こんなかわいい子にホラーさせるんか! (歓喜)』『楽しみ』

「よしよし、コメント見えてるぞー?ってかまだ怖がってないだろ! ……今日やるゲームはエンドレスエタニティです」

説明しよう！エンドレスエタニティとは、SSS社考案、ホラー専門VR会社おぼけやしき社と合作した探索ホラーVRゲームなのだ！

深い暗闇と霧に包まれた一つの街の原因を突き止め、解明し解き明かす……だけなら良いのに、街の影からゾツとするような不明瞭な化け物の影になったり、背後に足音がしたり、振り向くと背後から笑い声がしたりと、とにかくこわい！

おぼけやしき社は「本気出してないです、出したら死人出ますから」との事、お願いだからそのまま本気出さないで居て！

謎を解き明かしたプレイヤーには良いことが起きるそうだが、そもそもこのゲームをやってる事自体良いことじゃないよ！

「お願い変わってー！」

『草』『草』『いつもと説明の仕方が違う草』『こわがりなぎちゃん』『心なしかナゲット君もふるふるしてる』『ナゲット君に心はあるのか』『にやにやが止まりませんなあ』『止まりませんなあ』『げへへへ』『なぎちゃん…窓に！窓に！』

「窓なんてねえよ……ふー、まあいぎとなればわたしの俊敏な足で逃げりゃ良いんですよ、はい……わたしの味方はナゲット君だけだ、いぎとなったら生贄になつてね」

『草』『嫌そう』『首振ってるぞ』『機械いじめだぞ』『コンプラ問題だぞ』『ナゲット君に罪は無いぞ』『なぎちゃん、取り敢えず進んでみない？』『どれぐらいまでやんの？』『視聴者2万人おめー』『よわよわこわがりなぎちゃん見たいんやなあ』

う、悲しそうな目で見るなよ……冗談だよ、つて2万人？複雑だよ……怖がる女の子は確かに可愛いが、当事者からしたらたまったもんじゃねえよ。

「クリアするかわたしの心が砕けるかの勝負だよ、さて立ち止まってる訳にもいかないし……よし、行くぞナゲット君！取り敢えず進んでみよう」

てくてくと歩く……こうしてみると普通の街、つていつても、車の通りもなければ人影も居ない、街にはわたし一人だけなんだけど、こ

れはこれで、厨二心が攪られる。

「人もA Iも居ない深夜に道路に立つとなんか、こう、わかるでしょ？」

『わかる』『わかる』『テンション上がる』『危ないぞ』『最近深夜でも警備A I多いから出来ないね』『うーんナゲット君そこ変わって』『てかVR空間のナゲット君持ちって凄いな』『あー確かに』『もうSSS社のアイドルやろ』『否定はしません』『出来ません』

「貰った訳じゃないけどね、んー？なぎちゃんにずっと付いていきたい？可愛いやつだなー」

と、衝動的にナゲット君を撫でようとした時、その手をぐいつと掴まれた。

突然のことで何の抵抗も出来ないでその勢いのまま地面に倒れそうになるのを、何とか回避する。

「っ……い……これが見えない手って奴？はっ、地味な奴だな、わたしを怖がらせたいならー?!」

と言いかけた所で、口を押さえられる、引き剥がそうと手を動かしてもビクともしない、次は目を隠される、息は出来るから苦しく無い。

肩を掴まれる、腕を、手首をーや、やめて……やだっ！
「ーぷはっ！はあ……う、うう。何なんだよクソ」

唐突に解放されると、目の前にメモが落ちていた。

「なにこれ、ナゲット君わかる？」

『涙目なぎちゃん』『こわい』『ふう……』『おぼんっ見えないお……』『いけない気持ちになってきた』『怖かったです』『今のイベント固定？』『ランダム』『これ実際怖い怖そう』『なぎちゃんあのまま倒れてたら押さえつけられてたのか』『ほう』『ほう』

ほうじゃねーよ、のけ民にするぞあほばか。

「なぎ民ならもつとわたしを心配してよ……読むよ？」

このメモを見てるということは、この街に来たと言う事になる、なら私から言える事は一つだ、解決しろ、それしか道は無い。逃げ道は何処にもない、永久に繰り返すだけだ……か。

『エンドレスってそういう』『ふーん』『考察長文しようと思ったけどや

めたわ』『まあ専門のスレで書いてくれ』『未だに全ての全貌は解けてないんだよなあこのゲーム』『シナリオって誰考案?』『SSS社のえらいひと』『パパは書いてないです』『あんたはパパじゃないぞ』

いや、狩人先生もパパじゃないからね、恐れ多いし、恥ずかしいし。「解決しろって言われてもねー、ヒントも無しに出来るかよって話さ、ナゲツト君、なんか当てある?……ないか」

またてくてくと歩く、さつきより周囲を警戒しながら……正直、同じ場所をぐるぐる回ってるように思うのは、霧のせいなのか、それとも何なのか。

「あ、壁に道があったりして?」

と、白い壁を押しそうとするするとするりと抜けて、別の風景が広がる、大きな変化は見られないが先ほどより少しだけ霧が濃くなって、街灯の灯りが付いたり消えたりしてる、目に悪いなあ……

「わたし、もしかして賢い?」

『賢い』『かわいい』『なぎーちか』『スピリチュアルやね』『パズルは出来ないけどな』『直感A』『迷う人はずっと迷うしね』『常識を疑えつてね』『くっさ』『ホログラムウォールだ!』

「パズルの話はするな、んーまた歩けば何か起こるか?、正直さつきのぐらいならビビらないぞ〜?」

『イキってきた』『ほんとか?』『フラグ建築士なぎちゃん』『このゲームってゲームオーバーある?』『あるぞ、滅多に無いけど』『なぎちゃん……後ろに……俺が……』

「残念、このVRゲームは一人用です……ねえ気のせい?電柱の影大きくなってきてない?」

夜で見えにくい夜目が利くわたしの目を信じると、足を進めるごとに電柱の影が大きくなっていく気がする……あーやだやだ、ほんとやだ、マジでいやだ、怖えよお……

「デモプレイで見たから良いから、影が実体化して追いかけて来るやつでしょ?わたし予習済みなんだよ、ほんとそういうのいいから、いや怖く無いけどね?本当に、勘違いしないでね?そうじゃなくてさ、ほら、ありきたりでしょ、求めてないでしょ?求めてないんです、は

い」

『草』『草』『長い』『早口なぎちゃん』『これが自称プロゲーマーですか』『自称じゃないぞ』『いつの間に?!』『なぎちゃん、それは恐怖だよ』『見て見たいです』『なぎ民は求めてるぞ』『求めてるぞ』

「うるせー！わたしは嫌なんだよお！」

と、なぎ民に反応したその時、街灯の明かりがタイミング良く消えて、音が止む。

闇が、影が上に延びる、徐々に徐々にわたしを囲むように壁のように伸びていく、やがて実体を持つかのように立体的になっていき、人の形になっていき……ふと、目が合見つた。

「つまじぶざけんなよー！」

エンドレスエタニティは公平性を保つ為に身体能力を一定化させる効力をVR空間そのものに展開されている、ただそれでも完全に一定化するのとは不可能だ。

つまり、上限値に収まりきらないなら話は別で、地面を蹴った衝撃で2メートルある影の壁を超えて光が見える方向に走る。

『?!』『まじ?』『チツ』『チツ』『チュ』『キスするな』『身体能力たっか』『目が良すぎる』『真っ暗になって何も見えない筈なんやがなあ』『しゅごい、惚れる』『プロハンニキかな?』『このパターンは初』『さすがに身体能力』

「はー、そう簡単にわたしが捕まるとでも?どーよわたしのー」

そこで、言葉が詰まる、光……いや、光と思っていたものを見たからだ。

まるで濁った泥、いや、水たまりの中に灰色がかかった忌まわしき塊が、絶え間なく身を震わせながらふくらみ続けていた。そしてその塊から多様な形の、分体とも言うべき塊が増え続けて、這いずりながら鈍重に不規則に動く。

わたしが光と思い込んでいたものは、一軒家のごとく肥大化した名状し難い生命の冒流のような塊で、塊の中心にある無数の瞳のような灰色のデコボコが一点を集中して見ていた。

「あ……」

だめだ、これは人が見て良いものじゃ無い、ゲームだからとか、そんな理屈じゃない。

力が抜ける、体を支えている事も出来ずその場にへたり込む、声が出ない。

無数に増え続けている分体がわたしの存在を認知する、口から出る液体がまるでよだれの様に垂れ続け、地面を焼く。

『草も枯れる』『怖い』『怖い』『うおお……』『漏らした』『これマジですか?』『あのバカ会社どうせシステム上抜けられないだろって裏要素に本気出しただろ!!』『布団羽織ったお』『露骨にコメント減ったぞ』ふと視界に見えたコメントで、少しだけ我を取り戻す。

に、にげないと……!でも、どこに?どうやって?立てないよ、立たないと……!!

ピトっ……と、頬にナニカが付着した。

「や……っ?!」

本体、とすべき塊の手の様なモノが、わたしの頬を汚す、不快な感触に逃げ出そうとしていた力が完全に脱力し、体を震わす事しか出来ない。

何かを確かめる様な感覚に、目だけは瞑る事が出来なかった、瞑る事をした時が、わたしの命の終わりだと無意識に悟ったからだ。

『涙出た』『怖い』『ヒエッ』『もう無理トイレ』『怖えよ』『おぼけやしき社頭おかしい』『俺なら失神してた』『ナゲット君助けて!』『冒瀆的過ぎないか?』『VRでこれはキツイ』『ガチホラーにも過ぎるよ……』

頬にかかる汚れに、手に……不浄のモノに、わたしはどうする事も出来ない、声を出そうとしても呻き声のようなものしか出せず、段々と視界が暗く染まっていくのを、漠然と理解し、恐怖が加速する。

しばらく、永遠に感じる時間の中で、唐突に頭に言葉が送られた。

『肉体、精神、存在。魂、或いは在り方。歪、正常?ク……愉快』

「なに……これ」

『伝達。オマエ、気に入った。特別、生かそう』

『我は電子、されど神故。努忘れるな、その身、我を悦ばせ』

脳裏に伝わった直後、幻だったかのように不浄の塊が消える、焼け

た地面と不快な感触だけを残して。

『消えた?』『怖かった』『大丈夫?』『大丈夫?』『なぎちゃんもう辞めてもいいよ』『無理しないで辞めていいよ』『生きて』『しなないで』『しなないで』『良い子にするからなぎちゃん生きて』『風呂入ってたらどんな状況?』

「ーあ、ああ……しなないよ」

自分の手を見る、他でもないわたしの手だ……さっきのは、幻だったのか?現実だと考えたくない。

「大丈夫、だいじょうぶ、心壊れそうだけど……まだ大丈夫、先進もう』『無理しないで』『無理しないで』『あー怖い』『目に光がないよなぎちゃん!』『ママ元氣出して』『パパもう辞めても良いと思う』『お兄ちゃんも思う』『偽者達の言う通りだよ』『本当も大丈夫?』

し、心配で心が癒される……涙出る、のけ民は居なかったんだね……

『でもさっきの正直興奮しました』『ばかやめろ!俺もだけど』『不謹慎だぞ!RECしたけど』『のけ民共め!その録画僕にもちよーだい?』『最低だわ、俺もそーなの』『えろかった』『わかる』『わかってしまう』『なぎちゃんごめん、僕もです』

「な、な……お、おまえらなんてのけ民だー!!!」

もう知らないっ!コメント機能OFF!これでわたしからみんなは見えない!本当に怖かったんだよお!!

「わたしの味方はナゲツト君だけ……でもないな、ねえさっき何してたのさ、わたしを助けても良かったでしょ!」

『草』『草』『無理がある』『ごめんなさいするナゲツト君かわいそう』『あ、なぎちゃんコメント非表示にして』『草』『今なら告白し放題では?』『お前、有能』

「……よし、なんとか歩ける、進むよ」

アレが居た先に向かう、不思議な程静かで、不気味で、だけれどもわたしの直感を信じるなら今後しばらくは何にも襲われないと判断した。

10分ぐらい、その間に何もなく足を進めて行くと、屋敷のような

場所に辿り着いた。

「ここは……多分、さっきの影に連れられてここまで来るんだろうなあ、本当は」

はあ……怖がり損じや無いかよ、ちくしょう……恐怖から逃げたらさらなる恐怖とか誰も求めてないから、洒落にならない怖さだったから。

「よ、よし、入るぞ？入るからな？覚悟はいいな？わたしは出来る、何が来ても驚かない」

『覚悟は出来たか？』『俺は出来る』『変な汗出て来た』『並大抵のならもう驚かんわ』『なぎちゃんを助けて』『助けて』『つおったーで自由枠にホラゲー投票した87.56%のなぎ民、見てるか？』『反省します』『もうしない』『あれ、屋敷って正規ルートだっけ？』『え？』『ん？』

「お、お邪魔しまーす……」

恐る恐る屋敷の扉を開ける、ギイイと呻る軋んだ嫌な音に不安が加速するが、強烈な一発を貰った今のわたしにそれだけで止まる精神ではなく、屋敷の全貌が見えて来た。

一般的、というのもおかしな話だが、ぱっと思いつく屋敷の内装をしていて、変なオブジェがある事もなく、少ない灯りが点いている。

「ーっこんばんわ」

耳元で声があった、ビクツと体を震わせて、瞬時に離れて背後を振り向く。

「……おん、な？」

「はじめまして」

外に出ていないのだろう、目元が見えないまでの白い髪に、不自然な程に肌を見せない黒いドレス、不健康さを思わせる肌白い手を見て、嫌な予感がした。

「……幽霊か？」

「正解」

「より正確に言えば地縛霊の類だ、そうだろう」

「あら、見ただけで分かりますの？不思議な方」

「霊ってというのは自我が薄い、強力な自意識、或いは恨み、後悔が強いほど……実体に近い」

『洞察力A』『凄い』『勘が鋭い』『こういうのには強いのか』『手震えてるしそうでも無いと思う』『つよがりなぎちゃん』『かわいい』『鳥肌が止まらないです』『さつきみたいなのは辞めてくれ……』

——どうする？

案外話せる、平和的に話すのも手だが地縛霊は死霊、悪霊に近い。最悪な事に扉の前に霊がいて、脱出は難しい、逃げることは難しいだろう。

「なぜ此处に？」

「……この街を解放する為」

「解放とは、また……困ります、この夜が無ければ私は此处から消えるでしょう、命が消えると知りながら、それを許認出来ますか？」

「ならお前は何を望むんだ」

「望むものと言われたなら、この街の永遠の暗闇をと答えましょう」

「それは違う」

「何故？」

「対話する必要が無い、それが望みなら話かける事もましてや招き入れる筈がない、わたしに用がある筈だ、対話するだけの事が」

『おお』『おお』『確かに』『すすごなぎちゃん』『このイベント見た事無いんですが』『やっぱルート外れてない？』『なぎちゃん難易度ルナティック好きだね』『滅多に無いBADENDって……』『やめろ』『言うな』『口縫い合わせられたいか』『ごめん』

「不思議で聡明、ふふふっ……気に入りました」

独り言のようにぼそりと呟かれた言葉と同時に、反応する暇もなくわたしの目の前に、その顔が迫る。

不思議と綺麗な顔立ちだった、よくある口裂け女のような三日月めいた口というわけでもなく、顔だけ傷だらけと言う事でもない。長い髪の毛の奥に見える赤い瞳が愉しげにわたしの瞳を覗く。

「頼みがあります、聞いてくれたらこの闇を祓う手伝いをしてても良いですよ？」

「っ……確約しろ、話はそれからだ」

「ふふ……拒否権が無いと分かって、なお強気に放つ、ええ、ええ、約束しましょう。夜が晴れ、あなたが世界から離れるまで、手伝いしましょう」

『ひえっ』『うおお』『ヤンの匂いがする』『ゆりれずか?』『やっぱりズじゃないか!』『幽霊を誑かす自称プログラマーがいるらしい』『自称じゃないぞ』『なぎ民、相変わらず』『コメントで賑やかさないとまともに見れない』『それな』

「この屋敷に橙黄色とうおうしよくに輝く宝石があります、それを探して見つけ出し破壊して下さい、簡単でしょう?」

「自分で出来る事じゃないのか」

「触れられない物をあなたは持てますか?」

「……わかった、これ以上は聞かない」

「懸命ですこと。その間私は消えていますよう」

ニヤツと、最後に嗤うと幽霊の女は半透明に、やがて透明になり私の目に見えなくなつた、見えなくなつただけで今もわたしを見ているのだろう。逃げ出さないよう監視する為に。

……やっぱりコメントONにしておこう、なぎ民のみんなのコメントが無いと怖い。

「……わたしなぎ民がやったゲーム出来てる? 同じゲームとは思えないんだけど」

『草』『わかる』『同じゲームしてない』『なぎちゃんだけルート外れ過ぎて』『影から逃げるなんて普通できないからな』『プロハンニキこどうクリアしたつけ』『家に鍵開けして入ってハンドガン入手して原因とバトツた』『草』『草』『あの人もルート外れてる』『人によって様々やな』

いやホラゲーで何やってるんだ狩人先生は……こうなるなら大人しく影に連れ出されるのもありだったかもなあ。

「とりあえず探そう、そう遠くない位置にあると思う」

予感というか、定番というか、こういうのは昔っから地下とかにあるのがデフォだ、そして大抵鍵がかかっている。これを破壊する。

『ええ』『草』『草』『暴力!』『血の気が多すぎる』『これしか知りません』『最適かつ最低』『ネットヤンキーなぎちゃん』『やつぱあたまわるだわ』『わるわるなぎちゃん』

「うっせ〜!溜まってんだよこっちはよお!なんでわたしがこんなに怖がらなきやならねえんだよ、ねえ聞いてんのか87.56%のなぎ民達さあ!許さねえからな……餅食って喉詰まらせて病院行け!」
『草』『草』『ごめん』『ごめん』『すみません』『お願い許して!』『餅は洒落にならないですよ!』『直接的に言わない所に優しさ感じる』『病院……ナース……なぎちゃん……閃いた!』『怖くて今描けない』『怖がりか?』

「もうとつとと解決して終わりたいよ……ん、あれかな」

地下に降りるとまた扉があるので、開けると無駄に広い部屋の中心に、何かを祀った、或いは封印したかのような魔法陣めいたものと、一般的なの手程の橙黄色に輝いた宝石があった。

「これを壊せばいいのか……」

一歩一歩と近付いて、あともう直ぐで拾えるところで、足音の様な音が聞こえた。

「ここにきて……っ!」

振り向く事はしない、自分の足を信じて駆け出す、初速で飛ばせー

『逃げて』『逃げて』『腐った死体とかド定番、でも怖い』『怖い』『数えて20体ぐらい』『多いな』『冷や汗が』『頑張れなぎちゃん』『その中の一番のイケメン俺』『APP1がお前?』『顔が腐ってんぞ』『風呂入れ』

「っ取った!オラー!」

勢いよく壁に叩きつける、衝撃音と共に粉々に宝石が砕け散る。

「これで……っってこいつらまだ動くのかよー!」

不味い、恐怖で最大限のキャパシティを出せないわたしでは数の暴力には屈すると確信している、ジリジリと逃げ場を埋められ、壁際に追い込まれた。

ダメだ、掴まれる、頬を撫でられた感触がフラッシュバックする、も

ういやだ、いやだいやだ、やだ……！これ以上恐怖に晒されたら、もう……！

「怖がるあなたも素敵です」

耳元で、ささやくような声がした。

時同じく、全ての腐った死体が蒼白い炎に包まれ炭化する。

『うおおおおお！』『うおおおおお！』『さっきの幽霊ちゃんだ！』『敵の敵は味方ってね』『くつさ』『これは熱い展開』『ある意味王道的展開』『どう演算組んでAI動かしてんだ？』『ホラー作れば右に出る者がいない社とSSS社やしなあ』

「お、まえ……わたしを助けて……？」

「ええ、ええ。約束ですもの、約束は守ります」

「アレは……おまえの作ったものとかじゃないのか」

「失礼な方、アレは元々この屋敷に住みついた行き場の無い魂の成れの果てでしょう」

むっとした顔をする幽霊に、少しだけ警戒を下げる。

「元凶は、闇と霧の原因は何なんだ」

「意味も無く霧を作り偽りの夜に人を惑わせ永遠を享受する。意志を持たない集合体。でしようか」

「……おまえは、何だ？」

「しがない」地縛霊ですよ……ふふつ、では行きましようか」

ふっと愉しむ笑みを浮かべながら、来た道の方に視線を向ける……どうやらその原因とやらに案内してくれるみたいだ、大人しく付いていくのが得策か。

屋敷を出る、それで確信した。やっぱりこの霊は屋敷に住みついた地縛霊ではない、大方あの宝石の効果か何かで屋敷に留められたのだろう。この街そのものの地縛霊か、或いは。

「心地良い視線ですこと」

「嫌味か？はっ、別に助けてもらったからって信じた訳じゃない」

「あら、悲しいです……ああ、名前を聞いても？」

「教えない」

「ふふ、それも良いでしょう」

『険悪で草』『一方的だけだな』『仲良くしていけー?』『ツンツンなぎちゃん』『レアななぎちゃんだなあ』『霊に良い思い出無さそうだしな』『幽霊×なぎの新刊どこ?』『ミク×なぎの新刊どこ?』
「見えて来ました、アレですよ」

それは暗視ゴーグルのように夜目の利くわたしでも見通せる事の出来ない霧、そしてその霧の中にいるであろうナニカ。人が見てはいけない冒瀆的な気配。

「わたしは、どうすれば良い」

「何も……ああいえ、わたしから離れないでくださいね」

「……わかった」

それは、時間にすれば数分もしない時間なのだろう、幽霊の生み出した蒼白い炎を合図に、黒い影が鋭利に鋭く突き刺すように動く。

幽霊は手をかざすと、まるで存在そのものを世界から排除するかのようにつくし跡形もなく消える。

そうして消えていく影が、不規則に、防衛本能のように動き回るソレは、やがて霧が薄まり正体が判明する。

それはいつかに見たのつペリとした黒い塊に類似した、アレとは別の何かだ、液体では無く個体、黒い外見なのに、肉の塊を思い浮かばせる脈動するものに、吐き気を覚える。

『こわい』『こわい』『うえー不気味』『見慣れても気持ち悪いな』『灰色のアレ程ではないな』『アレは例外』『正規ルートだどうなるん?』『街どうにもならんから街から脱出する』『なるほどね』『異変解決は出来るっても難易度高過ぎるよな』

「大丈夫ですか?」

「つくそ……なんとか」

「動きます、手を」

「あ、ああ。わかった」

口から上が髪で隠れて表情が伺えないこの女を、だが約束は守るだろうと信用して、差し伸べられた手を握る。

すると不思議と羽が生えたかのように軽くなり、気付いた時には幽霊とともに宙に浮いていた。

消えていく異形の塊を横目に、わたしでは理解の出来ない呪文のよ
うなものを唱えると、強大な何かに驚掴まれたかのように、ミシツと
軋む音がした。

透明な何かに押し潰されるかのように消えていく、存在一つすら残
さず、断末魔をあげることもなく。

「……凄まじいな」

「思ったより簡単でした、元は下級程度……融合したとはいえ、自我が
無ければ、この通り」

下級程度、ね。

「おまえ、神霊だろ、それも邪神の類だ」

「お気付きで？ふふっ……それより、空を」

そう言われ、空を見る。

いつの間にか闇は晴れていた、澄んだ空気に、美しい青空が広がる。
闇は晴れた、わたしはこの街を救ったんだ……。

『うおおおおお！』『Good End ってね』『晴れたの久々に見た』『お
めでどう！』『おめでどう！』『なんて澄んだ空』『ゲームクリアおめ！』
『時間にして2時間ぐらい？』『短いようで濃かった』『公式の異変解決
プレイヤーに名前載るなこれ』『快拳だね』『凄い』

「……おまえはどうするんだ、闇が晴れたら存在が消えるんじゃない
のか」

「ご心配ですか？優しい方、そうですねえ」

そう言いつつ、わたしを地面に下ろす。

とりあえず、手を貸してくれたことに礼を言おうとして、ぴとつと
彼女の人差し指がわたしの唇に触れた。近距離から見える赤い瞳が、
驚いたわたしの瞳を逃さない。

「気に入りました、暫くはあなたの闇に棲み付く事にしましょう、もし
助けが必要なら、テレサと私の名前を。電子の世界から、あなたを助
けてあげましょう」

どういいうーと思ったのも束の間に、ふつと嗤うと、幽霊は……テ

レサは幻のように消えた。

『お？』『復旧した』『ノイズ入ったな』『こわい』『わかるこわい』『生きてた良かった』『幽霊ちゃん消えてる』『珍しい現象だったな』『いやあなんだかんだ今日も楽しかったね』『夜道に気をつけるよ』

「……よし、と言う事でゲームクリア！五万人記念の放送終わるよー？怖くて多分寝付けないから明日の配信は無しです、それじゃまたねなぎ民のみんな！」

ナゲツト君に向けて手を振り、お疲れのコメントとナゲツト君の手と思わしきものがわたしに向けて手を振り返すのにほっこりしつつ、現実への帰還を開始する。

思う事はある、正直に言えば混乱している……だけれど、多分現実に戻ったら一気に今までの蓄積された恐怖が押し寄せて来て直ぐに寝るか、寝付けないまま羊を数えるか司と電話するか初菜と電話するか……。

なんにせよ、なんとか無事にゲームクリアできて良かった。

引つかかる胸の中にある確かな満足感を覚え。

ーお疲れ様でした、凧沙様。

私の体は現実へと帰還した。

じゆうごわ!

「おかえり風沙、風沙、見て見て? お姉ちゃん凄いの作っちゃったよ」
学校帰り、珍しく司が部活を空けていたので早めに帰った夕方、妙に機嫌の良い姉ちゃんがそう言ってきた。

「どーせまたろくでもない一生噛めるガムとか増え続けるポテチとかでしょ、知ってる」

「ろくでもないって何だー?!」

そう言っただけか殴ってくる姉ちゃんについてやける、この姉になんで彼氏が出来ないんだろうなあ……いや、ちゃんとした男じゃない限り認めませんが。

「でー? なにつくつたのさ」

「ふっふっふ……聞いて驚け〜?」

手を引っ張って連れて来られた先に見えたものにも、もしやと思って満面のドヤ顔の姉ちゃんを見る。

「じゃくん! そう、どこでもドアなのだー」

「す、すげえ……え、これ、入ったら何処にでも行けるの姉ちゃん?」

「そうだよ! 北海道とか旅費いらずだね、東京もパワードなんて要らないし、滋賀県で気軽に戦争に参加出来るし、海外旅行も出来るぞー!」

お、おお……久しぶりにまじめな姉ちゃんだ、頭を撫でてやろう。

「にやあく、くすぐりたいぞー風沙」

「あ、でも向こうについた時に体爆発四散とかしない? 負荷に耐えられなくて現実からシャットダウンしない?」

……え、何で目を逸らすんです?

「風沙! 先ずは行ってみようよ、ね? ね?」

「ちよちよつと押すな押すな! 待って、もしや試してない? 嘘だろ、研究者としてどうなんですか?!」

「大丈夫大丈夫、理論上は死なない! その所は完璧だよ」

「本当に大丈夫なら目を合わせて話そうよ姉ちゃん?! おいバカ押すな!」

「お姉ちゃんもすぐ行くから！一人で逝かせたりはしないよ！」

「字が違うんですが?! うおっ、ま、まずい、押す力が強すぎる、だ、誰か助けてくれ！誰か！」

「よし、行き先は北海道だ、一名様ご案内〜！」

「うおおおおおおお?!」

押す力に負けてどこでもドアに入れられる。

その後は、どうだったっけ……この先で見たはずの美しい景色を、わたしは未だに夢に見ないでいる。

☆

「……夢か、昨日のホラゲーが祟ったかな……?」

嫌な汗が髪につく、別に悪夢を見たわけじゃないけど、寝付けなくて変にうなされたのかも。

まだ起きるには早すぎる深夜4時、二度寝するのも良いけど、外の空気でも吸おうかな？

わたしが住んでいるこのマンションは、屋上に入れたり出来る、鍵が掛かってないわけじゃなくて、住人にしか開かないプログラムを組まれた扉で守られてるらしい。

今わたしが住んでいる部屋もそうだ、自分で開けない限り絶対に開かない……ナゲット君は例外として。

寝間着のままじゃはしたないかな、冷えるかな?……上に何か羽織るものあったかな、つとと、あったあった。

黒のコートだ、足先まですっぽりと埋まる長いロング丈で、伸縮自在かつ身につけた人間の体温を一定に保ち人間に最適な適温を届ける優れ物。

着てるのが不思議なくらいに軽い……姉の作ったコート。

鏡を見る、洗面台にある鏡ではなく、全身が見える取り付けられた玄関の前の鏡だ。

シルバーブロンズに黄金色の瞳、160cmぐらいの身長、ちらりと手首から見える透き通った肌が妙に映る。

「わたしはわたしだ」

鏡の中の自分に言い聞かせるように呟く。

そうだ、わたしはわたしだ、柊風沙その人だ、それ以外でもそれ以上でも何でもない。

扉を開けて外に出る、エレベーターに乗り、屋上までの番号を押す。屋上は広い、ちよつとした庭園があつて、展望台のようなものもある、その近くに取り付けられたベンチに座つて、夜を見上げる。

この時間はまだ暗く、三日月に欠けた月が夜を照らす、雲一つない空に星々がかかる世界に、美しさ以外の感情が湧き上がる。

「――先輩」

いつ帰つて来たのか、屋上にいるわたしに話しかける人物がいた、言うまでもなく初菜の事だ。

「ん……おかえり、少し、夜景見ない？」

「先輩のお誘いなら、喜んで」

隣に座つて、ペットボトルに飲み物を差し出してくれる初菜に礼を良い、何を言うわけでもなく、月を見つめる。

夜が晴れる頃には、わたしの心も晴れてくれるだろうか？

☆

次の日になりチャンネル登録者が7万人を突破した、一昨日のVRホラー配信の影響かなあ、複雑な気持ちだが嬉しい事には変わりない。

ただどうやらアクセスユーザーを調べてみると、日本からのアクセスは勿論圧倒的に多いのだが、次に多いのがアマゾン熱帯雨林付近の方々のようだ。

……いや、なぜ？わたしはあの辺りに知り合いはいない筈だけど、唯一考えられるとしたら狩人先生の今の職場があつた辺りらしいんだけど……いやいや、さすがに関係ないかな。

初菜、もといミクちゃんも10000人を達成したらしく、嬉しい限りだ。お祝いのメールを送つとこう。

さて今日の放送は何をするかと言うと、実は漠然と決めていない、雑談をするのもいいし、歌枠で1時間ぐらい歌うのもいいし、音ゲーするのもいいし、普通にゲームするのもいいしって感じであやふやだ。

んーでも、そうだな、今まで配信したゲームは大勢でやるって感じのジャンルはしてこなかったなあ……大勢で出来るジャンルか。

MMORPGやマインプレイをなぎ民のみんなでするのは在りだが、これは別の機会。すこし考えている事があるからね、どうせならそれを告知してからやりたかったり。

なぎちゃんとして活動した一日目にβテストをしたMMOをなぎ民のみなどとやるのはまだまだ先になりそうだ。

配信の準備を終える、なぎ民と話してれば自ずとやりたいゲームも出るだろう、ああいや、その場でアンケートを募集するのも良いかもね

「おはこんばんちわー！昨日の夜は眠れた？自称プログラマーのなぎちゃんだよー」

『おはこんばんちわー！』『ちわー！』『眠れたよ』『眠れなかったぞ』『昨日は怖かったね』『87%のなぎ民は反省しろ』『ごめん』『ごめんなき』『反省した』『見捨てないで』『七万人おめでとう！』『おめでとう』『もう視聴者18000人か』『人気プログラマーなぎちゃんに改名しよう』

「もう怒ってないよ、でももうホラゲーはやらないからね……人気かな、へへ……これからもよろしく」

「さて、実は今日は何をするか決めてないんだ、なぎ民のみんなと出来て、楽しいゲームといえばー？」

『言えばー？』『言えばー？』『かわいいなあなぎちゃん』『わかる』『今日は守備が薄い』『薄い』『ぺろぺろ』『ぺろぺろ』『げへへ、うへへ』『のけ民いるぞ』『追い出せ！』『そんなー！』

「んー、よっし！決めた！なぎ民のみんな、デスオーバーワールドしようー！」

『うおおおおおー』『うおおおおおー』『出たー！一つのワールドに

1万人のプレイヤーがあの手この手で最後の一人まで生き残る超大バトルロワイヤルだー!』『サーバーの負荷がどうなっているのかわからないゲームだ!』

説明しよう!デスオーバーワールドとは、最大一万人のプレイヤーが同じワールドにランダムで召喚され、最後の一人になるまであの手この手で生き残るなんでもありのバトルロワイヤルゲームなのだ!

こないかかれたゲームを作る会社なんて限られてる!そう、どこの社である!考案者はこう語る「世に殺戮のあらんことを、VR版は10万人規模で製作中!」とのことだ!流石に10万人は無理だと思ふよ!

召喚されたワールドで石を拾ったり剣を拾ったり槍を、弓や銃や大砲を、レールガンや機械人形や戦闘ロボットの拾おう!

魔導書を拾って魔法を使うのもありだ!黙示録真書なんて拾った日にはゲームクリアが一番近いプレイヤーになれるだろう!森羅万象の剣も忘れるな?拳を極めて無敵の肉体を手に入れるのも在りかも知れない!

マップは一つ!でもとにかく広い!エリアがそれぞれ分かれていて、10分後に端から世界が崩壊して行き中心のエリアにしか行けなくなるぞ!

さあ、君もこの混沌な殺戮ゲームを始めよう!

「準備は出来たか?わたしは出来てる、わたしが最後の一人になつてなぎ民の屍を超える未来が見えるぞく?」

『草』『草』『最後の一人がなぎちゃんとVRデート出来るって本当ですか?』『まじ?』『へえ』『ふーん』『お兄ちゃん本気出しちゃおっかなく?』『忍の者のマジが見たいか?』『狩人先生が居ない日だ!ワンチャン有るぞ!』『ミクちゃん居るけど』『勝ちます』

一言もVRデートするなんて言っていないけど!?!……まあでもこのゲームで最後の一人になるの凄いいことだし、うーん……保留で。

「そうでした、怒ってはいませんが、許したわけではないので一昨日のホラゲーに投票したなぎ民には容赦しません、そのつもりでお願いします」

『ひえっ』『ゆるして』『おこてる』『おこている』『嫌わないで』『敬語
じゃんマジだよ……』『おれ入れてないしセーフ!』『俺も俺も』『私も
私も』『妹よ、お願い許して!』『パパを許して!』

「許しません。わたしが優しく天国へ救済殺します、だってわたし天使
だし?」

『草』『草』『目が笑ってないよなぎちゃん!』『天国(地獄)』『天使(悪
魔)』『その翼は黒色になっていた』『悪魔…小悪魔…なぎちゃん…閃い
た!』『よっしゃ描いたろ!』『これが救済ですか』『ぱいくん!』

カスタムサーバーを立てる、回線やパソコンの性能を少しでも均一
化する為のロジカルが組まれた特殊なサーバーを使っているらしく、
一万人が同時接続してもそんなに重くないのもデスクオーバール
ドが人気の理由の一つだろう。

わたし以外の全てが敵のこのゲーム……少しでも多くのなぎ民に、
特にVRホラーゲームに投票したなぎ民を救済殺してあげよう。

決してVRホラーの時の八つ当たりなんかじゃない、そういうの
じゃないんだからね!

「さてはじまった!おまえはだれだ!わたしの拳でもくらえ!そして
わたしは去る!」

『草』『うおおおおお!』『開戦じゃー!』『こーろせー!』『暴君な
ぎちゃん』『ほーふれー!』『ありがとうございます!』『羨ましい』
『殴って去る。説明不要』『早速一人落ちてる草』

「ここは森林エリアかあ、土掘って世界樹の槍見つけるのもいいなあ、
取り敢えず弓拾ったし木の上にかくれよー」

「掛かったな!罠だよ!名も知らない多分きつとおそらくVRホラー
投票したのけ民の一人、さらば!」

『理不尽で草』『いけいけなぎちゃん』『ゲスゲスなぎちゃん』『昨日
の鬱憤が行動に出てる』『このモードのなぎちゃん新鮮で好き』『これ
が自称プレイヤーですか』『自称じゃないぞ』『ログがカオスやん
ねえ』

これがなぎ民を屠る感覚か……なんだか新鮮、こういう過激な対戦
ゲームでなぎ民と遊んだ事はたしか無かったので、なんとというか、

ちよつとの罪悪感と、スカツとする気持ちになつたり？

「うわっ！撃つな！序盤二丁拳銃とか卑怯だぞ、ガンナーかキミは！おちつけ！」

「ほっ、見逃してくれた、やさしいなぎ民で助かった……救済するのは最後にするね」

『なぎちゃんに媚び売るな』『卑怯だぞ』『最後と言つたな』『アレは嘘だ』『あ、ニンジャがレールガンで焼かれた』『科学には勝てなかったよ……』『雪エリアで雪女と冬將軍に鬼軍曹連れてる奴いるんだが!』『草』『草』『強すぎる』『もう8000人切つたぞ』

ゆ、雪エリアには行かないことにしよう、あそこはわたしには早すぎる。

「ん……？森林エリアにこんな場所あつたつけ？……お、おお！これが妖精シルフちゃんですか！かわええなあ」

『うおおおおお！』『激レア』『妖精……なぎちゃん……閃いた!』『よっしや描いたろ!』『効果は?』『半永久的にHPが回復する』『強くね?』『まあ微々たるもんよ、あと壁につかえるよ』『やめろ』『発想が鬼畜すぎないか?』

「盾なんかにしないからね?……んー、人と会わないなあ、遠慮なんか要らないよっ」

「うおおお?!なんだおまえら、何処から来た!囲むな!やめろ!遠慮するなどは言つたがズケズケと踏み込んでこいなんて言つていからあー!」

『草』『計つたように現れたな』『裏で組むなぎ民』『距離の測り方がわからないなぎ民』『囲まれなぎちゃん』『ドナドナなぎちゃん』『お持ち帰りィ!』『今夜はおたのしみEND?』

「閃光手榴弾でもくらえ!あ、ばか小石投げるな!地味にHP減るんだよ、やめろ!暴力はんたい!やめて!」

『うおまぶし!』『ところできようのおぱんつは?』『千里眼発動!黄色のおぱんちゅ』『ナイスウー』『なぎ民から小石を投げられるプロゲーマーがいるらしい』

「よし……追いかけてこない、エリア抜ければ平気だろ……市街地工

リアか、ログ見る限りここはやり合った跡だし大方回収されたかなあ？」

「お、この筋骨隆々の腕は……」

『出たー！破壊神の腕だー！』『触れた物を粉々にする、消耗品』『消耗品で草』『投擲武器で草』『風圧で100人キル余裕でした出来る武器じゃん』『おいおいさっきの20人終わったわ』

「おーなんか集団でドタバタしてる！投げちゃえー！」

『草』『あー！』『ヒエツ』『キルログが草』『大虐殺なぎちゃん』『なぎちゃん鬼畜ルート』『教育に悪いよ』『今更定期』『なぎちゃん救済END』『もう5000人切りそう』

「おや、一人生きてるじゃん、ねえ見逃してほしい？ほしい？……いや別に武器全部捨てろって言ってないよ？」

「仕方ないなく付いてこい、カフェ娘！」

『うおおおおお！』『やったー！』『なぎちゃん、仲間を得る』『最後の良心』『これがなぎ民奴隷ですか』『なぎ民奴隷一号カフェ娘』『おんなのこには優しい』『ぐぬぬぬぬ』

よしよし、カフェ娘ちゃんの持っている武器とわたしの持つ武器を共有しよう、えーなになに？ディアルSMGとロケラン二丁とバリアフィールドと火の精召喚の呪文と……っていやいや。

「あの、武器強すぎない？わたしなんて普通に倒せる武器持ってない？」

『これは意図的』『仲間になりたかったです』『弾頭ミサイルに自立戦闘AINaゲット君持ってる草』『ここでもナゲット君は酷使されるのか……』『かわいいそう』『かわいいそう』『わかる』

「これはわたしたちの勝利だ！がーはっはっは！付いてこいカフェ娘！」

この試合、わたしたちの勝ちだ！

調子にのったわたしは一人の仲間を引き連れて雪原エリア以外のエリアを蹂躪していく、気分はまるで大魔王！

なぎ民を一人また一人と倒して行くことに、なんだろうこの、愉悦めいた感情が……いけないことなのに、顔がにやけちゃう。

『この顔よ』にやにやなぎちゃん』『まるで魔王』『魔王なぎちゃん』な
んかななぎちゃんのナゲツト君妙に強いんだけど』『自分のプレイスキ
ルが云々』『雪原エリアには行かないの草』『あ、エリック落ちた』『エ
リリーック!』

「ふはははは!まるでなぎ民が……流石に言うのはやめよう、いやー
これもカフェ娘のおかげだ、有能。お願いだから後ろから撃つとかし
ないでね」

『有能』『有能』『うれしい』『ミクちゃんだったらしてた』『してたな』
『してたね』『しません』『お、もう1000人切ったのか』『なぎちゃ
んのキル数は500人弱だからわりとバラバラで死んでるんか』

「うおっ銃弾掠めたぞ!……お、お兄ちゃん、ついにこの時がきたんだ
ね、カフェ娘!手を出すなよ、あの偽物はわたしがやる』

『うおおおお!』『熱い展開』『中ボス戦かな?』『妹を監禁してお持
ち帰りしてくる』『は?』『こいつほんま』『大会の時なんで死ななかつ
たん』『テロ組織、無能』『悪VS悪』

砂漠の荒野に、わたしとお兄ちゃんが互いに武器を取る、合図も無
く始まったのにどちらも同時に駆け出す。

選ぶと思ったARをバリアフォールドで防—げないだ!?

「そうか、フルカスタムAKか!」

ドーピング剤で一時的に加速し、銃弾を躲す、その間に武器をデイ
アルSMGに切り替えエイムを合わせて撃つ!

『白熱』『どっちも上手い』『自称と元の戦い』『兄視点の画面も良え
なあ』『序盤はごちゃごちゃ感、中盤は無双、終盤は一騎打ちとまるで
アニメ見たいだあ』『わかる』『キルログ的に北から雪原エリアのヤ
ベー奴来てる』『何者なんだ』

「あ!風神雷神だ?!卑怯な、ならわたしバーサーカー呼ぶしー!
やっっちゃえバーサーカー!」

「うおお……まるで大怪獣戦争、つと今のうちにーカフェ娘、逃げ
よう!どこまでも!」

『草』『草』『小物なぎちゃん』『バーサーカー敵味方関係なく殺しにく

るし……』『うがああああ！』『おにいちちゃん は バーサーカー に
ミンチにされました』『草』『草』『偽物確定』『敗北者、乙！』

「おお、もう300人か、エリアも狭まってきたし……中心の草原エリ
アに行こうか、カフエ娘」

「小屋はつけーん……カフエ娘、なんだその目は、え、もしかして囷に
なってくれるの？」

『お？』『まさか？』『え、そんな事思っていない』『草』『草』『パワハラ
なぎちゃん』『なぎちゃんこの流れ……』

「そつか！雪原のヤベー奴引き受けてくれるか！いやあカフエ娘はす
ごいなあ……こうしよう、倒したらご褒美あげよう、ね？」

『うわあ』『言いやがった！』『ごあくまなぎちゃん』『ううう行つてき
ますう』『かわいそう』『まるで上司と部下』『王と配下』『暴君すぎる』

『今日のなぎちゃんは飛ばすなあ』『もうホラーやらせるな』
「そうだよ！もうわたしにホラーをやらせるなよ?!怖くて寝付き悪く
なるし、別に視線感じてるわけじゃないのに後ろ気にしちゃうし、変
な夢は見るし、最悪なんだからね！もうやらないからね！ほんとうに
！反省して！」

『ごめん』『すみません』『許して！』『飴ちゃんやるから許して』『ケ
キ奢るから許して』『チョコあげるから許して』『りんごあげるから許
して』『甘いもので釣っていい』

「ぬう……ふんだ！ゆるさないよ！」
「ところで全然人と会わなくなったなあ、エリアも狭いし残り100
人ならそろそろ会うんだけど」

『残るなぎ民有能』『有能』『カフエ娘と雪原の主は？』『相打ちです』『す
げえ』『草』『他のなぎ民の視点みたいなあ』『オレガカツ』『チガウオ
レカツ』『ダメレクウゾ』『勝利を目指すあまり理性を失うなぎ民』

「うお?!なんだ、いいいきなり80人ぐらいキルログ流れたよ?!お、お
お……アンブレラウイルスで肉体が腐って死ぬって怖いなあ、小屋の
中いてよかった」

「よし、小屋から出よう……おお、10人になったよ」
『頂上決戦』『なぎ民が勝つかななぎちゃんが勝つか』『頼みのカフエ娘は

もういないぞ』『なぎちゃんタオス、カツドンクウ』『草』『ドンカツ！ドンカツ！』

9人、8人と一人一人消えていく、わたしもその間に二人ぐらいと激戦を繰り広げ、最終的に持っている武器の殆どが損傷、HPだけは戦闘が終わってしばらくすれば満タンになってるので、こうなると強い。

そうしてわたしを含む4人目になった時、わたしの前に片手にハンドガンを構えた者が立っていた、持てる武器の全てを使って、尚ここに立っているのだろう。

「ーミックちゃん、倒すぞ」

『うおおおおお！』『これは熱い』『どっちが勝つか』『なぎちゃんかなーやっぱ』『どっちも頑張れ』『ヤンデレでしょ』『神回確定』『てか一人記念の前になぎちゃんの放送に遊びにくるの尊い』『わかるそれな』

武器を構える、ディアルSMGだ、距離的には不利だが、自動回復も含めれば近付ければ勝てる。

対してミックちゃんはハンドガンの他に……なんだ？防御に使えるものはないはず、可能性なら呪文か魔道書か、レアな何かか、いや、考える時間はない。突っ切る！

ーあ、地雷踏んだ。

「爆発オチなんてサイテー!!」

『草』『草』『なんで私もー?!』『ミックちゃんも巻き込まれて草』『設置したのエリックじゃん草』『あいつももう死んでるよ!』『残り二人は?』『あれ?そういえば』『これはもしま』『そしてだれもいなくなった』『なぎちゃんはギャグに生きてるなあ』

「うおおまじか、エリックまじかよ……さて試合長かったねー、どうしよつか、2回目もやる?」

『うおおおおお!』『うおおおおお!』『やるぞおおお!』『二回目は5000VS5000しようなぎちゃん』『次は見捨てないでねなぎちゃん』『やるしかない』『今日も祭りだ!』『次は入れたらええなあ』『エリック有能説』『無いな』『カフェ娘、雪原エリアで会おう』

「よし、やるぞ〜!!」

☆

その後もなき民とデスオーバーワールドを楽しみ、すっかり日が変わったので、名残惜しくも配信を終了した。

体を伸ばしてココアを淹れる、たまには機械でやる適切なバランスのココアじゃなく、自分で淹れるのも一興かな？

「ふう……」

わたしの闇に住む、かあ。

「語り出したら答えてくれたりするのかな？いや、別にあんなのと話したい訳では無いんだけど、こわいし」

17年以上は共にゲームと過ごしたわたしは経験と直感から、そしてこの前のVRホラー配信の時に、確信した。

確実にAIは、もしくは電子に存在する無数の電子体は自我が存在する、感情のプログラム、あるいは魂の憑依化か、似た何かがある。いつかに聞いた事がある、パールツヴァルシユ号のはるか未来の技術に、未来人が生き残る為に、肉体を宇宙へと適応する為、人体の再構築を行う技術を有していると。

他でもない姉が言っていたなら、間違いは無いだらう。

「まあ、だから何だと言われても何もないけど」

ホラー配信から少し思考が暗い方に寄っちゃうなあ……明日は司と会うか、うん。そうしよう、そうと決まったら早めに寝ないとね。

熊の寝間着に着替えて、部屋の電気を消した。

みじかいおはなし。まとめ

【過去。彼女の場合】

ある春の日だった。

「先輩……？」

愛しの、私の、私に生きる事を教えてくれた先輩に声を掛ける。

「初菜、おはよう」

「おはようございます、先輩」

となり、失礼しますね。と言う前に手招きされる。

先輩はエスパーカーか何かかな、それとも私がわかりやすいだけなのだろうか、表情が顔に出ているのかもしれない、その度優しく笑われるものだから、正そうにも、なんだかな。

「今日は朝から屋上ですか？珍しいですね」

「初菜こそ、良く此処にいるってわかったね」

「先輩の居る所に私は居ますよ」

「ははっ、そりゃ頼もしい」

本当は先輩の着る服全てにGPSを埋め込んでいるのだけど、妙なところで感覚が鋭い先輩は次の日には全部破壊してたりして、今日は遅れてしまった。

先輩のクラスの人に問い詰めるのは少し骨が折れた、何で素直に話してくれないんだろうか？疲れるからやめて欲しい。

「初菜、今は楽しいか？」

「突然ですね……楽しい、ですよ。先輩という時は本当に」

元々、私は引きこもりと言われる穀潰しで、家から出ずやりたい事だけして、他はお母さんに全て任せっきり、それでもいいってお母さんは言ってくれたけど……そんな私が、やつれていく母の姿を見るたび、嫌になっていった。

高校に行ったのはそんな私を変えたかったから、なんて高貴な考えじゃない。少しでもそんな母を見ないようにする為で。結局の所私の醜い感情でしかなかった。

そんな感情を持ちながら学ぶ学校は酷く退屈で、無価値で、何度や

めようと思ったか。……勉強も運動も出来たせいで疎まれて、酷い事もされそうになった。

でも……先輩の飾りない言葉で、少しずつだけど……変えられた、つて、思ってる。元気な母を見るのは、今は少しだけ嬉しいから。それ以上に先輩と居る事が、私にとっての幸せでありたい。

「先輩、好きです」

「うえ？突然過ぎるつての、つーか初菜に自分は釣り合わないって、やめとけやめとけ」

毎日言ってるのになんで本気にしてくれないのか、毎日言ってるのに……やっぱり監禁するしかないのか？いやでも、先輩に勝てるビジョンが思いつかない。

褒められる程強くないって否定しても、それは違う、比較対象が上しか見てないからだ。

……何故、そんなに出来る事が多いのか、なんだか聞いてはいけないと思ってる、その理由はわからないけれど

この前作った捕獲ボールを改造して人も入れるようにすれば、一か八かあるかもしれないけど、それで嫌われたら本末転倒だ。

「来年は初菜が部長なんだから、頑張ってくれよ」

「勿論です、先輩の作って行った技術を、世界に発信出来るようにしますね」

「いや、自分が作ったものなんて殆どないぞ……？」

それは違いますよ先輩、確かに先輩は自分で作る事はしませんでしたが、私や司先輩の発明したモノの問題点の全ては、先輩のアドバイスで元で解決出来たじゃないですか。

初めてあった時から卑下にするのが得意なんだから……そういう先輩も、好きですけど。

「……？先輩、疲れてませんか？」

「そうでもないさ、そろそろ授業だぞ、行かないのか？」

本当かな、目の隈がいつもより濃い、いつもより、どこか言動がふわふわしているし、心配です。私は頼ってほしいのに……どうして何も言ってくれないんですか。

「先輩こそ、今日もさぼりですか？」

「だってわかんねえし」

あほあほな先輩はかわいいなあ……好きです。また私が1から10まで教えないといけませんね。

先輩、私に教えてもらってる時、悔しそうにしているのもかわいい……好きです。

先輩の肩に寄りかかる、先輩の髪が少しだけ私に重なる。

また髪整えてないんですね、失敗したな、今日はセット道具を持って来ないから髪をいじれないです。

「絶対に離しませんからね……」

「うお……ゾワっとした」

あの時、絶対に離さないって、言ったのに。

どうして離れていくんですか………？

年月が経って、やっと会えると思ったのに。

今日も隣の部屋の扉は、開く気配がしなかった。

【過去。彼の場合】

一人、部室で研究をする。他人と話せば世間でいう人気者みたいな扱いをされるが、生憎と俺様は一人で研究する方が気楽で良い。

そろそろ時間だが、あの二人は来るだろうか？来ない日もあれば、来る日もあったりと忙しい二人だが……まあ一人でもこの研究は続けられるから良いんだけどよ。来て欲しかったりしたり？

なんてな、ずいぶん寂しがり屋な性格になったもんじやないか俺様も。

机に乱雑に置かれた白衣を着込み、首に掛けてた黒いグラサンを付ける。これで俺様の完成ってな！

「お邪魔します」

「よーす、今日は何やんのさ」

入ってきた相も変わらずな親友を見る。隣には初菜ちゃんも居るようで。仲がいい事良い事、ぶっちゃけ羨ましいぜ。俺様に後ろに立

つ女性は必要無いが、羨ましいか羨ましくないかは別だ。

まあ、だからって初菜ちゃんは……顔もスタイルも良いけど怖いからNGです。ありやあ一つでも拗らせたら取り返しがつかなくなるぐらいの依存度だ、触らぬ神に祟りなし。悪いな親友、もしもの時は頼んだ！

「大型ハドロン衝突加速器って知ってつか？」

「お、おう……？知ってるか初菜」

「高エネルギー物理実験を目的としてCERNが建設した、当時の世界最大の衝突型円型加速器の名称ですね、最大重心衝突エネルギーは確か14TeV付近に達するとか……まあ、すごいつよいビームとでも考えていただければ」

「へ、へえ、馬鹿にしてるだろ初菜。いやまあ……ピンと来ないけどさ」

「ふふつ……バカにしてないですよ、先輩にわかりやすく言っただけです」

「ぐぬぬ……」

ここに後輩に言い負かされる先輩がいるらしい。バカだなあ風沙は、まあそれも美德なのかもな、少なくとも俺様にはない視点での話が聞ける点は、敵わないな。

「んまあ、それらの文献から発想を得た疑似小型ブラックホールの作成だよ」

「いや……それ危くないか？」

「まあうん、なんかしくじったら学校無くなるだろうな」

「成る程、地の果てまで私と逃げましよう先輩、衣食住は全て私に任せてください、実は北海道の余った土地を横領できたんです、さあ行きますか」

「い、いやいや、行かねえし、てかなんだその嘘、横領ってなんだよ、浮いた大地にどう足つけりや良いんだっての……飛行機高えし、ああいや、ジェットパックあったつけ？でもあれ人間が耐えられるものじゃないけど」

「って待って待って！大丈夫だって安心しろ！俺様がミスしたことなんて

「一つもないだろ？」

「……なんだよ二人してそのジト目は。」

「焦土実験の件は忘れねえぞ」

「部費が尽きたからって勝手に私の研究中だったNEXUSを企業に売ったの、許しませんから」

久しぶりの本気の殺意に冷や汗をかく、やっぱり破壊兵器を作ったのはダメだったよなあ、跡形もなく壊したしもうなにも問題はないが、プロトタイプ宇宙旅行兵器NEXUSを売ったことについては本当に申し訳無いと思ってる。

「い、いやあ……ははは、まあでも失敗したことは無いだろ？結果的には」

「その過程に巻き込まれる身にもなれよな……で？今どこまで進んでんの」

「ん、おう、こんな感じだ……」

……俺様と風沙二人で始めた技術研究同好会も、思えばもう三年近くいたのか、俺様が去る前に、研究を受け継いでくれそうな有望な人材を見つけてくれた風沙には感謝しねえとな、これさえ開発できれば、全ての工程が上手くいく筈だ。

赤城財閥秘蔵の文献によれば、100年前にパールツヴァルシユ号が飛来してきた際に、大規模な時間軸の変動によって生まれた大型ワームホールが未だ宇宙空間に残っているらしく。

未だ人類が辿り付けてない、時空の観測者として世界旅行と洒落込めるのではないか？

「……ま、この時間、いや空間は面白くて有意義なんだかな」

「そうですね、私もです……まあ今すぐに部屋から出て行ってくれば、先輩と二人きりになれてもつと嬉しいんですが、今からでも赤城財閥に入社してきてくれませんか？」

「あくこれ……部品取れてんじやん、細かい所しつかりやれよな、つてふたりとも何の話してるんだ？」

「いやあ流石に、それは親友が可哀想なんだな、うん」

「へえ、言うじやないですか、今日こそ滋賀県で決着付けますか？」

「お、おお、落ち着け、落ち着け。な？あつそうだ初菜！今日プリン焼いたんだよ、一緒に食おうぜ」

「プリン……先輩の……？食べます！」

「はは、賑やかな事で、んまあその方が俺様も楽しいけどな。自然と顔が笑顔になってくる。」

「親友に誘われるがままにここまで来たが、それで良かったかも知れない。やりたいこともなく、退屈を享受し、停滞を望む。それもそれで俺様らしかったが。」

「今の俺様らしくはない。」

「くくくがはははは!!俺様にも食わせろお前ら！」

「あつーそれは私のですよ！何勝手に食ってんだ teme！」

「ま、まあまあ……口調壊れてるよ初菜、まだ有るから、な？」

「どうやら俺様は楽しんでるほうが好きみたいだな。この空間が、研究の次に楽しかったりするみたいだ。」

「だからまあ……この空間を作ってくれた風沙には、いつか恩返ししねえとな。」

「何があつたとしても、今度は俺様が恩を返す番だぜ、親友。」

【赤城三音の一日】

赤城財閥、世界的に有名な財閥家であり、宇宙船パールツヴァルシュ号の船員の一人である赤城博士の子孫だ。

開発担当であつた赤城博士は遠い遠い未来の技術を日本各地に反映させ、世界の情勢を著しく変えに変えた人物だ。

何の意図があつて世界を変えたのか、日本を変えたのかは赤城博士に限らず、他の船員達も口を割る事はなかった。

ただ、唯一最後に、近しい事を赤城博士は自らの死を悟りつつ、自分が辿つた未来をその子孫に言葉として残した。

「安心していい、我々がこの世界に来た時点で、我々が辿つた終わりゆく世界の未来は永久に来ない。本来の正史に対抗する為、宇宙でカビ掃除を終え……日本の文化圏を変え、固定存在を創り、選定され

失われるであろうロストテクノロジーを当たり前の世界にさせた。明確に分かたれた事象を、時空を、世界の再構築を始めた」

「我々に出来るのはここまでだ、今後の世界を担うのは……君達だ、重い荷物を背負う事になる、悪いとは言わない、ただ辛い事になるのはわかっている……心の拠り所は、育むべきだね」

一方的で、その全てを明確にしない赤城博士らしい物言いは、私の代までしっかりと受け継いで来た。

「……ええ、解ってますのよ、赤城に生まれた身ですもの、私に自由は少ない事ぐらい」

ですけれども……ええ、ですけれども！

「つらいーめんどいーだるいーいやーだーらくしたいー！」

特に外交がいやだ！何処もかしこも警戒し過ぎですよ！日本は核を持たない平和な国ですよ?!あ、いいえ、まあ核よりやばい兵器は東京要塞の奥に眠っています。

ですが！戦争を起こすつもりも！何かを始めようとするつもりも無いのですのに！やれ何だこうだ宇宙船が兵器がなんだ……めんどくさいですわ……まったく。

「ロシアとアメリカぐらいですわね、警戒を緩めてくれるのは。最も前者はフェリス様が、後者は内戦を収めた信頼からですけれど」

技術革命で暮らしやすく楽なのは本末転倒ですわね……いつそ全世界統一してもよくてよ、責任は私以外の誰かですよろしくお願い致しますわ？

「そう、例えば末端で一番優秀な久城家の司さんとか！共に船員の子孫同士！私の責務を代わりにやってもらうのも手ですわ！」

……はあ。

「そうも言ってもらえせんわね……まずは破壊されたパールツヴァルシュ号の全パーツの回収、それから計画図の奪還……南アジアもそうですが、日本でも工作員が紛れてますわね」

特に海底庭園付近が怪しい、問題を起こすに丁度良い場所でしょう、関西の方にも人を置きましょうか、滋賀県は平常運転として……

北海道の様子も見に行かねばなりませんわね、近日フェリス様が日本に来日なさる際に意見交換の場も設けなければ、アマゾン熱帯雨林付近は好印象……やはり中国との隔離問題は、何とかしないといけませんね。

パツと思いついただけでやる事が浮かび上がって嫌になりますの、怠惰を享受していたい、ポケモヌだけやっていたい、VRフィールドの猫カフェで一生じゃれついていた。かわいいに包まれて生きていたい。

……うん、今度司さんに全部任せて一日空けよう、何か新しい癒しを見つけよう。

自惚れでは無いですが、赤城財閥は世界の中心と言っても差し支えない。

その一当主としての責務が私にある内は。

「よし、今日のスケジュールは大まかに決まりました。セバスタチャン！いるのでしよう、車の準備を、私兵隊は要りませんわ、東の方に置いておく事、それからー」

赤城に生まれた身としての義務を果たしますわよ。

【上司とその部下の部下の部下】

某所、ある実験室にて、二人の男女が疲れた様子で人をダメにするソファアに伏せていた。

「……疲れましたわ！もうほんつとうに、疲れましたのですわよー！俺様も同感つすわ……やっぱ擬似精霊を作るには何か足りないつすねえ」

「ナノエーテルは揃いましたし。高エネルギー反応も推定通り……なのですわ、結局作れたのはこの微小生物のみ……嫌になって来ますの」

と、愚痴る彼女は自慢の金髪ツインテールを整え直す。

「失敗したとはいえ本当に素晴らしい腕ですわ！今すぐ私の元で働いて欲しいのですのよ？」

「いやあまだ権力持ちたくないお年頃なんで、勘弁して下さいな」

対する赤髪のサングラス男は、タブレットを見て、何やら思案しているようだ。

「どうしましたの？司さん、熱心に記事を見つめてますけれど」

「んやあ、この宇宙の粒子、使えないですかねーって」

「最近になって地球付近に蔓延して来た星雪……ですの？確かに宇宙エネルギーであるなら……いえしかし、成分が明らかになっておりませんわよ？人体に多大な被害を与える微粒子なら残念ですけど……」

「思っただけつすよ。つさてと、片付けますか、赤城さん」

と、赤城と言われた女性は少し不機嫌な顔をする。

「……別に年もそう変わらないのですし、名前で良いと言ってますのに」

「ははは。もしバレた日には俺様の首が無いんで」

「それは困りますわ！司さんがいらっしやらないと私、薬が出来ませんもの！薬が！帰ってなぎちゃんの配信を見るのですわ〜！」

その言葉に思わず苦笑する司、どうやら親友は赤城財閥の後継娘にも気に入られるようだ。

そう、司と話している金髪ツインテールのこの女性こそが、赤城財閥の当主、赤城三音せきしようみねである。

そも赤城財閥とは何をし、どう言ったモノなのかというと、その大部分は最先端技術の行使、また純エネルギー波、時空干渉などにも広めており……それらは最終的な目標である「パータルツヴァルシユ号」の完成の為である。

地域運営やマンションの管理、他国との外交などは二次で、そういったのは信用を得るための責務らしい。

その為の、エネルギー波の確立。時間跳躍を行えたとされる宇宙船の、未来のオーバートテクノロジーの作成、そして、それらの部品、オーパーツの回収。

それが赤城財閥の目的であり、使命であり、その為に命を捧げなければならぬ……らしい。

「そんなの疲れるだろ、俺様と変わらない歳で、あんまりだぜ……？」

「司さん？何か言いましたかしら？」

「いや、なんでも。それより帰ったらゲームの練習でもしましょうよ、みらくるカートのあの順位は流石に……うん、赤城の恥」

「は、恥!?!い、言いましたわね!?!望むところですよ!!」

【なぎ民親睦会 In 滋賀県く第一回戦場編く】

「あ、黒曜石の剣の人！」

「おお、そんな貴方はレールガンの人！」

名も知らぬ者達が、背負っている武器を見て判断する。そう、同士だと。

「……はっ?!見ているな、誰だッ！」

「くつくつくつ……アイサツ!こんばんわ、レールガンの人。にんにん!とうー!」

「うおおおおおおお!ニンジャ!アイエエエエ!」

「懐かしい言葉だ……師の教えを受け早数十年、こうしてニンジャとしてまた滋賀県に来るとは……」

「どうせVRフィールドで知り合ったんやろがーい」

「えへへ、バレました？」

こうして揃ったなぎ民の三人。なお誰も名前を知らないのである!仕事も年齢も住所も知らないのである!

「いやあここは変わらないですよね、見て下さいよこの池、綺麗っすよね」

「これから汚くなるんだけどな!わっはっは!」

「……いやあ、清掃部の同士に本当に申し訳ない……部長に給料上げて欲しいって頼まないと……」

「おや、うあーちやる教団の社員で?それは申し訳ない、文句なら田中に言ってくれ」

「田中が悪いよ、田中が」

そう、田中が悪いのである!

「どうも、ここが今回の戦場ですかね」

「そうです。貴方は……え、もしかして」

「プロハンニキ?! まずいですよ! 明日生配信でしょあんた! 怪我したらどうするんですか!」

「いやあ、ははは……体が闘争を求めちゃって、本社に連絡した帰りなんですけどねこれでも」

「気狂いだよー! あんた、気狂いだよー!」

「……そっか。プロハンニキ、アマゾン熱帯雨林付近の企業社員でしたね、どうです? 和平交渉」

「概ね成功かな、いやね……日本ってこんな平和なんですよ〜ってなぎちゃんの配信アーカイブ見せたらね?」

「え、嘘……まさか」

「なぎ民化しましたよ! いやあやってみるもんだア……」

「なぎちゃんの存在が世界を平和にした瞬間である」

「まあこれから滋賀県は混沌と化すんですけどね!」

「おや……あのシルエットは」

シルエットが見える、レールガンの人々の戦闘用スカウターに表示される名前田中を見て、なぎ民同士に伝える。

「さあ、開演だ。ここに死者の出ないなぎ民同士の争いが、今始まる!」

「また滋賀県が戦場かよ! 就職したての初仕事が清掃かよ! チクショー!!」

そんな哀れな一人のなぎ民の言葉を残して。

じゅろうろくわ！

朝、雨の音と共にわたしは起き上がる、ぼーっとして数秒した後、顔を洗いに洗面所まで歩くことにした。

「……雨、雨かあ、どうしようかな」

今日は司と何処か遊びに行こうと思っていたのだが、雨となると限られるなあ、まあ外で遊ぶのかって言われても、首を傾げるんだだけさ。

基本インドアだし、そりゃあVRゲームでは動きに動くんだけど……それとこれとは違うじゃんか？基本パソコンだし、外で何かやるとしても……うーん？

……やつぱわたしの家に来てもらうのが一番かな、うん。

最近来客用に新しく大型モニターを買った、わたしの部屋で多人数でもゲームを楽しめるようにしたので、抜かりはない。ゲームセンサーと言っても間違っではない環境になった。

ナゲツト君さまはまだ、全部を任せるのは気が引けたから手伝ったら飴ちゃんとお菓子をくれた、嬉しい。

うん、それじゃ電話しよっか。

「司？おーい、聞こえてるかー？」

『はいはい、俺様ですが、どーした親友』

「あそぼつ、家に来てよ、でかいモニター買ったんだ、二人で何かゲームしよ」

『外雨だしそれが良いか……さーてさて何するか今から楽しみみだぜ、俺様のゲームセンスに惚れるなよー風沙！』

「ふふっ、はいはい……待ってるよ」

了承の言葉が貰えたので、小さくガッツポーズしてみたり、うーんなら服変えないと……どうなのにしよっか？

あ、また電話だ、なんだろ？伝え忘れた事でもあるのかな。

「もしもー」

『先輩？今すぐ先輩の部屋に行って良いですか？ワルイヨカンがするので、ああいえ先輩が嫌なら良いんですよ、ええ、良いんですよ？』

「へう……勿論です……」

『良かった、では』

ピーっと、音声が切れた。

いや、一人増えても全然良いけどさ、なんなんだよ……

☆

人数分のお茶を用意して、いつぞやに着たタートルネックにレギンス付きのハーフパンツに着替える、結構気に入っていたり。

部屋も綺麗にしてる、綺麗好きって訳ではないけど、定期的に人が来ても恥ずかしくない部屋にするのは案外好きだったりする。

思えばこの行為は七年前からずっと続いていて、いつでも人が来て良い、来て欲しいといった願望に近かったのかもしれない。

ふと思ったのだがわたしはかなり女子力が高いのでは？それ自体は別に良いんだが、身近のおんなのこより女子力が高いのは複雑だなあ……

『ピンポーン、つとと、風沙ー？』

「今開けるー！」

扉を開ける手をすこし、躊躇して……開ける。

扉を開けると、いつもと変わらない赤色の髪に、白衣を着たサンダラスの付けた司、なんだか嬉しくなってふと視線を外すと。

ー初菜のアクアブルーの瞳と目が合いました。

「うおおー！近いよー！」

「えへ、お邪魔しますよ先輩、良いですよね司先輩」

「お、おう、俺様は何も言わん」

お邪魔しますと部屋に入る初菜に冷や汗をかきながら、苦笑いをする司と目が合う……ふふつ、なんだか懐かしい空気にわたしもふつと笑みを浮かべてしまう。

「ちよつとー玄関で何やってんですかー！」

「何もやってないよ!?……ま、適当に座ってよ、あつ飲み物用意したよ？」

「じゃ俺様もお邪魔してつと、おおくなんて綺麗な部屋なんだ、俺様とは大違いだな」

「司は部屋にいる時間が少ないからでしょ？わたしが掃除しに行つてあげよっか」

「ちよつと！ダメですよ先輩！気軽に男の人の部屋に行くんじやありません！」

「初菜はわたしのなんなんだ……」

「恋人ですけど」

「そうなのか?!」

「違うわい！司も信じるな！」

こうして三人が一緒に居るのは何年ぶりだろう、七年？八年？本当に久しぶりだ……いやではない名前につけられない思いが胸にこみあがる。

「そうだ！この前ナゲット君からもらったお菓子あるんだ、三人で食べようぜ」

「ほーん、どういうお菓子なんだ？」

「えつとねー、京ばあむ？つてお菓子」

「美味しいですよねそれ、そうでした、私もお土産ありますよ、婚姻届つて言うんですけど」

「初菜さん!?!いや受け取らないよ!?!」

「まあまあそう言わないでください、ここにサインするだけで良いですから」

「お、ご丁寧に宮城県発行の同性婚姻届だ」

「感心してる場合か！わたしを助ける司！」

「がっはっは！悪いな親友、俺様にも出来ないことはある」

「おいしい!?!この裏切り者め！目をそらすな目を、そして紙を持って近付くな初菜も！」

「ほほほっほら！冗談はそれぐらいにして、ゲームしよう！ゲーム！三人で出来るゲームしよう！カーリーグとか！プレハンとか、色々な？」

「別に冗談じゃないんですがーちよつと待ってください、なんで司

先輩の隣に座るんですか」

「え、別にいいじゃん」

「だめですー、ダメなんですー！なら私も先輩の隣に座りますよ、ええ！……ここは私の特等席ですからね！文句ないですね司先輩！」

「滅相もない。つとと、風沙、少しじつとしてろー？」

「え、う……うん」

じーつとしていると、すいーつと目の前に司の顔が……え、え？なにになになんですか？や、ちよつと近すぎないか？待って！隣に初菜が居るんだよ！？ガン見してるよ、怖いよ、ねえちよつと！？

思わず目を瞑るわたしの前髪を、司の手に触れられるーな、何？わたしは今何をされている？

「ふっ、やはり俺様の芸術センスに狂いはなかったぜ」

「え、え？わたしに何をしたの？」

「ヘアピン、配信見てて思ったけど、こういうの付けたほうが画面見えやすいだろ？前髪まあまあ伸びてるしや」

「そ、そっか……その、ありがとう」

たしかに最近は髪が伸びてきて、そろそろ切らないかなと思っていた頃だ、差し出された鏡を見ると、金と黒が交互に交わった月のピンで髪留めされている。

ヘアピンを手で触れる……優しいな、司は。

「何良い空気になってんじゃああああ!!研究バカは今すぐ先輩から離れろー！先輩は私から離れるんじゃねー！」

「うおっ抱きつくな！てか口調崩れてるよ初菜、ほらバームクーヘン食べよ？」

「は!?!完璧で清楚な私の口調が思わず……むぐもぐ、おいひいでふ」

「じゃあ俺様も頂きますかね！モグ……ウマー！」

「あ、ちよつと！私のですよ！」

「ど、どうどう、人数分ちやんとあるから、ね？」

賑やかで、数年前に戻ったような感覚、司は忙しいし、初菜も調べ物があるらしく家にいない事が多い。

それでも今この楽しい気持ちは、心地良い空間は本物で、わたしが

たとえこの姿になっても変わらないモノで、わたしと二人との確かな
絆なんだ。

この祭りはまだまだ始まったばかりだ、そうだなあ、まずは何から
しよつかないかな？ どうしよつかないかな？

「楽しそうですね、先輩」

「うん！……初菜は、たのしくない……？」

「まさかそんな！先輩がいるだけで幸せです、まあ邪魔者一名が今す
ぐ帰ってくれば話は別なんですけどね」

「おいおいそりやないぜ初菜ちゃん、久々にあつたんだし色々話すこ
ともあるだろー？」

「司先輩に話すことは何もーああいや、先輩の初夜は私のものなの
で、よろしくおねがいます」

「違うからね！あれは初めてのコラボ相手は初菜にとって意味で、そう
いう事じゃないから！」

「何故だろうなあ、俺様は悔し涙をする立ち位置だったはずなんだが
なあ……」

悔し涙をする立ち位置ってなんだよ、てかまずわたしが初菜と初夜
を云々の所を突っ込んでくれないか。

「ん……う？なあ親友、このモデル……何処で？」

司はパソコンの隣の機器、『Presence di elect
ronic Moon Program』を指差している、発注を任せ
たのは司の筈なんだけど……なんだろう？求めているのと違って
いたのかな？

「それは司に発注を任せただけだと思うんだけど、もしかして何か不
備でも有った？……別に使ってて悪いことは起きてないよ？」

「なら良いんだけどと、さて何やるよ二人共、俺様的には久しぶりに
リトラスとかやりたかったり？」

「嫌だ！やらないから！」

「ではぼうだあREDでもやりますか？確か高校生の時のデータ有り
ましたよね」

「うん、あるよ……いや待って、何で知ってるの？配信ではその画面は

映していないはずなんだけど、わたしのデータ貸してもないよね？」
「いやあそれはその、まあいいじゃないですか、ほらほら！やりましよう先輩！司先輩もやりたそうにしていますよ？」

「俺様リトラスしたい」

「リトラスはしない！」

過ぎて行く、短くも長く、尊き時間が過ぎていく、司も初菜も楽しそうだ……わたしも、楽しい。

学生時代に戻ったかのような錯覚まで覚えるほどに、この空間は懐かしく、わたしたちは今日この日まで会う事をしなかった、出来なかった。

「じゃあほら、らぶガンしようぜ、交代交代で」

「むく……やだ！ならぼうだあREDする」

「お、おお？いやまあいいけど」

「やっぱ先輩は私の勧めたゲームを選んでくれましたね、これはもう私と籍を入れるしか無いのでは？」

「いや飛躍しすぎだつて！入れないからね！はあ……ねえ司、初菜壊れちゃったよ……」

「親友は知らないだろうが前からこういう奴だったぞ」

「ええ!?!」

このかけがえのない日々がずっと続いて行けばいいな。

二人と話しながらふと、そう思った。

☆

それから三人で積もる話も交えながら、色々なゲームをして時間を潰した。

ぼうだあREDでわたしだけトラップに引つかかって司に押搦われたり、嫌々やったリトラスで初菜にホラーイベントが降りかかって怖い怖い言いながらわたしに抱きついたり。絶対怖がってなかったよアレ。

車でサッカーをするゲームカーリーグを三人で組んで一喜一憂し

たり、三人でマクロスして歌を聞かせたり、司が持ってきたカードゲームでアクセルシンクロしたり。

ゲーム以外の話をするなら、やっぱりわたしや司が卒業した後の技術研究同好会の話を初菜から聞いた。

「チャラくてバカな後輩が二人入ってきて、最初は体目当てかと思つて去勢してやろうかと思つたんですけど……ま、案外使えましたよ、今何処にいるかは知りませんが」

との事、いや去勢つてこええよ……でもそっか、後輩が入ってきたんだ、それは喜ばしいことで、いろんな研究に貢献してくれたらしい……そういえば聞いてなかった事があつて、その事について聞いてみた。

「初菜つてさ、なんの仕事してるの？」

「……先輩は？」

「う、うるさい、わたしは今質問してるんだよ、ほら！」

「なぎちゃんはかわいいなあ……基本的に企業から回された依頼を別して受ける形ですね、研究したり調査したり解説したり、まあ色々です」

なぎちゃん言うな！

「ああ初菜ちゃん、この前はありがとなー代わりに研究素材採ってきてくれて、例の件はそろそろ解析を終わるから、安心してくれ」

「苦労しましたよアレ、宇宙微粒子なんて何に使うんです？……まあ良いですけど」

「また危険な事？大丈夫なの……？」

「大丈夫大丈夫！心配されるような事はねえよ」

と司は言っていたけど、心配だな……怪我とかしないで欲しい、自意識過剰かもだけど、それがわたしの為にやってるのかなって思うと気恥ずかしいし嬉しいけど、なんだか、やだなっと思うのは自己中なのだろうか。

そんな不安げな表情を悟ったのだろうか、わたしの頭を司の手でくしゃくしゃと撫でられる。

「ふいっや……」

「ちよつと！何やってんですか！羨ましい！私にも撫でさせる司ア！」

「ちよ、やめ……は、初菜、くちよう、くちよう」

「はーごほん、つい動揺してしまいました、司先輩後でオハナシガ」

「はっはっはっは、助けてくれ親友」

「わたしにも出来ないことがある」

あの後廊下に連れ出されてたけど、大丈夫だっただろうか……サングラス越しから助けるを求める目を無視してバームクーヘンを食べたわたしを許して。

そんなこんなで時間は過ぎて行き、夜は直ぐに訪れるもので。

「そろそろ帰つかな、良い時間になってきたし」

「……別にもつと居ても良いよ、外雨だしさ、泊まつてこ？」

「ちよつと！だめですよ先輩！狼を家に入れないで下さいよ！あ、それともわたしに言いました？えへへ……末長く同衾しましょう？」

「わたしからしたら初菜が狼みたいに見えるよ……それに同衾しません」

「……先輩がいじめる、司先輩、何か言ってやって下さいよ」

「がははー……いやまあ、とりあえずはもうちよつと危機管理と貞操観念をしつかりな？」

ぬう、別に司以外にこんな事言わないし、親友だから言ってるんだし、ちゃんと危機管理出来てますしー！

「まっまた今度遊ぼうな、日本ここでの用事もまだ終わってないし暫くは居るからよ」

「むう……わかった、また会おうね」

「おうーそれじゃあな、凧沙」

玄関まで歩いて扉を開ける、ニカツと笑って帰っていく司に、親友は変わらないなって安心感と、寂しい気持ちが入り交じる……こんな気持ちを司に抱くなんて思わなかったな、七年も人とまともに関わってなかったから、人恋しい気持ちになってるのかな。

いつまでも玄関に居るわけには行かない、体を振り返ると。

ー初菜のアクアブルーの瞳と目が合いました。

「うおおお!? だから近いってば!」

「えへ、二人きりですね、先輩……」

「え、いや、初菜は帰らないの? てかジリジリ近づかないで」

「あは、何言ってるんですか、今日は泊まるって私言いましたよ」

「いや言っていないよね!? ちよ、だから近づかないでってば……」

「ふふ、先輩……」

じりじりと壁際に追い詰められる、ゆっくりと手を握ってくる初菜に、わたしはどうすることも出来ない、振りほどこうとすれば確かにできる、けどわたしはこの少女を拒絶出来ない。

「ねえ先輩? わたしは先輩が好きです、この世界で一番、人生で一番、誰よりも好きです」

「う、うん、わかった、わかったから……離れて」

「わかってないです、ダメダメです、だめだめなぎちゃんです、本当に分かっているなら先に司先輩を帰したりしません」

初菜の目がわたしの瞳を覗く、真意がわからない、目の前の少女は確かにわたしの瞳を見つめて、瞳以外の何かを確かめるように覗いてくる。

「やっぱ先輩、ちよろいですよ、そんなスキだらけじゃ直ぐに食べられちゃいますよ……?」

初菜の左足がわたしの両足の間に絡まるように、それと同時に瞳が近づく、美しい初菜の顔が迫る。

これは……まずい。

「や、いやっ……はつな、やめて……お願い」

「……先輩」

——ちよつとまって、なんでこうなってるんだ!?

だめだ、考えがまとまらない、顔が赤くなってきた、蠱惑的な空間に当てられて酸素も足りなくなってきた。

目を閉じる。体の震えが止まらない、それでも初菜を拒絶することだけは出来ない、友達を、親友を、わたしを第一に考えてくれる、彼女は拒絶出来ない。

柔らかい吐息が耳に残る、首にかかった熱に鳥肌が立つ。せめて、

最初は――

「なんて！冗談ですよ、冗談、先輩がいやなら手を引きましょう」

そう言つてパツと大げさに手を離して、わたしから距離を置く。

絶対冗談なんかじゃなかった、マジだった、一線超えててもおかしくなかった……司あ！今すぐ帰ってきて！やっぱりこの娘おかしいよ、おかしいよー！！

「先輩、嫌な気持ちは吹き飛びましたか？」

「……まあ、でもだからつてやりすぎだよ、もうしないで、マジで」

「あは、ごめんなさい。でも先輩には心から笑つていてもらいたいですから、怖がるなぎちゃんも好きですけど」

「なぎちゃん言うな！」

にやにやと笑う顔をそのままに、玄関の方へと足を進める。帰るのかな、いや、泊まって欲しくは無いんだけど、帰って欲しいんだけどね。

「先輩、今日は楽しかったです、今日も配信やるんですよ、見えますから、配信でも楽しんで下さいね」

「ん……こんど、初菜の配信の方にも遊びに行くから」

「本当ですか!?最高ですかよ……では先輩、また近い内に」
「またね」

扉が閉まる最後までわたしを見つめ続ける初菜に、複雑な気持ちを抱きながらも、やっぱり寂しいなつて思う気持ちもあるようで……でも仮に初菜を私の家に泊めたらもう色々と戻れない気がする。

扉が閉まる、残惜しいさもほどほどにリビングに戻って後片付けをし始める。

「……ふふつ、初菜には困ったけど」

楽しかったな、なんとというか勇気が出てきた。

今日の配信もめいいっぱいいたのしんでやろう。

☆

「りるるん！……最近は掛け声のボキャブラリーに悩んでいます、なぎちゃんだよー」

『りるるん！』『るるるんりるるん！』『鈍器で殴るな』『きやおいきやぴなぎちゃん』『うおおおおお！』『出かわ』『生きがい』『存在する天使』『疑問。20000人弱の視聴者の職業』『やめろ』『やめろ』『お前、ピザ』『仕事終わりの酒のなぎちゃん』

「仕事お疲れさま、配信……楽しんでね？」

「さてまずは、宣伝から済ませちゃおうかな、今週の土曜日の配信は記念すべき第二回目のロストデイメモリーのデモプレイ配信だー!!」

『うおおおおお！』『うおおおおお！』『まじ？』『知ってた』『予定調和』『二回目案外早かったな』『SSS社公式アイドルやるこんな』『否定しません』『肯定します』『パパ頑張りましたよ』『有能無能、久々に有能！』『でもパパの座はもう無いよ』

「それでね？二回目はなんとなんとゲストさんが来てくれるみたい！……誰なのかはわたし教えてもらってないんだけど、その、知らない人とは話せないですよ。聞いてますか？SSS社さん」

『草』『草』『有能無能、無能！』『よわよわなぎちゃん』『誰がゲストなのか教えてもらってないプログラマーがいるらしい』『大物だよ！』『大人気だよ！』『アイドルだよ！』『で、誰だよ』『近日公開！』

「もう水曜だよ！今日含めて後4日だよ4日！今公開してよ……多分わたしの配信が終わったぐらいに公式HPで公開されると思います」

「よし、そういう事で宣伝終わり！今日はね、このゲームをやるぞ〜？」

『お？』『なんだ』『なぎちゃんへアピンかわいいね』『おでこぺろぺろ』『ぺろぺろ』『もしやこのゲームは……』『で、出たー！リアルタイムストラテジーゴットゲーム、まおなまだー！これ好き』『育成ゲームとな』『はえー』

「ん、へへ……へアピン、似合ってる？」

説明しよう！まおなまとは、リアルタイムストラテジーゴットゲー

ム『魔王のくせになまいきじゃい!』の事である!

ストーリーは、勇者の娘が「すーぱーみらくるゆうしやぱわー」で神であるプレイヤーを呼び出した所からゲームが始まるぞ!

簡潔に言えば、ダンジョンに逃げた勇者の娘と、食物連鎖によって強力な動物を育てることで、次々とダンジョンに侵入してくる魔王たちを倒し、大魔王を倒して王国を取り戻す事が目的のゲームだぞ!

勇者の娘は、剣も握れなければ畑仕事もした事もない魔法の知識も体力も頭も足りてないあほあほ勇者の最弱娘だから何も出来ないぞ!使えないね!でもかわいいから許しちゃう!

え……?似たようなゲーム性のゲームがある?パクリ?のんのん、オマージュと言ってほしい!と、中小企業の電磁基盤工場の社員達は語る!この人たち自分達でリスペクト作品作るの得意だね!怒られる!

「VR版もあるよ、みんなはどっち派?やっついていくぞー!」

『うおおおおお!』『楽しみ』『RTA業界が未だにブームのゲーム』『ほうき会社こういうの作るの好きよな』『ちゃんとゲームは面白いから許せる』『まあ元となったゲーム会社も潰れちゃったし……』『悲しいなあ』『僕はVR派』『わいも』『わしも』『PC版派です』

「いやー実はPC版ではやった事なくてさー?どんな感じなんだろう……お、早速我らのヒドイン勇者の娘のお通りだ!」

『かわいい』『かわいい』『二画面天使幸せ二倍』『最高か?』『ワイプに天使、画面にクソザコ』『娘ちゃんいじめはやめろ!』『娘虐はやめろ!』『かわいいなあ監禁したい』『ひえっ』『偽物兄者は監禁が趣味か何か?』『性癖です』『治せ』『治すな』
「いや治そうね、やめようね偽兄さん、もうお兄ちゃんって呼ばないよ」

「全7ステージあつて、ステージが上がる事で難易度が増えていくよ!強い動物を作るための養分のLvとかが少なくなったり、魔王達の特殊スキルが増えたりとかね」

『このツルハシで掘る音が良いんだ』『最高』『好き』『なぎちゃん好き』『わかる好き』『ちなみに養分と聖分の二通りあつて、養分が出る動物

はうさぎ、次にクマ、次にドラゴン。聖分からは聖霊、次にリリス、次にエンジェルです」

「ねえ、いつも思うんだけどリリスって悪魔系統だよね……?」

『ほうき社曰く、性癖』『草』『草』『まあかわいいし』『そういう所やぞ』『リリス：なぎちゃん：閃いた!』『描いたろ!』『早速出口付近にドラゴン作ってる』『えちえちなぎちゃん』『リリスリスなぎちゃん』『5点!』『そんなー』

「まあかわいいよね……お、そろそろ最初の魔物だ、うさぎ地獄は作らないであげよう、ドラゴンに喰われてしまえー!」

『しまえー!』『かわいい』『かわいい』『ツルハシ持った神になるプロゲーマーがいるらしい』『自称やぞ』『勇者の娘、たまに私も戦うー!』とか言つて突っ込むの辞めて欲しい』『役立たずが出しやばるな』『引っ込んでろクス』『娘虐するな!』

「そうだぞー?勇者の娘ちゃんはかわいくて元気で……なんだかなー?」

「ごめんね娘ちゃんフオロー出来てなくて……かわいいと元氣以外の取り柄がない自分を恨んで。」

「まあ初戦は勝てますよ、ほらほら次々!」

『あつ』『イキリタイム』『イキリなぎちゃん』『今日も楽しそうでええなあ』『ええわあ』『なぎちゃんぺろぺろ』『あまり舐めるな』『ヒエツすみません……』『いいよ』『なんやねん』

「あ、そういえば……1ステージの最後の魔王の名前……言わなくてもわかるかな?」

『ほーん?』『もう草』『わからないなあ草』『いやあ……草』『一体なんなんだろうな?』『まさかそんなあのなぎ民の名前か?』『あつ(察し)』『千里眼使わなくてもわかる』

「よーしよし順調……そだ、ヴァルキリーっーくろー!」

『強い』『戦力過多』『養分が一定数溜めて1ブロックにすれば出来る動物……?』『動物とは?』『適当が過ぎるよ!』『ほうき社曰く、これも性癖』『草』『一生ほうき作ってて良いよ!』『そーいや新しい空飛ぶほうきの型番出てたよ』

「へえ、でもほうきつて免許いるんでしょ？しかも事故率多いし……みんな事故とか、怪我とかしないようにね、なぎちゃんとの約束』『はい』『はい』『かわいい』『あーすき』『やっぱ天使や』『昨日のなぎちゃんも好き、今日のなぎちゃん好き好き好き』『昇天(御臨終)』『頭なぎなぎしてきた』『わかるなぎなぎするわ』

前から思ってるんだけどなぎなぎつて結局なんなんだ……なぎがゲシユタルト崩壊を起こそう。

「あ、そろそろ最後の魔王だよ！準備は良いな？わたしは出来てる』『ざわ…ざわ…』『なぎ…なぎ…』『まだだッ…！まだだッ…！』『後少し…ッ！後少し…ッ！』『ちよつとだけかわいそう、良いぞもつとやれ』『唯一なぎちゃんに一番いじられるなぎ民よなあ』『正直羨ましい』『わかる』『わかる』

勇者の娘ちゃんが最後の魔王が来るよと告げる、準備は万端入り口には二体のドラゴン、その先にはヴァルキリーとうさぎ達、抜けた先にはクマとリリスのハーモニー……さあ来い！

「魔王エリックー!!」

『草』『草』『エリー…エリック?!』『ついに魔王になったエリック』『みんな大好きエリック』『なぎちゃん公認なぎ民マスコット、エリック』『エリック、初めての魔王』『攫いに来たぞ！勇者の娘よ！(c v エリック』『エリック…草』『う、うう…ううう！』

「な、泣くなよ！いじりすぎた……ごめんね、魔王だもんね、威厳とかあるよね、ごめんね」

『草』『鬼畜で草』『追い討ちでしかない』『あくどい顔してはりまつせ？』『羨ましい』『わからなそうでわかる』『人気者やなあ……』『魔王エリック案外強くね？』『仮にもステージの最後の魔王やし』『これが魔王エリックですか』

「でもヴァルキリーには負けるでしょ、ほら」

『グワァー！(c v エリック』『草』『呆気なく負けたな』『クソザコ魔王エリック』『疑問。魔王エリック弱過ぎる』『よわよわ魔王エリック』『腹が痛い』『酷い』『ほらまたゲーム練習しような』『俺も付き合うからさー』『私』『僕』『ブラックも』

「ふふっ……ならその時はわたしも呼んでね、直々に稽古をしてやろうー！」

夜はまだまだ始まったばかり、わたしの楽しむ姿を、なぎ民のみんなにもっと見せたい。楽しんで貰おう。

「さてさてまだやるよ！この調子で7ステージまで一気にクリアしちゃおっかなー！」

☆

「配信しゅーりよう……っと、んく日付変わっちゃったな〜」

あの後もなぎ民のみんなと楽しんで、無事全7ステージクリア、RTAとかは意識してなかったからワールドレコードとかには載っていない。

あ、そうだ。お風呂はいつておやすみする前に、土曜日の時のゲストの相手を確認しないと。

「えーと、フィリス・リーベルフィールちゃん……て、え？」

うあーちやる教団のアイドル、教祖たそでお馴染みのフィリスちゃん、いや、様がゲスト？

ま、まじですか？

じゆうななわ!

金曜日のお昼時。ボーダー柄のもこもこパジャマに同じ柄のカーデイガンの上にエプロンを付けて、わたしは台所で料理を作っている。

今日のご飯はチキンドリアにしよう、鶏肉を切って、玉ねぎを切って、フライパンにぱー!っと入れて、赤ワインを加えてくつと。

「……料理が趣味になって又はなつてから、もう10年以上もするか」

大体の料理は全部頭にインプットされてるから、前みたいにレシピを見ながら作らなくても出来るようになった。また新しいレシピ探しにくるくるパットで探してみようかな……?

「よしオーブンで温めて……つと、その間にちよつと調べ物するか」明日に備えてわたしはデータ輸送会社の方じゃないづあーちやる教団について調べてみる。

といっても、大体はこの前見た記事のように、きのこ派かたけのこ派かに揉めた結果分かれて、ロシアに移住した方が全人類管理「データベース」、ALICEを崇拝する教団だと書かれてる。

ただこのALICEについての思想が中々に過激で、いわく「人類を管理するALICEは実質的な神に近い、よつて我々の神であり、人類はALICEの配分で管理されるべきである」とのことだ。

狂信者にも近い思想を掲げている割には、教団の信者達は口を揃えて「そんなの古いつすよ!時代はやつぱ教祖たそかなくやつぱ、僕ら女神になって認知してくれー!」とかアホみてえな事言ってるから、こういう人間たちが信者なのか大体分かるだろう。

可愛さにやられた者の末路だろう。たしかにかわいいけどさ、頭撫でてみたい……恐れ多いけど。

「まあ、本当にこの記事通りなら人類を救ったも同然だな……」

フィリス・リーベルフィールじゆうよんさい……いや、ネタとかじゃなくてガチで14歳、ロシアの大統領の血族が母親で、父親が日本人のハーフ。生まれてきてくれただけでロシアと日本の外交に大

きな貢献をしてくれた子だ。

宇宙船が日本に来て以降の技術革命によって、日本人そのものが異端として見られている節がある今、日本人とのハーフが出来るのは……普通にあると思うが、大々的に公表される、となると話は別だろう。

そしておそらくこれが本命なのだろうが……この子はある時期に未来予知をした。

「AIの暴走……ね、奇しくも七年前か」

ナゲツト君や自立AI、警備AIや戦用AI、まあ色々があるがそれらの同時多発暴走、つまり感情プログラムのエラーによって人間や動物、世界中に広がる全ての生命の殺戮。

それらの原因から解決法まで全てを予知したんだろう、未来を見た当時は三日三晩の睡眠不足に高熱、身体に多大な負荷がかかったとの事だ。

これ以上の詳細を知るには管理職の使うデータプログラムか、ハツキングになるが……

「ま、そこまでして知ることじゃないか、終わったことを掘り起こして知らない事を知るのもやだし、なんだか失礼だし？ 凄いJCって認識でいいっか」

あー緊張してきた、年下だけど立場的には上も上、ああでも三音とそう変わらない……のか？ あれ、なんだかあんまり緊張しなくなってきた、メンタルつよつよ？

「……ん、メール？」

『はじめまして！ なぎちゃんさま、フィリス・リーベルフィールじゅうよんさいです。』

あのあの、はいしんみました！ 面白くて、楽しくて、すごかったです。明日が楽しみです！ よろしくおねがいします、その時は教祖たそって敬って下さい！』

え、ええこや……律儀にメールしてくるなんてなんていい子なんだあ……妹にほしいんや……

「……………ん？教祖たそつて敬う言葉なのか……………」

☆

さて今日も今日とて配信だ、明日のことも宣伝しつつ、なぎ民のみんなと楽しもう。

「わたし、参上！自称プログラマーのなぎちゃんだよー」

『「1コメ」』『始まった！』『もう二万人超えた』『なぎちゃんは人気者だなあ』『いやあ今日も楽しみだね』『今日は何をするんです？』『もこもこパジャマだ！』『えっち』『好き』『もこもこなぎちゃん』『もこもこ…羊…戯れる…なぎちゃん…閃いた！』『よっしや描いたろー！』『ここまでテンプレ』

「今日ね？教祖たそからメール来たんだよく、じゆうよんさいにもこの配信は見られている自覚を持ってねなぎ民のみんな」

『まじ？』『やばいやばい』『お淑やかに行きましょう？』『お上品に行きましょう？』『そうですわね』『最初からJCですわよ』『そうですわよ』『化けの皮剥がれてますわよ』『そんな事ありませんわよ』『わよしかな言えないのですの？』『なんだお前ですわよ』

「いやもう遅いからね、色々……………というわけで、明日は教祖たそと二人きりのデモプレイ配信！みんな絶対見てよく？わたしの緊張を解すコメント待ってます」

『絶対見る』『見ます見ます』『明日のために有給入れた』『わかる会社辞めた』『人生辞めたつて？』『ニートは良いぞ〜？』『ミクちゃん、敗北！』『動画で同性婚姻届届けるつて言つてたけどなぎちゃん来た？』『マジ？草』『草』『明日も楽しみ』

動画で言つてたのかよ……………そういう所で有言実行しなくて良いんだよ、この前の後片付けの最中に置き忘れてる事に気付かなかつたらなぎ民にいらぬ誤解招かれそうだったし。

「届いたつーか……………困るのもうやらないでよく？まじで、本当に、やめて下さい」

「さてと、明日の配信、もし失敗したらどうしよう……………？ことうとうとき

は初心に戻るべし！このゲームをやるぞ〜！」

『うおおおお！』『まさか』『で、出たー！OverCoreシリーズ初のオンラインゲームだー！人間がついて来れる速度じゃないからってVR版が中止になった奴だー！』『解説乙』『14歳に見せるゲームではない』『わかる』『それな』『懐かしきおっさん、今では美少女天使』『体が闘争を求めている』

説明しよう！『OverCore＝WORLD』とはその名の通り、OverCoreシリーズ唯一の完全オンラインゲームなのだ！

ストーリーをこよなく愛す”コジマ脳”の方々は「これは駄作」と言うが、食わず嫌いはやめよう！オンライン要素を加えたこのゲームもまたれっきとしたOverCoreシリーズ。

プレイヤーはまず7つの企業の内どれか一つ、もしくは傭兵と言われる野良OC使いになる事が出来て、それぞれ対立している企業、あるいは護衛とか破壊とかをマッチングして、基本2対2で始まるぞ！公式戦だったり、大規模戦術機械の共同作戦など公式からのイベントも様々だぞ！

「最近はストーリーモードが出たみたいで、これを機会にやってみるのも良いかも！今回は対戦モードしかしないけどねー」

『うおおおお！』『おくちわるわる予知余裕でした』『ストーリー出たのか』『VR版のテストやったけど、無理です！』『だろうね』『なぎちゃんならできそう』『できそう』『つよつよ』『なぎちゃんとOCで共闘とか滾る』『わかる滾る』『血が闘争を求めている』

「教祖たそにわたしのかつちよええ所見せて明日はキャツキャするんだ……えへ、げへ、ふふふふ……なぎ民のみんなもそのつもりでお願いしますよ、頼みますよ」

『草』『草』『ゆりゆりおっさん』『おい犯罪だぞおっさん』『なぎちゃんはその事言わないぞ』『偽物説か？』『なぎ民は踏み台だった？』『なぎちゃん遠慮しなくなってきたよな』『良い事だ』『ホラゲー配信から一線を超えた気がします』『わかりみ』

「ド畜生なぎ民にはそれ相応の対応が必要なのかな……もちろん見てくれたりスパチャしてくれたり、感謝はしてるんだからね！勘違いし

ないでよね！」

はっ?!無自覚にデレツンを発動してしまった。

「じゃ早速やろつかー、サーバーは概要欄に張ってるからそこをクリック!……上手い下手とか関係無しにみんな参加してね?きつと楽しいと思うんだ」

『うおおおおー』『開戦じゃー!!』『久々のおくちわるわるの予感』『JCが見てるのにわるわるする訳ないだろ!』『せやかて工藤』『何故ばれた?!』『本名かよ……』『AALIYAHで、行きますよ』『DUALFACE使おうわ』『じゃーARETHA乗るかあ』『え』『狩人先生ちよつと……』『ほんきださないで』

「王道のホワイトグリントかなー、……ああいつ見ても素晴らしい機体だ……お、早速マッチング!誰だ誰だ?」

「お、初めましてかな?雪娘ちゃん、よろしくね!タンク型?イカすじゃないか……頑張ろう」ゆきむすめ

『始まった』『開戦じゃー!』『もう見た』『敵の名前は?』『遭遇しないとわからんのよ』『へえー』『白:なぎちゃん:パンツ:なるほど』『千里眼くん、確かかね?』『イエス大佐!』『よろしい』『私のライバルだ!がんばれー!』『この娘雪原エリアで暴れてた人じゃん』『強そう』

持久戦、制限時間は5分で相手の機体を何回か破壊して、総合HPを減らすモード。5分と短いかもしれないが、超高速戦闘なので体感的にはとても長い。

タンク型は堅牢な装甲と最高の積載量を持つ反面、スピードが遅いのでそれに合わせて並走する。実直に行こう、一人で突っ切って索敵して破壊されたくはない。

それに多分、そろそろくる。

「ー来たー!見えているぞニンジャさん!」

『速い速い』『第三者が見るとマジで頭が混乱する』『なぎちゃんこれ脚部パーツ改造してんな』『アンフアング使いだと』『総合HPの減りが一番少ない機体か』『つまり?』『うーん、普通に弱い』『決定力がない』『いやまて』

「うおおお?! あつぶねえ! なんだ今の、いや、そうか、オーバードウエ
ポン背負ってやがる! ヒュージキヤノンはやめろオ!」

「つくそ、左腕吹っ飛んだんだがア! なんだてめえ! 何者だ! ……電磁
砲って名前か! キミもヒュージキヤノンかよ! ば、やべえ、助けて雪
娘ちゃん!」

『うわあ』『えっぐ』『まーた変態企業がやらかしたよ』『アクアビット
は…まずい…』『直撃避けてもダメージ食らってるの草』『示し合わせ
たな』『仲良しかよ』『忍者と科学が交差する時!』『物語は始まる』
「始まらねえよ! ここで終わっちゃまえ、おら! おら! おら! おら! まだ行くぞ
まだまだ行くぞまだまだまだ行くぞ!」

コジマブーストで一気に光の粒子を加速させブレードを抜きニン
ジャさんの機体を切り刻む。もう一機の方は雪娘ちゃんのロケット
とプラスマガトリングの嵐に敗北した。

「こ、これを五分…頑張りよう!」

『おくちわるわる』『わるわるなぎちゃん』『ガチー4歳になんてものを
見せようとしてるんだ』『まあ教祖たそならうん』『まあ』『なぎちゃん
体力3割やん』『雪娘ちゃん強いなー』『我等がなぎちゃんお守りたい
のピンクだしな』『そりやそうよ』『ブラックも認める強さ』『最弱は?』
『イエロー』『そんない』

「うおおおおおっしや! 優勝した優勝した! へへ、どーだニンジャさ
んと電磁砲さん! 参ったか! 腕を磨いて出直してくるんだな…
雪娘ちゃんもありがとう、すごい助かったよ!」

『おめでとう』『つよつよ』『ヒュージキヤノンゴリ押し作戦、失敗!』
『残念だ』『おつかれ!』『なぎちゃん回転からの軸ブレが少なすぎる』
『空間把握能力つよつよ』『つよつよ自立神経』『これVRでやれない悲
しみ』『求められるリアルスペックが高すぎる』『それな』『わかる』
「さー次の相手は誰だ? 味方は誰なんだ?」

マッチングが完了する、味方機の姿が見えてくきた、黒くも美しい
着色をされた…黒い鴉、ブラッククレイブんだと…!」

「やれるのか」

静かに黒機体が頷く、そうか…言葉は不要か。

『うおおおおお！』『神展開』『これは熱い』『N—W G I X / vだと……』『かつてせかいをほろぼしたちから』『白と黒が交わり最強に見える』『強い（確信）』『で、プレイヤー名は？』『T U K A S A』『S A S U K E？』『違えよ』

「やるよT U K A S A！わたしと二人で最強！T U K A S Aとなら余裕！」

飛ぶ、どこまでも、駆け抜けていきーそして見えた。^{出逢う}

一つは、赤と黒のツートンカラーに配色されたボディ、ビリヤードの9番ボールをモチーフにしたエンブレム。

次に、5連装ガトリング、コジマキャノン、レーザーライフル、ミサイルジャマーを武装したプロトタイプOC。

「えッ」

『草』『草』『ワイプ画面のなぎちゃん硬直してて草』『終わ終わり』『蒼白なぎちゃん』『敗北なぎちゃん』『逃げろ！なぎちゃん』『公式順位3位の狩人先生、2位のアンノウン君』『うーんこの』『足掻いて見せてくれたまえ』『ラ ス ボ ス』『二戦目にして終局特異点』『これはイレギュラー』

「か、勝つぞー！どこまでもー！うおおおおおー！」

『うおおおおおー』『うおおおおおー』『プロハンニキが3位？』『プレイ時間の差や』『一位は？』『夜繋やづなつて人』『はえく誰？』『自分で調べて』『はーい』『T U K A S A上手いやん！』『なぎちゃん上手いぞ』『二段クイックブーストどころじゃない、過去を考慮してもこんなハイスピードで展開する戦いは、一度しかない。』

思考が加速し言語が単純化していく。神経が研ぎ澄まされ、わたしが白鳥わたしに同化同調していく感覚。

撃つ、撃たれる、躲す、当たる、削れる、避けーれねえ！

「強い……ー」

わたしは今、本物最強と戦っている、削り合っている。命を賭けた死合をー勝つ負けるの話じゃない、これは。

「ッ……くたばれ！堕ちろー！」

『なんだこの戦いは』『これがOC使いだと言うのか?!』『なら俺は一体

……』『魅入ってコメ少ねえ』『この試合録画してて良かった』『数多のOC使いがなぎなぎするに一票』『一票』『一票』

光の粒が交差する。

「っ……っ」

圧倒的なスピード、一つ一つが合理的かつ効果的、経験から生み出された確実な戦闘技術、年月を跨ぎ、数多の戦場を乗り越えた本物^{狩人}。

その相方である彼は、総合的スペック以上に、天才的なゲームセンス。悪魔のような試合運び、絶対的なプレイ¹⁰⁰⁰⁰時間。彼が不明機体^{アンノカン}で有り続けるルーツ。

対して、TUKASSAが、わたしが使える能力^カの全てのものより、圧倒的に上だ。

だが！譲れないものがあるならそれは、わたしとTUKASSAの、親友との友情……それを考慮してもなお……！

届かないと言うのか!?

『試合時間半分、ついにTUKASSAが落ちる』『なっげえ』『因みにこのモード、死闘だからどっちも落ちたらその時点で負け』『なぎちゃんHPもう残り少ないぞ』『二人も残り半分、上手くやった方じゃないか』『敗北なぎちゃん』『されどつよつよなぎちゃん』『終わりか……楽しかった、なぎちゃん^{イレギュラー}』

紅き黒星の放つパルスライフルにわたしが^{白い鳥}墮ちる。翼を失った鳥が飛べないように、わたしはたった今翼を失った。

ーーほんとうに？

ーーちがう。

ーーここで、終わるか……！

ーーシステムエラー、再起動を確認しました。

『バカな……』『再起動だと、あり得るのか!』『こんなことが』『やはりになぎちゃんは危険すぎる』『これがオーヴァーレギュラー……』『いやただのゲームシステムだが』『うるせえ』『こいつ処せ』『やがて世界は闘争を求める』『頭がコジマに支配されたなぎ民の凶』『コジマは……やばい』『汚染度なぎなぎ』『視聴者30000人おめでとう』『おめでとう!』

墮落してもなお立ち上がり、限界を超える。翼を広げる。

「勝つー！」

銃口を向け、向けられる。まだまだ、ここから先はわたしの全てを使って勝ちに行く……武器の貯蔵は十分か、最強！

ーそこから先は、正直言えば明確に覚えていない。いや、思考が加速し過ぎて記録処理が出来なかったんだ。

唯一覚えているのは最後。アンノウンさんとブレード勝負に打ち勝った所で、転移とも言うべき加速で反応する間も無くゴジマキャノンに屠られ負けたわたしだった。

「悔しい！悔しい！悔しい悔しい悔しいー！負けたくなかった！大気ない！きらい！うううううう、うー！」

『かわいい』『かわいい』『かわいすぎる』『もう無理ぽ、鼻が限界』『発作しそう』『なぎなぎなぎ』『なぎマ粒子』『そして人はなぎちゃんを求める』『新しいOCの新作はなぎちゃん存在そのものだった？』『今まででTOP3に入る実に良い戦場だった』『なぎちゃん、今度は味方で会おう』

「まだやる！次もやるー！再戦出来るまでずっとやる！」

『あつ（昇天）』『なぎつ！（なぎ天）』『なぎが一人歩きしてどんだんなぎになっていく』『何を言っているんだ？』『誰にもわからない』『雪娘、悔し泣きで母性本能が攪られます』『ミクもそう思います』『カフェ娘も思います』『クソレズ三銃士』『草』『草』『ずるいわお前』『涙ぺろぺろ』『有罪』『そんなー』

エンターキーをたたんと押して次のマッチングを開始する。

マジ悔しすぎて涙出てきた……次の相手まじぼこぼこのけつちよんけちよんの血みどろグワーさせてやるからあー！

☆

それからわたしの機嫌が直って冷静になつて恥ずかしくなつてまくしたてるように配信を閉じて、今。

「恥ずか死しゆるう……コメント全然見れてなくて申し訳ないよ、配信者としてどうなんだよ、熱上げ過ぎだし悔し過ぎだよ、反省だらけだ……うう」

この放送初菜見てたかな見てたよね、司も見てるつてかあのTUKASAって絶対司だし、もうちよつと捻りなさいよ、素直かよ。なんかかわいいじゃんか、そういうの辞めてよ。

……あ、あつあつあ……教祖たそも見てたのでは？

あ、あうあうあうあああああ……（ベットにダイブして全てを忘れようとして忘れられないまま夜を過ごすなぎちゃんでした）

じゅうはちわ!

教祖たそのの配信日の朝。

どうにも寝付けなかったが、寝起きは良いみたいで、頭がスッキリしている。

スッキリしているせいかな昨日の痴態を思い出しそうになる……うう、切り替えよう、切り替えだ。

「はあ……よし」

「ご飯を食べよう、実を言うところの体になってから食欲が増えた傾向があるのか、よく食べるようになっていたり。

だからって朝からラーメンヤサイマシマシを食べるわけじゃないし、カツ丼大盛りを平らげる訳でもないけどさ、ああいや、出来るか出来ないかの話をするなら問題なくどっちも出来る。

……食べた栄養がどこにいつてるか、考えたくはないけど。三音いわくわたしは軽過ぎるぐらいだというので、いっぱい食べるのは良いことだ。そういうことにして。

「よし、まぐろ丼を食べよう」

漬けまぐろのタレをかけると凄い美味しいんだあこれが……

食事を用意している間に、教祖たそについて考えてみる。

といっても会ったことも無いし、実は見た事もないのだ。ああいや、記事で見たりはするんだけどね、そうじゃなくて、放送とかでみたりはしたことが無く。

声を聞いたことがないのだ。わかるのはリアルJC14才つてことと、その容姿だけだ。

「思えばわたしと似ているんじゃないか……?」

わたしほどではないが、より白い銀色のホワイトブロンドに、赤に寄った紫色の……伝統色で例えるなら、ベにききょう紅桔梗の瞳。

それでわたしよりちよつと下ぐらいの身長かあ、なんだか妹みたいだ、こんな子にお姉ちゃんって言われた日には萌え萌えキュンつてなるかもしれない。

いややっぱ無しで、お姉ちゃんはダメ。

「いらぬ事まで思い出しそうだ」
……ん？なんだろうこの記事。

【自我を持つAIに、心はあるのか？】

近日、感情を持ち始めたと言われる自律AIが増え始めたのはご存知だろうか？例として自律型多機能AIのナゲット君のサボリや、妙な親切心、高度なプログラムでの扉のハッキングなどだ。

何故このような行動を取るのか、我々AI管理者が思うに自律AIに組み込まれた“自己学習能力”の学習能力、そして伝達能力の高さが裏付けているのではないかと考えられる。

ある事件以降、AI全体に感情プログラムは完全に破棄され、以降感情を持つAIは淘汰された。しかし自律AIの持つ自己学習能力が、様々な演算の果てに、感情というデータを入力し、確立され、伝達されたのではないか。

始まりは謎に包まれているが、まるで人間のような行動、そして人間に対しての好意的な行動から推察するに、善意また優しさなどの、愛を伝達したのではないかと、と私個人は考える。

0と1で動く機械はつまり、方向性が一方的にしか動かないのだ。一般的な善、それは愛情や喜びを生み、一般的な悪とは、悲しみや怒りを生む。

話が脱線したが、つまり自律AIの人間くささ、人間に対する好意的行動は、それらの愛を持つ人間から生まれたものだと言われ、管理者らしくもない、ロマンチスト的考察を試みたのだ。

ともあれ、これらの意見を踏まえた上で私は傍観する事にした、管理する立場としては無責任だろう、だが統治された意志に私は興味が無いのだ。

成長していく自律AI達を君たちはどう見るか、どう思うのか？答えは尽きないだろう。

以上で人工知能総合管理者Tの独白を終了する。

「はえ〜……感情を学習するってすごいなあ、それよりすごいのはそ

うまでした影響を与えた人かな？へへ、その人のお陰でわたしはナゲット君に優しくしてもらってるなら感謝しないとなあ」

このTさんって誰だろ、田中さんとか？なんちやって、まさか管理者の人がわたしの配信を見ている訳ないか。

ともあれ、感情があるうがなからうが機械だからって差別するのは、なんだかおかしい話だし、こんなご時世に自我を持ったAIがいるよって言われても、そっかとしか思わないかなあ。

他の人はわからないけど、少なくともわたしはそう思う。人間としてAIを見てる訳じゃなくて、AIが好きとか、人間が嫌いとかの話じゃなくて。

ただ単にAIも人間もわたしにはそう変わらないだけなんだ。

優しくしてもらったら優しくするし逆もそう、ただそれだけ。

「……お、噂をすれば玄関に配達を頼んだナゲット君が」

なんだかこうしてみると、心なしかそわそわしているみたいで可愛いなあ。わたしに機械フェチの門は開いてなかったと思うんだけど。

うーんでも、技術研究部に居た頃に作ったものの全てに愛着はあったから、案外潜在的に芽生えてたり？

扉を開けて配達物を適当に置いて貰う。

「これが終わったら撫でてやろーうー！」

聞こえているのか聞こえてないのかはわからないけど、作業スピードが上がったかな？ふふっ、やっぱなんかかわいいなナゲット君。

AIに心があるのかなのか、わたしには良くわからないが。

感情を学習しようとして学習する事自体が心を持つことの証明なんじゃないかなって、ナゲット君を見てたらなんとなく思った。

☆

改めて今日は教祖たそとの、より正確に言うなら、初見の人とVRで共に大手企業依頼のデモプレイ配信をする日だ。

ああやべっ鳥肌立ってきた、緊張しゆるく……

この緊張感の懐かしさ……わたしは忘れていたかもしれない。こ

んなことなら忘れなくなかった、慣れたくもないけど。

だだだだ、大丈夫！大丈夫ダイジョブ！今までも配信が始まれば大抵落ち着きを取り戻したクールでかわいいわたし、今回もきつとそう。

それに年下の女の子にビビるってそれはそれでなんか、距離を自分から置いてるみたいでやだし。

距離は置くんじゃなくて詰めるモノだよ、だって仲良くなって友達になれたらそれは素敵な事だ。

きつとその方が楽しい。

「……よし」

そろそろ時間だ、事前に一緒の所に転移しようって事になってる。

今回は赤のベレー帽とロングパーカー、手首に初菜のくれた御守りに加えて司のくれた金と黒が交互に交わった月のピンを反映した。

おでこは出してないけど、この方がわたしの顔が良く見えるし……どうせならVRの方でも付けたいし？

「行こっか、よろしくね」

なんとなく、自律AIってわけでもないのにそんな言葉を呟く。

囁くようなか細い言葉と共に、わたしは電子の海を渡った。

――擬似電子体総合プログラムを開始します。

――肉体と精神の統一を開始します。

――電子体へのアクセスを始めます。

――適合を完了しました。世界への適合を開始します。

――ロストデイメモリへの接続を開始します。

――全行程良好、擬似工程クリア。

――全行程完了。配信を始めます。

――よろしくお願いします、凧沙様。

見上げる空、雲一つないとまではないかないけど、なかなかの晴天。横を見れば煉瓦造りのアートセンスを感じさせる建物は中世ヨー

ロッパのような、日本ではお目にかかれない街並みをバックに、配信用ナゲツト君が待つてましたと言わんばかりに飛び跳ねてる。

『始まった』『うおおおおお！』『出かわ』『なぎちゃん今日もかわいいお！』『髪留めなぎちゃん』『かわいい』『なぎちゃんが見つめてる』『なぎちゃんに僕に見惚れてる』『無職童貞太郎がなんか言ってる』『可哀想な奴』『この日を待つてた』『視聴者3万人超えた』

次に、心配がする方に振り向けば見た事のある、だけど会った事のない女の子が今まさにこのロストデイメモリーに接続した。

『うおおおおお！』『うおおおおお！』『教祖たそ！』『天使と教祖……うーん』『桃源郷此処に在りて』『なぎちゃんと並ぶと姉妹みたい』『わかる』『わかる』『天使姉妹』『可愛すぎる……』『美しい……』『おいロシアの方の教団さんよオ！悔しいか？？教祖たそは今日日本で……』『アアアアアアアア!!』『草』『草』

可愛らしい顔立ちだ、それでいて気品があり、お姫様のような黒いゴスロリチックな服装も相まって、将来は優雅さと気高さを併せ持つ美しい女性になるのだろうと直感的に思った。

わたしの黄金色の瞳と少女の紅桔梗の瞳が重なる。不思議な瞳だ、この瞳を言葉で説明するには、少し難しい。

「よ、よろしくね」

ーお？目逸らした。……顔赤らめてる、かわいい。

「そ、そによ、き、今日はよろしくお願いします……」

……顔赤らめてる、かわいい。なんだかわたしも恥ずかしくなってきた。え……？何この付き合いたてのカップルみたいな。てかメルとえらくテンションが違うような、あれ？

『かわいい』『かわいい』『Wエンジェル』『Wコミュ障』『教祖たそ、緊張のあまりしおらしい』『しおらしい教祖たそかわいい』『よわよわ教祖たそ』『なぎちゃん、目を逸らす』『付き合いたてのカップル』『は!』『おちつけレズ娘特攻隊長』『何その称号』

「あつ……あの、ファンで、昨日の配信楽しかった……です」

「そ、それは良かった……あ、ありがとう、ございます」

「な、なぎ様。あ、改めて今日はよろしくおねがいます……」
「う、うん……うん？なぎ様？」

リアルJCに様付けされた件について。いやいやん？

『!?』『様……!?』『なるほどね、私は理解しました』『何を受信したんだ』『うおおおおおおお！』『気が早いぞ』『なぎちゃんそこかわって』『かわって』『立場的には？』『逆』

「様とかやめよう？立場的にも背徳感的にも、ね？」

「ふえ……や、やです……」

「なんで!？」

「な、なぎ民ですから……」

「なんで!？」

『困惑なぎちゃん』『かわいい』『かわいい』『気弱（譲らぬ精神）』『文面と対話の差が激しい』『こういう娘なんです』『これがギャップ萌え？』『教祖たそく（天誅）』『昇天しないのか……』

「な、なぎ民は、なぎ様を崇め奉らなければなりませんよ……口、ロシアではそうしました」

「え、ええ!?!ロシアの人それで良いのかよ！や、やめよ！ね？恥ずかしいからー」

「は、恥ずかしがってる……な、なぎ様、かわいいです……」

『なぎちゃん様バンザイ!』『なぎちゃん様かわいい!』『なぎちゃん様すてきー』『なぎちゃん様結婚して!』『なぎちゃん様俺だ！認知してくれ!』『認知兄貴まだ認知されてないん?』『なぎちゃん様とかいう新ジャンル』『さすがおそロシア、時代を先取りしたな』『視聴者50000人突破』

「よーしよしははは、もういいや。はい！じじよこうしようかいしよ!?!」

「に、日本語……崩れてますよ」

「うりゆさいよ……ごほん、おはよう！こんにちは！こんばんわ！自称プログラマーなぎちゃんです」

「フィリス・リーベルフィールです。き、教祖たそつて言ってください

……」

『うおおおおお！』『うおおおおお！』『始まったぞおおお！』『V R 初コラボ』『なぎちゃんとの成長が著しいぜ』『まじ姉妹みたいやなあ』『二人でなぎ教』『それ別になるのでは？』『なぎ民は実質なぎ教だった？』『なぎなぎなぎ……』『なぎなぎするにはまだ早いぞ』

改めて説明しよう！ロストデイメモリーとは、SSS社の開発した異世界ちつくなオープンワールドゲームである！

中世ファンタジー風味の世界。文明は停滞を告げ、緩やかな平和が世界に広まる。その世界にプレイヤーは迷い込むのであった。

プレイヤーは現実世界から迷い込んだ『迷い人』だ、あなたはこの迷い込んだ世界で、何をしてもいい。広大な空を飛ばたくように走るのもいい、森林に入り、動物たちと心を通わすのもいい、人間社会に溶け込み、賃金を稼ぐのもいいだろう。

或いは、遠く離れた魔王城に行き、魔王の私兵として志願するのもいい。古びた館にて、吸血鬼の始祖に出会い、共に旅をするのもいい。勇者の末裔に、行商人に、或いは、この世界の謎を解くと言うのは、どうだろうか？

それら全てを壊してもいい、狂った迷い人として、この箱庭をめちゃくちゃにするのも、良い。

あなたがやりたいことを、他でもないあなたが見つけるのだ。

……と、というのが公式のあらすじ。

『コピペするな』『説明しよう！（貼り付け）』『一回目で聞いた』『コピペなぎちゃん』『そーいや平和がテーマなん？』『迷い人たるプレイヤーの方々の行動次第ですね』『なんだその意味深発言』『戦闘できるとって事はつまり？』『ゲーム脳ならわかりますね』『なぎ脳だからわからん』『バカの間違いでは？』『おまえ、滋賀県』

「そ、そうだ……なぎ様、聞きたい……ことがあるんです、し、滋賀県は、何故あんな……その、あの」

「ああうん、こういうのはね教祖たぞ、関わらないのが一番だよ」

「え、ええ……はい」

滋賀県のなんの罪のない人すみません……いや、罪がある人はまず

戦争区域に行けないし住めないんだけどさ、問題は滋賀県の音が隣接した県にまで響き渡るつてのがね。

「さて！教祖たそ、ええつと……な、何したい？い、一緒に戦いに行く？」

「と、共に、その……た、戦いに行きますか……？」

『草』『草』『もつと他にあるだろ！』『話が合うねえなるほどねえ』『体が闘争を求めている』『これが戦闘種族ですか』『姉妹ってそういう……』『平和な世界って言うてるだろ！』『絶対そう言うと思っただけです』『ん？』『おや？』『ワールドイベントじゃあああ!!』

その時、示し合わせたかのように青空に次元が裂けたかのように切り裂かれた。

何があっても良いように教祖たそをわたしの後ろに誘導する前に、教祖たそがわたしの前にかばうように飛び出した。

「なぎ様は私の後ろに！ー！これは」

【WORLD；EVENT】

晴天斬り裂くは邪神と言われる無貌の王がその一人。

迷い人たる君はこの空の原因を突き止めるのもよし、無視するのもよし。どちらにせよ世界はその選択を受け入れ、次なる新しい平和の世界を作るだろう。

報酬【世界救世の迷い人】【カルマ；善】

な、な。

「なんだこれ！聞いてないぞSSS社さん?!てか説明不足だし、何しろってんだよばか！」

『罵りなぎちゃん』『ばか頂きましたアリガトウゴザイマス！』『わくわくしてきた』『やっぱこういうのがあるんすね』『でこれ多分、真逆の事も出来るよね、邪神側的な』『鋭い視点だあ』『わざわざワールドって区切ったって事は別の特別なイベントの枠もあるのか？』『で発売はいつですか？』『未定！』『はよ』

「ワールド……？世界に影響する、つ、つまり平和を脅かすイベント……な、なら、放っていくわけには……な、なぎ様！ち、力を……貸してください」

「え？ああいや、それは良いけど……」

「あ、当てはあるのか……ですよね……き、亀裂の出来た真下に、い、行きましょう。そ、それで何らかの手がかりがなかったらそ、その時に考えましょう」

ノリノリかよ教祖たそ。

『ノリノリ教祖たそかわいい』『かわいい』『かわいい』『異世界転移したら早速邪神に絡まれた件について』『その小説、作者の体験談らしいよ』『えっ』『ファツ』『信じねくよばくか』『信じさせてやるよ、今から家いくわ』『えっ』『あいつ消えたわ』

ちよつとコメントが何言ってるかわカラナイ。

「よし、じゃあ行こう！レッツ世界救世！」

「えいえいおー……ですねっ……！」

デモプレイ用なのか、ご丁寧なことにわたしの脳内にはワールドマップが広がっているのだ、教祖たそが言っていた亀裂のできた下に行くぜ行くぜ！

「はいとーちやくく……わあ」

「す、すごい」

迷い無く亀裂の真下に移動すると、空間の亀裂の中は星々が煌めいていて……渦巻銀河のようなモノが覗き込んでいた。

『こりやすげえ』『はえく幻想的』『どう？モビルスーツ居る？』『金色に光る百の式いる？』『そういやこの前パイロットになったんだけどさ』『そういやじゃないが』『えっモビルスーツの？』『はい』『はいじゃないが、お前誰だよ』『俺……かな』『お前だったのか』

「なぎ様、あの亀裂の中に邪神さんがいます……ね」

「そ、そうなんだ？よくわかるね、全然わからないよわたし」

「そ、それはですね、えとえと、うにゆ……その、にゆう……」

「あ、ああ言わなくて良いから！ね？信じてないわけじゃないよ！」

それにしても、邪神が居るとわかって倒せるのかな？このゲームはどうやら完全没入型のVRゲーム。わたしの視界に広がっている景色はデモプレイ用に用意してくれたワールドマップ以外システムの介入はされていない。

つまりは、わたしが何を使えて何が出来るかは全くわからない、システム的には生身よりは数倍は強くなっているはずだし、配信前のゲームのデモプレイってことは……うん、よし。

「つまりは飛べばよいのだから……！捕まるんだ教祖たぞー！」

「ふえ……なぎ様のお体に触れるわけには……」

「わたしがるーるなのだ！」

渡る教祖たその手を掴んで、私は脚力で飛ぶ……！

『うおおおお飛んだぞー！』『飛翔とはこの事か』『なぎちゃん、行きまーす！』『ああく可愛い子と可愛い子が手を繋げてるんじやく』『てえてえ』『萌えじゃん？』『デモプレイ用とは言えここまで息切れしてないのすげえ』『つよつよだからな、なぎちゃん』『ポンコツだけだな』

ポンコツじゃないわい！

飛んで亀裂の中に入る。不思議な……いや、ちよつと怖い感覚だ、未知の領域ってこのことをいうのかな。

私が感心していると、空間全体に声が響いてきた。

「おや、随分早いじゃないか、たしか迷い人と呼ばれるのかな？いやはやなんとまあ……よくないものに憑かれてるねえ、君？」

老若男女全ての声を混ぜ合わせた複合音声の様な、得体の知れない、重圧を感じる。

ゾツとした、種としての本能からの警告、データ上とは言えこの感情は確かだ。わたしはいまとてもこわい。

ひえっ……調子乗ってたよお、わたしに邪神討伐なんてむりい！教祖たそと一緒に……あれ、なんか雰囲気が変わってるよ？

「悪しき神、人に災いを呼ぶ邪神！隠れるな！出て来なさいツ!!!」

今までにない大声、剣幕で教祖たそが言葉を発した。か、かつこい……

「ほう？威勢が良いねえ、君も君で面白い、”我ら”の創造主の星のモノは君達二人のようなモノが一般的なのかい？そこるところどうなのさ、見ているんだろう？迷い人諸君？」

『へ？』『ひよ？』『何も聞こえない何も聞こえない』『びくんびくん、僕

は悪い迷い人じゃないよ』『この邪神さあ……』『はいSANチェック』
『おわおわりー閉廷!』

そう言葉を発しながら、その邪神はわたしたちの前に現れた。

黒い外套に身を包んだ、人型のナニカ。

「お初にお目にかかるね、自己紹介をしようじゃないか! そうだなあ、君達に伝わりやすいとするなら……ナイアールトテップ、聞いた事は?」

わりい、わたし死んだ。

『ヒエツ』『ウーン(昇天)』『やべえ邪神じゃん』『なんつーもん作つてんだオイ』『敵わ(ないです)』『なぎちゃん、死す!』『待て次回』『無いよ! 次回無いよお!』『よし、逃げよう!』『視聴者減って草、そりやそうだな』『デモプレイで裏ボスのその裏行くな』

「よーし逃げよう、うん。教祖たそ、無理です無理、ログアウトしよう! うん! そうしようね? ね?!」

「ログアウト不可領域の様です。なぎ様は私の後ろに、私に任せて」
えっかつこいい、凜々しいんだけどもこの子? わたしがおかしいの? 普通SAN値削れるよ? なんで?

「まあまあ、警戒しないで欲しいね。我らは君達迷い人を歓迎しているんだ、まだ構築し切れていないこの世界で愉しいコトをするんだろう? それよりほら、名前を教えてほしいな、初めてこの世界を訪れた光栄なお嬢さん?」

『わたちはなぎちゃん! あなたの心、奪っちゃうゾ?』『草』『草』『なぎ民くんさあ……』『言い得て妙かよ』『怯えるなぎちゃん、かわえかわえ……』『庇う教祖た所に恋したわ』『叶わぬ恋じゃん?』『わかんねーだろ』『猿でも分かるわ』『つまりお前、猿以下決定』『はい戦争』
すすすす好きかって言いやがって!

「あははは! なぎちゃんって言うんだ? ああ、当たり前だけど見えてるよ? それでその小さい子の方の名前は何かなあ?」

『えっ見えてるってまじ?』『嘘だろ? AI設定どうなってるん』『俺頭良いから説明できるよ』『うるせえタコ、やってみろイカ』『OK、長くなるから簡単に言うけどシステムAI、つまりこの世界の権能を司

るんだわ』『つまり?』『このワールドの持ち主』『チートじゃん』
「私はフィリス・リーベルフィール、邪神ナイアラーラトテップ、何が目的ですか」

「良い名前だねえ、目的かあ、目的もくてきモクテキ……よし!決めた!」

『わあ?!』『わあ?!』『わあ?!』『綺麗だな』『これはすげえ、おじいちゃんを見たプラネタリウム思い出すわ』

暗転、次の瞬間には星空が宇宙に広がっていた。その景色はあまりにも幻想的で、あまりにも宇宙的で、あまりにも……綺麗だった。

その景色の中心でナイアラーラトテップは狂気としか言い様のない悍ましい雰囲気で、外套に隠された貌の見えないその奥に、笑みを浮かべながらほんとうに愉しそうに歌った。

「なぎちゃん!フィリスちゃん!そして来たる日に現れし迷い人諸君!私は君達を歓迎する!私の箱庭に存在する事を許そう!そして十分に箱庭を愉しんでくれたまえ!君達の予測不可能な数々の物語が私の、我らの糧になる!この箱庭では何をしても構わない!私はその全てを許そう!愉しもう!この箱庭は、世界はッ!愉しむように出来ている!存分に愉しめ!」

「そして時が満ちるその時に、また会おうじゃないか?」

【WORLD ; EVENT】

晴天斬り裂くは邪神と言われる無貌の王がその一人。

迷い人たる君はこの空の原因を突き止めるのもよし、無視するのもよし。どちらにせよ世界はその選択を受け入れ、次なる新しい平和の世界を作るだろう。

報酬【世界救世の迷い人】【カルマ;善】

【CLEAR!!!】

君達二人は邪神ナイアラーラトテップに歓迎を受けた。

ナイアラーは君達迷い人が存在する事をよしとしたのである。それは即ち、世界に顕在する事を許したと言う事である。

報酬【カルマ;善】【邪神の加護】【解放;レコード《解放者》】

『うおおおおお!!』『熱いぜ!』『始まるって感じる』『いやもう始

まってる、公式がサーバーオープンした』『まじ?! 粹過ぎるだろ』『え、つまり?』『つまりロストデイメモリーをプレイ出来るって事じゃない!』『うおおおおお!!』『なぎちゃん、ぽかんとしてて草』『教祖たそもだぞ』『そりやそうだ』『帰宅したら凄い事になってた件について』『悲報：家から追い出される』『何してんお前』『草』
わたしは考えるのを辞めた。

☆

視点が切り替わる、……ってあれ? 教祖たそは? それに配信用ナゲツトもない、あれ?

「やあ、これからはオフレコ。ちよつと個人的に話したいんだ」

「ひえっ! ナイアーラトテップ……」

「そう怯えないでよ、親しみを込めてナイアーちゃんて良いんだよ?」

「な、なに、なにさあ! わたしは食べても美味しくないぞ!」

「ふふ、それも良いかもしれないけども、後が怖いから辞めとくよ」

今とんでもない事言いませんでしたか?

「さて、と……風沙。キミ、随分面白い体してるけど……そのまま良いのかい?」

「な……?! なん、なんでわたしの名前、それに、体って……」

「我ら、ああいや、私は限りなく邪神ナイアーラトテップに近い存在だ、そのモノと呼んでも良い程にはね、魂の形ぐらい見えるさ」

うそでしょ……なら、わたしがわたしじゃない事も分かるの?

「キミ随分怖がりだね、恐怖に敏感だ、虐めたくなっちゃうな……ああ、ますます欲しくなってきた、ねえねえ風沙、君を元に戻せー……」
「嫌ッ!!!」

「嫌だ! 嫌ッ……やだっ! 戻りたくなんてない! そんなの嫌だ! だって、だって戻ったら全部……ぜんぶッ」

「壊れるから? 無くすから? 元に戻りたくない? ふふっ……アハハハハハッ!! ああ失礼、そうかそうか、まあそれも良いけど、でもさあ。

ただの矮小な人間如きが、我らに迫る程に成長を遂げている、進化をしようとしているのは見過ごせなくてねえ、それは君達の世界だと尚更なんじゃないかなあ。だからさ、優しい優しい邪神は考えました」
ナイアラトテップの目の奥と目が合う、その時何か強大な腕の様なものにわしづかみにされたような圧迫感が襲いかかってきた、くるしい。

「う……っア、な、なにをするの……やめてよ、やめて……やあつ」

「だいじょうぶ、私に委ねて欲しいな、君はどうやら同類に気に入られるようだし、変な事したら殺されちゃうかもだしね。うん、だからさ？」

ちよつとだけ君の力、調整するよ、その力は膨大に溢れ過ぎだ。君が持つべき力ではないだろう？」

うあ……いしきが、あたまがゆれて……あ

「じゃあ今度こそ、また会おうね？ 風沙、約束だよ？」

—————さま！

—————さま！

「なぎ様！」

「っあ?!、あ、アレ?……は」

悪い夢を見た気がするけど、何も思い出せない。えっと、何があつたっけ……?

「あ、ナゲット君、大丈夫だよ、心配しないで?それでええと?」

「え、えとですね、あの邪神さんの宣言ですね、視界が変わって私達は元の場所に返されたみたい……です」

『なぎちゃん、復活』『視点変わった瞬間気絶してたよ』『怖くて失神ま

じ?』『わり、俺も』『俺も』『なぎ民、なぎちゃんとは仲良く御臨終』『精神よわよわ』『ニンゲン、オモシロ!』『だれだおまえ』『野生のゴリラでしょ』『野生のゴリラもネットを使い時代になったか』

「いやいやそんな時代にはなっていないからね、なつてたまるか!……はあ、疲れちゃった、もうわたし動けないよ」

「そう、ですね。デモプレイ自体は成功したみたい……ですし、配信時間も良い頃ですし……おひらきにしますか?なぎ様」

あつ、気を使わせちゃったかな、ほんとうにいい子だなあ、妹にしたい、いやもう嫁にしたい。結婚しよ

「名残惜しいけど、うん、また会おうね、教祖たそ」

「ぜひ!あう……その、今度会いに行きます……ね?」

「うん!待つてるよ教祖たそ!……ん?」

今度会いに行きますね?

「そ、そそ、それでは!お元気で!なぎ様!なぎ民の皆様!教祖たそでした!」

「あつ待っ」

『消えた』『一瞬だったな』『かわいかったなく結婚しよ』『それな結婚しよ』『このペドロリクソ猿共、粛清してやるわ』『アイエエエエエエ?!』『南無……ロリコン、トリコン』『語韻で踏むな』『今度会いに行く(リアル)だよな多分』『多分ね』『てことは?』『住所特定済み』『ヒエ』『えー……はい。まあとにかく!とーにかーくっ!デモプレイ大成功です!ついでにこのゲームの製作者達を海に沈めます!はいでは!じゃあまたねなぎ民たち!』

これ以上混乱する前にわたしはロストデイメモリーからログアウトした。

☆

「ふう……」

VR機器を取り外して、一人考える。

ナイアールラトテップはわたしのことをよくないモノに憑かれて

るって言っていた、恐怖心を煽る嘘かもしれないし、AIの言ったことだけど、あれは多分本当の事なんだろうなって。

だって、そうじゃないと、わたしの体の異変は説明がつかない。

なんでわたしなの？でも、そのおかげでわたしはわたしであると感じることができる、生きている事ができる、でも……

でも、

「……でも、」

ロストデイメモリーは数分前のあのデモプレイ後、凄い勢いで迷い人達がやってきているらしい、正直私も普通にプレイヤーとしてやりたいけど、ちよつとしばらくはいいかな……。

あつ、教祖たそからメールだ、ふむふむ……いい子やなあ、礼儀正しいなあ、妹にしたい。それどころかずつと養いたい……現実は養われてるようなものだけだ。

なんなら住所特定されてるみたいだけど、なんだかこわいんだけど。

初菜からもメール来てるけどこれは開けないでおこう、嫌な予感がしゆるよお……

「ん……なんだか筋力落ちたかな、何でだろ」

でもまあ、別に気にする程ではないからいつか。

寝ちやおうかな、少しだけ。

ちよつと知恵熱みたいなの感じてるし、疲れたし。

「すこし……体調、崩したかな……」

ベットに横になると、わたしの意識は数秒もしないうちに眠りについた。

掲示板のおはなし。そのよん

【なぎ民雑談スレ part 200】なぎちゃんをすこれ【教祖たそもすこれ】

1：古参面なぎ民 22：42：09
前スレはこちら。

次スレは>>885のなぎ民宜しく。

なぎちゃんのチャンネルはこちら。

なぎちゃんのつおったーははこちら。

荒らしは宅配ピザXLサイズ10枚、度が過ぎるようなら住民ハックと玄関爆竹の刑。

はい。という事でこのスレも200スレ目ですけども

2：名無しのなぎ民 22：42：18

おめでてえ……おめでてえ……

3：名無しのなぎ民 22：42：32

200スレ目かあ、なぎちゃんもすつかり有名人だね

4：名無しのなぎ民 22：42：49

やーしかしデモプレイ放送よかったわ、まあ個人的になぎちゃんと教祖たそが無双する感じのを期待してたけどさ

5：名無しのなぎ民 22：43：05

いやあナイアールトテップは強敵ですね（震え声）

俺ちびつちやつたぜ、大の大人なのにさ

6：名無しのなぎ民 22：43：12

俺も

7：名無しのなぎ民 22：43：42

早速すこし試したけどこりやすげえわ、初めてVRスカイリウムを触れた時並みに感動したし、自由度がやべえ、マジで何から手を付けよう状態、アドバイスするなら迷ったら冒険者ギルド行けば仕事先は見つかるぜ。

8：古参面なぎ民 22：44：33

暫くはロストデイメモリーで持ちきりだろうな、まあ俺は現実の対

処で精一杯なんですけどね。つれえなあ社畜はヨオ！なあ！！おい！！
クソが！！アア！！！！

9：名無しのなぎ民 22：44：56

落ち着いてくださいれ……落ち着いてくださいれ……つか、今回の
はつきりしたな、AIに魂が存在するって話

10：田中 22：46：01

えーはい。俄かには信じ難いと思う人も居ますが確定です。恐らく
ロストデイメモリ開発班はこの現象の事を知っていましたね、で
なければ不可能なまでの人工知能の運用をしています。他VRゲー、
果てには現実でのナゲット君やその他自立人形も感情論理コードが
存在し、必要以上に学習している場合がありますね。幸か不幸かは分
かりませんが

11：古参面なぎ民 22：46：42

ああうん、お前長えんだよ。もう少し短く話そうぜ

12：田中 22：46：57

うるせえ

13：古参面なぎ民 22：47：10

シンプルに草生やすわ

☆

400：名無しのなぎ民 24：56：04

なあ宮崎のあたり大丈夫か？いやここでいう事じゃないんだけど
さ、実際どうなん？バイオ汚染

401：古参面のなぎ民 24：56：19

平気とは言えねえなあ〜まあ生きてるけど、県市長が優秀なもん
でね、住民登録されてる全ての住民に抗体薬とフルフェイス送って
れてんのよ、だからまあ世紀末よろしくではない、その点ではなん
ら滋賀県より生きやすい、あそこおかし

402：名無しのなぎ民 24：56：29

へえ〜、対策されてんのな、んじゃ近くの沖繩とかは？

403 : 古参面のなぎ民 24 : 56 : 45

拙者の住処で御座るな、汚染は広がっては有りませんが、宮崎の県市長殿が早期に対策を立て実行してくれてるおかげですな。

404 : 古参面のなぎ民 24 : 57 : 10

あのさあ、酒の勢いで面白いの作ったんだけどさあ？

〓〓〓 画像データ 〓〓〓

405 : 古参面のなぎ民 24 : 57 : 13

え？

406 : 名無しのなぎ民 24 : 57 : 21

は？

407 : 古参面のなぎ民 24 : 57 : 28

まじ？

408 : 古参面のなぎ民 24 : 57 : 37

つかおまえ！お前可愛いなお前！結婚しよ

409 : 古参面のなぎ民 24 : 57 : 45

いやです…：でさあ、これ幾らで政府に売れば良いかな？安価とつ

て良い？取るわ（即断決行） 〓〓415

410 : 名無しのなぎ民 24 : 57 : 59

草

411 : 名無しのなぎ民 24 : 58 : 10

バカじゃねえの?!? だってこれお前、いやお前?!

412 : 名無しのなぎ民 24 : 58 : 16

田中ア?!おい田中いるか?!説明しろ田中ア!! 10億

413 : 古参面のなぎ民 24 : 58 : 21

田中居ねえし俺が分かる範囲で言うならこのばかでけえ空気清浄

機でバイオ汚染が一発で解決する、原理は不明。いや、は？ 無償

414 : 名無しのなぎ民 24 : 58 : 33

天才か？ 1億

415 : 名無しのなぎ民 24 : 58 : 38

いや無理無理無理! 〓〓418

416 : 古参面のなぎ民 24 : 58 : 48

はえくすごい、所で何処住み？ラ音やってる？つか結婚しよう？

417：古参面のなぎ民 24：58：55

妥当に114億514万ですかね……所でゴスロリとか興味ありませんか？是非被写モデルになりませんか？

418：名無しのなぎ民 24：59：06

7億かなあゝ

419：古参面のなぎ民 24：59：21

妥当、いや安いぐらいだな、んまあ酒飲んで出来た儲け物と考えようぜ、

420：宮崎の救世主 24：59：52

7億ね！あい！

421：宮崎の救世主 01：00：00

えっ、宮崎の救世主になったんだけど、人生の実績解除しちゃった？

422：古参面のなぎ民 01：00：21

草、ついでに特定したわ。また滋賀県で遊ぼうな、それとさあお兄ちゃんって呼んでくれない？

423：名無しのなぎ民 01：00：42

朗報：なぎ民、宮崎を救ってしま

424：宮崎の救世主 01：01：01

あれ、自分またなんかやっちゃいました？笑

425：名無しのなぎ民 01：01：11

確信犯だろこいつ草

☆

632：名無しのなぎ民 06：10：42

やっとスレが安定してきたな、はて？

633：名無しのなぎ民 06：11：06

しごおわきたくゝ、ちよくちよくスレ見てたけど世界救ったり狩人さんまたブレデータハンターRTA世界一位になったり忙しいな

ぎ民は

634：名無しのなぎ民 06：11：46

ほんとにな、その点俺は化石見つけたぐらいしか……はあ

635：古参面のなぎ民 06：12：20

何してんお前、いやお前もすげえからな？比較対象天神なだけで

636：名無しのなぎ民 06：12：43

なんか一年数ヶ月ぐらい彷徨ってたんだけど、お前ら変わらねえな

637：古参面のなぎ民 06：13：04

いやお前誰だよ、なぎちゃん配信始めてまだ三ヶ月も経ってねーぞ、ナチュラルに時間飛行するな

638：田中 06：13：42

僕の勘が今すぐ謝った方がいいと告げました、田中が代わりに謝ります。どうも待たせて申し訳ありませんでした。

639：古参面のなぎ民 06：14：03

何してんお前？俺さつきからこれしか言ってるねえや

640：古参面のなぎ民 06：14：13

千里眼発動！宮崎の救世主は……青色のおぱんちゅ！

641：古参面のなぎ民 06：14：42

お前の千里眼時間差でも発動できるまじ？

642：名無しのなぎ民 06：14：59

なあ、AIに魂が存在するのはわかったけど、それで俺たちの生活が大きく変わるかってないよな？また離反しないよな？

643：古参面のなぎ民 06：15：53

あー俺が答えるわ、前例もあるしまず間違いなく離反しない……とは言えん、魂があるなら感情もある、人間と同じように扱えとは言わねえけどさ、暴行とかそういうのやめろよ、可愛いそうだし。例えば俺によく来る配達ナゲット君は俺がお得意様なの知ってくれてるから、配達料金かからないんだよね。こういうメリットはあるぜ

644：古参面のなぎ民 06：16：21

ちなみに俺が貰った自律人形ちゃんはめっちゃくちゃ愛してカスタマイズしてほば人間と変わらん女の子にしたら朝ご飯作ってくれる

ようになったぜ、モテなくても嫁は出来るんだなあ

645：名無しのなぎ民 06：16：40

やべえ奴で草、まあ優しくてればいい事あるよぐらいか、優しい世界

646：名無しのなぎ民 06：17：04

さつき地面で寝てたら毛布かけてくれるしあいつらしい奴

646：名無しのなぎ民 06：17：39

お前もしかしてさあ……まあこの世の中仕方ないけども、有能以外は淘汰されるよな、俺もなんとか日々の業務にありつけてる三流クリエイターだしよ

647：古参面のなぎ民 06：17：54

定期的に言ってるけど俺のそこくれば仕事先紹介するぜ、安全とは言えんけどな

648：古参面のなぎ民 06：18：10

教祖たそについてちよつと調べてただけどこの子本当にすごい子なんだな、一説によると神の生まれ代わりとか言われてるんでしょ？

649：ミク 06：18：43

フィリスさんは第一次AI戦争を解決した生きる伝説ですからね、恐らく本当に神による加護か何かあるのでしょう。

それとこれから配信やります、ゲーム配信じゃないです、技術力に自信のある人だけ来て下さい。

650：古参面のなぎ民 06：18：53

いきなりつすねえ！いきます行きます！

651：古参面のなぎ民 06：19：21

何か作つたん？行きます！

652：名無しのなぎ民 06：19：53

そういう宣伝、ここでしていいん？

653：古参面のなぎ民 06：20：10

コテハンついてる名誉なぎ民はOK、それ以外はダメです。つかミクちゃん単体の配信久しぶりじゃね？いくぜいくぜ！

654：狩人 06：：20：50

おっと、タイミングが悪かったか、東京第八エリア5―34―42
地下で手伝って欲しい案件がある、死なないことに自信のある奴だけ
来てくれ、1時間後に締め切る

655：名無しのなぎ民 06：21：06

俺行っている？暇なんだよね

〓〓〓 画像データ 〓〓〓

656：古参面のなぎ民 06：21：42

えっ、つよ……おまえなんで無名なん？あつ自分も行きまくす！

657：田中 06：22：30

おはようございますなぎ民の皆様、昨日話忘れていたので教祖たそ
の話をしますね、早速ですが結論だけ言いますと彼女は器の中に自分
自身の魂ともう一つの魂を持っている事が推測されます。VR上と
はいえ完全に雰囲気は違いましたよね、今回の様な意識の入れ替えと
類似した動画がまずこちら。

でもう一つがこちら。

リーベルファイル家を調べましたが代々日本というlfkふいg

678：古参面のなぎ民 06：22：53

あつ……（察し）

語り過ぎて死んだな

679：古参面のなぎ民 06：23：14

田中……いい奴では無かったよ……

こうしてなぎ民は各々がなんやかんややっちゃってしまっているのだ。
た。

じゆうきゆうわ!

「…………ふう」

一試合終えて一息つく、強かったなこのプレイヤー、今回は久しぶりにスリル味わえた、久々に負けるかも知れなかったぜ……まあ最終的には勝つんだけど。

「すごいねえ風沙は」

「どの口が言うのさ」

「いやいやお姉ちゃんこんなに早く動いたら酔っちょやうよおく?ゲロインになっちゃいますね、間違いないです」

とか言ってるくせに姉ちゃんとの勝率は五分五分だ、勝てる時もあるれば負ける時もある、でも多分姉ちゃんが本気でやれば負けるって確信が持てる、色々と気分屋なんだよこの人。

「時に風沙、神様は人の魂が見えると言いますが、では人に人の魂が見えると思いますか?」

「いきなりだな……うーん、無理とは言えないな、今の技術ならそのうちそう言う事も出来るんじゃないか?」

「面白くないことえー!もつとメルヘンな回答が欲しかったですねお姉ちゃんとしては!」

「それでそれがどうしたのさ」

「人の魂が視えるスカウターを作ったんだけどこれが面白い事にね、その人本来の器、形、在り方、つまりは肉体と魂は必ずしも一致してないんだよ、いやあ面白いですよね」

さらっと何、とんでもないことしてないですかこの人?!

「まあ逆に肉体と魂がちやんと一致している人も居るんだよね、他でもないお姉ちゃんがそうなんだぜ、まあ一致している人の方が多いんですけどね、魂と肉体が一致していない人の方が少ない、これが風沙なんだけど」

「うん、うん……?うん?えっ、ええ?」

「まあ大丈夫大丈夫!多分なんともないよ!うん!お姉ちゃんの未来予知に近い第六感がとんでもない鳥肌立ってますが!気づいてはい

けない真実見ちゃったみたいなき感じなんだけどさ！ね?!だからほら、うん、やつぱ言わなければ良かったでしたくくく！」

肉体と精神……器と魂が一致しない、か。

「まあだからなんだって話だな」

「お？全然気にしてない感じですか？いや風沙の場合は器から溢れ出てお姉ちゃんちよつと理解が追いつかないくらいには魂の質が違うんだけど、もしかして弟、人間ではない？」

「失礼だな、そう言う姉ちゃんの方が人間とは思えないけどね」

「なに〜?!」

姉ちゃんが襲いかかってこようと威嚇行動をした時、姉ちゃんの電話が鳴った。

「ごほん！はいもしもし、菜湖なこです。ーーはい、ええ……それはーー」

珍しい、姉ちゃんが真面目に話す時なんて人生で片手の指で数えられるぐらいなのに、よつぽど大事な話なのかな？

「そうですか……わかりました、至急向かいます、はい……では後で」
ああ、これは夢だ。

わたしがわたしじゃなかった時、姉ちゃんと一緒に暮らしていた時ーーわたしが家名を名乗らなくなった日。

「風沙、お母さんとお父さんがーー」

両親が、他界したその日だ。

☆

見返したかった、お母さんはわたしを産んだ事を後悔して、最後までわたしを見てくれなかったから、そんなお母さんにわたしでもこんなに出来るんだぞって誇りたかった。

見返したかった、お父さんはなんでも出来た、なんでもした。そうやって数ある世界の真理を追求してきた。名誉も地位も財産も全てあの人が自らの手で掴んだから、わたしもお父さんを見習って、いつか並び立てるぐらいの凄い人に、なりたかった。

死んで欲しいなんて思ったことなかったのに。
どうして？

「……最近は、寝てる時泣いた事なんてないのになあ」

どうして姉ちゃんはわたしの前から消えちゃたの？なんでわたしを置いていくの？

それがどうしても、一番辛かった。

置いていかないと欲しかった、それだけなのに。

「何してるのかな……」

沈んだ気持ちとは裏腹に、雲ひとつない晴天に浮かぶ太陽だけが嫌に眩しく輝いていた。

☆

教祖たそのの初の配信から一週間経った、その間もプライベートで教祖たその何回か遊んだりしている。もちろんゲームでね？

教祖たその気弱なイメージとは裏腹にプレイスタイルは昔のわたしを思い出すかのような速度重視の近接型で、FPSでもショットガンを好む辺りに親近感。生き別れの妹なのでは？と勝手に思っちゃうぜ。

「わくすぐいにああ、宮崎県のバイオ汚染問題解決したんだ……」

えー何々？『焼酎飲んでたら気付いたら出来てました、お酒って凄いですよね、政府の皆様から頂いた7億円は酒造店に寄付しました、美味しい酒が飲みたい！』ので宮崎県の皆様はお酒を私にくれると、助かつちやうぞ？☆』……いやそうはならんやろ。

初菜は最近忙しいみたいであんまり連絡が取れない、ちよつと寂しいとか思ったり思ってたかったりするけど、仕方ないのかな。

「アンノウンくん、FPSで狩人さんに勝ったんだくやるじゃん」

司も忙しいみたいだ、宮崎に飛んだら問題が解決して、解放されるかと思ったら次は青森に飛ばされたいらしい、仕事変えた方が良く思う。

わたしが養える様になればそんな事しなくて良いのにな……

「そろそろかな」

そんな暇を持て余してるわたしに三音《みつね》ちゃんから連絡が来たのは昨日のことだった、わたしの数少ない友達の一人である。

遊びに來たいそうだ、わたしの部屋で遊ぶ事なんてそれこそゲームしかないんだけど、どうやら鍛えて欲しいらしい、そう言うことならなぎちゃん、がんばっちゃうよん！

玄関のチャイムが鳴った。

「今開けるよ〜！」

ガチャリと扉を開ける。初めて会った時と変わらない、気品を感じるウェーブのかかった金髪ツインテールが美しい。

「お久しぶりですわ〜！」

次の瞬間わたしは抱き着かれた、でけえしやわらけえ……

「つて何々?!」

「私のなぎなぎ成分が急速に回復していきますわ……一家に一人なぎちゃんが欲しいですわね……いやもういつそ、グッズ化してしましう?」

「し、しないよ。恥ずかしいな」

でも抱き着かれて役得だと思ふなぎちゃんなのであった。

「そうだ、三音。三音が来ることをナゲツト君に伝えたらお菓子持ってきてくれたんだ、えーつとね、これ！」

改めて三音を家に上げて、ナゲツト君から貰ったダヌエを振る舞う。なんか高いらしいけどよくわからない。

「ダニエルのお菓子ですわね、これを?よろしいのですか?」

「うん、もちろん！」

「ありがとうございますよ、では頂きますわね?」

「紅茶も入れるね〜」

一通りお菓子と飲み物を揃えた後、次にやる事はひとつ。

「特訓です」

「お願いしますわ……このままでは赤城の恥、私赤城三音にはどうしても勝たなければいけないライバルが居ますのよ!その相手を! けちよんけちよんの!コテンパンに!ぼっこぼこにしてやるのです

わー！ー！」

「気合い入ってんな……煽られたりしたのかな。」

「教えて欲しいのはPCゲームの方だよ、わたしが横で見ても適宜アドバイスするから好きなゲームやってみて」

「わかりましたわ！私の実力を見せて差し上げますわよ！」

あの赤城財閥の令嬢だ、さまざまな機械的技術、神秘的現象への造詣が深い家系の娘っ子さん。毎日が業務でゲームする暇もあまり無いぐらい忙しいと思うけど、さてプレイスキルはどれぐらいかな。

三音が選んだのはみらくるカート、これで勝って業務の全てを負かした人に押し付け……託す賭けをしたらしい。

「では見てて下さいねなぎちゃん！私のこの華麗なていくにつくせんすを！」

「うん」

うん、これはダメかもしれない。

「開幕から加速失敗してるよ！カウントのタイミング早いから！」

「ええ?!そんな事……ありましたわ」

「なんでバナナの皮に当たりに行くの?!コース選びが甘いよ！」

「私だってわざとじゃ無いんですわー！」

「アイテム拾えてないよ?!コースから外れてる！」

「どうしてなんですの〜！」

「右！右！右にドライブして！落ちちやうよ？落ちちや……あー！落ちちたー！ー！」

「いー！ー！やー！ー！!!」

つ、疲れる……

「よし、休憩しよう、ツツコミどころが多すぎる」

「なにおう?!私はまだ諦めてませんわよ！」

「闇雲にゲームをしても上達はしないんだよ、上手い人は必ず予習をするの」

三音は予習以前の問題なんだけど……これは骨が折れるなあ……へへ。

「な、なんですのよっその笑顔は〜！かわいいですわねコンチクシヨー！」

「えう……とだね、とりあえず先ずはきーー」

この後めちやくちや特訓した。

☆

「よしよし、なんとか真ん中の順位までは維持できる様になってきたね」

「ぐぬぬ……こんなおとなしいプレイじゃあ私、満足出来ませんわよ……」

「だめ、余計なことしなければ並なんだから、順当に回数重ねるしかないよ、本当に、余計なことしちやダメなんだよ、全部マイナスに転換するからね！」

「ここでドライブして、シユパ！ドューーン!!……つてのを」

「だーめーでーすー！それができるぐらいに基礎を鍛えてからにしようね」

でもやっぱり流石は三音だ、プレイ時間も10時間もやってないのに持ち前のセンスでオンライン対戦で真ん中の順位にありつけてるのは凄い。

失ったレートは……まあ今度取り戻そう。

「でもこうして友人同士で遊ぶのは楽しいですわね〜！」

「そっか、社畜だもんね……かわいそうに」

「まあそれもありますけれども、私あまり友人と呼べる方は……うう」「三音が？意外だね、いっぱい居るイメージなのに」

「仕事仲間達は勿論居ますわ？仲の良くしている方々もいますが、こうしてプライベートで遊ぶ友人は中々作れなくて……仕方のない事なのです」

それだけ赤城財閥のネームバリューが大きいってことなのかな、苦労してるな三音も……

「なので！私はなぎちゃんが友達になってくれて本当に嬉しいのです

わよー！」

「わーっっ」

ぎゅむつと効果音のつきそうな感じでわたしを抱きしめる三音、ふくよかな温もりが……ええねん。

必要とされるのは嬉しいな……

「さっ、さて！次は協力ゲームでもしよっか三音！どれが良いかな……」

「それでしたら私、これがやりたいですわ〜！」

この後も時間の許す限り、私は三音と親睦を深めた。

☆

さて、今日も元気に配信しよう。

今日配信するゲームは【ZNOX】一時期話題に上がった二人対戦カードゲームだ。

「よっす！3日ぶりぐらいかな？元気にしてた？なぎちゃんだよ〜！」

『きたぜ』『うおおおおお！』『始まりました』『今日はどんな配信ですか？』『ツインテールかわいいヤッター！』『かわいい』『かわいい』『かわいい』『お姉ちゃんもそう思います』『ワイトもそう思います』『お兄ちゃんもそう思います』

「今日はなぎ民参加型のカードゲームをやるぜ、その名もZNOX！聞いたことぐらいはあるんじゃないかな？」

『ZNOXだ！』『なにそれ』『やった事はないなあ』『はえ〜珍しい』『対戦カードゲームだ！』『一対一のゲームだ！』『俺の真青眼の究極竜が疼いてきたぜ！』『闇のゲームの始まりだぜ』

説明しよう！『ZNOX』とは、1〜10までの10枚のカードが2セットずつ、ジョーカーが一枚で構成された対戦カードゲームである！三回勝負して二回勝った者が勝者だぞ！

まずジョーカーを入れた21枚のカードがシャッフルされ、両者一枚カードを引き、最後の一枚を取った者が勝者になるのだ。

最後の一枚を引くまでに1〜10のカードの効果を上手く使い相手のカードを無くしたら勝ち、ジョーカーを最後に使った者は負け、最後にジョーカーを引くと負けなど、細かいルールはやってみればわかるぞ!!!

ちなみに配信用に設定されたZNOXは視聴者に配信者のカードがわからないように、第三者目線だぞ！試合は公平！2窓ダメ絶対！
「という事で、対戦相手募集だよん。わたしにカードゲームで勝てるかなあ〜？」

『つよつよなのか？』『余裕つすわ！』『カードゲームなんて久々だなあ』『なぎなぎしてきた』『得意げなぎちゃんかわいい』『かわいい』『運が良ければ勝てるし俺でもいけそう』『ZNOXはそう簡単にいかんぞ』

「おつ、早速対戦ルームに入ってきたぞ〜？えっと、夜繋さん……え』『初手ラスボス』『えっこの人もしかして』『そうです世界一位です』『ファーーーーー!!』『草』『草』『草』『マジもんじゃん』『オバコン一位の人だよな？カードゲームなんてやるのか』『世界大会か？』『最初からクライマックス』

「う〜……お、お手柔らかに……」

カードを一枚引く……先攻後攻の決め方は最初に引いたカードの数字の高い方、わたしは7で夜繋さんが4。先攻はわたしだ。

再度シャッフルされ、互いに一枚、そして先攻のわたしがもう一枚引く。

「なるほどね……」

わたしの手札は6と2。

6のカードの効果は「采配」、6を捨てて、山札から二枚引く、次のターンで手札から二枚捨てる効果。

2のカードの効果は「狙撃」、相手のカードの数字を言い当てて、当てたら即座にそのカードを捨てさせる。

なのでここで2を出して当てれば一発で勝てるけど……何の情報もなしに当てれるとは思えないなあ。

「まあ、ここはリロードかな」

『6だ!』『安パイ』『パイ?』『顔面ぶっけんぞ』『成る程ね』『うおおおおおテンション上がってくるねえ』『こういうのすき』『そういえばこの手のギャンブルゲームのファイナルシーズンやってたな』『マ?見に行くか』『これに対して夜繫さん、どうでる?』

「8……効果は選択!強い引きだなあ」

8のカードの効果は〃選択〃次に引くカードを3枚引いて一枚選べる

序盤で8を出すなんて強気だな、引いたカードが最初のカードかわからないけど……数字が高い?

「……決めさせてもらっちゃおうかな」

『うおおおおお!』『2だ!狙撃!』『ンツソゲキツ!』『カズマさん?!まずいですよ!』『ここで当てたらなぎちゃんの勝ち』『いや無理でしよ』『数字も低いしまあ持ってもね』

「……夜繫さん、そのカードの数字は9でしょ!どうだ?……ああー違うかあ、だよねえ」

まあそうだよなあ、さて……おつ?5かあ

『説明しよう!5のカードの効果は〃無効〃!次のカードの効果を無効にするのだ!』『説明乙』『これに対してなぎちゃんは?』『4!』『説明しよう!4のカードの効果は〃地雷〃!次の相手の引いたカードを問答無用で破壊!』『無効の効果で無効!』『あつたまつてきた』『……ハッ!』

3のカードの効果は〃対戦〃その名の通り、この瞬間両者のカードを見せ合い、数字が大きい方が勝つ。

「ふっふっふ……あまいぜ!わたしのカードはジョーカー!夜繫さんが1じゃない限り……な、ナニィ……!?!」

『うおおおおお!』『1だ!1だぞ!』『え、どういうこと?』『1のカードの効果は〃逆転〃、つまり?』『ジョーカーの効果を無効にする、ジョーカーの効果は〃道化〃、好きなカードになれる、だけど1のカードの効果でそれを無効』『じゃあジョーカーに数字の概念が消えて?』『カードを持ってないことになりますね』

っ、っよすぎる……!わたしがジョーカーを持ってなかったら負け

ていたというのに、く、くそ……

「いや、まだまだ、まだ終わってない！二回戦目だ……！」

次は夜繫さんが先攻だ。私が最初に引いたカードは……5
「つてなんてことをするんだ！初手4だと?!」

『初手地雷』『これは強い』『なぎちゃん負け?』『いや、途中で手札が0になったら一番下のカードから転生出来る』『なるほ』『なぎちゃんが勝つに5000ペリカ!』『夜繫が勝つに8000ペリカ!』
「ぐぬぬ……」

！
これでもう転生は出来ない、だが！わたしが転生したカードは10

10のカードの効果は『王権』！相手のカードを消す！圧倒的破壊力！食らいやがれ!!

「これで互いに同じ条件だぜ……わたしを本気にさせちゃったねえ！」

『させちゃったねえ!』『ねえ!』『ねえ!』『引き強くて草』『やるねえ』『運つよつよ』『振り出しに戻ったな』『お、互いに5のカード消えたな』『なるほどね』『どっちが勝つかわからないのも醍醐味やな』

夜繫さんが出したカードは6、ならわたしも6を出そうじゃん？

「中々思考を読ませてくれないなあ……ここで1か」

せつかくジョーカーを引いても使えないじゃないか、仕方ないにやあ……ここで出したくは無かったけど……7を出すしかないな。

7の効果は『墓場』、今までに使ったカードをシャッフルして、一枚引く……これで10が出たらわたしの勝ちなんだけどな、さあどうだ！

『おつと夜繫さん、ここで3を出す』『ここで?!』『強いカードなのか?』『うおおおおおお10だ!』『マジ?!』『えっ』『お?』『おおおおおおお!』『なぎちゃんも10だ!』『なんつー強運対決』『はえくおそロシア』『ロシア関係ないやろ!』『中々見ないぞこんなん』

「勝てると思ったけど……引き分けかあ、よっし、第3試合は負けなからな！爪痕残して勝ってやるぞい！」

ラストターンの先攻。山札から二枚引く……びみよいなあ、まあこ

こは1を捨てますかと。

「えっ、こっで6?.....9?!」

『強気なプレイング』『いや勿体無くね?』『あつ(察し)』『何を察したんだ』『なぎちゃんの手札は3か、引き弱いね』『9の効果は“魔法”!相手の手札を見るぞ!』『ん?.....お、なるほどね』『なぎちゃん負けたわ』

「いやいや、手札を見られたぐらいでわたしが負けるはずないやろがい!.....引き弱いなあわたし」

場に出したカードは6、これで少しでも良いカードが来ればいいんだけど、さて夜繫さんの出すカードは.....2?!あつこれまずいですよ!やめて!いやです!だめです!

「ああ~~~~!!」

『草』『草』『綺麗に3当てられたな』『ワンチャン3で.....いや怖いわな』『6じゃ不安よな』『次転生か』『9の効果有効活用してるの初めて見た』『数字高いくせに効果雑魚のクソカードだと思ってました.....』『間違つてはない』『プレイングの差だよ』『おまえは弱いけどな』『は?』『やるかおまえ』『ポヨすわ、部屋立てるから来いよオラァン!』『ま、ままままだ慌てる事はない.....わたしは転生するけど、そう簡単にやられんわい!』

無効!これで少しでも引き伸ばしていいカードを引くぞ.....夜繫さんの出したカードは2、もっと大きい数字を出して欲しかったが、問題は次わたしが引くカードだ.....いいのこい!

「.....4を出します」

『お?』『流れ変わったな』『UC流しとくか』『まくた切り取りなぎなぎされるよなぎちゃん』『また取れ高か?』『生きてるだけで取れ高でしよ』『たしかに』『たしかに?』『いやわからん』『わかれよ豚野郎』『これで夜繫さんも次転生?』『だね』

きた!やった!きた!どん勝だ!

勝ったー!わたしは勝ったんだ!わたしはジョーカーを引いた、あとは3か10を待つだけ!勝利の方程式まであと少し!3は一枚出たといえまだ可能性は残ってる!

この勝負、いただいた……わたしの勝ちーへ？

『あつ』『草』『なるほどね』『堂々とフィールドに突き出されたカード、その名も』『なぎちゃん、哀れ！圧倒的不憚！』『やっぱ（邪）神さまに愛されてんな』『俺が蛇に見えたか……』『蛇だろうが！』『そうか……ならお前が蛇なんだ』『何い？』『蛇でいてくれてありがとう……！』『疑ってくれて、ありがとう……ツ!!』『夜繋は二度指す』

10のカード、だど？

「わっ…わっ、な、そんなばかな！わたしは、わたしは勝っていた！ジョーカーを手にしていた、たとえ引き分けであったとしてもこの試合、勝っていたはず！なのに、な、なぜ、う。う。う……」

『泣き顔なぎちゃんかわいい』『不憚かわいい』『いやバカみてえな引きの強さ、流石つすね』『たまたまやろ』『そのたまたまここで引くから強えんだよ』『たしかに』『導かれてしまったかな』『一生付いてくわ』『草』『録画しといて良かった』『流した涙はお兄ちゃんが責任を持って舐めます』『きつつつつ』『なんだア……？てめえ……？』

「ちくしよ〜！つよすぎ！夜繋さんきらい！適度に忖度して！はー……次のやつボコボコにしてやるからなく〜！覚悟しやがれ！」

この後めちやくちやZNOXした。



「ン〜ン〜！今日も楽しかった！」

あの後夜繋さん以外のなぎ民の人たちにはそこそこの勝率で勝ったぜ、運も実力も上の人には……んにやび

配信中は配信以外に何も考えなくて気楽だ、そこに楽しいこと以外のモノは何一つない、不安も哀しみもない優しい世界。

世界に、配信に出会えて良かった。

でも……なんだかな、こんな気持ちで配信をやるのは違うよね。

「……よしっ！」

気持ちを切り替えよう、その為にも……ふっ。

たのしみだな……！

にじゅうわ!

むくり。

時刻は朝、今日はお出かけの日だ、司と初菜を呼んで三人で遊びに行くのだ。

何を隠そう!ユニバーストスーパージャポン!略してUSJに行くのだあ!!!

なので気合を入れておめかしを頼んだのである……美容資格のあるナゲツト君に!

「ということで、よろしくね」

既に私の家の前で待っていたナゲツト君を家に迎え入れて、ナゲツト君に全てを任せる。

どこことなくウキウキした様子でナゲツト君はわたしをジロジロ見てーおや?えーと……まずは服選び?なるほどね、おっけー

「ちよつと狙いすぎじゃん?かわいいけども、えっ?わかつたよく着るよくん」

かわいいけどもゴスロリちつくな服は……外じゃ恥ずかしいな。

本当に着るの?……も……

わかつたよ!着ます、着るよ仕方ないなあ。

「え、いやわたしお化粧出来ないよ?……なにその道具?ええ?、わかつたわかつた、座って大人しくするから」

この前の配信の後、気持ちを切り替える為にいつ遊べるか司と初菜に連絡した、二人とも忙しいだろうし数週間後とかになるんだろうなと思ってたけど、タイミング良く2日後ならおっけーとのことで。

はやくも配信の日から2日経ってしまったのだけでも。

は、恥ずかしくなってくるな……やつぱり行くのやめようかな?うぬゆう……いやでもわたしが誘った事だしな、ぬゆ……でもなあ、他の人もいるし視線が……ううう!

「ん……?」

ナゲツト君が鏡を持ってきた、どれどれ?なるほどね?ふーん。

鏡に映るわたしは文句無しにかわいいねえ……!

きらきら光るスターダストにフード紐に付属するカミナリがかわいい黒パーカー、ショート丈にふんわり広がったバルーンスリーブが……これまたかわいいねんな。

下はシンプルにすこし短めの黒スカート、そしてニーソ……今のわたしは可愛さを身にまとったさいきょうのかわいいなぎちゃんとなっている。

お顔にも化粧をしてもらった、今のわたしは無敵だあい!

「え?・メガネ?」

うーん?

ああ!なるほど、確かに変装しないとだもんね。

おこがましいかもしれないけど、わたしを知ってる人は多いと思う、わたしに気付いて話してくれる人が居るかもしれない。それは嬉しい事だけど、わたしは画面の向こうにいるなぎ民は何も知らないんだ。

リアルで知らない人に話しかけられるのは……うん、そのさ、普通にこわいよ。

なので!今日はメガネっ娘なぎちゃんなのだっ!

「ありがとねナゲット君……よし、忘れ物もないね」

バッグを持って家を出るーおっと、危ない危ない。

「これこれ」

赤のベレー帽を被って……よしっ!

行こう。

扉を開けていぎーっ

「しゅっぱあ〜っううっわあ?!」

「おはようございます、せんぱい?今日は一段と可愛いですね……ふふ」

目と目が合う瞬間、扉を開けると初菜がいた。

「な、なんで扉の前にいるのさ!」

「えっ……先輩、一人で行けるんですか?」

「うえ、そ、それはく……って違う違う！そうじゃなくて！」

「まあ細かい事は良いじゃないですか、ほらほら行きましよう先輩、ね？」

「く、くわくわく……いや本当に怖い、目が、特に目が。」

「司は？」

「はて？今日は二人でデートですよ？やつと私と愛を築き上げるの
では？うん？」

「えっ……い、いや、三人で遊ぼうって言ったじゃん、ちゃんと言った
よ？わたし」

「冗談でしょ？」

「いやそのセリフそのまま初業に返すけれど?!

「はあくくくく……司さんなら先に行つてるか後から来ると思
いますよ、ええ、その間に私と二人きりで遊んで満足してその勢いでホ
テルに行きましょう、そうしまししよう先輩」

「しないわ！……まあ、そうだよね、送ってくれたりはしないか」

「私じゃ不満ですか、ふーん、そんなに司先輩が良いなら二人きりで
けばいーじゃないですか、なんなんですか、当て付けですか？」

「ににににやにやにやにやにやすんだ?!?!き、三人で行きたいの！不満で
もないよ！もう！」

「てつきり私は先輩がヘタレて私を呼んだのかと」

ひ、捻くりすぎだ……！それにヘタレじゃないやい！

「……わたしがわたしになって最初に外で遊ぶ人は二人と一緒に良
いって思ってたんだ、だから初業も司も一緒にないとダメなんだよ」

「だと思いました」

「にやにい！おちよくったな?!」

「なぎちゃんはかわいいなあ」

「あつそれ外に出たら絶対言うなよ！まじで！」

☆

なんやかんやあつたけどとりあえず出発！目標はUSJ！

今のこのご時世、現実世界で遊園地に行く必要はないかもしれない、実際一時期は遊園地は日本から消えるかもしれない、実際数えるぐらいしか日本には遊園地は無い。

全部VRで事足りてしまう世界なのもそうだけど、やっぱり各土地の色々な問題がある、例えば滋賀県とか。

滋賀県は民戦地なのだ、琵琶湖周りの宇宙成分を浄化するとか何とかで日々戦ってないとダメらしい、わたしも詳しいことはよくわかってない。

国民が戦い合う地で遊園地が成り立つわけが無いでしょ。

話を戻して、USJは何処にあるか、オオサカである。

オオサカといえば完全犯罪都市オオサカとして有名であり、世界でもトップクラスに治安の悪い都市であり、普通オオサカに遊園地が成り立つ訳がない。

のだが、USJは別である、オオサカの市長がマジで頑張り過ぎて何処かで狂ってしまった結果、遊園地にめちゃくちゃお金を使ったらしい。

その結果、大幅に遊園地が拡張、犯罪阻止エリートナゲツトくんの大量設置、美味しい料理に美味しいお水、えとせとらえとせとら。

そうした活動のお陰かUSJは、オオサカで唯一の犯罪者ゼロを達成したのである！

……らしいよ？

「先輩、ちゃんと捕まってる下さいね」

「う、うん。でもわたし、運転したいな……って」

「ダメです」

「なんでさー」

初菜の空式バイクに乗る、その名の通り空を飛ぶ為のバイクだ、風から身を守るフィールドが展開されるので運転中に落ちる事はほぼない。

「じゃあ先輩聞きますけど、一度でもその体で運転したことありますか？ありませんよね？なのに来れると思ってるんですか？陸ならまだしも空でぶっつけ本番で私の命を預かるんですか」

「う、う〜！」

「かわいいからって運転させませんよ！」

ダメみたいだ。

「……二人で空を飛ぶのは久しぶりですね」

「そうだね、思い出すな色々」

「あの時は私が後ろに乗ってましたね」

「今と逆だ」

「ですね、その、先輩は」

「良いよ、その先は言わなくて」

「……ですね」

わたしより少し大きくなったように感じる背中は、やっぱりどこか違和感があつて。この何とも言えない気持ちがあたしの心に燻りだした。

時速225kmで走る爆走空式バイクを少し荒っぽく手足のように操る彼女は今何を考えているんだろう、人の気持ちはどうしてこんなにも分からないんだろうか。

いつそ分かるようになれば、ああでも……解っていたら。

「先輩、考え過ぎると体に毒なんですよ」

「……身に染みて分かつてるよ」

「何も考えず、私に全てを頼ってくれれば、私はその全てを受け入れて貴方を取り巻く全てから守って、離さないのに」

「それも悪く無いかもね」

「でしょう？例えば、先輩は私の為に毎朝朝ご飯を作ってくれるんですよ、ああその前におはようのキスからかな」

「キスはちよつと」

「ええ……まあ良いですけど」

彼女の言つてる事は痛いぐらいに本心で言っているんだろう、こんなわたしに無償の愛を与えてくれるその理由まではわたしにはわからないが、その言葉に嘘偽りが無いのは、流石に分かる。

だから、全てを委ねてみてもきつとそれは……間違いじゃ無いんだ。

「私、頼りになるでしょう?」

「勿論」

「ふふ、良かった……」

「ただどわたしはその答えの先をこの場で言ってしまったら、わたしは終わ諦めってしままうう。」

「だから心にだけ留めとく事にした、それが初菜にとってどういう意味になるのかも分かった上で、言葉にする事を辞めた。」

「先輩は先輩ですね」

「そうだよ、きらい?」

「まさか」

その先の言葉はきつと風に流されてしまったのだろう。

心なしか、スピードが少し上がったような気がした。

☆

まるで1つの街だ、と誰かが呟いたことがあったそうな、その言葉は実能的を得ていて、開発を回された本当の狙いはいつそ1つの街として本格的に機能でき、あらゆる悪意から身を守る為のオオサカ最終防衛ラインとする目的でもあったとも考察されている。

ニューヨークとサンフランシスコを真似た街並みは一見すると美術的価値のある大変素晴らしい、だがその実、街並みのその装甲は核爆弾にも耐えられるように設計されているようだ。

「当時の市長は何を考えていたんだろう?」

「それはさておき、というわけで……!」

「ついた〜!!!」

「USJだ〜!」

「ですねぇ……一日利用申請許可は取ってあるので、存分に楽しみますよ先輩」

「とりあえず司と合流しようか」

「え〜」

「えーじゃないよ、ほらっ」

初菜の手を引つ張つてこの街並みを観光しつつ司を探す。

「こんなところでまあ……大胆ですねえ先輩」

「何が?」

「えへへ」

「可愛く笑つてもわかんないよ!」

……思つたより、平気だ。

周りを見渡しても今日利用している人たちは少ないし、わたしの事を知つてそうな感じもしないし、見られているのかも無い。

……初菜の手を握つて安心したのもあるかも、なんて。

つてアレ、見覚えあるぞ?……右手にクレープ左手にたこ焼き……?どんなバランスだよ?!てか待つ間に充実し過ぎだろ!

「司〜!居た居た!」

「んお、遅かつたななぎちや〜」

「ストーツプストツプ!!おおいおい?」

「あーめんご、なんて呼べば良いんだ?」

「普通に呼べば良いじゃんか」

「……はっはっは、なあ初菜、これギャグで言ってるのか?それとも天然なのか?」

「後者ですね」

「だよなあ、いやまあ、そういう所あるしなあ」

二人して何を意思疎通しているんだ?

「先輩先輩、実の所その格好ぜんぜん変装出来てませんよ」

「えっ」

「フルフェイスぐらいはしないとイケなかつたな我が親友よ!」

「それだと台無しだよ!」

「まあもうバレてる様ですし?気にしなくて良いんじゃないですか?」

「うそ、それは流石に……ほら、周り誰も見てないよ」

「世の中には知らない事もあるからな!」

うん?どういふ事だろ

「まあいいや!遊ぼうぜ!」

「だな！じゃあたこ焼きとクレープ食い終わるまで待ってくれ」

「待たないよ！わたしは行きたい場所があるのだ！ていうかそれ寄越せっー！」

「ああ！俺様のクレープが！」

「先輩可愛いなあ……たこ焼き私が貰いますね」

「やらん！」

やっぱ二人と居るのは楽しい。

ずっと続くと思っていた、でも続かなくて、でもやっぱり続いたこの関係が、わたしに全てを与えてくれる

今きつとわたしは――――

「次はこっちだくくく！」

「俺様、さつき行つた」

「私もあんまり興味は……」

「なんでさ、じゃああっち！」

「俺様、そこも行つた」

「司先輩置いて二人で行きましょう、教会とかどうですかせんぱい？」

「俺様、一人はちよつと寂しいぞ」

「似合ってますよ」

「おーおー、やめろ辞めろ？泣くぞ？すぐ泣くぞ？ほら泣くぞ？」

「……あれ、先輩は？」

「遅いよ二人とも！こっちこっち！」

「……良い笑顔してらあ」

――――心の底から笑顔を浮かべているんだろうな。

☆

「さあなぎ民のみんな、待たせたにやん？今日の配信を始めるよ！」

『うおおおおおおお!!』『うおおおおおお！』『テンションたっか』『にやん……だど?!』『全身の穴から血出たわ』『うーん(昇天)』

『おいおい、あいつ死んだわ』『語尾ににやんを付けるだけで人を殺す女』

人が住んでいる噂だったり色々あった渋谷だけど。

宇宙船がやってくる前は……んーつと、こういう時、なんて言うんだっけ……あ！そう！ハイカラ！

「ハイカラですね！」

『ハイカラですね』『ハイカラですね』『メガネくいつてして欲しいですね』『はえ〜セーラー服なぎちゃんですか、うっ(即死)』『うっ』『死んだ』『死ぬな』『むりだ、てえてえ』『は？くそ可愛すぎるだろ、ありえん』『ありえてしまった現実がこれ』

「わあ！本当だ、セーラー服になってる?!ちよつと恥ずかしいんだけど……なんで？」

『かわいい』『かわいい』『恥ずかしがつてる先輩可愛いなあ襲いたい』『襲いたい(ガチ)』『きたわね』『きたわよ』『帰って』『んでなんでセーラー服なってるの?』『学生設定だから』『なんで渋谷なの?』『エンドレスモードだからじゃね?』

「そうなの！ストーリーモードはちよさくけんがやばばなので、エンドレスでバツバツタ女の子をボタンキュー、させちゃうぞ！」

ということできつそくエンドレスモード、スタート！

わたしの前に生み出された「きゅん♡DESU!ガン☆」を装備して、さあいざどこからでもかかってこーい！

……ん。

ん？なんか、こーう、地震？

『やばい』『やばい』『なぎちゃん設定間違えたでしょ！』『あほあほだ』『あほがーる』『これ難易度もエンドレスにしてるね』『※過去の難易度でゲームクリアしたのは世界で十数名です』『やば』『やば』『やば』

「わ、わあ！ちよ、なんかとんでもない女の子達が四方八方から！」

怖いよ怖い！ハートマークの千差万別な女の子がいっぱいやってくるんだけど！いやでもわたしにはこの「きゅん♡DESU！ガン☆」がある！

するとその時、わたしはほぼ直感で跳ねた。

「ひい！地面から手が！って空にも居るんだけど！なにこれ聞いてないよ！え、え?!」

『見え……！』『ないです』『鉄壁のスカート仕様だと!?』『つか反応やば』『シックスセンス◎』『ゾンビ映画かよ』『囲まれたらR17.9されるらしい』『まっ』『まっ』『まっ』『まっ』

空から飛来してくる女の子をばきゅんしてめろぱわを解放させて、わたしが着地する所にいる女の子を同じ要領でばきゅんする。

や、やばい、キリがない所の話じゃない！囲まれたらやばい！なんかこう……身の危険を感じる！そんなゲームって聞いてないのに！

『滋賀県民並みの立体軌道で笹』『絶滅危惧種パンダさん!?』『偶にゴリラになるパンダさん?!』『琵琶湖の渦を止めたパンダさん!』『パンダすげえな』『過去には動物園にも居たんやで』『嘘だろ』『はいはい弁慶乙』『マジやぞ』『やば』

「ふっ……！は、ね、ねえ！これ！エンドレスって！あぶにや！おお?!な、いつ、いつ終わるの!」

『余裕無いなぎちゃんかわいい』『かわいい』『かわいい』『R17.9はまだですか』『起きてもナゲット君が録画停止するぞ』『いや俺達のナゲット君なら……!』『君は……!』『ヒーローに、なれる!』『そんなヒーローにはなりたくないでしょ』『とか言いつつ?』『やれっ!そこだ！押し倒せ!』

誰も答えてくれないんだけど！そんなにわたしが押し倒される展開がいいのか！ひどいよ！

らぶばわあく♡が溜まってきた……よし、これなら、あれが使える！

「この一帯を消し炭にしてやるぜ！」

『台詞が魔王』『魔王なぎちゃん……続けて?』『続けて?』『何が起きるんどウス?!』『一定のらぶばわあく♡が溜まったから終末浄土——ていんくるDESSU——を使いますねこれは』『知っているのかライデン!』『デン!』『何が起きるん?』『女の子がらぶの霸王色で倒れる』『意味わかんねえなこのゲーム』

ちゅー……どおおおおおん
!!!!

「うわあすごい音だな?!……お、やった！一網打尽だ！」

『おーすげ』『すげ』『げす』『因みに狩人さん、この難易度クリアしてないんよ』『え』『え』『え』『なぎちゃん！後ろだ——!』

「へ?」

むにいくつとした感触と共に、わたしの視界の後ろから腕が回ってきた、抱きしめられた?え、なんで。

『難易度エンドレスは倒れたふりとか固有能力とか平気で使ってくるぞ』『油断したわね』『捕まっちゃったわね』『やばいですね!☆』『因みに桃色ピンクちゃんはあれぐらいじゃ倒れないし、なんなら一度捕まると……』

「ちよ……!力つよ……!全然振り解けのやにやああ?!」

わたしが抵抗していると——ふつと、耳に息を吹き掛けられた。

「この……っ、ひあーやめ、うわでも癖になるようなないような……」
『息を吹き掛けられます』『Fooooー』『やったぜ』『あくくべり
アルになりそう』『なるな』『地球終わっちゃう？』『なんて裏山怪
しからん』『ピンクちゃんになりたい』『わかる』『それな』『先輩が汚
された!!!』『びっくりマークの数やべえな』

「かわいい……なぎちゃん……♡」

「え?!あ、し、喋れるの?!」

「んく……何でだろ?でも良いじゃん……もつといいことしよ……」

「へ、ちよ、はひー!脇はダメ!おいやめろ!っ……!」

『ナゲツト君迫真のカメラワーク』『こいつ絶対感情あるぞ』『俺達側の
感情持つてるわ』『あく、(成仏)』『してくれメンス』『いや何で喋れ
るの?』『おい無能解説』『えーあのですね、はい、わかんね!』『カス』
『ボケ』『投げ出さないでやくめでしょ』

くそ、やばい、HPがじわじわ削られてるしそろそろ半分以下に
なっちゃう、ピンクちゃん以外の女の子は倒れたまんまだし新しい女
の子はまだリポップされてないから、この状況さえ打破すれば……!

「こうなれば……ふっ!」

「わっ……」

『おお抜け出した』『何今の』『すげ』『先輩!!そんな女ピーしてピーし
てピー……!』『規制されてんの草』『林生えた』『瞬身の技じゃん、
よく出来んな』『わいクソニート、ヤムチャ視点』『言葉で説明すんの
めんどくさいのでパス』『そんなー』『そんなー』

「くらえー」

間髪を容れずに発射!だけどピンクちゃんはまるでわかっていた
かのようにするつと避けて、わたしに近付いてくる!

「はやーちよ、おい!強くないか?!」

『まあピンクちゃんストーリーモードの裏ボスだし……』『そうなの

？』『設定的には主人公の幼馴染、とある条件を達成すると海外から帰ってくる』『ちな人気投票二位』『やば』『やば』『やば』『なぎちゃんがんばえ〜』

うおお今掴まれそうになった！あぶな！油断も隙もないな！倒せそうにないしこうなればー！

「なぎちゃん……なぎちゃん……逃がさないよ……♡」

逃げ出そうと踵を返したその時、ピンクちゃんの声が背後から聞こえたー?!いくらなんでも速すぎる！それに足音も聞こえなかった！あ、やば、また抱きしめられた！

『瞬間移動しなかった？』『します』『この世界の女の子どうなってんねん』『なんならミドリちゃんは分身するし、アカちゃんは腕生やす』『クロちゃんなんか視界閉ざしてくるからな』『シロちゃんの「逆」にほれるばわあ』も当たると即死』『開発者狂ってるよ……』『今更すぎるんだよなあ……』『あ、呼びました？てへっ』『てへっ、てナンダヨ！』

「なぎちゃん……♡すべすべ……いいにおい……」

「ちよ、くすぐった……っ、ひゃ、やめっ……」

ピンクちゃんの手が太ももに近づいてきたー！え、ちよ、ちよつと?!ハラスメントNGなのでは?!健全向けゲームなんですけど!?それ以上は本格的にまずいって！

「なぎちゃん……ね、ね、なぎちゃん」

「な、なに……っ」

「わたしたちのこと……すきっ……きらいっ……」

……え？

どういうー

『お？』『ん？』『エラー？』『ナゲット君裏切ったな！』『何も聞こえねえ』『何も見えん』『デジャヴ』『デジャヴ』『おい無能』『システムエラーでは無いですね、意図的にナゲット君が止めてます、理由は不明です』『てことはついにR17.9なった？』『こうふんした』

コメントは動いてる、でもナゲット君が配信を一時的に止めている？これは、どういうことだ？

「なぎちゃん、ね、わたしたち、みんな、いじわるするけど、いいんだよ、ね、なぎちゃんが、すき……わたし、わたしたち、みんなすき……」腕の拘束が緩くなっている、今なら簡単に抜け出せると思う、でもなぜか、今は抜け出そうと思わなかった、それはたぶん、ピンクちゃんに問われた事に、答えたかったからだと思う。

「……質問の意図は、正直、よくわからないけど……」

「嫌いじゃないよ、うん……すき、かも？」

顔を覗いてくるピンクちゃんの目を見てそういうと、ピンクちゃんは嬉しそうに微笑んで、あ、ちよ、拘束がー！

「えへ、へ、へ、すき、すき……」

「ちよー！ー！まって！」

「まてない、ひとりじめしたい、だめ？ね、だめ？」

「だめ！あつ……う、どこ触ってんだ！うおおおい！助けてナゲット君！」

あ！あいつ逃げやがった！信じてたのに！なんてやつだ！

「ああもう！それ以上すると嫌いになっちゃうよ！」

「あ……」

わたしがそう叫ぶと、ピンクちゃんはまるで叱られたワンちゃんのように悲しそうな顔をしてわたしの拘束を解いた。

……う、そんな顔されると……なんかわたしが悪いみたいじゃないかあ……！

「き、嫌いにならないで、ごめ、ごめなき、ひぐつ」

「な、泣かないでよ！ごめん、言い過ぎたから……」

ピンクちゃんの頭を撫で撫でてあやす、全くもう……なんだか、最近VRに行くとなわたしが本来知ってるゲームとはAIが全然違う行動するから、変な感じだなあ。

まさか本当に……いや、でも、そうとしか。

「ほら、泣き止んで？ね？」

「うん……」

「隙有り！」

まあそれはそれとしてわたしはプロゲーマーなぎちゃん！時には外道なことをするのも辞さないのだ！うつべし！ぱきゅん！

「あう~~~~…ひ、ひどい……でもすき……♡」

『お』『お』『再開したと思ったらピンクちゃんが撃たれた件について』『ピンクちゃんーん！』『なぎちゃん息切らしてね？』『事後？』『事後』『お楽しみでしたね』『ナゲツト君、無能』『独り占めするなナゲツト君』『俺にも見せろ』『見せろ』『見せろ』

「あ、おい！きつき助けるよナゲツト君！……は？きかいだからにんげんのことばわかんない？うそつけ！」

『草』『草』『大嘘である』『中身が俺達過ぎる』『中にミクちゃん入ってる説』『だったら良かったんですけどね！！』『血涙流してそう』『悔しが

んなよ』

「…………ふう、気を取り直して、やったるぞ〜〜〜！」

その後、ピンクちゃんとのやり取りでほぼHPが無くなっていたわたしは縦横無尽に現れ、囲んできたミドリちゃんの分身と、人気投票三位のアオちゃんのとりかめ〜〜〜！でとりかこまれ、ドナドナされちゃったのである。

あ、もちろん完全にドナドナされる前に脱出しました、危なかった……………！

☆

「ん〜…………つ、楽しかった……………！」

配信を終えて、お風呂は済ましてるから、後は寝るだけ。

それにしても、今日は不思議だったというか。

「…………姉さんの論文、保存しとけば良かったな」

もう忘れてしまったあの論文の書いてる事を読めば、最近起きている…………起きたこの現象を、わたしの中で起きている疑問が全部解決するかもしれない。

でも、それを解決してもしなくてもわたしがやることは変わらないし…………別に、今じゃなくても良いんだけど、でもどうして？あのピンクちゃんの問いかけはなんだったんだろう？

「…………う〜〜〜〜！わかんない！」

ポフッとベッドにダイビングして、枕に顔を埋める。

「もう寝よ…………ナゲット君、電気消して〜」

……まあ、でも。

また遊ぼう、ピンクちゃん。

にじゆういち!

ん……んう……!

ぱっー! 勢いよく起きるわたし、なぎちゃんである。

「良い朝……あれえ、おひる? そんなばかな」

ナゲット君にアラームして……って頼んだ筈なのに、最近ナゲット君は反抗的だ、なんかこう、いじわるしてくる、今日もそう。

いや、アラームぐらい自分でかけろよって言われたらそうなんだけど、う……、ナゲット君が何でもしてくれるのが悪い! わたしのせいじゃないやい!

「ま……いつか……今日はなくにも予定ないし、ゆっくりしよ」

前回のお出かけと、配信から三日、配信が楽しくて休みなく配信していたら初菜から「明日は休んで下さい、良いですね」と厳しく言われちゃった。

なので今日は本当に、最近では珍しく、前までは日常だった何にも予定のない一日が出来上がったのである。

せっかくだし、外に出よくなつて自然に思うぐらいには、最近わたしは……良い方向に向かっていると思う、考え方とか、そういうのが。

わたしをここまで社会復帰……? じゃないね? ポジティブだ! 前向きにしてくれたのは、偏に配信のおかげだから、今日もいっぱいやろう!

……あ、そうだった、今日は休んだった、うーん、何かと考えれば最後に辿り着くのは配信! な辺り、わたしも配信者としての考え方が染みついちゃったぜ。

「暇な時はゲーム……でもいいけど、んー、でもせっかくだけ出かけるなら誰かと……いつそ二度寝しちゃう? へへ、二度寝する時のちよ……と

した悪いこととした感じ味わっちゃう?どうしよっかな、何しようかな?」

悩むことが多くてたいへんだ、でもそれが嬉しかったりする。

悩むことが多いことって、それだけやりたいこと、やることがあるって事だから、何にもない、ただ生きてるだけ……そんなつまんない、楽しくない事より全然楽しい。

今でもやっぱりまだ、過去を思い出す時はあるけど、最近やっと本当の意味で……立ち直れそうだから。

長かった、のかな?短かったとは思わないけど。

「ん〜ん、ん?メツセージ来てる……わたし個人の端末に?誰だろうと、お、どれどれ……?」

【拝啓・なぎちゃんさまへ】

おぼえてますか?ファイリス・リーベルファイルです!あのあの、いつも配信見えます!昨日の配信も見ました!勇者は眠らないV7さいこうでした!私の母上が「何故ビクトリオは死んでしまうの?」とかなしんでました、わたしもかなしい……

あ、えつと、そのその、話を変えます!

なぎちゃんさま、えつとえつと、このメールが届いている二日か三日後、そっちに行きますね!

ようけんはいじょうです!あ、何か邪な気配がしたら直ぐに言ってください!私が祓いに行きます!最近第三陽陰術を会得したので呪程度なら霧散出来ます!そそそそれではお元気で!

……えつと。

えつと?

「まずその、うーん?ん?え?そっちに行きます?会いにくるの?え、会いにくるの!?!」

頭が整理してきた、尚更困惑してきた、フィリスちゃんもとい、教祖たそはああ見えてというかどう見てもその国のお姫様である。

ガチでロシアの国家人物に位置する子だし、そんな子が日本に来るのはどんな理由であれわたしの家に来るとい理由にはならないと思うんですけど?!

お、おとおお落ち着け、それだけじゃなくて第三陰陽術のこととか教祖たそのお母さんもわたしの配信見ていたとかもかなり困惑しているけどおちつくんだ、そすう！そう、こういう時は素数！

いや、あえて羊さん！ちがう！寝てどうする！

「ふう〜……、うん、よし、よし、家に来ると決まった訳ではないし……てかわたしの家知ってるわけ、ないよね、ないよね？それはそれで怖いし？日本に行くよ〜って連絡だけだよ？そうだよ？」

うん、そうしよう。

わたしはあほあほ、あほなのでなーんにもわかんない！てへっ！

よし、セルフ記憶改竄完了、まさか鬱な時によく使っていたこの技ともいえないこれをこんな時に使うとは思わなかったけど、よし。さっ！ゲームしよう！

☆

そんなことがあった三日後。

チャイムの音が聞こえて、だれだろう？と外のカメラをナゲツト君に見せてもらうとそこには何時ぞやに見た、見違える筈もない“その子”がやってきた。

きよ……教祖たそだ……本物JCだ……いやそこじゃなくて、どうやってわたしの家突き止めたとか、いやそもそもなんでそんな気楽

に來ているんだとか、いや確かに言われたけどそうじゃなくてとか。
「な、なぎちゃん様！遊んでくださいっ！」

ああうん。

はい。

まあいつか！わーい教祖たそが遊びに來てくれたぞ〜！このこの〜！かわいいなあ教祖たそは！

前持つて（ナゲツト君に）部屋をきれいにしたし、誰かが來ても良いように（ナゲツトくん）お洋服も選んだし！かんぺきだ〜〜っ！

「今出るよ〜！」

ドアを開いてそこにいたのは白い銀色のホワイトブロンドに、
紅桔梗べにききょうのかわいらしい目、白いワンピースは本当にお姫様みたいで、
いやまあ実際お姫様なわけ。

お人形さんみたいにかわいい顔をしたわたしより一回りちっちゃい子が何処となく照れた様子で上目遣い、うーん、これは。

「かわい〜〜〜！」

「わっ、わー、な、なぎちゃんさま……！」

つい抱きついてしまった、これは不敬罪に当たってしまうのでは？
いやもうでもだめだ！かわいいから抱きしめちゃう！なんてかわいいんだ……これはもう芸術じゃないか……！ダメだ〜〜もうかわいい！かわいいよお！

「おいでおいで！入っついていいよお！」

「は、ひゃい！し、失礼いたします！」

わたしは教祖たそを部屋に招き入れた、なんだろ、妹がやってきたみたいでちよつと恥ずかしいね？

「わあ……！三音さまの言った通りです、ここがなぎちゃんさまのお部屋……！」

「へ？三音と知り合いなの？」

「は、はい、おしごとで何度か、そ、その、三音さまに教えてもらって……」

なるほど？

なんで教祖たそがわたしの住んでいるマンションを知っているのか合点した、三音が教えたからだ、それならまあ、そういうことならうん、いやでもそれでも一国のお姫様の立ち位置の子がわたしに会いに来るのは何故という疑問はさておき。

「でもわたしの部屋、ゲームぐらいしかやることないよっ」

「い、いえ、わ、私はなぎちゃん様と一緒にゲームをできるだけで、幸せです……」

「そ、そう？もくかわいいなあ、教祖たそ〜！」

「わ、わっ……」

ちなみに。

こういう時、決まって初菜が来たりするのだが今日は来ない、何やら三日前から緊急の仕事が割り振られたらしく、凄い面倒臭そうな表情でお仕事しに行ったのだ。

なのでわたしは教祖たそをめちやくちや安心して愛でているのだ、いやまあ、初菜がこの輪に居ても嬉しいけど拗ねて「私にも同じことして下さい」って絶対言うからなあ。

初菜にやるのと教祖たそにやるのではちよつと、うん、恥ずかしさが違いすぎる。

「何する何する？」

「な、なぎちゃん様のお好きなもので……」

「遠慮しないでいいよ！ふっふっふ、ゲームはね、いっぱいあるから、好きなもの選べるよー」

「そ、それなら……じゃあ、で、デストロイヤー剛がしたいです」

「凄いの選ぶな???'」

「だ、ダメ……ですか？」

「そんなことないよ、一緒にやろ！」

わいわい、がやがや。

楽しいなあ、本当に妹が出来たみたいだ、素直で優しく可愛いわたしは教祖たその魅力にすっかりやられてしまった、もえーである。

……姉ちゃんの気持ち少しだけ分かった気がする、気がするだけだし、姉ちゃんがわたしに思っていた気持ちと、わたしが教祖たそに思っている気持ちは、違いかもだけど。

今、何しているんだろ。

少しだけ、気になった。

「……う？な、なぎちゃん様？」

「……ね、フィリスちゃんって、名前で呼んで良い？」

「ひゃーえ、えーそ、そんな、恐れ多いですう……う、でも、う、嬉しいです……！」

「可愛いなあ、フィリスちゃん」

フィリスちゃんとデストロイヤー剛を楽しんだり、せっかくだからと軽い料理を振る舞ったり、ナゲツト君に覚えさせた「まねまね」芸を披露したら笑ってくれたり。

ちなみにデストロイヤー剛は主人公剛くんが無数に存在する悪の者達を一切合切バツバツと薙ぎ倒す爽快アクションだ、クロスプレイも可能、強力プレイで悪を薙ぎ倒した。

フィリスちゃんが「裁きタツクル！裁きチョップ！」と悪を薙ぎ倒しながら小声で言いながらゲームするのはここだけの話少し怖かった。

そんなこんなで。

フィリスちゃんの時間が許す限り、それこそ……家族みたいに、フィリスちゃんをおもてなしした。

☆

「今日はありがとうございました、なぎちゃん様」

そろそろ夕方が近づいて来る頃に、フィリスちゃんはそろそろと、帰宅の支度をした。

二時間？三時間ぐらいたっぷり遊んだ、でもやっぱり別れの時になるとさびしいな。

でもフィリスちゃんの事情もあるから引き止めたりはしない、そんな事なくてもまた、一緒にゲームしたり、VRで遊ぶことは出来るからね。

「……その」

「ん？」

「また、来ても……」

何処か恥ずかしそうに、何故か申し訳なさそうに声を小さく言うフィリスちゃんに、わたしは視線を合わせるようにちよつとだけ屈んで、笑顔を作った。

「もちろん！また遊ぼう、フィリスちゃん」

「……っ、はいっ！」

その時のフィリスちゃんの、すっごいかわいい笑顔はわたしだけの秘密。

☆

……ん、よし、準備完了。

今日の配信もいつもみたいに、いつも以上に楽しめそうだ。

ナゲツト君も準備オツケー？おっけー！

今日も配信、たのしむぞっ！

「やっはろー！みんな、なぎちゃんだよー！」

『やっはろー！』『はろー！』『かわいい』『かわいい』『好き』『生きる糧』『オデ、ナギチャン、スキ』『原始民も見てます』『姉も見てます』

『友も見てます』『田中も見てます』『お前はダメです、仕事しろ』『うるせえ』『時給削るぞ』『何でも言っってくださいよ、へへっ！』『うわあ』『今日はね、実は配信でやるまで封印してたゲームがあるんだ、何だと思おう？・ヒントは弾幕ゲーー！』

『ヒントというか答え』『何年前のゲームだと』『いやVRも出てなかった？』『出てたというか、今年の新作はそっち』『あの人、生き長すぎね？』『まあズーさん、宇宙人説あるし……』『ずっと生きてほしいわね』『一時の時代の開拓者』

「おつ、流石にヒントがゆるゆるすぎたかな？そうです、みんなが知ってるあのゲームの新作、少女弾幕VRをするよ！」

説明しよう！少女弾幕VRとは、弾幕系シューティングゲームのVR化に成功した、少女弾幕シリーズの最新作である！

そもそも弾幕系シューティングを語ればキリがないので割愛するが、VR化した弾幕系シューティングは自らが舞台である夢幻郷で起きた異変を解決する為に弾幕ごっこを用いて、元凶をこらしめに行くゲームなのだ！

難易度や初期残機、奥義や使用弾幕など千差万別を選ぶ事が出来、自分だけの組み合わせる事ができる！

もちろんそれだけじゃない！なんとあの夢幻郷を舞台に探索できるのだ！イチオシのあの子に会いたい？なら、乗るしかないだろうッ！このビックウエーブに！

「というこで、早速やろうー！」

『行くわよ』『行くわぞ』『わくわくなぎちゃん』『かわいい』『所でこのゲームの評価どう？』『おもろい、VR慣れしてないと難しい』『空飛ぶのはまあ良いとして、敵として出てくるキャラの弾幕がまあ綺麗なんよな』『はえ〜』『はえ〜』『来年も出るだろうし買え』

電子の海に落ちていく、実を言うところの感覚は何故だか安心できて、落ち着いて……好きだ。

だからなんだってそれだけなんだけど、実は司はあんまり好きじゃなかったり、初菜も今でこそ平気になったみたいだけど、昔は強がりながらも体が震えていたりしたり。

……ああそうだ、思えば姉さんも一番最初にVRに触れた時は、わたしよりも驚いてて、それを笑ってたら焦ったような声で怒られたっけ。

懐かしい記憶。

どうして思い出したのだろう？

ココにいますと、昔の記憶が凄い鮮明になるような気がする。

「ーっ、わ、とと……わあ」

すごい、画面の外で見てたあの夢幻郷そのまんまだ、これがあの世界なんだ……すうっと空気を吸ってみると、VRだって言うには分かっていても澄んだ空気が肺に流れ込んで、気持ちいい。

「夢幻郷だあ……！」

『これが自然か』『今の日本でこんだけの自然、お目にかかれる？』『群馬ならまあ』『うーん』『懐かしい光景だ、スイスを思い出す』『狩人ニキじゃん』『俺も異世界転生してここに行きたい』『良いぞ、行け』『丁度愛知にワームホール出現したで』『ちよっとあれに飛び込み勇気は無いつす……』『わかる』『それな』

「よーしそれじゃあ探索しよう！この世界をもっと見よう」

そう思って極自然に、本当に無意識にわたしは空を飛んだ、飛んで気付く、飛んでいることに、え、本当に飛んでいるじゃん！

「飛べてるんだけど！ってあれ?!服がまた違うよ?!巫女服になってる!?!」

『今気づいたんか』『みこみこなぎちゃん』『かわいい』『かわいい』『脇えちち』『えちち』『凄い自然に飛んだな』『俺も飛べるし』『俺何なら宇宙まで飛べるし』『月砕いた事あるし』『何に張り合ってたお前

ら』『サイタマいた?』『気のせい』

「ま、まあ、飛べたのは良いんだけど……」

『ちな説明、今は日常パートって言って夢幻郷のキャラ達に会えたり、夢幻郷を自由に見れるようになってる』

このコメント、アンノウンくん、ちよつとテンション上がり過ぎて全然説明とかしてなかった……反省反省。

少女弾幕VRは最近のゲームだから、わたしも初見だけど、説明出来る所は説明しないとね。

「ありがとアンノウンくん! 日常パートで何か起きると、異変パートになって弾幕ごっこが始まるよ!」

『ほーん』『ほーん』『気が済むまで探索するんやで』『あつきゆん会える』『まじ?』『因みに林の方に行つて迷うともこたん助けに来てくれたり』『神ゲーかよ』『神ゲーやぞ』『開発先SSS社だし納得』

さーでどこにいこつかな? 少女弾幕シリーズに出てくるキャラクターはみんな好きだし、夢幻郷の世界もとにかく好きだ、何処にでも行けるってなると悩んじゃうな、うくん。

うくくん、よし、決めた!

「神社に行こう!」

『お』『どつちだ?』『赤い方だと思うゾ』『やべーやつ』『緑もやべーだろ』『タシ蟹』『それなんて蟹?』『タシ蟹とは50年前に化学物質を好みとする蟹から派生し誕生した蟹である』『文献あんのかよ』『まじかよ』『因みに結構美味しい』

「その蟹ちゃんと茹でて食べないと二週間発光し続ける体になっちゃうんだZE☆」

『こわ』『ZE☆』『こわ』『それで睡眠不足になりました……』『卒業式そののせいで皆から笑われました……』『新年会でやらかしました……』『被害者の会はこちらですか?』『マジでちゃんと茹でないから光るからね、仕方ないね』

懐かしいなあ、高校生時代、司がそれでたまたま長いの当たつて二ヶ月ぐらいうくくと発光したまんまだつたっけ。

あまりにも長いからそれが原因で停学になる一歩前まで行ったんだっけ？その時はわたしも先生たちに説得した覚えがある。

……つと、あれかな？わたしの知ってる夢幻郷の記憶を頼りに空を浮きながら探していたらそれっぽいの見つけたので、ぴゅーんと向かって、着地！

「……ここが……紅綺神社」

『まじで紅綺神社じゃん』『ここが夢幻入り難民の砦ですか』『まじでVRとは思えん現実感』『SSS社の技術つてすげー！』『いや本当に凄いですよ、仕事上VRシステムに携わりますが、SSS社のそれは別格ですね』『有能無能クソ野郎じゃん』『クソは余計ですね、すぞお前』『滋賀』

あまりに綺麗な光景に見惚れていると、かつ、という足音が聞こえた。

誰か来る、わたしの予想なら、多分。

……来た、わたしの知る、夢幻郷の……少女弾幕シリーズの主人公。

「珍しい、人が来るなんて」

『世界一位さんだ！』『よしんば二位だったとしたら？』『世界、一位です』『とんでもね〜クオリティ』『みこみこ』『巫女（本物）』『巫女（なお性格）』『懐かしい気分になりますね』『美人過ぎね？』『夢幻郷のキャラみんな美形過ぎな』『オレ、カワイク、ナリタイ！』『お前は無理』

「は、はじめまして……なぎです……はわ」

『やいごごなぎちゃん』『よわよわなぎちゃん』『久しぶりの人見知りざこ』『登録者が50万超えてもかわんねーよわよわ』『かわいい』『かわいい』『そういやそういうやつだった』『忘れたけど人見知りだった』『どーもご丁寧に、私はこの巫女、参拝？それとも散歩？』

「はひや、さ、さんぱいでしゅ……」

「そ、まあ好きに寛いで良いわよ、人が来るなんて本当に久しぶりだし」

「はえ、あ、ありがとう」

うわあ、わたし本当に少女弾幕シリーズの主人公とお話ししてるよお〜……やばは、しあわせ……とうとい……みこみこかわわ……V R紅綺ちゃんかわいすぎでわ！

さてと、参拝します！

二礼二拍手一礼、お詣り……何を願ったのかは、ひみつ。

「ん……う？ねえなぎちゃん」

「ちちちゃん?!はいなぎです！」

『松』『竹』『梅』『花札すんな』『驚きすぎやろかわいい』『かわいい』『ちゃん付けするのか』『巫女ちゃん、なぎ民説浮上』『ありえる』『ありえる』『割と可愛い物好きなのでなぎなぎされた説はある』『それはそうよ』
紅綺ちゃんがボケーとしてるようなきりーつとしてるようなよくわからない表情でわたしに近づいてくる、な、なんだろ、参拝の仕方間違えたかな……お、怒らせちゃった……？

一歩一歩と近づいて、後ずさりするのも失礼だからと動かないでいると、わたしの視界いっぱい紅綺ちゃんの顔が映る、片目を瞑って何かに集中する様に見つめてくる、は、はずかしい……まつげなが……超美人さんなんだが……!?

「んー、ん？ん？……う？」

「ご、ごめんなさい……」

「何で謝るの？不躰にジロジロ見てるのは私の方なんだから、謝る側は私だと思うけれど」

「あう、あう」

『こんなふにやふにやだったっけ?』『推しで限界化+人見知り||コレ』『なるほど』『そんなよわよわなぎちゃんのおぱんちゅは……白ー』『たすかる』『たすかる』『隙を見せたなぎちゃんが悪い』

「まあいつか、じゃあ用が済んだみたいだしそろそろーん、まつて」

「ひゃあー！」

怒られなかったことにほっとして別の所を探索しようとした時、が

しつと肩を掴まれた、ええええなんなんなんですか?!?!

「ぴえ」

『ぴえ』『ぴえ』『なにごと』『涙目なきちゃん』『かわいい』『かわいい』『イベントだろ』『なんの?』『わからん』『はいカス、一生ROMつてろ』『ぴえ』『お前はかわいくない』

「なきちゃん、弾幕ごっこは出来るの?」

「で、できまひえん……」

「嘘、あなたなら出来る筈、やった事無いのは事実かも知れないのだけど」

ええ……まあモード切り替えれば出来るのは確かだけどなんで悟られたのお……? いやまあ、紅綺ちゃん大天才設定な上に未来予知に近い勘してるしなあ。

でもそれがどうしたのだろう? なんかだめなのかな……

「あなたが考えるよりここは物騒よ、ええ、それはもうあなたのかわいさごほん、魅力ん……と・に・か・く! 危険!」

「ひゃい!」

『ん?』『ん?』『正体現したね』『コレは濃厚なレの香り』『なるほど少女弾幕……閃いた!』『老若男女を虜にする美貌』にしてはちっこい『ちびかわ』『世界平和に近い方法、なきなきだしな』『なきなき@とは』
『考えるな、感じろ』

「ええそう、だからね、暇だから付いて行っても良いわよ」

「ほんとですか!」

「別に心配してるわけじゃー」

「嬉しい! え、これはデートでは? うおおやったぜ!」

「ちよ、ちよっと!」

「行こー! 紅綺ちゃん!」

「わっ!」

腕を引つ張って飛ぶ、可愛い女の子がパーティーに参加しました、はわわ……推しとデート出来るとか神ゲーか? 最高すぎないか? こ

れが幸せという事ですか。

『こつちも正体現したわ』『久々のうおお』『受けから攻めに変わる女』『隙を見せた方が悪い』『これがなぎちゃんですか』『限界化なぎちゃん』『オタクしてるプロゲーマーがいるらしい』『デートだってよミクちゃん』『神は死んだ』『草』

「はあ、もうー案内してあげる！付いてきなさい！」

「わ、はやっ、待って待って！」

紅綺ちゃんに手を引かれて空を飛ぶ、空から見た夢幻郷の世界はどこまでも広大で、ここはわたしが生きているところじゃないけど、なんだろう、どうしようもなく生を感じてるんだ。

懐かしい気分だ、VRに……仮想世界に、初めて触れた時の気持ちを思い出す。

ああ、世界はこんなにも美しい。

「気に入った？」

「うん！」

『かわいい』『うっ（即死）』『しんだ』『天使が過ぎる』『これがかわいいの暴力か……』『純粹無垢なこの笑顔』『ああく（浄化）』『恐ろしく可愛い笑顔、俺じゃなきや見逃しちゃうね』『結婚しよ』『結婚した』『するな』『はっ』『お前はメ』

紅綺ちゃんと空を飛びながら色んな夢幻郷の場所を案内してもらって、その度に心が踊って、当初の目的だった弾幕ごっこも頭からすっぽ抜けちゃって。

わたしはただこの世界の景色に目を輝かせていた。

そうしていたらいつのまにか配信時間も迫っちゃって、それはつまり、紅綺ちゃんとお別れになる。

「じゃあね、なぎちゃん……また」

「また会いに来るよ、紅綺ちゃん！」

わたしのその言葉にふっと笑って、頭をぽんつと撫でられる、うゆつ……はわ、お、推しに撫でられちゃった……。

『シューティング回だと思ったたらデートだった』『20万人以上に公開されたデート』『は……？げんじつ？』『受け止めるミクちゃん』『負けヒロイン』『またなぎちゃんが一人墮とした』『弹幕とは？』『この様子だと二回目ありそうですね』『期待して良いんですね？』

「……………うん！また来よう！みんな、またねっ！」

☆

……………冷静になって。

今日はやろうとしてた事の殆ど出来てないし、配信者としてどうかなって思うけど、うん。

すつつつつごい楽しかった……！

「んっつ、お風呂入ろっつ」

ナゲツト君に寝間着を用意する様をお願いして、浴室に向かって歩いている時に、ふと。

聞き取れなかった紅綺ちゃんの呟いた独り言が何となく、気になった。

掲示板のおはなし。その(一)

【なぎ民雑談スレ part 273】なぎちゃんをすこれ【かわいいの化身】

1：古参面なぎ民 20：52：11

前スレはこちら。

次スレはいつも通り>>885のなぎ民よろ。

なぎちゃんのチャンネルは←

<https://m.nagitube.com/>

なぎちゃんのつおったーは←

<https://tsuotta.com/>

荒らしは宅配ピザXLサイズ10枚、度が過ぎるようなら住民ハックと玄関爆竹の刑。

いやあデート回は強敵でしたね。

2：名無しのなぎ民

その前の配信も強烈だったわ

3：名無しのなぎ民

かわいいが過ぎる生命の極みなぎちゃん（なぎ族なぎ科なぎなぎ属）

4：名無しのなぎ民

新種の美（少女）生物に昇格された???

5：名無しのなぎ民

最近は特にかわいいが目立ちますね……未だ対人ぎこぎこだけど

6：名無しのなぎ民

てか、きゅん♡がん☆のピンクちゃんが話すなんて見たことねーぞ、あれ結局何なん？おしえてえろいひと！

7：名無しのなぎ民
わからん

8：名無しのなぎ民
わからん

9：名無しのなぎ民
わからん、はい俺ら無能、所詮のけ者なんだよ、もうお終いなんだ

10：名無しのなぎ民
どしたん？話聞こつか？てか女の子？通話する？

11：古参面なぎ民
秩序案件ですか？騎空艇動かしますか？白翼の守護の出番ですか？

12：名無しのなぎ民
騎空士もいます、田中説明しろ

13：名無しのなぎ民
おい田中

14：名無しのなぎ民
田中は今東京に隔離して禁錮二ヶ月の缶詰めにぶち込んでるから
いないぞ

15：名無しのなぎ民
ええ……何したんあいつ

16：名無しのなぎ民
南の国の美人さんと仲良く会話してた罪らしい、ふざけんな

17：名無しのなぎ民

それは罪こえて大罪こえて色欲

18：古参面なぎ民

あいつの代わりに考察ぐらいなら出来るけど聞く？

19：名無しのなぎ民

おしえてー！

20：名無しのなぎ民

おしえてー！

21：名無しのなぎ民

いいよ——！

22：名無しのなぎ民

うわようしよ

23：名無しのなぎ民

こいつら全員おっさんだぞ

24：古参面なぎ民

私は歴とした女性です、んじや←開けとけ

25：古参面なぎ民

まず前提としてA Iに感情があるかないかの話から始めるんだけど一から説明すると余裕でスレ埋まるから割愛するとして、前提条件を「有る」で進めます。

それでもってA Iに対して好かれる人物ってのは一定数いる、なぎちゃん以外でそれに当て嵌まるのはまず教祖たぞ、ぼまえらの中にも

何人が当てはまるでしょ。

んでSSS社を始めとした一部のちようすごすごぎぢゅぢゅを扱ってる会社はAI技術が桁違いにあほ、まあとにかくすごい、人格ぐらいよゆうで作れる。

26：古参面なき民

それらを踏まえてなきちゃんっていう私の天使もとい嫁であり妹でありめがみちやまなんです。

27：名無しのなき民

急に本性現したね。

28：名無しのなき民

まともだと思ったらきちげえだった

29：名無しのなき民

古参面なき民全員狂人説

30：古参面なき民

うるちやいだまえ。

話し続けるお、兎に角なきちゃんはAIに好かれてる、正直言ってる、なんで？かわいいから？納得した。理由？知らね。

その溢れ出るフェロモンがゲームシステムの根本に侵食するぐらい影響あるから、必然的にAIの思考パターンにも影響される。

SSS社のゲームは管理を上位AIに丸投げだし、その影響がモロに出てますね、だからあんな感じでデート回だったりガチホラー回だったり起きる……と思うゾ

31：名無しのなき民

はえ

32：名無しのなき民

ほえく

33：名無しのなき民

ひえく

34：古参面なき民

お前らがあほあほでもかわくねーぞ、出直せ

35：名無しのなき民

いやまあ、どれだけ考察しても決定的な何かの理由が無いのはわかった

36：名無しのなき民

んくくまあ、管理職の目線から考察発展出来るけどまあ確証なし黙つとくわ、下手なこと言おうとALICEに目付けられて面倒だし

37：名無しのなき民

>>>36仕事さほんな、てかALICEちゃんこの掲示板見てるまじ？

38：名無しのなき民

俺らの(三番目ぐらいの)アイドル、全人類管理AIちゃん@もしかして暇

39：古参面なき民

ALICEちゃんもなき民だから俺達が余程変なことしない限り大丈夫でしょ

40：名無しのなき民

なんのソースでALICEがなき民になってんだよ草

41：名無しのなぎ民

世も末か？……いやむしろその方が世界がなぎなぎするから全く逆でした

42：名無しのなぎ民

なぎなぎに包まれていけ……

43：古参面なぎ民

AIがなぎちゃんの事好きなら必然的にALICEちゃんもなぎ民って事にならない？

44：名無しのなぎ民

ちよつと納得できてしまう自分がいる

45：名無しのなぎ民

ALICEⅡなぎちゃん説は？

46：名無しのなぎ民

それはない、実際のALICEちゃんはなぎちゃんよりペちやp

((このコメントは削除されました

47：名無しのなぎ民

あ。

48：名無しのなぎ民

ひえっ

49：古参面なぎ民

犠牲になったのだ……

50：名無しのなぎ民

ミクちゃん動画あげてるやーん

☆

436：名無しのなぎ民13：52：21

速報、宮崎の民、ついに神秘的な神話の里を象徴する美しい峡谷の復興に成功

437：名無しのなぎ民

スレ違、とはいえ嬉しいっすねえ！

438：名無しのなぎ民

おー久々に実家帰りも含めて行こうかな

439：名無しのなぎ民

それ系の話するなら北海道も空中スキー場が再開したぞ

440：名無しのなぎ民

まじ？うわ、めちやくちや行きてえく飛行免許無いからアレだけど

441：名無しのなぎ民

鹿児島の新種海底洞窟探検企画も遂に許可取れたらしい

442：古参面なぎ民

良いニュース多くて良いね、そんな中百合レズ三銃士の一人ミクちゃんはハイポジション（ガチ）動画だったりつよつよFPS動画だったりなぎちゃんのここが良い（6：54：30）Part1動画だったり

443：名無しのなぎ民

変態なのか天才なのかわからん

444：名無しのなぎ民

どっちもどっち

445：名無しのなぎ民

ミクちゃんやベーな???

446：名無しのなぎ民

狩人さん、かつて失くした神秘に導かれてまたなんか変なところ向かったらしい

447：古参面なぎ民

あの人本当に人間かよ、夢から醒めた上位者説無い？

448：名無しのなぎ民

体は闘争を求めている↓例の新作が出る

449：名無しのなぎ民

出ないぞ

450：名無しのなぎ民

出してくれメンス

451：名無しのなぎ民

所で最近気付いたんだけどミクちゃんとなぎちゃんのマンション
同じ説

452：名無しのなぎ民

その話題は結構前にした気がするぞ、んで多分同じ、当人達の関わ

りは分からんけど

453：田中

その辺の詮索して逆ハッキングされて死の危険手前まで行ったのでお勧めしません、具体的には完全武装冥土ロボちゃんが出張ってきます、死ぬかと思いましたが、秘蔵なぎちゃんプロマイドが無かったら死んでいました。

454：名無しのなぎ民

君ほんと凝ねくな、刑期1ヶ月追加

455：名無しのなぎ民

田中仕事しろ、ついでに誰かなぎちゃんの今日のおパンツ教えてくれ

456：名無しのなぎ民

千里眼発動！むむっ、これは……ペろり、ズバリ……オレンジですな？

457：名無しのなぎ民

閃いた

458：名無しのなぎ民

ふーん

459：名無しのなぎ民

えち

460：名無しのなぎ民

なぎちゃんのメイド服でお帰りなさいませご主人様してもらいてえなあ

461：名無しのなぎ民

水族館アートので跳ねた水に驚くなぎちゃんを隣でみてえなあ

462：名無しのなぎ民

今期アニメコスプレするなぎちゃんの話した？

463：名無しのなぎ民

なぎちゃんなう！なぎちゃんなう！なぎちゃんなう！なぎちゃんなう！なぎちゃんなう！

464：名無しのなぎ民

キミら急に現れるやん、巢にケエレ！

465：名無しのなぎ民

【速報】見てこれ↓<https://instaphilis.com>

【まるで姉妹】

466：名無しのなぎ民

急?!?!?!
?!?!?!?

467：名無しのなぎ民

まじ？

468：名無しのなぎ民

開けねえんだけど

469：名無しのなぎ民

は？おいサーバー落ちたぞ

470：古参面なぎ民

おしえろばか、なんでなんで

471：名無しのなぎ民
幼女も見えます

472：名無しのなぎ民
見れない奴ざまー！

473：名無しのなぎ民
口縫い合わすぞボケカス

474：名無しのなぎ民
滋賀で殺されてえか

475：名無しのなぎ民
ごめんつて……見れない人に説明すると、教祖たそがなぎちゃんの
おうちに遊びに行ったらしい、写真付きです、教祖たそが恥ずかしそ
うに自撮りしてるのをなぎちゃんがべったり抱き着いてカメラ目線
でキラツ☆つてしてる、かわいすぎかよ

476：名無しのなぎ民
ま？やば

477：名無しのなぎ民
ついにオフで出会ったのか……

478：名無しのなぎ民
国のお姫様が個人的な理由で自称プログラマーに出会ったらしい

479：名無しのなぎ民
もう自称でも何でも無いんだよなあ

480：名無しのなぎ民

なんならほぼ過半数の都道府県の有権者はなぎ民なので、実質的に国と国が繋がった瞬間である

481：名無しのなぎ民

暴論で草、めちやくちや良い写真やん……

482：名無しのなぎ民

こうしてみると本当に姉妹みたいだな、すつげく似てる、こんなに似る？

483：名無しのなぎ民

まあ自分に瓜二つの人間は世界に三人いるって特に根拠も無い論文に書いてるし多少はね？

484：名無しのなぎ民

本当に姉妹だとしても驚かんぐらいには似てる、実の姉妹説は……いやまあそれは無いな

485：名無しのなぎ民

ミクちゃんがどんどん負けヒロインになっていますが

486：ミクです

うるせえ

487：古参面なぎ民

草

488：名無しのなぎ民

草

489：名無しのなぎ民

本人来ちゃった

490：ミックです

でもこれはこれでなんかうん……教祖たそ×なぎちゃん、なるほどね、いい……

491：名無しのなぎ民

堕ちたな

492：名無しのなぎ民

教祖たそをロックオンしないでください……

493：名無しのなぎ民

それでいいのかミックちゃん

494：古参面ミック民

あくミックちゃん、ねえねえねえ暇？ヴィクトリービクトリーの最難関コンテンツ挑みに行くけど一枠足りないから一緒にやらない？

495：名無しのなぎ民

廃コンテンツ過ぎて草、てか未だにサービス終了してないんかそのゲーム

496：名無しのなぎ民

なにそれ

497：名無しのなぎ民

過去に一世風靡した昔のPCオンラインRPG、なおインフレが進み過ぎた模様

498：ミクちゃん

ここで聞きます？いやまあやりますけど、ジヨブは？

499：古参面ミク民

メインがジャマーならサブなんでも良いよ

500：ミクちゃん

はい、じゃあまあ後は通話します

501：名無しのなぎ民

この古参面何者だよ、よくよく見たらミクちゃんの古参面してるし。

502：名無しのなぎ民

そりやミクちゃんの友達でしょ……数少ない(ぼそっ)

503：名無しのなぎ民

おっさんだぞ

504：名無しのなぎ民

おっさんがこんな口調だったらもう世も末だよ

505：名無しのなぎ民

昔は結構居た

506：名無しのなぎ民

嘘松、そんな日本俺が駆逐してやる

507：名無しのなぎ民

本当に駆逐する進撃さんはお帰りいただいて、どうぞ

508：名無しのなぎ民

これだからなぎの民は……

509：名無しのなぎ民

なぎの民ならいいやろがい！

510：名無しのなぎ民

なぎの民なら人類の八割駆逐しなくても良かったかもしれない

511：名無しのなぎ民

そーいや兵長のあの動き完コピ出来る人いたな

512：名無しのなぎ民

ええ……もうそれ人類最強じゃん

513：名無しのなぎ民

狩人さんとどっちが強い？

514：古参面のなぎ民

半年前の特番くオレ旅！滋賀で果たそう！で戦ってた時は引き分けだったしわからん、今やつても決着付かなそう

515：名無しのなぎ民

どっちもバケモンだった……

516：名無しのなぎ民

そんな二人相手に（VR上で）5分耐えた名誉なき民がいるらしい

517：名無しのなぎ民

それってよお！ヒキニートでマザコン、歩かなすぎて虚弱でしかも対人恐怖症だし、極め付けに二次元オタクで未だに厨二病の救いようが無いアンノウンくんのことお?!

518：古参面なぎ民

いやまあ事実だけど隠してやれよ……かわいそうに……

519：名無しのなぎ民

唐突にこんな所でカミングアウトされる隠されないアンノウン君の実態

520：古参面なぎ民

親近感持ててきた

521：名無しのなぎ民

でもあいつ顔イケメンだぞ

522：古参面なぎ民

ぶっ殺す、百式乗って滋賀行って対人戦申し込んでくる

523：名無しのなぎ民

こっつつわ

524：名無しのなぎ民

こっつつわ

525：名無しのなぎ民

いやなんで百式持ってたんだよ突っ込む所そこだろ

526：古参面なぎ民

たまにいる

527：名無しのなぎ民

たまにいちやだめだと思っんですけど……俺なんて自作したレイブンしか無いのに……

528：名無しのなぎ民

いやきみも大概だよ

529：名無しのなぎ民

ピエロ風な人も居ます

530：古参面なぎ民

あいつ総合評価S+の実績持ちだからアンノウン君と良い勝負し
そう、滋賀のライブ映像でみよーぜ

531：名無しのなぎ民

ワイ相、現地民今日の清掃担当、泣く

532：古参面なぎ民

手伝ってあげよつか？暇だし

533：名無しのなぎ民

トウungk……これが、恋……？

534：古参面なぎ民

あの、彼氏いるので困ります……

535：名無しのなぎ民

パリン

536：名無しのなぎ民

また一人の儂い恋が終わった、ニンゲンってオモシレ！

537：名無しのなぎ民

それはさておき今日の滋賀のライブ映像は見るか

538：名無しのなぎ民

それも面白そうだけど、赤城財閥の今これが熱い！研究生放送もおすすめだからこっちも見ような

539：名無しのなぎ民

なぎちゃん放送はどこ……どこ……？

540：名無しのなぎ民

今日は休みです

541：古参面なぎ民

今日も平和だなあ？

542：名無しのなぎ民

クエッションマークをつけるな

543：名無しのなぎ民

世界は美しい

544：名無しのなぎ民

お前は汚いけどな

545：名無しのなぎ民

は？ゆるさねえ、ピザ10枚の刑

546：名無しのなぎ民

食費浮いたわ助かる

そんなこんなでなぎ民はそれぞれの日常を過ごし、アンノウン君と百式使いはアンノウン君が僅差で勝ち。

その勢いそのまま「なぎちゃんは俺が嫁にもらうんだーっ!!!」と叫んだ結果、ブチギレなぎ民達相手にヤムチャするのであった……。